

2024年度 人間環境学部 講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

【発行日：2024/5/1】最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

【C2002】 民法法Ⅰ [中川 義宏] 春学期授業/Spring	1
【C2003】 民法法Ⅱ [中川 義宏] 秋学期授業/Fall	2
【C2004】 国際法Ⅰ [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	3
【C2005】 国際法Ⅱ [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	4
【C2006】 市民社会と政治 [山内 康一] 春学期授業/Spring	5
【C2008】 国際関係論 [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	7
【C2010】 地方自治論 [阿部 慶徳] 春学期授業/Spring	8
【C2011】 憲法の基礎 [田上 雄大] 秋学期授業/Fall	9
【C2012】 刑法の基礎 [渡辺 靖明] 春学期授業/Spring	10
【C2016】 環境法Ⅳ [渡辺 靖明] 秋学期授業/Fall	12
【C2017】 国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	14
【C2019】 労働環境法 [櫻井 洋介] 秋学期授業/Fall	15
【C2020】 自治体環境政策論Ⅰ [小島 聡] 春学期授業/Spring	17
【C2021】 自治体環境政策論Ⅱ [小島 聡] 秋学期授業/Fall	19
【C2024】 エネルギー政策論 [久谷 一朗] 春学期授業/Spring	21
【C2025】 地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期授業/Spring	22
【C2026】 地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	24
【C2034】 行政学Ⅰ [林 嶺那] 春学期授業/Spring	26
【C2035】 行政学Ⅱ [林 嶺那] 秋学期授業/Fall	27
【C2100】 ミクロ経済学Ⅰ [芦田 登代] 春学期授業/Spring	28
【C2101】 ミクロ経済学Ⅱ [芦田 登代] 秋学期授業/Fall	29
【C2102】 マクロ経済学Ⅰ [今 喜史] 春学期授業/Spring	30
【C2103】 マクロ経済学Ⅱ [今 喜史] 秋学期授業/Fall	31
【C2104】 現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	32
【C2105】 ビジネスストーリー [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	34
【C2106】 経営学入門 [金藤 正直] 春学期授業/Spring	36
【C2107】 環境経営と会計 [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	37
【C2108】 公共経済学 [宮本 拓郎] 秋学期授業/Fall	38
【C2110】 環境経済論Ⅰ [杉野 誠] 春学期授業/Spring	39
【C2111】 環境経済論Ⅱ [杉野 誠] 秋学期授業/Fall	40
【C2112】 環境経営論Ⅰ [金藤 正直] 春学期授業/Spring	41
【C2113】 環境経営論Ⅱ [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	43
【C2116】 CSR論Ⅰ [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	45
【C2117】 CSR論Ⅱ [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	47
【C2118】 国際環境政策Ⅰ [杉野 誠] 春学期授業/Spring	49
【C2119】 国際環境政策Ⅱ [本郷 尚] 秋学期授業/Fall	50
【C2120】 途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	51
【C2121】 途上国経済論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	53
【C2122】 国際経済協力論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	55
【C2123】 国際経済協力論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	57
【C2126】 環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期授業/Fall	59
【C2127】 平和学 [植村 充] 春学期授業/Spring	61
【C2128】 人間の安全保障 [岡部 みどり] 秋学期授業/Fall	63
【C2131】 簿記入門Ⅰ [大下 勇二] 春学期授業/Spring	64

【C2132】	簿記入門Ⅱ [大下 勇二] 秋学期授業/Fall	65
【C2200】	現代社会論Ⅰ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	66
【C2201】	現代社会論Ⅱ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	67
【C2202】	現代社会論Ⅲ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	68
【C2203】	NPO・ボランティア論 [新田 英理子] 秋学期授業/Fall	69
【C2204】	フィールド調査論 [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	71
【C2205】	フィールド調査論 [藤田 周] 春学期授業/Spring	73
【C2207】	社会統計論 [藤本 隆史] 春学期授業/Spring	75
【C2208】	ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	76
【C2209】	グローバル・コミュニケーション [ESTHER STOCKWELL] 春学期授業/Spring	78
【C2210】	地域形成論 [小島 聡] 秋学期授業/Fall	80
【C2211】	地域経済論Ⅰ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	82
【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期授業/Spring	83
【C2213】	地域コモンズ論 [船戸 修一] オータムセッション/Autumn Session	85
【C2216】	都市デザイン論 [佐谷 和江] 秋学期授業/Fall	86
【C2217】	環境社会論Ⅰ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	88
【C2218】	環境社会論Ⅱ [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall	90
【C2219】	環境社会論Ⅲ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	92
【C2220】	労働環境論Ⅰ [櫻井 洋介] 春学期授業/Spring	94
【C2221】	労働環境論Ⅱ [櫻井 洋介] 秋学期授業/Fall	96
【C2223】	NGO活動論 [小野 行雄] 秋学期授業/Fall	98
【C2225】	ローカルスタディーズⅠ [船戸 修一] サマーセッション/Summer Session	99
【C2226】	ローカルスタディーズⅡ [坂本 昭夫] 秋学期授業/Fall	101
【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期授業/Spring	102
【C2229】	社会開発論 [新村 恵美] 秋学期授業/Fall	105
【C2231】	開発教育 [福田 紀子] 春学期授業/Spring	107
【C2232】	国際社会学 [新藤 慶] 秋学期授業/Fall	109
【C2233】	文化経営論 [武田 知也] 春学期授業/Spring	110
【C2240】	ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	112
【C2241】	科学技術社会論Ⅰ [金光 秀和] 春学期授業/Spring	114
【C2242】	科学技術社会論Ⅱ [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	116
【C2243】	ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	118
【C2300】	西欧近代批判の思想 [越部 良一] 春学期授業/Spring	120
【C2302】	日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期授業/Spring	121
【C2303】	比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	122
【C2304】	比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	123
【C2307】	日本美術史論 [手塚 恵美子] 秋学期授業/Fall	124
【C2308】	西洋美術史論 [板橋 美也] 春学期授業/Spring	126
【C2309】	応用倫理学 [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	127
【C2310】	環境倫理学Ⅰ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	128
【C2311】	環境倫理学Ⅱ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	129
【C2312】	日本環境史論Ⅰ [芳賀 和樹] 春学期授業/Spring	130
【C2313】	日本環境史論Ⅱ [芳賀 和樹] 秋学期授業/Fall	132
【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [梅原 秀元] 春学期授業/Spring	134
【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [梅原 秀元] 秋学期授業/Fall	136
【C2316】	環境人類学Ⅰ [高橋 五月] 春学期授業/Spring	138
【C2317】	環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	139
【C2318】	技術哲学Ⅰ [金光 秀和] 春学期授業/Spring	140
【C2319】	技術哲学Ⅱ [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	141
【C2321】	環境人類学Ⅲ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	143
【C2322】	環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期授業/Spring	144
【C2323】	環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	146
【C2400】	サイエンスカフェⅠ [石井 利典] 春学期授業/Spring	148
【C2401】	サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	149
【C2402】	サイエンスカフェⅢ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	150
【C2406】	エネルギー論Ⅰ [北川 徹哉] 春学期授業/Spring	151
【C2411】	気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期授業/Spring	152

【C2412】	気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	153
【C2413】	自然環境政策論Ⅰ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	154
【C2414】	自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	155
【C2416】	環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	156
【C2417】	環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	157
【C2418】	環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	158
【C2419】	衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	159
【C2420】	衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	160
【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	161
【C2422】	エネルギー論Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	162
【C2423】	大気と社会Ⅰ [丸本 美紀] 春学期授業/Spring	163
【C2429】	サイエンスカフェⅣ [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	164
【C2430】	環境モデル論Ⅰ [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	166
【C2431】	環境モデル論Ⅱ [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	168
【C2433】	自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	170
【C2500】	環境管理論Ⅰ [大野 香代] 春学期授業/Spring	171
【C2501】	環境管理論Ⅱ [大野 香代] 春学期授業/Spring	173
【C2502】	廃棄物・リサイクル論 [山本 昌宏] 秋学期授業/Fall	175
【C2503】	環境教育論 [野田 恵] 春学期授業/Spring	176
【C2504】	キャリア入門 [櫻井 洋介] 春学期授業/Spring	178
【C2505】	食と農の環境学Ⅰ [西川 邦夫] 春学期授業/Spring	180
【C2506】	食と農の環境学Ⅱ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	182
【C2507】	食と農の環境学Ⅲ [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	183
【C2554】	アーティストと社会貢献 [庄野 真代] 春学期授業/Spring	184
【C2557】	グローバルスタディーズⅠ [兼頭 ゆみ子] 春学期授業/Spring	186
【C2558】	グローバルスタディーズⅡ [兼頭 ゆみ子] 秋学期授業/Fall	187
【C2559】	現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期授業/Spring	188
【C2560】	現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	190
【C2563～】	キャリアチャレンジ [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	191
【C2564～】	キャリアチャレンジ [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	192
【C2570】	地域経済論Ⅱ [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	193
【C2579】	人間環境特論 (職業選択と自己実現) [才木 弓加] 春学期授業/Spring	194
【C2602】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	195
【C2701】	基礎演習 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	196
【C2704】	基礎演習 [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	197
【C2706】	基礎演習 [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	198
【C2707】	基礎演習 [櫻井 洋介] 秋学期授業/Fall	199
【C2708】	基礎演習 [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	200
【C2712】	基礎演習 [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	201
【C2716】	基礎演習 [芳賀 和樹] 秋学期授業/Fall	202
【C2717】	基礎演習 [ESTHER STOCKWELL] 秋学期授業/Fall	203
【C2718】	基礎演習 [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	204
【C2719】	基礎演習 [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	205
【C2720】	基礎演習 [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	206
【C2723】	基礎演習 [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	207
【C2724】	基礎演習 [日原 傳] 秋学期授業/Fall	208
【C2725】	基礎演習 [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	209
【C2726】	基礎演習 [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	210
【C2729】	基礎演習 [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	211
【C2730】	基礎演習 [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	212
【C2733】	基礎演習 [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	213
【C2734】	基礎演習 [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall	214
【C2735】	基礎演習 [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	215
【C2800】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期授業/Spring	216
【C2801】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期授業/Fall	218
【C2802】	情報処理基礎 [梨本 真志] 春学期授業/Spring	220
【C2803】	情報処理基礎 [梨本 真志] 秋学期授業/Fall	221

【C2804】	情報処理基礎 [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	222
【C2805】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期授業/Fall	224
【C2806】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期授業/Spring	226
【C2807】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	228
【C2809】	統計とデータ分析 [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	229
【C2812】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 春学期授業/Spring	231
【C2900】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	232
【C2903】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [板橋 美也] 春学期授業/Spring	234
【C2909】	英語Ⅱ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	236
【C2915】	英語Ⅲ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 春学期授業/Spring	237
【C2921】	英語Ⅳ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	238
【C3000】	研究会A [鷹林 貞夫] 年間授業/Yearly	239
【C3003】	研究会A [板橋 美也] 年間授業/Yearly	241
【C3004】	研究会A [杉戸 信彦] 年間授業/Yearly	243
【C3005】	研究会A [岡松 暁子] 年間授業/Yearly	244
【C3006】	研究会A [梶 裕史] 年間授業/Yearly	245
【C3007】	研究会A [北川 徹哉] 年間授業/Yearly	247
【C3010】	研究会A [小島 聡] 年間授業/Yearly	249
【C3011】	研究会A [小島 聡] 年間授業/Yearly	251
【C3012】	研究会A [ESTHER STOCKWELL] 年間授業/Yearly	253
【C3015】	研究会A [武貞 稔彦] 年間授業/Yearly	255
【C3017】	研究会A [伊東 直美] 年間授業/Yearly	257
【C3018】	研究会A [永野 秀雄] 年間授業/Yearly	259
【C3019】	研究会A [永野 秀雄] 年間授業/Yearly	261
【C3020】	研究会A [櫻井 洋介] 年間授業/Yearly	263
【C3023】	研究会A [芳賀 和樹] 年間授業/Yearly	265
【C3024】	研究会A [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	267
【C3025】	研究会A [日原 傳] 年間授業/Yearly	269
【C3026】	研究会A [平野井 ちえ子] 年間授業/Yearly	270
【C3027】	研究会A [藤倉 良] 年間授業/Yearly	272
【C3028】	研究会A [金藤 正直] 年間授業/Yearly	273
【C3029】	研究会A [松本 倫明] 年間授業/Yearly	275
【C3030】	研究会A [宮川 路子] 年間授業/Yearly	277
【C3031】	研究会A [宮川 路子] 年間授業/Yearly	279
【C3034】	研究会A [渡邊 誠] 年間授業/Yearly	281
【C3035】	研究会A [高田 雅之] 年間授業/Yearly	283
【C3037】	研究会B [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	285
【C3038】	研究会B [梶 裕史] 年間授業/Yearly	286
【C3039】	研究会B [北川 徹哉] 年間授業/Yearly	288
【C3040】	研究会B [ESTHER STOCKWELL] 年間授業/Yearly	290
【C3043】	研究会B [武貞 稔彦、竹本 研史] 年間授業/Yearly	292
【C3047】	研究会B [櫻井 洋介] 年間授業/Yearly	294
【C3048】	研究会B [芳賀 和樹] 年間授業/Yearly	296
【C3049】	研究会B [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	298
【C3052】	研究会A [高田 雅之] 年間授業/Yearly	300
【C3055】	研究会B [日原 傳] 秋学期授業/Fall	302
【C3060】	研究会B [渡邊 誠] 年間授業/Yearly	303
【C3062】	研究会B [金藤 正直] 年間授業/Yearly	305
【C3064】	研究会B [高橋 五月] 年間授業/Yearly	307
【C3071】	研究会A [高橋 五月] 年間授業/Yearly	309
【C3072】	研究会A [竹本 研史] 年間授業/Yearly	311
【C3074】	研究会A [佐伯 英子] 年間授業/Yearly	313
【C3075】	研究会A [湯澤 規子] 年間授業/Yearly	314
【C3076】	研究会A [吉永 明弘] 年間授業/Yearly	316
【C3077】	研究会A [杉野 誠] 年間授業/Yearly	317
【C3078】	研究会A [金光 秀和] 年間授業/Yearly	319
【C3079】	研究会A [藤田 研二郎] 年間授業/Yearly	321

【C3083】	研究会B [佐伯 英子] 年間授業/Yearly	323
【C3085】	研究会B [湯澤 規子] 年間授業/Yearly	324
【C3087】	研究会A [吉永 明弘] 年間授業/Yearly	326
【C3092】	研究会B [小島 聡] 年間授業/Yearly	327
【C3093】	研究会B [杉野 誠] 年間授業/Yearly	329
【C3094】	研究会B [金光 秀和] 年間授業/Yearly	331
【C3095】	研究会B [高田 雅之] 年間授業/Yearly	333
【C3096】	研究会B [藤田 研二郎] 年間授業/Yearly	335
【C3100】	研究会修了論文 [鷹林 貞夫] 秋学期授業/Fall	337
【C3103】	研究会修了論文 [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	338
【C3104】	研究会修了論文 [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	339
【C3105】	研究会修了論文 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	340
【C3106】	研究会修了論文 [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	341
【C3107】	研究会修了論文 [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	342
【C3108】	研究会修了論文 [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall	343
【C3109】	研究会修了論文 [小島 聡] 秋学期授業/Fall	344
【C3110】	研究会修了論文 [ESTHER STOCKWELL] 秋学期授業/Fall	345
【C3113】	研究会修了論文 [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	346
【C3115】	研究会修了論文 [伊東 直美] 秋学期授業/Fall	347
【C3116】	研究会修了論文 [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	348
【C3117】	研究会修了論文 [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	349
【C3118】	研究会修了論文 [杉野 誠] 秋学期授業/Fall	350
【C3120】	研究会修了論文 [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	351
【C3121】	研究会修了論文 [日原 傳] 秋学期授業/Fall	352
【C3122】	研究会修了論文 [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	353
【C3123】	研究会修了論文 [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	354
【C3124】	研究会修了論文 [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	355
【C3125】	研究会修了論文 [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	356
【C3127】	研究会修了論文 [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	357
【C3128】	研究会修了論文 [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	358
【C3130】	研究会修了論文 [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	359
【C3131】	研究会修了論文 [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	360
【C3132】	研究会修了論文 [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	361
【C3134】	研究会修了論文 [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	362
【C3135】	研究会修了論文 [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	363
【C3136】	研究会修了論文 [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	364
【C3150～】	コース修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	365
【C3160～】	プログラム修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	366
【C3200】	人間環境セミナー [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	367
【C3201】	人間環境セミナー [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	368
【C3204】	人間環境セミナー [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	369
【C3300～】	フィールドスタディ [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	370
【C3301～】	フィールドスタディ [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	371
【C3454】	SCOPE Seminar [伊藤 弘太郎] 秋学期授業/Fall	372
【C3455】	SCOPE Seminar [竹原 正篤] 秋学期授業/Fall	373
【C3457】	SCOPE Seminar [伊藤 弘太郎] 春学期授業/Spring	375
【C3458】	SCOPE Seminar [竹原 正篤] 春学期授業/Spring	376
【C3459】	SCOPE Seminar [王 川菲] 秋学期授業/Fall	378
【C3460】	SCOPE Seminar [王 川菲] 春学期授業/Spring	379
【C3461】	SCOPE Seminar [合原 織部] 秋学期授業/Fall	380
【C3462】	SCOPE Seminar [合原 織部] 春学期授業/Spring	381
【C3700～】	Field Workshop [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	382
【C3701～】	Field Workshop [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	383
【C3750】	Cocreative Workshop A I [竹原 正篤] 秋学期授業/Fall	384
【C3751】	Cocreative Workshop A II [竹原 正篤] 春学期授業/Spring	385
【C3752】	Cocreative Workshop B I [合原 織部] 秋学期授業/Fall	387
【C3753】	Cocreative Workshop B II [王 川菲] 春学期授業/Spring	388

LAW200HA (法学 / law 200)

民事法 I

中川 義宏

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法的一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に契約法と不法行為法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争を解決する際の拠り所となる民法について、主に契約法と不法行為法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法入門	民法の全体構造を概観し、民法の体系的な理解を図る。
第3回	民法総則(1)	民法の総則規定である、権利の主体（自然人・法人）、物、意思表示による権利変動について学習する。
第4回	民法総則(2)	民法の総則規定である、意思表示の瑕疵（心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）、契約の不当性について学習する。
第5回	民法総則(3)	民法の総則規定である、無効と取消し、代理、時効について学習する。
第6回	物権	民法の「物権法」と呼ばれる領域に関し、物権の意義と種類、物権変動、占有権・所有権について学習する。
第7回	担保物権	民法の「担保物権法」と呼ばれる領域に関し、担保物権の意義と種類、抵当権について学習する。
第8回	債権総論	民法の「債権法」と呼ばれる領域に関し、債権関係とその内容、債務の不履行、弁済、相殺、債権譲渡、保証債務について学習する。

第9回	契約(1)	民法を理解するうえで大切な「契約法」と呼ばれる領域に関し、契約の意義と種類、契約の成立、契約の解除について学習する。
第10回	契約(2)	民法に規定された「典型契約」のうち、贈与、売買、消費貸借、使用貸借、質貸借、雇用について学習する。
第11回	事務管理・不当利得	民法の「事務管理」、「不当利得」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨について学習する。
第12回	不法行為(1)	民法の「不法行為法」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨、要件について学習するとともに、プライバシー侵害、名誉棄損に関する裁判例を概観する。
第13回	不法行為(2)	民法の「不法行為」の一類型である、使用者責任、工作物責任、製造物責任について学習する。
第14回	試験及び解説	試験を実施し、その解説をしながら、民事法 I の総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間外の準備学習として、授業内で取り上げる裁判例を事前に読んで検討してもらえます。また、民法に関する記事や裁判は新聞で取り上げられることが多いので、普段から新聞に目を通すようにしてください。

【テキスト（教科書）】

民法(全)【第3版】(著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600円+税)。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（中間レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly contract law and tort law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).

LAW200HA (法学 / law 200)

民法法Ⅱ

中川 義宏

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に親族法と相続法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争・家事紛争を解決する際の拠り所となる民法の中の親族法と相続法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

授業内では適宜質問して答えてもらうなど双方向の参加型授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法・家族法入門	民法の全体構造を概観し、その中の家族法（親族法と相続法）の基礎を学習する。
第3回	親族・戸籍と氏	民法の「親族法」と呼ばれる領域に関し、その基本的概念となる親族、戸籍と氏の考え方について学習する。
第4回	婚姻(1)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の意義、婚姻の成立要件、婚姻の効果について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第5回	婚姻(2)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の無効と取消し、夫婦財産制について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第6回	離婚、内縁・事実婚	民法が規定する親族法のうち、離婚の方法（協議離婚、調停離婚等）、内縁・事実婚の意義について学習するとともに、離婚に関する裁判例を概観する。
第7回	親子（実親子関係）(1)	民法が規定する親族法のうち、実親子関係（母子関係、父子関係）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。

第8回	親子（実親子関係）(2)	民法が規定する親族法のうち、嫡出子、婚外子（非嫡出子）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第9回	養子	民法が規定する親族法のうち、養子の種類（普通養子、特別養子）、養子縁組の要件と効果、離縁について学習する。
第10回	親権、後見・保佐・補助、扶養	民法が規定する親族法のうち、親権の内容、制限行為能力（未成年・後見・保佐・補助）の制度、扶養について学習する。
第11回	相続の開始と相続人、相続の効力	民法が規定する相続法のうち、相続の開始と相続人、相続の効力（相続財産の包括承継、遺産共有、相続分、遺産分割）について学習する。
第12回	遺言、遺贈	民法が規定する相続法のうち、遺言制度と遺言の方式（自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言）、遺言の執行、遺贈について学習するとともに、遺言に関する裁判例を概観する。
第13回	配偶者居住権、遺留分	民法が規定する相続法のうち、配偶者居住権、遺留分の意義について学習するとともに、遺留分に関する裁判例を概観する。
第14回	試験及び解説	試験を実施し、その解説をしながら、民法法Ⅱの総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間外の準備学習として、授業内で取り上げる裁判例を事前に読んで検討してもらうことがあります。また、家族法に関する記事は新聞で取り上げられることが多いですので、普段から新聞に目を通すようにしてください。

【テキスト（教科書）】

民法（全）【第3版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600円+税）。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（中間レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly family law and inheritance law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).

LAW200HA (法学 / law 200)

国際法 I

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コア：グ

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに 国際法の構造	本講義の対象範囲 国際法の内容、近代国際法の特徴
第2回	法源	条約、国際慣習法、法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第3回	条約法	締結手続、留保、効力、無効、改正と終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第6回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第10回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第11回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第12回	国家責任法（1）	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第13回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法 [第2版]』東京大学出版会、2023年。4,840円。

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2024年。（旧版でも可）

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選 [第3版]』有斐閣、2021年。

繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 壤・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にコメントはありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society.

By the end of this course, students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper(100%).

LAW200HA (法学 / law 200)

国際法Ⅱ

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環ア：グ

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底
第4回	南極、空域、宇宙	国際化地域、国際航空法、宇宙空間
第5回	個人	国籍、外国人の地位、難民
第6回	国際人権法（1）	人権保障の歴史、条約による人権保障
第7回	国際人権法（2）	国際組織による人権保障、履行確保、人道的介入
第8回	国際刑事法	国際犯罪、国際刑事裁判所
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続、裁判的手続
第11回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第12回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第13回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法〔第2版〕東京大学出版会、2022年。

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2024年。

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選〔第3版〕』有斐閣、2021年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

POL200HA (政治学 / Politics 200)

市民社会と政治

山内 康一

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、①市民社会とは何か、健全な市民社会を築き維持するために何が必要か、②政治とは何か、市民として政治に参加するために何が必要か、③市民社会と政治の関係、について学びます。政治がどのように機能しているか (あるいは機能していないか) を考え、より良い社会をつくるために市民として政治に参加するための方法論や知識を学びます。

【到達目標】

市民社会における民主主義の担い手として適切な判断ができる基礎づくりを目指します。より良い社会をつくるためのアドボカシー (政策提言) 活動や政策形成に市民として参加するためのスキルや知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。必要に応じてグループに分かれて議論します。毎回終了後にリアクションペーパー (質問、感想、意見、提案など) の提出を求め、次の授業でふり返ります。最後に学生の皆さんに具体的な政策を立案し、最終レポートにまとめて発表することを求めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション およびイントロダクション	授業の目標、授業の方針、授業計画、授業の進め方、学び方、最終レポートの発表方法と提出について説明。参考書の紹介。講師自己紹介。市民社会と政治の概観。
第2回	政治はなぜ大切か？	民主政治と専制政治 (北朝鮮と韓国、国境の街ノグレス)。豊かな国と貧しい国のちがいを生む理由。政治不信の時代にそれでも政治を擁護する理由。
第3回	市民社会とは何か？	市民社会、政府、市場 (企業) の関係。市民社会組織 (CSO) やNPO、NGO。国際NGO、発展途上国のCSO (CBO)、国連機関。
第4回	日本の政治 (体験的政治論) : 国会議員の仕事とは？	国会の仕組み。議院内閣制の仕組み。政と官の関係。政党や野党の意義。
第5回	市民が政治を動かす方法	NPOや市民向け「ロビー活動マニュアル」の解説。「政策起業家」という職業。
第6回	政府、市民社会、市場	経済発展の条件：教育、公正な市場、イノベーション。「小さな政府」の終わりや政府の復権。貧困と再分配。世界で一番幸せな国はどこか？
第7回	公共政策の議論の演習 (ワークショップ)	いくつかの具体的な政策について議論し、政策を形成するトレーニング。

第8回	気候崩壊と向き合う	気候崩壊時代を生きる。持続可能な社会への道筋。気候崩壊後の世界。
第9回	SDGs (持続可能な開発目標) とその先の課題	SDGsに至る背景、現状、次の目標のあるべき姿 (Beyond SDGs)
第10回	民主主義の退潮と未来	権威主義の世界的流行。政治的無関心。ジェンダーと政治。若者の政治参加。ファシズムを防ぐ。陰謀論やポピュリズムにだまされない方法。
第11回	シティズンシップ教育	健全な市民社会を築くための教育。民主主義のための教育。
第12回	政治とメディア	メディアと市民。メディア・リテラシー。ネットの弊害。政治報道 (番記者という制度)。
第13回	最終レポート発表会「市民や職業人として何ができるか？」	学生の最終レポート (政策提言) の発表と議論。
第14回	まとめ：より良い社会を築くためにできること	授業のふり返り。積み残したテーマの講義など。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習および復習時間は各回2時間を標準とします。毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求めます。必要に応じて宿題を出します。教科書は指定しませんが、参考書はできるだけ読んで下さい。授業でも推薦図書を紹介するので可能なら読んでみて下さい。

【テキスト (教科書)】

特に教科書は使用しません。

【参考書】

明日香壽川『グリーン・ニューディール』2021年 岩波新書
エステル・デュフロ『貧困と闘う知』2017年 みすず書房
ジャレド・ダイアモンド『危機と人類』2019年 日本経済新聞出版社
ジェリー・ストーカー『政治をあきらめない理由』2013年 岩波書店
ダロン・アセモグル、ジェイムズ・ロビンソン『自由の命運』2020年 早川書房
南博、稲場雅紀『SDGs：危機の時代の羅針盤』2020年 岩波新書
ニール・ファーガソン『劣化国家』2013年 東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%)、リアクションペーパー (40%)、最終レポート (45%) で評価します。なお、自己都合で4回以上欠席した者は原則として成績評価を行いません (やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます)。

【学生の意見等からの気づき】

政治の動きや国際情勢などを踏まえ、また学生の皆さんの意見を聞きながら、授業の進め方やテーマを調整します。授業計画は学期途中でも柔軟に見直し改善したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

本授業を担当するのは初めてなので、最初に決めた授業計画に固執せず、学生の皆さんの反応や意見を踏まえつつ改善していきたいと思っています。

学問の基本は読むことです。教科書は指定しませんが、参考書や授業で紹介する本を読むことを強くお勧めします。

政治の世界では唯一の正しい答えがないテーマが多数あります。答えのない問題にどうやって向き合っていくかを考え議論する授業にしたいと思っています。

【Outline (in English)】

We will learn about ① what constitutes a civil society, what is necessary to build and maintain a sound civil society, ② what politics entails, and what is required for citizens to engage in politics, and ③ the relationship between civil society and politics. We will consider how politics functions (or doesn't) and acquire methodologies and knowledge to participate in politics as a citizen, with the goal of contributing to the creation of a sound society.

The preparation and review time for each session will be standardized to two hours. The submission of reaction papers after each class will be required. Homework may be assigned as needed. While a specific textbook will not be designated, reading relevant reference materials is encouraged. Recommended readings will also be introduced during the classes, so please consider exploring them if possible.

Students will be evaluated based on regular participation (15%), reaction papers (40%), and the final report (45%). Furthermore, as a general rule, individuals who are absent for four or more sessions due to personal reasons will not be evaluated for their grades (individual consultations will be considered for unavoidable circumstances).

POL100HA (政治学 / Politics 100)

国際関係論

岡松 暁子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環コア：G,サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における平和の構築について考察する。前半は、「戦争と平和」をテーマとし、世界史、冷戦期の国際関係、冷戦後の国際秩序、を中心に学ぶ。後半は、戦争がなくても平和ではない、という認識の下、よりよい国際社会の構築をめざした国際社会の取り組みについて学ぶ。

【到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第2回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第3回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第4回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第5回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第6回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第7回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第8回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第9回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第10回	南北問題の歴史的変遷	南北問題と南南問題
第11回	貧困と開発	途上国問題
第12回	人権	国際人権保障の困難性
第13回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で行った範囲をよく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様に進めます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

The course provides an introduction to international peace studies. The themes of this course are; “War and Peace”and “Human Security”.

【Learning Objectives】 Understand the events in the international societies based on the theory of international relations.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on term-end examination(100%).

POL200HA (政治学 / Politics 200)

地方自治論

阿部 慶徳

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考(履修条件等)：環コア：口

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地方自治の基礎を学ぶことにより、他の自治体政策に関する科目を理解できるようになることを目的とする。地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【到達目標】

他の自治体政策に関する科目を理解できるように、地方自治に関連する基礎知識を幅広く学習する。このことにより、地方自治体が様々な公共サービスを提供し、自らの生活といかに関連しているかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に対面で授業を行う。映像や新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを伝える。また、取り扱った内容に関連して、適宜リアクションペーパーの提出を求める場合がある。授業に対する質問に関し、クラス全体に共有した方が良い内容については、全受講者に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	地方自治の理念・基本的な考え方	地方自治の理念の重要性や、地方自治がなぜ必要なのかを講義する。
2回	地方自治の基本制度	二層制、行政機構・公務員、広域行政、指定都市・中核市制度など、基本的な制度の解説する。
3回	政府間関係と地方分権	国と地方政府としての都道府県、市町村の関係や、地方分権がどのように進展したかを解説する。
4回	地方財政	中央政府と比較して、地方政府の財政がいかに運営されているのかを解説する。
5回	法令と条例・規則・要綱	中央政府が制定する法律の範囲内で、地方政府がいかに条例などを制定して自治体行政を運営しているかを解説する。
6回	直接請求権・市民参加	自治体に対して認められている直接請求権制度について解説するほか、同制度を利用した市民参加などについても講義する。
7回	自治体とNPO等との協働	様々な行政課題に対し、NPOや地域社会との協働がいかになされているのか、またその課題について解説する。
8回	自治体の政策体系と行政サービス	自治体の政策が、各行政分野ごとにいかに異なり、自治体内で「調整」されているのかを解説する。

9回	地方自治と地域社会の今日的課題のトピック	実際の社会現象を取り上げ、今までの講義で学んできた地方自治論の観点からどのような分析が可能なのかを解説する。
10回	個別行政(子ども・子育て支援政策)	国や自治体の子ども・子育て支援政策について解説する。
11回	個別行政(学校教育)	国や自治体の学校教育に関する政策や制度を解説する。
12回	個別行政(高齢者福祉)	国や自治体の高齢者福祉に関する政策や制度を解説する。
13回	現代の地方自治の課題	現在の地方自治の課題を、今までの講義をふまえて解説し、1-12回の講義のまとめを行う。
14回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。講義で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努めること。自分の住んでいる自治体の財政状況などを調べること。日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につけること。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

特に参考書は指定しない。必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験(70%)に授業内の小レポート・リアクションペーパーの提出状況等(30%)を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に対面で授業を行うので、適宜質問の時間を設ける。また、メール等を通じた質問も歓迎する。地方自治に関心が持てるよう、身近なニュース等をお伝えするよう努める。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to learn the basics of local autonomy so that you can understand subjects related to other lectures of local government policies.

It is aim in this lecture to acquire the basic knowledge to be involved as taxpayers in the local government and to think it independently as citizens.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students will be expected to have read the relevant newspaper articles to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, Short reports : 30%

LAW200HA (法学 / law 200)

憲法の基礎

田上 雄大

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法とこれにかかわる事項について扱う。

憲法は、国の基本法である。この憲法には国家のシステムや基本権保障などが規定されている。日本におけるこれを現実の憲法問題を交えながら学修していく。これにより、日本に住む現代人として憲法にかかわるさまざまな問題を考えられるようにし、日常でさらなる知的発見を得るきっかけの場とする。

【到達目標】

1. 憲法の基礎的な内容について論じることができるようになる。
2. 国の仕組みやあり方について論じることができるようになる。
3. 社会におけるさまざまな問題について憲法という観点から論じることができるようになる。
4. 国ごとの違いについて理解し、それぞれの文化を尊重して論じることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

配布レジュメをもとに講義を行う。講義の終わりには時間を設け、とりわけ重要な質問に対しては、全体に向けて次の回に改めてフィードバックを行う。また学生の興味関心等に応じて講義内容をフレキシブルに対応することもありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、主権・国民	ガイダンスを行うとともに、主権や国民の概念について扱う。
2	憲法制定史（明治憲法・日本国憲法）	日本における憲法史を両憲法の制定や特徴等を軸に扱う。
3	基本権・基本的人権	憲法によって保障されている権利について扱う。
4	天皇・皇族	日本の憲法の独自性ともいえる天皇や皇族の憲法上のあり方について扱う。
5	法の下での平等	さまざまな平等観や差別と区別の違いについて扱う。
6	戦争放棄・自衛権	憲法9条や関連事項の制定過程や政府見解の変遷等について扱う。
7	内心の自由	内心の自由のあり方や限界について扱う。
8	信教の自由、政教分離	信教の自由の特徴や政教分離の概念について扱う。
9	表現の自由、知る権利	表現の自由の重要性とその制約について扱う。
10	身体的自由権	身体的自由権の特徴や論点等について扱う。
11	立法権	三権のうち立法権について扱う。
12	行政権	三権のうち行政権について扱う。
13	司法権、憲法改正	三権のうち司法権について扱う。また憲法改正の概念や手続きについて扱う。
14	試験・解説等	これまでの知識の復習をかねた試験を行い、解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布したレジュメをもとに授業を進行する。そのため、終了していない内容のレジュメを忘れずに持ってくること。

【参考書】

- ・東裕（編著）『憲法入門講義』（一藝社、令和3年）ISBN:978-4-86359-235-3
- ・青山武憲『新訂 憲法』（啓正社、平成12年）ISBN:978-4-87572-113-0

【成績評価の方法と基準】

最終試験：100%

自主レポートについては随時受け付ける。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

質問等があれば講義終了後に対応します。

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Constitutional Law is basic law for state. Students learn this in Japan mainly. As a result, students, as modern person living in Japan, will be able to consider various problems.

(Learning Objectives)

1. You will be able to discuss the basic contents of the constitution.
2. You will be able to discuss the structure of the state.
3. You will be able to discuss various issues in society from perspective of constitutional Law.
4. You will be able to understand the differences between countries and respect each culture.

(Learning activities outside of classroom)

For preparation and review time, students will be expected to spend each 2 hours.

(Grading Criteria/ Policy)

test 100%

LAW200HA (法学 / law 200)

刑法の基礎

渡辺 靖明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律（公的ルール）のことです。それでは、どのような行為が「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。また、その前提となる刑法の原則とはどのようなものなのでしょうか。この授業では、これらについて具体的な事例を通じて、刑法の私たちの社会における意義と役割とを学びます。

現在、私たちの社会では、国内外の多方面で、対立する相手を「敵」とみなして、徹底的にはげしく罵倒したり、排除しようとしたりする動きが見られます。こうした「対立」・「分断」は、現に世界で起きているように、場合によっては大きな紛争・戦争へと至り、悲惨な被害を生じさせかねません。こうした「対立」・「分断」を解消するには、対立する相手とは絶対に分かれあえないとあきらめるのではなく、相手の立場も尊重し、その意見にも耳をかたむけて、その価値観を理解しようと努め、対話を重ねることが必要ではないでしょうか。

犯罪の加害者と、その被害者（遺族含む。）及び被害者に同情・共感する多くの人々との間でも、深刻な「対立」・「分断」が生じているように思えます。加害者は、法や社会のルールに反し、被害者を生み出した以上、ともかく、重く厳しく罰するべきだ。それにもかかわらず、法では、加害者を裁けなかったり、軽い処罰しかなされなかったりするときがある。法は加害者に甘すぎる！このように考える人も少なくないのではないのでしょうか。

犯罪の被害者に同情・共感することは、もちろん大切です。しかし、だからといって、その加害者を「敵」として、とにかく重く厳しく罰さえすれば、社会は安心・安全になるのでしょうか。加害者の立場・境遇にも思いをはせ、その言い分にも耳を傾けることも必要なのではないのでしょうか。また、法が加害者に「甘い」ように見えるとしても、それはなぜなのでしょう。そして、それは本当に不当な「甘さ」なのでしょう。

これらのことを冷静に考えるためには、刑法の意義・役割、またその原則の下で、どのような場合に「犯罪」が成立し、また「刑罰」が科されるのか。このことをきちんと理解する必要があります。その理解をせずに、ともかく加害者を徹底的に攻撃して社会から排除し、また加害者に「甘い」法には「不備」があるとして、犯罪の重罰・厳罰化を一方向的に主張しようとする「思考停止」では、社会における「対立」と「分断」の1つを一層深めるだけに終わってしまいます。それでは、犯罪の根本的な原因を考えてこれを解消することもできなくなって、犯罪の新たな被害を真に防ぐことも難しくなるのではないのでしょうか。

この意味で、刑法の概要を学ぶことで、様々な「対立」と「分断」を乗り越え、他の人と仲良く共存しながら、私たちの誰もが幸せに生きていく社会を築くためのヒントを得られるかもしれません。

【到達目標】

法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割・限界、刑罰の目的や刑法と他の法律との関係を踏まえて、刑法の一般原則及び犯罪の一般的・個別的な成立要件等や、さらにこれに関する判例（裁判所の判断）及び学説を理解し、これらの基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

レジュメには、〔確認問題〕・〔検討問題〕を適宜設けます。基礎知識修得の目安は、その各問題の解答と理由とを理解し、それを文章（言語）できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメ中の具体的事例を検討しながら、各回のテーマごとの理解をはかります。適宜授業内で、支援システムを通じて意見などを提出してもらうこともあります。

小テスト（4回予定）については、回答期限後の授業ないし学習支援システムを通じて、簡易な解説を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」とは何か。	法（律）の意義、法の体系及び「刑法」の意義を学ぶ。
第2回	殺人罪（1） －犯罪の一般的成立要件	犯罪の一般的成立要件及び刑法における人の「生」と「死」をめぐる議論などを学ぶ。
第3回	殺人罪（2） －犯罪の故意・過失	刑法の故意犯処罰の原則や犯罪の故意と過失の成立要件などについて学ぶ。
第4回	殺人罪（3） －胎児性致死傷	胎児性致死傷と罪刑法定主義との関係などを学ぶ。
第5回	傷害罪	傷害の意義及び傷害と傷害致死との関係（刑法の因果関係）などを学ぶ。
第6回	自殺関与・同意殺人罪	刑法における被害者の同意の意義及び同意の有効性と刑法の最終手段性の原則との関係などを学ぶ。
第7回	安楽死・尊厳死	終末期医療における安楽死・尊厳死と刑法との関係などを学ぶ。
第8回	刑罰論	刑法の刑罰と民法の損害賠償・行政法の行政処分との違いや、国家が市民に刑罰を科すことの正当な根拠をめぐる議論などについて学ぶ（Googleドライブで共有した録音を聴いてもらう形式にする予定）。
第9回	脅迫罪・強要罪・監禁罪	意思決定の自由の罪の基礎を学ぶ。
第10回	不同意（強制）わいせつ罪・不同意（強制）性交等罪	性的自由に対する罪の基礎を学ぶ。
第11回	住居侵入罪	住居権・住居の平穏に対する罪の基礎を学ぶ。
第12回	名誉毀損罪・侮辱罪 真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎及び刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係を学ぶ。
第13回	財産に対する罪	財産に対する罪の共通原則及び個別の犯罪の基礎を学ぶ。
第14回	賄賂罪	汚職の罪（国家の作用に対する罪）の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメや刑法の参考書等で予習・復習をしてください。特に復習時には配布レジュメ中の各事例や〔確認問題〕・〔検討問題〕を中心に理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

特に指定はしません。お勧めの参考書は、開講時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業で扱った基礎知識を問う定期試験80%、支援システム上での小テスト20%の総合評価で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、教材も含め分かりやすく楽しく学べた、判例や学説なども交えて受講者が興味を持ちやすいように工夫されていた、刑法の基本的な部分を学び、刑法の考え方、面白さを学べたことが良かった、など好意的な意見を多くもらうことができましたが、これを本年度も維持できるように努めます。特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

コロナウィルスの感染予防及び省資源の観点から、レジュメを印刷して直接配布することはしません。支援システムで事前にレジュメをアップするので、自身でプリントアウトをして持参するか、または電子機器で閲覧、書き込み等ができるように準備をしてください。

第8回はGoogleドライブで共有した録音を聴いてもらう形式にする予定です。ご通信環境等の準備をお願いします。

【その他の重要事項】

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民法Ⅰ・Ⅱ」等の他の法律系科目もあわせて履修しておく、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、「環境刑法」を扱う秋学期開講の「環境法Ⅳ」は、私が担当する予定ですが、「刑法の基礎」を履修しておけば、同授業の理解が容易になるかと思えます。

なお、刑法に限らず、法律学は、条文、判例、学説を十分に理解せずに、自分のこれまでの断片的な知識・思い込みによる私見だけを一方的に主張しても、修得したことにはなりません。受講にあたり、また小テスト・定期試験受験時には、このことをよく理解しておいてもらいたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 What kind of action is subject to punishment as a crime? What is the basic principle of criminal law to consider crime and punishment? We will learn it through concrete examples. And we will think the meaning and role of criminal law in society.

Learning criminal law may be a hint to overcome various divisions and build a society where everyone can live happily while coexisting with others.

【Learning Objectives】 Acquiring basic knowledge of criminal law is the goal of this class. [Confirmation question] and [Examination question] are described in the resume. At the end of this course, students are expected to understand answer and its reason for each question and to be able to explain them correctly in sentences.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Termed examination:80%, mini exam:20%

LAW300HA (法学 / law 300)

環境法Ⅳ

渡辺 靖明

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では「環境刑法」、すなわち「環境」の保全について、刑法がどのような役割を果たし、またそこにどのような限界があるのかを学びます。

もっとも、ひとくちに「環境」といっても、私たちが生きている地球全体の「環境」もあれば、生態系や生物の多様性といった自然の「環境」もありますし、私たちが毎日快適に過ごしたいと願う生活上の「環境」もあります。これらの様々な「環境」は、相互にどのような関係に立つのでしょうか。また、環境を保全するのは、いま生きている現在の世代の人間だけのためなのでしょうか、それともまだ生まれていない将来の世代の人間のためでもあるのでしょうか。刑法をはじめ法による環境保全を理解する前提として、こうしたことをよく考えておく必要があります。

他方、刑法は、「犯罪」と「刑罰」を定める法律であり、環境保全のためにも、刑法上様々な行為が犯罪とされ、刑罰（罰則）の対象となっています。しかし、環境を著しく汚染、破壊した人を犯罪者として重く罰しても、失われた環境は回復しません。しかも、憲法を最高法規として、刑法以外にも、民法や行政法があります。それにもかかわらず、環境保全のために刑法（罰則）を用いることが本当に必要かつ有用なのでしょうか。さらに言えば、「環境」は、身近なゴミのポイ捨てによっても、生成AIの利用増加によっても、また兵器を用いた戦争によっても害されます。刑法を含めた「法」だけがこうした多様な環境破壊を防ぐための「最適解」なのでしょうか。これらのことを考えるためには、刑法自体の目的・役割・機能と限界や他の法律での環境保全の規制との関係を正しく理解し、さらに現在の環境保全のための刑法（罰則）ひいては法の制度全体あるいは社会の在り方を広い視野で見ることが欠かせません。それは、(生成AIは決して教えてくれないであろう)「環境」を「なぜ」、「どのように」保全すべきなのかについて、深く考えることにきっとつながるでしょう。

この授業では、刑法の基礎知識を身につけつつ、刑法そして法による環境保全のあり方と限界を理解して、私たち一人ひとりが環境保全のために何をすべきかを多角的な観点から考えられるようになることを目指します。

【到達目標】

法の保全の対象となる「環境」の意義や、環境保全をめぐる「刑法」(罰則)の体系、関連する基本的な判例(裁判所の法的判断)や学説を正しく理解して、環境保全への実践的な法の基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

基礎知識修得の目安は、各回の教科書やその補充・追加のレジュメの内容を理解し、事例や確認の問題について、文章(言語)できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書とその補充・追加のレジュメをもとに、各回のテーマごとの理解をはかります。適宜授業内で、支援システムを通じて意見などを提出してもらうこともあります。

小テスト(4回予定)については、回答期限後の授業ないし学習支援システムを通じて、簡易な解説を行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」の意義と限界	法(律)の意義、法の体系及び「刑法」の意義と限界を学ぶ。
第2回	「公害罪法」の挫折	「公害罪法」の意義と問題点を具体的な刑事裁判例を通じて学ぶ。
第3回	環境保全と刑法(1) - 「環境」の意義	「環境」の意義をめぐる「生態系中心」と「人間中心」との対立や、「現代」と「未来世代」との対立などを学ぶ。
第4回	環境保全と刑法(2) - 罰則の基礎	環境保全のための罰則の基礎として、刑罰と行政罰との区別、両罰規定、直接罰と間接罰、侵害犯と危険犯さらに累積危険犯などの基礎を学ぶ。
第5回	環境保全と刑法(3) - 自然生態系の保護	自然生態系(大気・水・土)の保護に関する法律と罰則の基礎を学ぶ。
第6回	環境保全と刑法(4) - 動物愛護	人と動物をめぐる法の体系と罰則を通じて、「動物愛護」の意義を学ぶ。
第7回	廃棄物処理法の罰則(1) - 廃棄物の処理体系と罰則	廃棄物処理法の廃棄物の処理体系及びこれに関する罰則の基礎を学ぶ。
第8回	廃棄物処理法の罰則(2) - 「廃棄物」	意義を刑事裁判例を通じて学ぶ。
第9回	廃棄物処理法の罰則(3) - 廃棄物の「再生・循環利用」	廃棄物の「再生・循環利用」の法体系と関連する刑事裁判例を学ぶ。
第10回	廃棄物処理法の罰則(4) - 不法投棄罪	廃棄物の不法投棄罪の基礎と特に「捨てる」の意義に関する刑事判例及び学説を学ぶ。
第11回	廃棄物処理法の罰則(5) - 不法焼却罪と業法違反の罪	廃棄物の不法焼却罪及び業法違反の罪の基礎と関連する刑事裁判例を学ぶ。
第12回	リサイクル法・省エネ法の罰則	各種リサイクル法と省エネ法の体系と罰則を学ぶ。
第13回	刑事手続の概要	環境法上の犯罪を素材として、捜査・起訴・公判の刑事手続の基礎を学ぶ。
第14回	まとめにかえて一環境保全と民主政治・社会倫理	環境保全を支える民主政治の機能と社会倫理とは何かを学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

教科書、配布レジュメで予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト(教科書)】

長井圓編著、渡辺靖明ほか『未来世代の環境刑法1 Textbook 基礎編』(信山社、2019年)4,620円(税込)。

※下記参考書の『2』と間違えないように注意してください。

【参考書】

長井圓『未来世代の環境刑法2 Principles 原理編』(信山社、2019年)4,180円(税込)。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業で扱った基礎知識を問う定期試験80%、支援システム上での小テスト20%の総合評価で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

コロナウィルスの感染予防及び省資源の観点から、レジュメを印刷して直接配布をすることはしません。支援システムで事前にレジュメをアップするので、自身でプリントアウトをして持参するか、または電子機器で閲覧、書き込み等ができるように準備をしてください。

【その他の重要事項】

本年度から担当教員が変更となりますので、授業の進め方・方法・内容も変わります。

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「刑法の基礎」、「民事法Ⅰ・Ⅱ」や、本授業以外の「環境法」等の他の法律系科目もあわせて履修しておくことで、本授業の内容の理解が一層深まるでしょう。特に私が担当する春学期開講の「刑法の基礎」を履修しておけば、本授業の理解が容易になるかと思えます。

なお、刑法に限らず、法学は、条文、判例、学説を十分に理解せず、自分のこれまでの断片的な知識・思い込みによる私見だけを一方的に主張しても、修得したことにはなりません。受講にあたり、また小テスト・定期試験受験時には、このことをよく理解しておいてもらいたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 We will study about “environmental criminal law”.

We will learn about the various meanings of environment and purposes of environmental conservation through law.

And we will think the relationship and differences between criminal law and other laws, and especially the role and limitations of criminal law in environmental conservation.

【Learning Objective】 Our goal is able to consider from a broader perspective about why and how the environment should be conserved, taking into account the role and limits of environmental conservation (criminal-) laws.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Termed examination:80%, mini exam:20%

LAW200HA (法学 / law 200)

国際環境法

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環コア：グ

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と 接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ、 共通に有しているが差異ある責任、 人類共通の関心事
第8回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第9回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第10回	国際環境法の手続的 義務	事前通報・協議制度、報告・審査 制度、情報交換、事前の情報 に基づく同意、環境影響評価、 モニタリング
第11回	国際環境法上の義務 の履行確保	不遵守手続
第12回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第13回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2023年。

その他、授業内に指示する。

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。2,800円。

その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

LAW300HA (法学 / law 300)

労働環境法

櫻井 洋介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、労働者として自律的なキャリアを形成していく上で必要な労働法の基礎知識の習得を目指します。労働法の役割は、使用者と比べて相対的に立場の弱い労働者を保護し、労使対等の理念を実現することであり、全ての労働者が知っておくべき法律であるといえます。社会に出る前に労働法の基礎知識を習得しておくことは、将来的に自身の身を守ることもつながります。

【到達目標】

労働法の基礎知識の習得を通じて、身近な労働に関する諸問題について、法的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は基本的に講義形式となります。授業ごとに小テストを課すことを予定しています。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境法の全体像	労働関連法令の構成や全体像、役割等について学ぶ
第2回	労働者、使用者の概念と労働条件の決定	労働法のアクターである労働者や使用者の概念を学ぶとともに、労働条件の決定に関するプロセスを理解する。
第3回	募集・採用と様々な雇用形態	募集・採用時のルールや、採用内定および試用期間の法的性格、有期労働契約の特徴等について学ぶ。
第4回	賃金と労働時間・休憩・休日	賃金の支払いに関する規制や労働時間・休日・休憩に関する基本的な法的ルールを学ぶ。
第5回	様々な働き方と労働時間制度	フレックスタイム制や裁量労働制等といった労働時間管理の諸制度の構造について学ぶ。
第6回	配置転換・労働条件の変更	配置転換や出向・転籍等の命令権に関する法律上の考え方を理解するとともに、労働条件を変更する際の手続について学ぶ。
第7回	安全衛生と労災補償	使用者の安全配慮義務や労災補償制度の概要を学ぶ。
第8回	労働組合の役割	労働組合の加入や脱退、権利の概要を学ぶとともに、団体交渉の意義や労働協約の法的効力等について学ぶ。
第9回	労働契約の終了：解雇規制と定年退職	解雇に関する法的な規制や定年退職および定年後の再雇用等に関するルールについて学ぶ。

第10回	労働者の人権保障とハラスメント規制	労働者の人権や労働契約上の権利義務、ハラスメントに関する法的規制の現況等について学ぶ。
第11回	平等原則と差別の禁止（女性、年齢、国籍等）	男女雇用機会均等法の制定や改正を中心として、労働法上の平等原則や均等待遇、差別禁止に関連する法令の全体像や概要を学ぶ。
第12回	障害者雇用を取り巻く状況	障害者差別解消法と障害者雇用促進法を中心に、差別の禁止や合理的配慮義務、障害者雇用率制度の概要等を学ぶ。
第13回	新しい働き方と労働法の現代的課題	非典型雇用の他、フリーランス、ギグワーカー等といった新しい働き方を取り巻く労働環境や法の適用状況等について学ぶ。
第14回	紛争解決制度とまとめ	労使紛争の解決手段等について学ぶとともに、これまでの講義を通じて学んできた労働環境法の意義や役割、課題等を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の終わりに、次回講義に向けた予習内容（教科書の該当ページ等）を指示しますので、指示に従って該当箇所を熟読してから講義に臨むようにしてください。また、復習を行う場合は、レジュメや教科書に目を通すだけでなく、講義内で紹介した判例の内容をしっかりと理解するようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中窪裕也・野田進『労働法の世界（第13版）』（有斐閣、2019年）

【参考書】

初学者向けの参考書として、①浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第9版』（有斐閣アルマ、2023年）、判例を確認する際の参考書として、②『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022年）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに行われる小テスト（基本的な法規制や重要判例についての理解を確認するための選択・穴埋め式問題）を30%、期末試験を70%とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本講義は、労働環境論Ⅰ、Ⅱと関係しています。本講義は主に「法律」に焦点を当てますが、労働環境論Ⅰ、Ⅱの講義を通じて、法律の背景にある労働環境の現状や変遷について学んでおくと、より理解が深まると思います。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course aims to provide students with the basic knowledge of labor law necessary to develop an autonomous career. The role of labor law is to protect workers who are in a relatively weaker position compared to employers and to realize the principle of equality between workers and employers, and it is a law that all workers should know. It is important for all workers to have a basic knowledge of labor law before starting their careers, so that they can protect themselves.

【Learning Objectives】

Students will be able to legally explain various labor-related issues in their daily lives through acquiring a basic knowledge of labor law.

【Learning activities outside of classroom】

At the end of each lecture, students will be given instructions on how to prepare for the next lecture (e.g., the relevant pages in the textbook). Please follow the instructions and read the relevant sections carefully before attending the lecture.

When students review the lectures, they should not only read through the resumes and textbooks, but also make sure that they fully understand the content of the precedents introduced in the lectures.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The quiz given in each class (multiple choice/fill-in-the-blank type questions to check understanding of basic laws and regulations and important judicial precedents) will be 30%, and the final exam will be 70%.

POL300HA (政治学 / Politics 300)

自治体環境政策論 I

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策学の視点で、都市空間における緑や水辺などの自然環境の保全、都市農業政策、ヒートアイランド対策、下水道政策、都市公園政策など、自治体環境政策に関する多様なテーマについて検討する。さらに地域の未来を考えるために、第2次大戦後から現代までの自治体環境政策史について検討する。トピックとして、公害規制、廃棄物処理、都市の開発コントロール、景観政策、アーバンデザインなどを取り上げる予定である。この授業の目的は、学生が自治体環境政策の基礎知識や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・自治体による地域環境政策に関する知識を習得する。
- ・地域課題に関する政策思考を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイント、映像等に基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパーや中間レポートの提出と応答・講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用し、授業でもフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	イントロダクションとして、自治体環境政策が公共政策であることをふまえて、「政策」の概念とその基本構造を確認する。
第2回	自治体政策の風景	環境政策を含む自治体政策を風景に喩えて、体系的と総合性という視点から構図を確認する。
第3回	都市の緑を守る	都市空間における緑地保全について、里山、宗教空間などの地域資源と政策対応について検討する。
第4回	都市の緑を活かす	都市農業・農地の多面的機能の視点から、生産緑地や農地の市民的利用などについて検討する。
第5回	都市の緑を創る	都市空間における公共施設や民間施設の緑化について検討した後、現代都市の緑戦略の方向性について総括する。
第6回	水と緑の総合政策と自治体の役割	水辺環境の保全、水と緑を一体的にとらえる総合的な都市環境政策と自治体の役割について検討する。また斜面緑地の保全の意義とともに、「遅れたきた公害」ともいわれる、かつて開発した住宅地の崩壊リスクにも言及する。

第7回	自治体政策のドラマと問題構造	自治体政策をドラマに喩えて、政策過程のモデルと、政策が対象とする公共問題の構造について確認する。
第8回	ヒートアイランドの問題構造と都市環境政策	ヒートアイランドの問題構造と、グリーン・インフラストラクチャーの導入をはじめとする総合政策による都市構造の転換について検討する。
第9回	自治体環境政策と社会資本整備～下水道	自治体環境政策における社会資本整備として、下水道の今日的課題と地域資源としての可能性などについて検討する。
第10回	自治体環境政策と社会資本整備～都市公園	自治体環境政策における社会資本整備として、都市公園の多面的機能や政策課題、パークマネジメントなどについて検討する。
第11回	第1世代の自治体環境政策～高度経済成長期の政策革新	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を目的として登場した第1世代の自治体環境政策について、当時の社会情勢とともに検討する。
第12回	地域の「環境再生」への挑戦	環境破壊の世紀であった20世紀に対して、21世紀の課題である地域の「環境再生」政策について検討する。
第13回	第2世代の自治体環境政策～歴史的町並み保全から現代の景観政策へ	1960年代後半から80年代において、地域空間の質の高めるために登場した第2世代の自治体環境政策について、歴史的町並み保全を中心について検討し、さらに現代の景観政策に言及する。
第14回	アーバンデザインから考える都市の未来	第2世代の自治体環境政策の時代から始まったアーバンデザインについて、横浜の政策実践を回顧しながら、都市の未来について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、中間レポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（70%）+積極的な参加姿勢（10%）+中間レポート（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・最新の地域社会の動きや自治体の政策情報の提供を通して、現代社会を理解する機会になることを期待しています。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントなどの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていきたいと思います。
- ・学習支援システムを活用し、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで履修する学生にとっても、地域社会に関連するテーマや「持続可能な地域社会」を理解するためには、自治体政策に関する基礎知識は必須です。
- ・「自治体環境政策論I」と「自治体環境政策論II」は連続しており、両方を受講することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

In this class, from the viewpoint of public policy studies, we will examine the various themes about the environmental policy of local government, such as preservation of the natural environment in urban space, urban agriculture policy, control of “Heat island”, sewer policy, city park policy. Furthermore, in order to consider the future of the community, we will explore the history of local environmental policy from after the Second World War to the present age. The topic to take up will be pollution regulatory, waste administration, control of urban development, local scene preservation policy, urban design, etc. The purpose of this class is for students to learn about the basic knowledge of regional environmental policy and the method of policy thinking.

The goals of this course are to acquire knowledge about regional environmental policy of local government, and to gain the ability of think about regional policy issues.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Term-end examination:70%, Active class participation:10%, Mid-term reports:20%

POL300HA (政治学 / Politics 300)

自治体環境政策論 II

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な地域社会」に向けた自治体政策について総合的に検討する。特にグローバルな政策や再生可能エネルギー政策、環境政策統合、SDGs、交通政策、都市の持続可能性リスク、縮小都市やコンパクトシティ、都市と過疎地域の政策連携など、近年の重要なテーマに焦点を合わせる。この授業の目的は、学生が、「持続可能な地域社会」の創造への自治体の役割や政策型思考などについて学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な自治体政策に関する知識を習得する。
- ・持続可能な地域社会の創造に向けた政策価値、政策規範、政策論理、地域課題に関する政策型思考を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパーや中間レポートの提出と応答・講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用し、授業でもフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～「持続可能な地域社会」とは？	イントロダクションとして「持続可能性・持続可能な発展」という概念を確認しながら、「持続可能な地域社会」という政策理念について検討する。
第2回	「持続可能な地域社会」の多様性～都市の「変容」と過疎地域の「存続」	「持続可能な地域社会」の社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という2つの方向性を提示する。
第3回	「グローバル」言説を再考する	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第4回	第3世代の自治体環境政策～地球温暖化の「緩和策」	グローバルな時代における第3世代の自治体環境政策として、地球温暖化の「緩和策」について検討する。
第5回	第3世代の自治体環境政策～地球温暖化への「適応策」	ローカルな時代における第3世代の自治体環境政策として、地球温暖化への「適応策」について検討する。
第6回	再生可能エネルギー革命と自治体政策	自治体の再生可能エネルギー政策の動向と課題・展望について検討する。

第7回	責任共有の政策論理とローカル・ガバナンス	「環境ガバナンス」にかかわる多元的な主体（自治体、市民、企業、NPOなど）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第8回	持続可能性の多面的構成・包括性・統合性と自治体政策のイメージ	持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成やそれらの包括性・統合性を確認しながら、自治体政策のイメージを描く。
第9回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」に向けて多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第10回	ローカルSDGsと自治体政策	SDGsの自治体政策における意義・動向・課題について検討し、地域循環共生圏についても言及する。
第11回	「持続可能な地域社会」への統合的アプローチ～地域交通政策の動向	SDGsが掲げる統合的アプローチについて、地域交通政策の動向を中心に検討する。
第12回	21世紀における都市の持続可能性リスク	災害や感染症などの発作的危機、人口減少社会や地球温暖化などの長期的なリスクを、21世紀の都市が直面する脆弱性＝都市の持続可能性リスクととらえ、その回避やレジリエンスについて検討する。
第13回	縮小都市時代の自治体政策	人口減少社会における「縮小都市」問題を確立し、空き家・空き地対策やコンパクトシティ政策などについて検討する。
第14回	都市と農山漁村の地域間連帯への政策的展望	過疎地域の持続可能性問題を再確認し、都市－農山漁村の地域間連帯の動向とともに、生態系サービスや地域間の相互依存関係をふまえて、今後の政策のありかたについて展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、中間レポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

この科目において取り上げる政策価値、政策規範、政策論理などの理論的なアプローチについては、以下の文献でおおよそ説明しているので、受講とあわせて一読し理解を深めてほしい。
小島聡「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と政策構想」（小島・西城戸・辻編著『フィールドから考える地域環境持続可能な地域社会をめざして 第2版』ミネルヴァ書房、2021年。その他の参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（70%）＋積極的な参加姿勢（10%）＋中間レポート（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・各地の事例について、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解するためにも可能なかぎり政策情報を提供します。
- ・日々の情勢を知るだけではなく、現在を読み解き未来を展望するために、政策価値や政策規範、政策論理など、理論的思考を身につけることも重視します。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていきたいと思います。

・学習支援システムを活用し、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。
・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで学ぶ学生にとっても、地域社会に関するテーマや「持続可能な地域社会」について理解するためには、自治体政策に関する知識は必須です。
・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、両方を受講することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

In this class, we will examine public policy of local government comprehensively towards “Sustainable community”. Especially, we will focus on some important themes in recent years, such as “Glocal policy”, renewable energy policy, environmental policy integration, “SDGs”, traffic policy, urban sustainability risk, shrinking city and compact city, cooperation policy between urban and rural areas, etc. The purpose of this class is for students to learn about the role of local government for creating “Sustainable community, and the method of policy thinking.

The goals of this course are to acquire knowledge about sustainable policy of local government, and to gain the ability to think about policy value, policy norms, policy logic, regional policy issues for creating “Sustainable community”.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Term-end examination:70%, Active class participation:10%, Mid-term reports:20%

POL300HA (政治学 / Politics 300)

エネルギー政策論

久谷 一郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、エネルギー・環境に係る国内外の情勢と、その課題解決に向けた対応のあり方をテーマとします。国内外のエネルギー・環境問題の現状について、統計などの諸資料を活用しながら客観的な理解を深めます。加えて、担当教員が所属するシンクタンク（日本エネルギー経済研究所）での活動を通じて得た実践的な知見や洞察を伝えます。これら学びをもとに、エネルギー・環境に関わる様々な課題を捉える視点を獲得し、課題解決に向けた政策の選択肢を理解します。そのうえで、エネルギー・環境問題の解決に向けた国際社会や国際協調のあり方、日本の対応などについて学びます。

【到達目標】

現代社会の重要課題の一つであるエネルギー・環境問題について、受講生が自らデータと事実に基づいて広い視野から主体的に考察できるようになること、そして将来に向けて新たな問題を発掘し、課題解決について思考、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国内外のエネルギー・環境問題について、スライドを利用しながら講義形式で解説します。第1回の授業で、環境・エネルギー問題に関する受講生の関心を聴取します。聴取した結果は、第2回以降の授業で取り扱うテーマや解説の軽重に反映します。講義では最低1回、グループディスで議論を行い結論を導き出す演習を行います。また、ショートペーパー（1,000文字程度）を1回提出してもらいます。講義は対面を原則としますが、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の狙い、構成、成績評価など
2	エネルギー安全保障とは	概念と歴史的経緯、日本のエネルギー安全保障問題
3	今日のエネルギー安全保障問題1	至近の情勢、注目点（エネルギー需給、国際情勢など）
4	今日のエネルギー安全保障問題1	至近の情勢、注目点（再エネ、原子力、など）
5	途上国のエネルギー安全保障問題1	途上国固有の課題と対策（SDGsの優先順位、都市化の問題、など）
6	途上国のエネルギー安全保障問題1	途上国固有の課題と対策（補助金、人口動態、など）
7	安全保障の対策と国際エネルギーガバナンス	政策の選択肢、国際協調
8	グループ討議1	ある国のデータをもとに安全保障対策を議論、成果を発表
9	地球温暖化とエネルギー	温暖化問題の基本、エネルギーとの関係性
10	省エネ、日本の取り組みと世界動向	省エネの重要性、手法、など
11	脱炭素政策、EV化、デジタル化	脱炭素政策、デジタル化の効果、など

12	ビジネス界の取り組み	ビジネス界の動き、変化、など
13	エネルギー市場	国内外のエネルギー市場とその役割
14	グループ討議2	あるテーマをもとに議論、成果を発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業に用いるスライドは事前に配布するので、予め目を通しておくことで理解が深まります。復習では、授業を振り返るとともに、授業を通じて関心を持ったトピックスについて関連情報を収集し問題意識の醸成に努めることで、主体的に課題を発掘する力が養われることが期待できます。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。担当教員が作成する資料（スライド）をもとに授業を進めます。

【参考書】

特定の参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の理解度（50%）とショートレポート（50%）をもとに総合判断します。授業の理解度は主に講義毎のリアクションペーパーで判定します。ショートレポートは提出の有無と出来の良否で判定します。なお、授業中の積極的な意見表明や議論への参加を加点評価します。

【学生の意見等からの気づき】

第1回授業における学生からの関心表明を踏まえて、2回目以降の授業にメリハリを付けます。質問を受け付ける方法、機会をしっかりと提供します。レポート課題の内容や回数・提出期限などの周知を、講義を通じて徹底します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

This class will focus on the domestic and international energy and the climate issues, how to respond to the challenges that we are facing. First, students will be expected to deepen their objective understanding of the status of energy and climate issues, utilizing statistics and other materials. In addition, practical knowledge and insights will be shared in which the lecturer gain from the experiences in the current position in the thinktank, IEEJ. Based on these studies, students will be expected to acquire a perspective on the issues and to understand policy options for solving them. Students will then learn about the international community, international cooperation, and Japan's responses for the circumstances.

The aim of the course is to enable students to think independently about energy and climate change issues from a broad perspective based on data and facts, to identify emerging issues, and to consider and discuss solutions for the future.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Slides for the class will be distributed in advance, so please read them beforehand to deepen your understanding. In the review, students are expected to review the class, gather relevant information on topics of interests so that to widen his/her knowledges.

Comprehension of the course (50%) and a short report (50%) will be used to make an overall assessment. Understanding of the class will be assessed by the reaction paper for each lecture. Short reports will be assessed by its submission and performance. Students will receive extra credits for active participation in the class.

POL300HA (政治学 / Politics 300)

地球環境政治論

横田 匡紀

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環コア：G, S

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決やSDGsに向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、バイデン政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員としてSDGsや持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、SDGsなどを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権やバイデン政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障、コロナ禍やウクライナ情勢の影響といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題やSDGsなど）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点とSDGsとの関連についても言及し、SDGsに対する理解を深めることができるように配慮する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。小課題などに対するフィードバックは授業支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界
第2回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議からSDGsまで

第3回	気候変動ガバナンス(1)	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要
第4回	気候変動ガバナンス(2)	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイベストメント
第5回	地球環境ガバナンスの課題(1)：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第6回	地球環境ガバナンスの課題(2)：SDGs、プラスチック	SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第7回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH
第8回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧(Haze)
第9回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権、エネルギー政策、環境正義
第10回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(1)	NGOや企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第11回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(2)	NGOや企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG投資など
第12回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約
第13回	地球環境政治の見方(1)	リアリズムとリベラリズム
第14回	地球環境政治の見方(2)	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、ワートランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編『国際関係論（第3版）』弘文堂、2018年

【参考書】

環境社会学会編『環境社会学事典』丸善出版、2023年
 竹本和彦編『環境政策論講義』東京大学出版会2020年
 高橋洋『エネルギー転換の国際政治経済学』日本評論社、2021年
 亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010年
 宮永健太郎『持続可能な発展の話』岩波書店、2023年
 小西雅子『気候変動政策をメディア議題に』ミネルヴァ書房、2022年
 太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治』東信堂、2016年
 宇治梓紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019年
 黒崎岳大『スタディガイドSDGs（第2版）』学文社、2023年
 蟹江憲史『SDGs(持続可能な開発目標)』中公新書、2020年
 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ3版』有斐閣、2023年
 前田幸男『「人新世」の惑星政治学』青土社、2023年
 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013年
 大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年
 西谷真規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論』ミネルヴァ書房、2021年。
 山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年
 草野大希ほか編『国際関係論入門』ミネルヴァ書房、2023年
 関山健『気候安全保障の論理』日経BP、2023年
 小田桐確編『安全保障化の国際政治』有信堂、2023年
 藤原帰一編『気候変動は社会を不安定化させるか』日本評論社、2022年
 西村智朗『気候変動問題と国際法』信山社、2024年

多湖淳『国際関係論』勁草書房、2024年

【成績評価の方法と基準】

課題類の提出を前提として、期末試験90%、平常点10%で評価する。期末試験についてはレポートテストになる。平常点については、毎回の小課題の提出とその内容について判断する。小課題のフィードバックについては、学生からのリクエストに応じて授業サイト上で行う。

毎回の小課題の提出が不十分だと成績評価の対象となりませんので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。

進捗により講義内容を変更することがあります。

課題提出と資料配布は学習支援システムを通じて行う。

感染症対策には十分な配慮をします。

半数以上の授業回を対面で実施します。前半を対面、後半以降はオンラインとする予定です。授業回の半数以上での対面受講を求めます。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations

Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Students will be able to understand the mechanisms of consensus building on global environmental issues from the perspective of international relations, using the Paris Agreement, climate change issues, and SDGs as examples.
- ・ To be able to understand the activities of various actors such as international organizations, environmental NGOs, and corporations in relation to global environmental issues.
- ・ To be able to understand recent global environmental governance issues such as SDGs and plastic pollution.
- ・ Understand the global environmental diplomacy of Japan and the United States
- ・ To be able to understand the current status of various environmental governance systems at the regional level in Europe and Asia.
- ・ To be able to understand the perspectives of international relations theory, such as global governance and global environmental governance.
- ・ Students will be able to understand the impact of the Trump and Biden administrations on global environmental policy.
- ・ To be able to understand the mechanism of consensus building on complex issues such as trade and environment, environment and security.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students should be able to understand each item in the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Assessments will be made on the basis of a final exam (90%) and a normal score (10%). The final exam will be a report test. Ordinary points will be based on the submission of small assignments and their contents. Feedback on small assignments will be provided on the class website upon request from students.

ARSA400GA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 400)

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考(履修条件等)：環コア：G/主催：国際文化

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/iaK97j-Q6ss> 学内には他にもヨーロッパ関連の科目がありますが、これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足を置きつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界(ボーダー)に焦点をあてつつ、認識をほり上げていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて(専門家としてではなく)学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で(専門家としてではなく)学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ(専門家としてではなく)学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、(専門家としてではなく)学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、(専門家としてではなく)学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・この科目「地域協力・統合」は、教室での「対面」授業が基本です。ただし、就職活動や体調など、ひとりひとりの学生の事情により、Zoomを活用した授業参加も積極的にみとめています。
- ・授業時間(100分)の前半80分程度は、受講者全体へのフィードバック(15-20分)と講義(50-60分)にあてています。
- ・授業時間(100分)の後半20分程度を、グループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料はGoogle Classroomや学習支援システム-Hoppiiをつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
- ・授業内容の録画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築

8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり = 「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新たな大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス。ベンラに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

1. とても簡単な小テストが、学習支援システム-Hoppii上で宿題として出される場合があります。
2. 本学学習基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているそうです。

【テキスト(教科書)】

教科書を買う必要はありません。学習支援システム-HoppiiやGoogle Classroom上でPDFファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

下記の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格(レターグレードでCマイナス以上)とします。

- 1. 期末テストは行いません 0%
 - 2. 出席はとりません 0%
 - 3. 小テストの受験【Hoppiiを使うため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます(※1)】61%
 - 4. グループ・ディスカッション&学生間の共働【グループ・ディスカッションへの参加や、Google Classroom上での意見のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等(※2)】25%
 - 5. 期末レポート【あくまで希望者のみ提出です】14%
 - 6. 運営への協力【協力してくれた方に加点しています；配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。成果物のオンライン上における提出に必要なスキルを学生間で共有するなどのかたちの運営協力を含む】(※3)
- (※1) 小テストは授業の復習であり、授業で配るスライドやプリントをみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
(※2) グループ・ディスカッションは教室にきて、他の学生と共に議論に参加していたことが毎回の提出物に記載されていれば、確実に加点されます。小テストの得点に上乘せたい、単位がどうしても必要という学生さんは、ぜひグループ・ディスカッションに継続的に参加しましょう。
(※3) 6. は、1. ～5. の合計100%には含まず、その外枠で5%程度まで加算する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそう敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境をお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 <https://bit.ly/48Au2k0>

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).

1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

行政学 I

林 嶺那

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：環ア：口／主催：法

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる13のトピックを、1回の授業で1つずつ取り上げ、逐次解説を行う。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の回の冒頭でフィードバックを行う。学期の中間と最後に計2度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第2回	官僚制①	官僚制の諸モデルについて論じる。
第3回	官僚制②	政官関係について論じる。
第4回	議院内閣制と大統領制	議院内閣制と大統領制の下での行政の位置づけについて論じる。
第5回	公務員制度とその運用	公務員の採用・昇進・配置について論じる。
第6回	省庁	日本の中央省庁を中心とした行政組織について論じる。
第7回	予算編成	予算の編成プロセスについて論じる。
第8回	地方自治①	地方自治の諸アクターについて論じる。
第9回	地方自治②	政府間関係について論じる。
第10回	政府と市場	政府と市場の関係性について論じる。
第11回	ガバナンス	統治をめぐるアクター間の関係性について論じる。
第12回	政策類型	政策の類型について論じる。
第13回	アジェンダ設定	アジェンダ設定の理論と実証について論じる。
第14回	政策決定	政策決定と合理性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読15分、新聞閲読毎日15分×7日＝115分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学 [新版]』有斐閣、定価4290円

曾我謙悟（2022）『行政学 [新版]』有斐閣、定価2970円

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

コメントを提出

各回のコメントを3段階で評価（おおむね2:6:2）

②中間試験（30％）

配布プリントのみ持ち込み可

語句説明問題、論述問題

③期末試験（30％）

持ち込み不可

単語穴埋め問題、論述問題

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講者が200人強の多数に及び、学生相互のディスカッションを行うことが困難であった。その分、コメントに対する応答に時間を割くことで、一定の双方向性を担保することに努めた。今年度も、コメント対応に時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

行政学 II**林 嶺那**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：環コア：口／主催：法

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる13のトピックを、1回の授業で1つずつ取り上げ、逐次解説を行う。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の回の冒頭でフィードバックを行う。学期の中間と最後に計2度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第2回	政策決定	利益・制度・アイデアについて論じる。
第3回	政策実施	第一線公務員論等の政策実施論について論じる。
第4回	政策評価	政策評価について論じる。
第5回	行政組織の研究系譜	行政組織をめぐる研究史について論じる。
第6回	マネジメントの公民比較	マネジメントに関する公民の異同について論じる。
第7回	人事行政①	モチベーションについて論じる。
第8回	人事行政②	リーダーシップ、チームワークについて論じる。
第9回	価値	行政組織が目指す価値について論じる。
第10回	組織文化	行政組織をめぐる組織文化について論じる。
第11回	組織変革	行政組織の変革について論じる。
第12回	行政と技術	行政における技術の導入と利用について論じる。
第13回	管理とパフォーマンス	行政管理とパフォーマンスの関係について論じる。
第14回	日本の行政システム	日本の行政システムの特徴について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読15分、新聞閲読毎日15分×7日＝115分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学 [新版]』有斐閣、定価4290円

曾我謙悟（2022）『行政学 [新版]』有斐閣、定価2970円

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

コメントを提出

各回のコメントを3段階で評価（おおむね2:6:2）

②中間試験（30％）

配布プリントのみ持ち込み可

語句説明問題、論述問題

③期末試験（30％）

持ち込み不可

単語穴埋め問題、論述問題

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講者が200人強の多数に及び、学生相互のディスカッションを行うことが困難であった。その分、コメントに対する応答に時間を割くことで、一定の双方向性を担保することに努めた。今年度も、コメント対応に時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan.

ECN200HA (経済学 / Economics 200)

ミクロ経済学 I

芦田 登代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場における代表的な意思決定者である消費者と企業の経済行動を理解し、需要曲線と供給曲線がどのように導かれるのかということ学ぶ。それぞれの意思決定者が、現実の経済問題に対して果たしている役割を理解することで、家計・企業・政府が、どのような行動基準に基づいた行動をとっているのか、また、どのような選択を取ることが望ましいのかなどの問題を考える。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基本的な用語を理解し、説明できるようになる
- ・個々の経済主体の意思決定が、市場や制度を通してどのような影響をもたらしているのかを体系的に理解し、説明できるようになる
- ・ミクロ経済学の考え方をを使って、日常生活の中における事象を説明することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

指定の教科書に基づいて授業を行い、学習支援システムに配布資料や授業のお知らせ等を掲載します。また、復習の一環として、オンライン教材を用い、数問のクイズあるいはリアクションペーパーを課題として出題します。課題等のフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要や進め方の説明、人間環境学部としてのミクロ経済学を学ぶ意義についての解説
第2回	経済学の十大原理	経済学の基盤となる考え方の整理
第3回	経済政策	科学的判断における相違・価値観の相違・認識と現実
第4回	相互依存と貿易からの利益	比較優位の理論
第5回	市場機能（市場における需要と供給の作用）	競争市場、需要曲線と供給曲線
第6回	市場機能（弾力性）	需要の弾力性、供給の弾力性
第7回	市場機能（需要・供給および政府の政策）	価格規制、税金
第8回	復習	経済学の概念、市場機能の復習
第9回	市場と厚生（効率性）	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性
第10回	公共部門（外部性）	市場の失敗
第11回	公共部門（公共財と共有資源）	様々な種類の財、フリーライダー問題、共有地の悲劇
第12回	公共部門（税制の設計）	税と効率、税と公平、効率と公平のトレードオフ
第13回	復習	市場と厚生・公共部門の復習
第14回	試験・まとめ	試験・まとめ（市場の働きと限界を考える）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

N.グレゴリー・マンキュー(2019)『マンキュー経済学：ミクロ編 [第4版]』東洋経済新報社

【参考書】

大瀧雅之(2018)『アカデミックナビ 経済学』勁草書房
アセモグル・レイブソン・リスト(2020)『ミクロ経済学』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題（30%）および期末試験（70%）によって評価します。期末試験は、レポートあるいは対面での実施によるものなのか事前に周知します。

【学生の意見等からの気づき】

資料はwebサイトに掲載し、授業時にも配布します。

【Outline (in English)】

This class introduces the basic microeconomic theories, focusing on supply and demand and the fundamental forces that determine an equilibrium in a market economy. The purpose of this class is to foster the logical thinking skill by understanding the market mechanism and the principles behind it. Furthermore, we aim to think about the real situation from an economic point of view, and also to acquire the fundamental skill required to solve the environmental issues.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend about two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated according to the following process homework (30%) and term-end examination (70%).

ECN200HA (経済学 / Economics 200)

ミクロ経済学Ⅱ

芦田 登代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場における代表的な意思決定者である消費者と企業の経済行動を理解し、どのような市場取引が望ましいのか、政府はどのような政策を実施すべきなのかを考察する。具体的には、秋学期の前半の授業では、完全競争市場の条件が満たされない不完全競争市場での取引を学習し、資源配分において、どのような問題が生じ、政府はどのような政策を実行すべきなのかを考察する。後半では、生産要素市場（労働・土地・資本）での取引などを学習し、労働市場や所得分配に関する問題を考える。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基本的な用語を理解し、説明できるようになる
- ・日本の経済の取り巻く問題や身近な出来事を経済学の考え方に基づいて理解し、説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

指定の教科書に基づいて授業を行い、学習支援システムに配布資料や授業のお知らせ等を掲載します。また、復習の一環として、オンライン教材を用いて、数問のクイズあるいはリアクションペーパーを課題として出題します。課題等のフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要や進め方の説明、経済学の考え方の復習
第2回	ミクロ経済学Ⅰの復習1	市場機能
第3回	ミクロ経済学Ⅰの復習2	公共部門の経済学
第4回	企業行動と産業組織（生産の費用）	費用とは何か
第5回	企業行動と産業組織（競争市場における企業）	競争の意味、利潤最大化と競争企業の供給曲線
第6回	企業行動と産業組織（独占・独占的競争）	独占が生じる理由と弊害
第7回	企業行動と産業組織（寡占）	寡占とは何か
第8回	復習	企業行動と産業組織の復習
第9回	労働市場の経済学（生産要素市場）	企業の労働需要、労働供給、労働市場の均衡
第10回	労働市場の経済学（勤労所得と差別）	均衡賃金に関する決定要因
第11回	労働市場の経済学（所得不平等と貧困）	不平等の尺度、所得再分配に関する政治哲学、貧困を減らすための政策
第12回	復習	労働市場の経済学の復習
第13回	ミクロ経済学のフロンティア	行動経済学
第14回	試験・まとめ	企業行動と産業組織、労働市場の経済学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

N.グレゴリー・マンキュー(2019)『マンキュー経済学：ミクロ編 [第4版]』東洋経済新報社

【参考書】

大瀧雅之(2018)『アカデミックナビ 経済学』勁草書房
アセモグル・レイブソン・リスト(2020)『ミクロ経済学』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

資料はwebサイトに掲載し、授業時にも配布します。

【Outline (in English)】

This class provides an introduction to microeconomic theory. The purpose of this class is to foster the logical thinking skill by understanding the market mechanism and the principles behind it. Furthermore, we aim to think about the real situation from an economic point of view, and also to acquire the fundamental skill required to solve the environmental issues.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend about two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated according to the following process homework (30%) and term-end examination (70%).

ECN200HA (経済学 / Economics 200)

マクロ経済学 I

今 喜史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考 (履修条件等)：環コア：経

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在の日本経済は「景気が良い」といえる状況にあるのか。政府の行う財政政策には景気を改善させる効果が見込めるのか。そして増え続ける日本の財政赤字はほんとうに持続可能なのか。これらの問いに答えるには、一国全体の経済を分析対象とするマクロ経済学の正確な理解が必要である。この講義は、国内総生産 (GDP) などの統計データの意味や標準的な経済理論を学ぶことにより、受講者の一人ひとりが日本経済の全体像を把握できるようなマクロ経済学の思考力を基礎から身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①統計データを的確に使用し、日本の直面するマクロ経済問題を自分の言葉で説明することができる
- ②日本のマクロ経済政策の現状を理解し、財政の持続可能性について考察することができる
- ③マクロ経済学の理論に基づき、経済政策の是非について自分の意見を論理的に述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面講義を原則とする。説明はおもに板書に基づいて行い、補足的な資料はすべて学習支援システムに掲載したうえで教室にてプリントアウトしたものを配布する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済学への導入	社会科学としてのマクロ経済学の分析手法について理解する
第2回	一国全体の経済活動を測る指標	国民経済計算 (SNA) の概要を学ぶ
第3回	40年前と「豊かさ」を比べる	国内総生産 (GDP) の歴史的な推移をデータから確認する
第4回	GDPが見落としていたもの	環境への負荷や健康状態など、統計で金銭評価されにくい「豊かさ」を把握する方法について議論する
第5回	財政とマクロ経済	政府のマクロ経済政策が必要とされる理由を考える
第6回	政府支出の「乗数効果」	政府支出の増加により景気が改善するはずだという主張の根拠 (ケインズ経済学) を理解する
第7回	乗数効果の応用	簡単な数値例を用いて、政府支出の効果を計算しグラフに表現する
第8回	財政政策の有効性	政府支出を増やしても景気は回復しないと主張の根拠を理解する
第9回	政府の借金とは何か	財政政策にともない発生する政府の予算の問題を議論する
第10回	財政破綻に陥らないためには	財政赤字が持続可能ではない場合にどのような問題が生じるのかを理解する

第11回	経済成長の鍵は何か	日本の経済成長の歴史を、外国と比較する
第12回	資本蓄積による成長	経済成長のメカニズムを、新古典派経済学に基づいて理解する
第13回	技術革新による成長	持続的な経済成長が技術革新によって実現されることを理解する
第14回	講義のまとめと期末試験	講義内容を総括し、授業時間内に期末試験を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学 (第3版)』有斐閣、2023年。
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門 (第6版)』有斐閣、2023年。
アセモグル・レイブソン・リスト (岩本康志訳)『マクロ経済学』東洋経済新報社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

講義の最終回に行う期末試験100%とする。なお、毎回の講義に関するクイズを学習支援システムに出題するので、回答した場合にはボーナス得点として成績評価に加算する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料では図表などを適度に織り交ぜ、経済学の予備知識がなくても理解できるよう配慮する。学習支援システムを活用して毎回のクイズを行い、自由に質問を記入できる欄を設定する。質問に対する回答や前回の補足などを毎回の講義の冒頭で行うという双方向型の講義を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course provides a concise introduction to macroeconomic issues, especially taking account of modern Japanese economy. Topics covered are the followings: How to measure the wealth of nations? What determines the long-run economic growth of nations? Why should we care about the government debt? Students are asked to form their opinion based on rigorous theoretical foundations and relevant empirical studies.

【Learning objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

-Explain what is controversial in macroeconomic policy debate today.

-Use fundamental government statistics such as the Systems of National Accounts adequately.

-Understand what is the meaning of the sustainability of government debts.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria】 Grading will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200HA (経済学 / Economics 200)

マクロ経済学Ⅱ

今 喜史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融政策は政府によるマクロ経済政策の大きな柱であり、物価や利子率などの変化を通じて私たちの暮らしに大きな影響を及ぼす。しかしその効果に対しては、現在でも賛否両論が存在する。この講義では、金融の基礎的な概念を理解したうえで、日本銀行の行う金融政策の有効性と懸念される副作用について学ぶ。とくに、中国やヨーロッパ諸国の金融政策と比較しつつ、2022年以降に生じたインフレーション（物価上昇）に対し金融政策がどのように対応すべきかを議論する。日本のバブル経済やアメリカ発の世界金融危機など、金融がマクロ経済を大きく揺るがした事例についても触れる。

【到達目標】

- ①銀行や証券などの金融システムが、マクロ経済においてどのような役割を果たしているのかを説明できる
- ②金融政策の有効性と副作用について、経済理論と統計データに基づいて考察することができる
- ③国際的な観点から、日本のマクロ経済政策の課題を位置づけることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面講義を原則とする。説明はおもに板書に基づいて行い、補足的な資料はすべて学習支援システムに掲載したうえで教室にてプリントアウトしたものを配布する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	マクロ経済と金融政策をめぐると：マクロ経済と金融の世界
第2回	景気変動の読み方	マクロ経済の姿を把握するための指標として国内総生産（GDP）の意味を理解する
第3回	金融の基礎知識	銀行のしくみや利子率など、金融の基本概念を学ぶ
第4回	利子率とはなにか	利子率の決定メカニズムを、資金需要と資金供給のグラフを用いて理解する
第5回	日本銀行と「伝統的」金融政策	準備預金制度の概要を学び、金融緩和と政策の意味を理解する
第6回	「非伝統的」金融緩和と政策	量的緩和やマイナス金利など、日本銀行が採用した新たな政策手段の意図と効果を理解する
第7回	インフレ・デフレと貨幣	政府が「デフレからの脱却」を政策目標として掲げることの意味を考える
第8回	金融緩和の副作用	金融緩和がバブル経済の一因となったことを理解し、リーマン・ショックの経緯を学ぶ
第9回	国際金融と為替レート	外国為替市場のしくみを学び、円高や円安とは何かを理解する

第10回	金融政策と円高・円安	金利裁定の理論を学び、為替レートの決定要因を理解する
第11回	為替レートのマクロ経済学	為替レートの変化が国内の景気に与える影響を学ぶ
第12回	ヨーロッパの通貨統合	共通通貨ユーロを導入したヨーロッパの金融政策を日本と比較する
第13回	中国の資本規制	国際金融のトリレンマの考え方に基づき、中国の通貨制度の将来を議論する
第14回	講義のまとめと期末試験	講義内容を総括し、授業時間内に期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学（第3版）』有斐閣、2023年。
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣、2023年。
アセモグル・レイブソン・リスト（岩本康志訳）『マクロ経済学』東洋経済新報社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

講義の最終回に行う期末試験100%とする。なお、毎回の講義に関するクイズを学習支援システムに出題するので、回答した場合にはボーナス得点として成績評価に加算する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料では図表などを適度に織り交ぜ、経済学の予備知識がなくとも理解できるよう配慮する。学習支援システムを活用して毎回のクイズを行い、自由に質問を記入できる欄を設定する。質問に対する回答や前回の補足などを毎回の講義の冒頭で行うという双方向型の講義を行う。

【その他の重要事項】

同じ担当者による春学期「マクロ経済学Ⅰ」とは独立した内容で講義を行うが、「マクロ経済学Ⅰ」も併せて履修することで理解が一層深まると思われる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Macroeconomics II gives students a thorough introduction to monetary policy issues. Based on some basic concepts of monetary economics, we overview both the proponents and opponents of the current monetary policy conducted by the Bank of Japan. We also study international macroeconomic policies, including the effectiveness of monetary policy under the flexible exchange rate regimes, capital controls, and currency unions.

【Learning objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

-Explain what is controversial in monetary policy today.

-Use appropriate statistics to evaluate historical events such as the Global Financial Crisis in the late 2000s.

-Understand fundamental theory of international macroeconomics and finance, including exchange rate issues.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】 Grading will be decided based on term-end examination (100%).

MAN200HA (経営学 / Management 200)

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGsやパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業はSDGsを達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球温暖化問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、サステナビリティ社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社に関する基礎的な知識を習得します。さらに、SDGsやカーボンニュートラルという事業環境の変化に立ち向かう企業の経営戦略を理解し、持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業経営は何か	講義の目的・進め方 株式会社の基本機能
第2回	製品・サービスの提供 ケーススタディ①サントリー	市場における優位性の獲得 ケーススタディ：スポーツドリンクの開発
第3回	株式会社の仕組みと課題 ケーススタディ②本田技研工業]	株式会社は誰のものか ケーススタディ：ステーションワゴン開発
第4回	大企業の機能と専門経営者の誕生 ケーススタディ③キヤノン	所有と経営の分離 ケーススタディ：デジタルカメラ開発
第5回	企業規模の拡大と組織 ケーススタディ④スズキ	規模の利益と経営の効率化 ケーススタディ：原付自転車開発
第6回	日本的経営の構造 ケーススタディ⑤黒川温泉（熊本県）	日本的経営の成果と課題 ケーススタディ：温泉リゾートの再生

第7回	経営戦略の基本 ケーススタディ⑥日清食品	長期的な企業価値向上戦略とは ケーススタディ：カップめん開発
第8回	企業による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第9回	デジタル革命と企業経営 ケーススタディ⑦ミツカン	AI・IoTの活用と経営変革 ケーススタディ：食品開発
第10回	競争戦略とマネジメント ケーススタディ⑧ユニクロ	市場競争力の本質 ケーススタディ：ファストファッションの成功要因
第11回	製品開発戦略 ケーススタディ⑨ジブリ	製品開発のコンセプトとプロセス ケーススタディ：創造力の源泉とは
第12回	株式市場と企業価値 ケーススタディ⑩ビール業界の企業間競争	企業価値の源泉とは何か ケーススタディ：アサヒが業界トップになった要因
第13回	SDGsとESG投資	SDGsの概要 非財務情報を反映した企業評価のあり方
第14回	シェアリングエコノミー時代の企業経営とは 日経ストックリーグへの挑戦	リーフドリブン消費者の台頭と共感を呼ぶ経営とは何か 学生が選ぶサステナビリティ企業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜-時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：15%

期末レポート：85%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this lecture, I will explain how corporate management should be in the 21st century, taking into account the changes in the external environment: the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the shift to a sustainable society.

This class aims to provide students with basic knowledge of international policy trends in sustainability and the ability to understand sustainability management in Japanese companies.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the special lecture report (15%) and the final report (85%).

MAN200HA (経営学 / Management 200)

ビジネスストーリー

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係やSDGs（持続可能な開発目標）とビジネスの関係について学びます。併せて、就職活動などで必要とされる企業研究のポイントについて説明します。

【到達目標】

日本企業の成長プロセスを振り返り、①企業のパーパス（存在意義）、②事業活動を通じて長年培ってきた「知の蓄積」の実像、③SDGsを先取りしたビジネスを理解し、現代社会で問われている企業活動の社会的意義や企業価値を的確に評価する知識を身につけます。併せて、就職活動で必須となる企業研究の方法論を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じてDVD等を視聴します。現代企業に求められているE（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）が、実際の企業活動の中でどのように実践されているのかを説明します。対面授業を基本としつつ、状況に応じてオンデマンド授業を交えながら講義を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 伊庭貞剛 [住友財閥]	ビジネスストーリーを学ぶ意義 「自利利他公私一如」の事業精神
第2回	鈴木馬左也 [住友財閥]	「以德招利」の経営
第3回	岡田良一郎 [大日本報徳社]	経済と道徳の両立を目指した社会企業家
第4回	金原明善 [金原治山治水財団]	日本版ソーシャルビジネスの先駆者
第5回	ウィリアム・メレル・ヴォーリズ [近江兄弟社]	「スチュワードシップ」に基づく経営の実践
第6回	高峰譲吉 [三共商店・現第一三共]	研究とビジネスを両立させたバイオベンチャーの先駆者
第7回	豊田佐吉 [豊田式織機・現トヨタグループ]	ニンベンのついた自動化を目指したイノベーション
第8回	鈴木道雄 [鈴木式織機・現スズキ]	社会の変化からオポチュニティを掴む経営構想力
第9回	大原孫三郎 [倉敷紡績・クラレ]	「労働理想主義」の実践
第10回	波多野鶴吉 [郡是製糸・現グンゼ]	「人財マネジメント」を通じた価値創造

第11回	矢野恒太 [第一生命]	相互主義による生命保険事業の確立
第12回	各務謙吉 [東京海上]	リスクマネジメント通じた社会課題の解決
第13回	島津源蔵 [島津製作所]	科学技術は社会の未来を創る所]
第14回	伊藤忠兵衛 [伊藤忠商事]	「三方よし」の経営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料と教科書を使用して必ず復習して下さい。企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などを参照して、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長谷川直哉『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命－』文真堂,2021年
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂, 2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂, 2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史: CSR経営の先駆者に学ぶ』文真堂, 2016年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文真堂, 2013年
長谷川直哉著『スズキを創った男－鈴木道雄』三重大学出版会, 2005年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：50%

期末レポート：50%

中間および期末レポートは教科書に掲載した企業家について課題を設定します。講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this class, I will explain how corporate management in the 21st century should be based on changes in the external environment, such as the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the transition to a sustainable society.

This class aims to equip students with the knowledge to accurately evaluate the social significance of corporate activities and corporate value, which are being questioned in today's society.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on mid-term report (50%) and final report (50%).

MAN200HA (経営学 / Management 200)

経営学入門

金藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業経営における理論的な内容だけではなく、実践的取り組みにも触れながら、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本（本質）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・毎回講義は配布資料をもとに進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている企業のビジネスモデルの特徴や課題について、履修者と一緒に検討していくとともに、その解説も行う。
- ・授業または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 企業と経営－経営学とは何か－	講義の内容・進め方とともに、経営学を学ぶことの意義を説明する。
第2回	企業の種類－企業と何か－	企業概念とその種類を説明する。
第3回	経営戦略－概念と特徴－	経営戦略の概念や特徴を説明する。
第4回	経営戦略－種類と策定方法－	経営戦略の種類とその策定方法を説明する。
第5回	経営戦略－新たな企業戦略の意義と内容－	現在企業に求められている新たな経営戦略（環境戦略、サステナビリティ戦略、地域戦略）を説明する。
第6回	経営組織－概念と種類－	経営組織の概念とその種類（形態）を説明する。
第7回	経営組織－形態と特徴－	経営戦略の形態（基本と応用）とその特徴を説明する。
第8回	経営組織－新たな組織の展開－	第5回の経営戦略を実現していくための新たな経営組織（サプライチェーン、産業クラスター、コラボレーション）を説明する。
第9回	経営管理－機能と仕組み－	経営管理の2つの機能（経営機能と管理機能）とともに、企業経営の管理技法を説明する。

第10回	経営管理－経営資源の管理①－	企業の人的資源である「ヒト」、材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法を説明する。
第11回	経営管理－経営資源の管理②－	企業経営をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計（「カネ」）や「情報」の管理方法を説明する。
第12回	経営管理－新たな経営管理の方法－	第5回と第8回の講義内容も踏まえ、新たな経営管理の方法（環境マネジメント、マネジメント・コントロール）を説明する。
第13回	ケーススタディ	第12回までの講義内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（例えば、ゼミナール活動）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50%）
- ②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭または 구글フォームで説明（回答）してもらう場合があります。

【その他の重要事項】

- ①配付資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ②必要に応じて新聞・雑誌記事などのコピーも配布します。
- ③質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method in companies.

② Learning Objectives

Though this lecture, students are able to logically understand the basis of business management system.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN200HA (経営学 / Management 200)

環境経営と会計

金藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、企業などの組織が行った経済活動の状況を定量的に測定し、この結果を企業内外のステークホルダーに伝達するための情報システムである。その領域は、マイクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メゾ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。そこで本講義では、マイクロ会計のうち、企業（主に大企業または中小企業）を対象とした会計とともに、それをもとにした環境会計やサステナビリティ会計の基礎基本（本質）について学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業会計の基礎的なフレームワークを学習した後、環境経営やサステナビリティ経営の財務的・非財務的内容を理解し、分析できる実践力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・本講義では、企業会計（主に財務諸表の仕組みや経営分析の技法）、環境会計やサステナビリティ会計の機能や構造を、環境省やGRI (Global Reporting Initiative) などで公表されているガイドラインや、有価証券報告書、環境報告書、サステナビリティ報告書、統合報告書を利用しながら理解することを目指す。また、必要に応じて関連する新聞や雑誌記事などを配布し、会計の仕組みをより詳細に理解していく。
- ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容・進め方とともに、企業経営と会計－会計学とは何か－
第2回	会計の基礎概念と基本的技法	会計の基礎概念と基本的技法を説明する。
第3回	会計の仕組み①－貸借対照表の特徴と仕組み－	貸借対照表の特徴と構成要素（資産、負債、純資産）を説明する。
第4回	会計の仕組み②－損益計算書の特徴と仕組み－	損益計算書の特徴と構成要素（収益、費用）を説明する。
第5回	経営分析の方法	経営分析の必要性和、分析方法（実数分析と比率分析）を説明する。
第6回	ケーススタディ①	第2回から第5回までの講義内容をもとに、企業の会計情報を分析し、その結果を説明する。
第7回	環境経営と環境会計	環境会計の概念と基本的機能、また、第5回までの講義内容との関係を説明する。

第8回	環境会計情報①	環境保全コストの定義、内容、測定方法を説明する。
第9回	環境会計情報②	環境保全効果と経済効果の定義、内容、測定方法を説明する。
第10回	環境経営分析①	環境会計情報を活用した経営分析のうち、実数分析の方法を説明する。
第11回	環境経営分析②	環境会計情報を活用した経営分析のうち、比率分析の方法を説明する。
第12回	ケーススタディ③	第10回と第11回の講義内容をもとに、企業の環境会計情報を分析し、その結果を説明する。
第13回	環境会計情報の開示方法	環境会計の情報開示の意義とその方法（開示媒体）を説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、配布資料を用いて、会計学の専門的で難解な用語、概念、技法を平易に説明し、解説していきます。また、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきますので、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけでなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、受講者には、今後の活動（ゼミナール活動や資格獲得など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50%）
- ②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭またはGoogleフォームで説明（回答）してもら場合があります。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn environmental accounting and sustainability accounting based on the framework of corporate accounting.

② Learning Objectives

Through this lecture, students are able to logically understand the basis of corporate accounting, environmental accounting, and sustainability accounting.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

ECN200HA (経済学 / Economics 200)

公共経済学

宮本 拓郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金1/Fri.1

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共経済学は政府の経済活動（政策）を（特にミクロ経済学的な）経済学的な観点から分析する分野です。この授業では、政府の活動の中から市場の失敗への対応・社会保障・税を取り扱います。また、政府を構成する人々には、社会の利益を最大化することを目的としていない人もいます。この授業では、このことが政策の選択にどのような影響をあたるとのかについても考えます。

【到達目標】

- ①望ましい政策とは何かを考えるための基準を身につける
- ②実際に行われる政策がときどき望ましいものから外れてしまう理由や要因を理解する
- ③望ましい政策が実行される社会を作っていくために、私たちはどのように行動すればよいかを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (テキスト第1章)	公共経済学がどのような分野なのか、また、この授業がどのような授業なのか説明します。
第2回	ミクロ経済学の復習 (テキスト第2章)	今後の授業での分析の基礎となるミクロ経済学の内容について解説・問題演習を行います。
第3回	市場の失敗(テキスト第3章)	市場がうまく機能しなくなる要因や状況について解説します。
第4回	公共財(テキスト第4章)	市場がうまく取り扱えない公共財について解説します。
第5回	中間テスト1及び問題解説	これまでの内容についてテストを行い、テスト終了後、問題解説を行います。
第6回	民主主義と社会的意思決定(テキスト第5章)	多数決で選ぶことにすると、社会的余剰を最大にする選択肢が選ばれない可能性があることを説明する。
第7回	間接民主制と選挙制度(テキスト第6章)	間接民主制で起きる問題と選挙制度が与える影響について説明します。
第8回	政治家・官僚・利益団体(テキスト第7章)	政治家が官僚や利益団体とどのように関わり合い、政策を選択しているのかを考えます。また、国と地方公共団体の関係についても考えます。
第9回	中間テスト2及び問題解説	第6～8回の内容についてテストを行い、テスト終了後、問題解説を行う。

第10回	格差と再分配政策(テキスト第8章)	所得の多い人から好きな人に所得を移転する政策である再分配政策について解説します。
第11回	税の仕組みと効果1(テキスト第9章 9.1～9.4)	政府活動の主要な財源である税について、特に消費税について説明します。
第12回	税の仕組みと効果2(テキスト第9章 9.5～)	主に所得税が労働に与える影響について説明します。
第13回	年金制度と財政問題(テキスト第10章)	政府を通じた世代間の関わり合いと捉えることができる年金と財政赤字の問題について説明します。
第14回	これまでの内容のまとめ	定期試験に向けて、これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習は1時間、復習時間は各3時間を標準とします。授業で分からなかったことを中心に復習を行ってください。また、中間試験や定期試験の類題を事前にアップするので類題を解いて試験に備えてください。

【テキスト（教科書）】

寺井公子・肥前洋一「私たちと公共経済」有斐閣ストゥディア

【参考書】

特にありません

【成績評価の方法と基準】

中間テスト1(25%)、中間テスト2(25%)、定期試験(50%)で評価を行います

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Public economics is the field of analyzing the economic activities (policies) of government from an economic perspective (especially microeconomic perspective). In this course, we will deal with government activities such as responding to market failures, social security, and taxation. In addition, some of the people who make up the government are not interested in maximizing social benefits. This course will also consider how the presence of such people affects policy choices.

< Learning Objectives >

- (1) Acquire criteria for considering what is a desirable policy
- (2) Understand why actual policies sometimes deviate from what is desirable
- (3) Understand how we should act in order to create a society in which desirable policies are implemented

< Learning activities outside of classroom >

The standard preparation time for this class is one hour and the standard review time is three hours each. Please review mainly what you did not understand in class. In addition, I will upload similar questions for the mid-term exams and final exam in advance, so please prepare for the exams by solving the questions.

< Grading Criteria /Policy >

Midterm exam 1 (25%), Midterm exam 2 (25%) and final exam (50%)

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

環境経済論 I

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済論を理解するのに必要なミクロ経済学などの事項を学び、具体的な環境政策、特に環境税や排出量取引などの経済的手段の仕組みや課題を志向できる力を涵養することを目標とする。

【到達目標】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。この授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どのような政策が必要であるかを理論的に考える。具体的には、「市場の失敗」が発生するメカニズムおよびどのような対策があるのかを考える。またこの授業では、以下の2つを最終目的とする。①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。②排出量取引制度を疑似体験し、制度設計に必要な思考力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境経済とは何か	環境経済学の位置づけ
第2回	消費者と生産者の理論	ミクロ経済学の基礎的な概念の紹介
第3回	市場均衡と市場の万能性	市場の役割と市場の効率性の理解
第4回	公共財と外部性	市場の失敗と政府の介入根拠の理解
第5回	環境政策の種類	外部不経済への対処方法の理解
第6回	コースの定理	当事者間の直接交渉による解決方法の理解
第7回	排出量取引	排出量取引制度の制度設計とその効果の紹介
第8回	政策手段の比較	環境税と排出量取引を比較検討
第9回	不確実性下の政策選択	不確実性が存在する際の環境政策の効率性
第10回	排出量取引制度の制度設計	世界の排出量制度の比較および国内の議論を紹介
第11回	ゲームで学ぶ環境政策①	コースの定理および排出量取引の制度設計を理解
第12回	ゲームで学ぶ環境政策②	時間的要素（世代間）を入れた場合の排出量取引の制度設計を理解
第13回	地球温暖化問題①	地球温暖化問題に対する各国の取り組みの理解
第14回	地球温暖化問題②	ポスト京都議定書の各国の取り組みの理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前に、配布資料および関連する文献に目を通しておくこと。また、時間外の課題を提出期限内に行うこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学』中公新書
一方井誠治（2018）『コア・テキスト 環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）に加え、授業後に課す練習問題（30%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト以外の練習問題を増やし、考え方を確認できるようにします。

【その他の重要事項】

対面形式の授業を予定しているため、オンライン授業での対応は原則行いません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course introduces key concepts in environmental economic theory and policies to tackle environmental issues to students taking this course.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to 1) understand the key theoretical aspect of environmental issues and 2) propose economically efficient environmental policies.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, homework: 30%, in-class contribution: 10%.

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

環境経済論Ⅱ

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、様々な環境問題に焦点をあて、どの様な政策が必要であるか、経済学の視点から考える。また、実際の環境政策を概観・比較を行う。その際、経済学がどのように役立っているのかを明確にしながら、授業を進める。

この授業では、以下の2つを最終目的とする。

- ①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。
- ②環境政策を立案するために必要な思考力を身に付ける。

【到達目標】

経済学の基礎的な知識と環境問題に対する理解を深めることができる。

また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロ	授業の全体像および環境経済論Ⅱの内容と環境経済論Ⅰの復習
第2回	気候変動問題①	地球温暖化の基礎知識
第3回	気候変動問題②	京都議定書とは何だったのか。
第4回	気候変動問題③	ポスト京都における各国の対策と日本：中期目標を中心に
第5回	気候変動問題④	パリ協定と今後の気候変動対策
第6回	廃棄物の経済学①	ゴミの有料化とは、どの程度の料金に設定するべきか
第7回	廃棄物の経済学②	有料化の方法とそれらの経済的インセンティブ
第8回	廃棄物の経済学③	自治体のゴミの有料化とレジ袋有料化
第9回	廃棄物の経済学④	放射性廃棄物をどのように処理するのか
第10回	都市の環境問題①	コースの定理と日本の公害病
第11回	都市の環境問題②	固定排出源における環境対策
第12回	都市の環境問題③	交通部門に対する環境規制
第13回	都市の環境問題④	道路混雑とロードプライシング
第14回	自主的な取り組み	日本経団連の自主行動計画と自主的取り組みの有効性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料および関連する文献を読むこと。また、グループディスカッションの内容を事前にリサーチし、準備すること。

【テキスト（教科書）】

日引・有村（2002）『入門 環境経済学』、中公新書。

【参考書】

有村・片山・松本（2017）『環境経済学のフロンティア』、日本評論社。

細田・横山（2007）『環境経済学』、有斐閣アルマ。

一方井（2018）『環境経済学』、新世社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）に加え、グループディスカッション（40%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者同士のディスカッションを増やす要望があり、毎回実施できるように努めます。

【その他の重要事項】

対面形式での授業を予定しています。そのため、オンライン授業での対応を原則いたしません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Environmental issues are becoming severe as well as diverse as economies grow. This course introduces three major environmental issues (climate change, waste and air pollution) and policies implemented to tackle these issues to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) understand the nature of environmental issues and, 2) propose environmental policies need to tackle these issues.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts and relevant chapter from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, assignment/homework 20%, in class contribution: 10%

MAN300HA (経営学 / Management 300)

環境経営論 I

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考 (履修条件等)：環コア：経

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業や自治体などの組織は、地球環境の保全、地域の経済環境の改革、組織内の労働環境改善のための戦略あるいは政策を策定し、また、それを実現するための組織を編成し、管理していく経営を行っている。このような経営を「環境経営」と定義づけ、本講義では、企業の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業の環境経営における理論的な内容だけではなく、実践的取り組みにも触れながら、企業が環境問題や社会課題の解決を通じて持続的に経済的価値を維持・向上させていく方針(戦略)をどのように立て、それを実現するためにどのような仕組み(組織)を作り、その仕組みの中でどのように運営(管理)しているのか、という一連の経営活動の基礎基本(本質)を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本講義は対面で実施する。

・本講義では、企業で実践されている環境経営のための戦略、組織、管理の特徴について、著書や論文、また企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。さらに、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事や映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取り組みへの理解をさらに深める。

・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容・進め方と、企業における環境経営の目的や意義を説明する。
第2回	環境経営の現状	海外や国内の企業で行われている環境経営の現状を説明する。
第3回	環境経営の全体像	海外や国内の企業の実践例をもとに、環境経営の全体像を説明する。
第4回	経営戦略①	企業の経営戦略やその実践例をもとに、環境経営のための戦略の理論的特徴を説明する。
第5回	経営戦略②	CSRやSDGsなどへの関心の高まりにより、企業が今後策定すべき環境経営戦略を説明する。
第6回	経営組織①	企業の経営組織やその実践例をもとに、第4回で触れた経営戦略を実現していく経営組織の理論的特徴を説明する。

第7回	経営組織②	第5回で触れた経営戦略を実現していくために編成すべき経営組織(企業間関係や組織間関係)を説明する。
第8回	経営管理①	企業の経営管理の基礎構造を説明し、その後環境に関する国際規格(ISO14001)などを用いたマネジメントシステムを取り上げる。
第9回	経営管理②	社会的責任に関する国際規格(ISO26000)や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステム(サプライチェーン・マネジメント(SCM))を説明する。
第10回	経営管理③	産業クラスター・マネジメント(ICM)の研究や企業の実践例をもとに、環境保全のためのICMの概念と仕組みを説明する。
第11回	環境経営と会計	環境経営を支援する会計システムを説明する。
第12回	ケーススタディ	企業の実践的取組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。またこの検討内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第13回	新たな環境経営	現在注目されている新たな環境経営(再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、地域循環共生圏、地域再生、ソーシャル・ビジネスなど)を説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本講義は、印刷物(配布資料)を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型(双方向型)形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料(配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など)を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動(ゼミナール活動や企業分析など)で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト(教科書)】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出(50%)
- ②期末レポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、授業に開する内容や質問について口頭またはGoogleフォームで説明(回答)してもらおう場合があります。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method for solving environmental and social issues in companies.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand the basis of environmental and social management system in companies.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA (経営学 / Management 300)

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境経営論Ⅰの内容を踏まえて、国内の企業や地域で注目されている新たな環境経営の取組事例（地域循環共生圏、地方創生、地域経営、再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、人的資本経営、ソーシャル・ビジネスなど）を取り上げ、その考察をもとに新たなビジネスモデルを検討していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的また実践的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本講義は対面で実施する。

・本講義では、講義内容に関連する著書や論文、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指す。

・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 新たな環境経営の視点	講義の内容・進め方と、海外や国内の企業や地域で実践されている新たな環境経営の取組事例を分析するための視点を説明する。
第2回	新たな環境経営と意義と方法①	企業の社会的責任（CSR）、共有価値（CSV）、包括的成長（IG）、持続可能な開発目標（SDGs）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、新たな環境経営の意味と意義を説明する。
第3回	新たな環境経営と意義と方法②	第2回で説明した各種概念に基づいて、企業間の環境経営の実現方法（アライアンス、サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第4回	新たな環境経営と意義と方法③	第3回で説明した各種概念に基づいて、組織間の環境経営の実現方法（産業クラスター・マネジメント（ICM）、エコシステム）を説明する。
第5回	地域循環共生圏-地方創生も考慮に入れて-	内閣府・内閣官房の地方創生の取り組みを紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。

第6回	地域経営	第5回の講義内容を加味しながら、地方で特徴的な事業（例えば、北海道池田町や青森県板柳町）を説明する。
第7回	再生可能エネルギー事業	経済産業省または資源エネルギー庁によるカーボンニュートラルなどの関連政策や事業計画をもとに、再生可能エネルギーの現状と事業化の意義を説明する。また、第5回や第6回の講義内容も加味しながら、海外や国内の企業や地域で実施されている先進事例とその特徴を説明する。
第8回	フードロス・マネジメント	農林水産省、消費者庁、環境省で公表されているフードロス対策の現状を紹介しつつ、国内のフードロス削減への実践例（フードドライブ、バイオマス利用、サルベージ・パーティ、3010運動など）とその特徴を説明する。
第9回	サステナブルファッション	環境省の政策の特徴とともに、企業の調査結果や実践例をもとに、サステナブルファッションの実態を説明する。
第10回	健康経営	経済産業省や厚生労働省の政策的取り組みや現状調査の結果、また、企業の調査結果をもとに、健康経営の取組状況や意義を説明する。
第11回	人的資本経営	健康経営とともに、日本企業（大企業、中小企業）の動向や、先進事例とその特徴も説明する。
第12回	ソーシャル・ビジネス	途上国で展開されているソーシャル・ビジネス（例えば、ボーダレスジャパンの取り組み）やBOP（Base of the Pyramid）の実践例やその課題を説明する。
第13回	新たなビジネスモデルの構想	第12回までの講義をもとに、国内で新たな事業内容を検討しつつ、ビジネスモデルも提案する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、印刷物（配布資料）を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考えだけでなく、今後の活動（ゼミナール活動や企業分析など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50%）
- ②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭またはグーグルフォームで説明（回答）してもらおう場合があります。。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn new methods for improving environmental and social values in companies and regions.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand a new environmental and social management system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA (経営学 / Management 300)

CSR論 I

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環コ7：経、グ、サ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現代社会において企業が直面する社会課題を取り上げます。企業の社会的責任（CSR）やサステナビリティ（SDGs）を巡る国際的な動向を整理し、企業と社会の関係性が時代とともにどのように変遷してきたのかを説明します。授業を通じて学生がサステナビリティ社会における企業の社会的責任を正しく理解する能力を涵養し、将来の職業選択にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

SDGsの登場によってサステナビリティがグローバル社会のキーワードとなった今、社会課題の解決に向けて、企業には幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGsやCSRに関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティの意義やビジネスがどのように変わっていくのかを解説します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業の本質とは何か	講義の全体像と進め方 企業と社会の関係
第2回	グローバル経済の進展とその影響	SDGsとパリ協定の登場によって社会経済システムはどのように変化するか
第3回	SDGs（持続可能な開発目標性）と企業経営	SDGsが求める企業像とは何か 企業と社会の関係はどのように変化していくのか
第4回	脱炭素革命（パリ協定）の意義	パリ協定の本質とは何か 脱炭素革命は経営構造をどのように変えていくのか
第5回	欧州のサステナビリティ戦略①	欧州におけるサステナビリティ戦略の変遷とケーススタディ
第6回	欧州のサステナビリティ戦略②	EUグリーンディールの内容と日本企業への影響
第7回	外部講師による特別講義①	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	責任投資原則とESG投資	責任投資原則が機関投資家の投資行動と企業経営に及ぼす影響
第9回	サステナブルマネーの動向①	サステナビリティを推進する諸原則（責任投資原則、責任銀行原則、持続可能な保険原則）について
第10回	サステナブルマネーの動向②	経営構造の変革を迫るアクティビストの狙い

第11回	外部講師による特別講義②	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第12回	サステナビリティを巡る政策動向	コーポレートガバナンスコードの改訂と東証市場再編の意義
第13回	企業経営とサステナビリティの相克	企業不祥事に関するケーススタディ
第14回	サステナブルストーリーの構築	ブリーフドリブン消費者の台頭によってブランド戦略はどう変わるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では1,000社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉編著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート： 30%（2社分）

期末試験： 70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験】

損害保険会社社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the social issues that companies face in today's society. the growing interest in SDGs (Sustainable Development Goals) and CSR (Corporate Social Responsibility) is due to the fact that people feel that society is not moving in the right direction.

This class aims to deepen students' understanding of the relationship between society and corporations from the perspective of sustainability. Students will also gain knowledge that will be useful in their future corporate choices.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

MAN300HA (経営学 / Management 300)

CSR論Ⅱ

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環コア：経、グ、サ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR論Ⅰで習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）やBusiness Ethics（企業倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割、企業のパーパス（存在意義）や経営思想について理解を深めることめざします。

【到達目標】

SDGsが求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決が求められる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が欠かせません。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本のSDGs/CSRおよびBusiness Ethicsに関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方
	社会構造の変化と企業が直面する課題	現代企業が直面する事業環境の変化について
第2回	近代産業の勃興と経済倫理 [1] 「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第3回	近代産業の勃興と経済倫理 [2] 「最大多数の最大幸福をどう生み出すか」	J.ベンサム・J.ミル「功利主義思想」とM.ウェーバー「資本主義の精神と倫理」について
第4回	企業社会の変容とCSR・SDGsの登場	ポスト資本主義社会における企業の役割とは何か
第5回	日本社会における企業倫理の形成 [1]	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第6回	日本社会における企業倫理の形成 [2]	戦後日本における企業責任の生成と展開
第7回	外部講師による特別講義 [1]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	新自由主義から第三の道へ	新自由主義への反動と第三の道（新しい公共）の生成
第9回	ESG経営の最新動向「ガバナンス編」	コーポレートガバナンスコード&東証市場再編とガバナンス構造の変革

第10回	ESG経営の最新動向「環境編」	脱炭素時代の企業評価のあり方（炭素利益率）
第11回	ESG経営の最新動向「社会編」	ダイバーシティ、人権、働き方改革の実態
第12回	外部講師による特別講義 [2]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第13回	シェアリング・エコノミーの台頭と企業経営	大量消費時代の終焉とサブスクリプションビジネスの台頭
第14回	SDGs時代に求められるパーパス経営	パーパス（存在意義）を起点にした経営構造改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景にSDGsに取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%（2社分）

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

In this lecture, we will examine the aims of sustainability policy and changes in business strategy. We will consider what the role of corporations in a sustainable society is and what elements are necessary to sustainably increase corporate value.

This class aims to deepen students' understanding of SDGs and carbon neutrality in corporate management. Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

国際環境政策 I

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：経、グ、サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国内の環境問題では、汚染者と汚染によって影響を受ける主体が比較的明確である。そのため、環境対策の制定が比較的容易である。一方、複数の国にまたがって影響を与える越境汚染（国際的な環境問題）では、多くの利害関係者が係るため、容易に環境対策を導入しにくい。本講義では、様々な国際的な環境問題を取り上げ、どのような環境政策が必要かを考察していく。

【到達目標】

本授業では以下の到達目標を設定する。

- ①国際的な環境問題の本質を理解し、説明できる。
- ②国際的な環境問題に対して経済学的思考ができる。
- ③これらの問題に対して必要な政策を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロ	授業の内容および国際的な環境問題の解説
第2回	環境の価値とは	環境評価の手法と費用便益分析
第3回	環境保全技術と環境規制	ポーター仮説とは、環境規制は特許や省エネ投資を促進するの か
第4回	グローバル経済と環境	開発と環境、人口問題と環境保全
第5回	環境と貿易①	汚染回避仮説とは
第6回	環境と貿易②	自由貿易協定（FTA）と環境保全 FTAは環境によいのか
第7回	環境と貿易③	公害輸出とリサイクル
第8回	国際的な自然資源管理①	再生可能資源の保護について
第9回	国際的な自然資源管理②	再生不可能資源（枯渇性資源）の保護について
第10回	気候変動問題①	京都議定書の目的と問題点
第11回	気候変動問題②	ポスト京都の議論と各国の姿勢・取り組み
第12回	気候変動問題③	パリ協定と今後の展望
第13回	国際協力の必要性	国際的な枠組みの重要性について：国際炭素税や国際的な排出量取引制度を中心に
第14回	持続可能な発展	価値の変革：保有から共有へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料を事前に読み、理解できない点・疑問点を明らかにする。また課題を実施し、期限内に提出すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

ただし、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

日引・有村（2002）『入門 環境経済学』、中公新書。

有村・蓬田・川瀬（2012）『地球温暖化対策と国際貿易：排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析』、日本評論社。

細田・横山（2007）『環境経済学』、有斐閣アルマ。

一方井（2018）『環境経済学』、新世社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）に加え、課題（30%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの回数を増やすように努めます。

また、参考文献など関連するプリントの配布を増やすようにいたします。

【その他の重要事項】

対面形式での授業を予定しています。そのため、オンライン授業での対応を原則いたしません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 Environmental regulations and policies are easily implemented for regional/domestic environmental issues. On the other hand, environmental regulations and policies are difficult to implement for international environmental issues. In this course we will investigate various international environmental issues we face today. This course introduces key concepts in implementing environmental economic policies to tackle local and global environmental issues to students taking this course.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to 1) understand the key theoretical aspect of environmental policies and 2) propose economically efficient environmental policies for global and local environmental issues.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, homework: 30%, in-class contribution: 10%.

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

国際環境政策 II

本郷 尚

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：環コア：経、グ、サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候変動など環境問題における様々な課題について背景を含めた理解と経済学的なアプローチによる課題解決を学びます。自分なりに考えることで、環境問題は複雑であり、どんなアプローチにも強みと弱みがあることを学びます。

【到達目標】

環境問題では目指すゴールは同じでも、何を優先するかは人によって違い、道筋も異なります。正解はありません。「自分なりに考える」ことを身に着けることを目指します。これはビジネスの現場でも必要な、問題を整理し、いくつかの解決方法を考え、それぞれの強みと弱みを比較、提案するとの対応方法につながるものです。国際的にホットな話題も取り上げますので環境問題を考える基礎的な知識も得られます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義前に資料やレジメをアップしますので事前に目を通しておいてください。講義後に出席確認を兼ねて小レポート提出をお願いします。各回講義の最後に質問やコメント、感想などの時間を設けます。HOPPIIを活用し、小レポートへの講評も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	気候変動枠組条約とCOP	気候変動枠組条約会合の歴史とパリ協定
2	カーボンプライシングと排出量取引	外部不経済への対応のためのカーボンプライシングと排出量取引
3	電力化の流れと新たなリスク	脱炭素化が生み出した電力の時代と新たなリスク
4	国際海運と国際航空の排出削減	パリ協定と並行して進む国際ルール
5	低炭素・脱炭素燃料	バイオ燃料、水素、E-Fuelへの転換の道筋と課題
6	大気直接回収(DAC)とマイナスの排出	ネットゼロに欠かせないDACとマイナスの排出(Negative Emission)
7	気候変動問題と貿易・産業競争力	経済政策となった気候変動政策～産業競争力と気候変動対策の両立のために
8	金融イニシアティブ基準設定と情報開示	脱炭素化社会移行に取り組む金融～基準設定か、説明責任か
9	企業の気候リスクマネジメントとシナリオ分析	脱炭素社会にむけて変革を目指す企業戦略で欠かせないシナリオ分析
10	気象災害と適応	頻発する気象災害への備え～科学分析とリスクマネジメント
11	金融機関の環境ガイドライン	金融機関の環境問題への取り組み(セーフガード)～国際協力銀行の事例

12	ゴミ問題と経済学的アプローチ	豊かな経済がもたらした課題の都市ゴミ問題～東京モデルを考える
13	循環経済とビジネス	循環経済の背景とビジネス化の課題
14	生物多様性と自然資本	究極の環境問題としての自然資本と経済学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回講義毎に資料（スライド、レジメなど）をアップしますので目を通してください。またキーワードについてはインターネット検索で調べることと講義の理解が深まります。問題の所在や対策には賛否両論、様々な意見がありますので、異なる見方を探すののも効果的です。

【テキスト（教科書）】

特にありません。参考になるものはサイトを示しますのでインターネットで検索してください。

【参考書】

特に指定しません

【成績評価の方法と基準】

期末試験はレポート提出です。基礎知識は必要ですが知識を確認することが目的ではありません。自分で考えることを求めています。また毎回の小レポートも評価対象であり、配点は期末試験60%、小レポート40%を目安に総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

HOPPIIで資料をアップしますので、パソコンやスマホなどが必要です

【その他の重要事項】

環境問題に対して経済学的も活用したアプローチを学びますので経済学の基礎知識（需給による価格決定、制約条件付生産関数、外部不経済、貿易や分業のメリットなど）があれば理解が進みます。あるいは講義を通じて理解することができます。

講師は、国際的なプロジェクトへのファイナンス、環境や気候変動への取り組みなど国際金融で豊富な経験を持っています。この経験を活用、企業のサステナビリティ戦略などについて取り組んでいます。排出量取引では国際的な業界団体の役員に長年就任し、また国際民間航空機関の取り組みにも専門家として参加しています。また数多くの政府の委員会、研究会にも参加しています。こうした経験に基づき広範なテーマを最新の現場経験を交えながら理論的に考えていきます。取り上げているテーマと内容は企業でも必要としている実践的なものです。

国際枠組みでは英語が基本です。サイト検索する際には翻訳ソフトも補助的に活用すると効率的です。ただし、講義の目的は「考えること」ですので、AIなどの利用は目的に沿ったものではありません。なお、国際会議などの都合でオンラインとする場合があります。日程が固まり次第連絡します。

【Outline (in English)】

We will study various issues in environmental problems particularly climate change, including their background, and how to solve them using economics. By considering these issues by ourselves, and we understand that environmental issues are complex and that every approach has its strengths and weaknesses.

This course aims to provide students with the basic knowledge necessary for considering solutions for environmental issues by economic approach. But more important than knowledge is to develop the ability of analyzing issues and solution based on their way of thinking.

The final exam is a report submission. Basic knowledge is necessary, but the purpose of exam is not to check knowledge. I expect you to think by yourself. Students are asked to submit a short report after every lecture. The final exam will be worth 60% of the total score and the short reports will be worth 40% of the total score.

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考 (履修条件等)：環コア：経、グ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標 (SDGs) に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システム (Hoppii) を通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックはHoppii を通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：開発途上国とは。 途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み (評価軸) を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？ : 戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第4回	途上国社会・経済の概況 (1) : アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。

第5回	途上国社会・経済の概況 (2) : ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか (または遂げられなかったか) を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況 (3) : アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか (または遂げられなかったか) を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況 (4) : 映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済 (1) : 韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済 (2) : 台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済 (3) : 香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国 (都市) の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済 (4) : インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン (Association of South East Asian Nations) の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長 (経済発展) の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済 (5) : マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジアの価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他 (2008年) 『経済発展の政治経済学』 (日本評論社)
渡辺利夫編 (2007年) 『アジア経済読本 (第4版)』 (東洋経済新報社)
大塚啓二郎 (2020年) 『なぜ貧しい国はなくなるのか (第2版) 正しい開発戦略を考える』 (日本経済新聞出版)

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%. If face-to-face classes and final examinations cannot be held due to the spread of coronavirus infection, the grading system may be changed to one based on report assignments. If this is the case, the grading method will be announced through the learning support system (Hoppii).

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位
 開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5
 備考（履修条件等）：環コア：経, Ⅸ
 その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システム（Hoppii）を通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックはHoppiiを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：途上国経済を見る 目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：中国（1） 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：中国（2） 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。

第6回	途上国社会・経済の概況（3）：インドー 目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（5）：タイー 東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでもNIESに続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（6）：ベトナムー 戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを上げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（7）：ブラジルー 南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済（8）：南アフリカー アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済（9）：ボツワナー 資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第13回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第14回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
 渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
 大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

国際経済協力論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位
 開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4
 備考（履修条件等）：環コア：経、ゲ
 その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。そして貧困や格差の解消は、持続可能な開発目標（SDGs）の第一の目標とされている。経済協力は、そういった貧困や格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて学生は、1）国際協力に関する基礎的な知識を獲得することができる。それら基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。2）これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、各自が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。3）加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力（開発協力）とは？	国際経済協力（開発協力）とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第2回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようにとらえ、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第3回	国際社会と開発協力の歴史（1）（1945年～1960年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の開発協力の取り組みについて概観する。
第4回	国際社会と開発協力の歴史（2）（1970年～1980年代）：経済協力への失望と変化の兆し	開発協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。

第5回	国際社会と開発協力の歴史（3）（1990年代～現在）：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化下における開発協力の位置づけを概観する。
第6回	日本の開発協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の開発協力に与えた影響について理解する。
第7回	日本の開発協力の歩み（2）：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950年代～1970年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第8回	日本の開発協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて1980年代～2000年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第9回	開発協力の仕組みと方法	日本の開発協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをもとに理解する。
第10回	開発協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の開発協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第11回	開発協力をめぐる議論の大きな流れ（1）：経済成長と人間開発	開発協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷およびSDGsのような国際目標を通じて理解する。
第12回	開発協力をめぐる議論の大きな流れ（2）：持続可能な開発と環境	開発協力の分野で環境をめぐる問題がとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
第13回	開発協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの開発協力には効果があったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
第14回	日本が開発協力を行う理由	日本は途上国への開発協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
 受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
 牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）
 勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
 斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
 外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。

【学生の意見等からの気づき】

提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is the first part of a series of lectures on international economic cooperation, with emphasis on Japan's Official Development Assistance. In an increasingly globalized world, disparities are growing not only in income but also in other aspects between countries. Eliminating poverty and disparity is the first goal of the Sustainable Development Goals (SDGs). Economic cooperation is one of the ways to reduce poverty and disparity and to build new countries, societies, and the world together. This lecture aims to provide students with a basic knowledge of international economic cooperation in order for them to be involved in building a society in which people can live better lives.

[Learning Objectives]

Through this course, students will 1) acquire basic knowledge of international cooperation. This basic knowledge includes the history and structure of economic cooperation, the theory behind it, the results and impact of economic cooperation to date, and new challenges and initiatives in recent years. 2) Based on this basic knowledge, students are expected to be able to formulate their own opinions and ideas about Japan's role in the international community, and to be able to communicate them to others. 3) In addition, students are expected to be able to explain the significance of partnership in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環コア：経、ゲ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。そして貧困や格差の解消は、持続可能な開発目標（SDGs）の第一の目標とされている。経済協力は、そういった貧困や格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力を行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標（SDGs）」とあわせて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による開発協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、開発協力において主たるアクターとなっているNGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による開発協力（2）企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、開発協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。

第5回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第6回	人間の安全保障と開発協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第7回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	開発協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第8回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第9回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第10回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第11回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第12回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第13回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第14回	まとめ：持続可能な開発目標（SDGs）と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は利用せず、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
 牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
 勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
 斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
 外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。

【学生の意見等からの気づき】

提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is the second part of a series of lectures on international economic cooperation, with emphasis on Japan's Official Development Assistance. In an increasingly globalized world, disparities are growing not only in income but also in other aspects between countries. Eliminating poverty and disparity is the first goal of the Sustainable Development Goals (SDGs). Economic cooperation is one of the ways to reduce poverty and disparity and to build new countries, societies, and the world together. This lecture aims to provide students with a basic knowledge of international economic cooperation in order for them to be involved in building a society in which people can live better lives.

[Learning Objectives]

Through this course, students will 1) acquire basic knowledge of international cooperation. This basic knowledge includes the history and structure of economic cooperation, the theory behind it, the results and impact of economic cooperation to date, and new challenges and initiatives in recent years. 2) Based on this basic knowledge, students are expected to be able to formulate their own opinions and ideas about Japan's role in the international community, and to be able to communicate them to others. 3) In addition, students are expected to be able to explain the significance of partnership in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

MAN300HA (経営学 / Management 300)

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを考える題材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスの視点から多様な企業活動を観察することで、環境問題に関する総合的な理解を深めるとともに、企業のビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れつつ、汎用性の高いツールとしてファイナンスや経営学の基本的な視点を学ぶことで、「企業を見る目」を養い、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、市場規模や構成、雇用などを巨視的な視点から理解すると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主要なテーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。併せて、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論／	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集めるESG金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。

第5回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：再生可能エネルギービジネス	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース2：省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCOなどを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第8回	ケース3 3Rビジネス1／企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、3Rからサーキュラーエコノミーに至るビジネス環境の変化を学ぶ。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。
第9回	ケース3 3Rビジネス2／企業分析プレゼン②	前回の続きとして、容器包装リサイクル、食品リサイクル、金属リサイクル等の各論を観察する。
第10回	ケース4：環境リスク管理ビジネス／企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されるが、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第11回	ケース5：水ビジネス／企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第12回	ケース6：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第13回	ケース7：ESG投資と環境ビジネス1／企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めているESG投資など「環境金融」の機能について考える。
第14回	まとめ	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスを含めて予備知識は一切不要です。復習による定着を重視して下さい。自分が関心を持つ業界／企業が環境問題にどう関わっているか、という問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。

講義が大企業等を素材にすることが多い分、毎回ベンチャー企業等を素材とするミニレポートを課題として課します（翌週までに提出）。また、チーム又は個人で企業分析・プレゼンしてもらいます。質疑、講師や他の受講生からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。毎回の準備学習・復習と宿題対応で4時間程度を標準としますが、これとは別にプレゼン準備には相応の時間が必要です。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が必要です。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。また、毎回課す課題は、当日教室で配布します。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト

http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html

このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

この講義では、一方通行の座学ではなく、ディスカッション等を通じた知識の定着を重視しており、授業に出席することが評価の大前提となります。そのうえで、企業分析・プレゼンテーション（50%）、毎回課すベンチャー企業などの環境ビジネスを素材とする課題（30%）、講義でのディスカッションへの貢献度（20%）などに基づき、総合的に判断します。なお、プレゼンテーション等に関して個別に指導を行う関係上、受講希望者が多い場合には人数調整を行うことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼン後の振り返りなど、ディスカッションや対話の時間をより充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

講義の性格上、対面式を原則とします。個別の事情がある場合には別途相談して下さい。分析・プレゼンの件数や対象は受講生数に応じて増減します。受講者が多い年はチームを編成して、最大6～7件程度になり、少ない場合は、受講者一人で1社を担当してもらいます。

教員は現役の銀行職員であり、環境ビジネスの調査企画、ESG評価等に関する実務経験を有しているほか、数多くの政府委員会に委員として参加しています。本講義は、こうした経験を基に構成されたプログラムです。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The purpose of this course is to consider the relationship between environmental issues and the economy from the aspect of "environmental business." By rethinking environmental issues through analysis of corporate activities conducted in various fields such as renewable energy, energy saving, resource management, environmental risk management, etc., we aim to provide a multi-faceted view of the relationship between the environment and the economy.

【Learning Objectives】

By observing environmental businesses, you will be able to deepen a comprehensive understanding of environmental issues, analyze a company's business model, and discuss its growth potential and risks in detail. Develop corporate analysis skills by experiencing various corporate activities and learning the basic perspectives of finance and business administration. Improve presentation ability through company analysis and presentation.

【Methods】

First, understand the overall picture of the environmental business, such as market size, composition, and employment. Next, you will learn through case studies on themes such as energy, resource recycling, risk management, water, and natural capital conservation. At the same time, learn the basic idea of finance and basic analysis tools. In addition, by being in charge of individual company analysis and presentations, you will be able to experience the real image of environmental business using actual companies as materials, and to develop his presentation ability through feedback from faculty members.

【Learning Activities Outside of Classroom】

No prior knowledge is required, including finance. Emphasis is placed on fixing by review. There are many things you can get by attending a lecture with an awareness of how the industry / company you are interested in is involved in environmental issues.

Since lectures are often made from large companies, we will impose a mini-report on venture companies as an issue every time (submit by the next week). In addition, we will ask you to analyze and present the company as a team or as an individual. Many past students recall that this experience was useful, including questions and feedback from teachers and other students. The standard for each preparatory study / review and homework is about 1 hour, but apart from this, it takes a considerable amount of time to prepare for the presentation. It is necessary to actively participate in the creation of such analysis and presentation materials.

【Grading Criteria/Policy】

This lecture emphasizes the establishment of knowledge through discussions, etc., rather than one-way classroom lectures, and attending classes is a major premise for evaluation. After that, make a comprehensive judgment based on company analysis / presentation (50%), issues related to environmental businesses such as venture companies imposed each time (30%), and contribution to discussions in lectures (20%). increase. Due to individual guidance regarding presentations, etc., the number of participants may be adjusted if there are many applicants.

POL200HA (政治学 / Politics 200)

平和学

植村 充

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金6/Fri.6

備考 (履修条件等)：環コア：G,文

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2022年2月より始まったロシアのウクライナ侵攻は、国際社会の秩序に大きな衝撃を与え、再び国家同士の戦争が現実のものとなりました。さらに、2023年10月より生じているイスラエルとパレスチナの間の戦争により、一層世界は混迷を極めていると言えます。安住の地を求めて移動する難民、混迷を極める戦争、頻発するテロ事件、そして感染症の世界的流行などのニュースに私たちは日常的に触れています。越境的に生じるこれらの諸問題を解決するには、事象の正確な把握とその分析が不可欠です。本講義においては、平和学がこれまでに積み重ねてきた知に触れ、これらの問題に対するアプローチを探ります。これによって国際社会に生じる問題に主体的に取り組む姿勢を身につけます。

【到達目標】

第1に、平和学の誕生から現在までの変遷、その特徴、他学問領域との関連、そして平和学における諸論点を横断的に理解します。また平和を希求する試みは、国際関係論とも強い親和性があるため、国際社会を構成する各主体 (アクター) の特徴と関係性について理解します。第2に、それらの知識を活用して、紛争、平和構築、難民、多文化共生社会、といった具体的な課題に取り組む主体と手法の多様性を主体的に考察できるようにします。最終的に各受講者が世界の諸問題について自身で学びを深めていける能力を養成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を採ります。毎回、簡単なリアクションペーパーを課します。リアクションペーパーに書いて頂いた内容は次回の講義においてコメントします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ： 平和学とは何か	平和学誕生の背景、その特徴、現代社会における役割と課題を概説する。特に「平和」とはどのような状態を指すのか、平和学が対象とする課題はなにかを理解する。
第2回	紛争と平和研究(1)	主権国家体制の成立から現代にいたるまでの暴力発生様態の変容を理解する。従来、暴力の主な発生要因といえば国家間の戦争であったが、現代はより要因が多様化している点を理解する。
第3回	紛争と平和研究(2)	崩壊国家と内戦の様相を植民地主義の歴史と各地域の事例を踏まえて概説する。
第4回	人道支援・人道的介入・平和構築(1)	国家の崩壊や諸々の内戦に対して国際社会が用いてきたアプローチを理解し、具体的な事例からその問題点と展望を理解する。第4回は人道支援・人道的介入を考える。

第5回	人道支援・人道的介入・平和構築(2)	内戦の終結した国にとって次なる課題は平和状態をいかに構築し、維持するかということである。第5回は国家建設をはじめとする平和構築のアプローチを考える。
第6回	国連と平和	国際平和を希求する目的をもって誕生した国連の平和に関する取り組みと現代的課題を理解する。
第7回	市民・NGOと平和	従来より平和研究における主要なアクターとして市民やNGO活動の重要性が指摘されてきた。国境を越えた彼らの連帯と国際平和への関りについて理解する。
第8回	地域共同体と平和	国際社会を形成するアクターとして地域共同体の役割と性質を理解する。特にアフリカ連合(AU)や欧州連合(EU)、ASEANを取り上げ近隣の紛争や難民危機についていかに対処してきたかを理解する。
第9回	差別・排除の克服と平和	世界では社会の分断をおおるような差別や排除が日々行われ、時に深刻な暴力的状況を生み出されている。ここでは差別・排除の生じる要因を理解し、解決への取り組みを考える。
第10回	グローバルな経済格差と開発援助	戦争の不在だけでは平和とは言えない。ここでは発展途上国と先進国の間にある経済格差に注目し、「積極的平和」などの概念も踏まえ、現在の課題と国際社会のアプローチを理解する。
第11回	人の移動と平和研究(1)	現代社会において、人の移動は重要なトピックとなっている。ここでは特に世界各地で生じる難民問題について、難民発生メカニズムを理解し、日本そして国際社会がいかに難民問題に対応してきたかを理解する。
第12回	人の移動と平和研究(2)	難民に限らず、世界には多様な理由で越境を行う人々がいる。日本でいえば技能実習生の問題など、脆弱性を持つ移動する人々の権利保障に焦点をあてる。
第13回	ロシア・ウクライナ戦争と平和研究	ロシアによるウクライナ侵攻が始まってから2年が経過した。この間、国際秩序はいかに変容し、新たな問題に直面しているのか理解する。
第14回	イスラエル・パレスチナ戦争と平和研究	2023年10月7日より開始されたイスラエルとパレスチナ(ハマス)の間の衝突は未だなお停戦の兆しを見せていない。イスラエルによる一般市民を巻き込んだ空爆に対する国際社会の対応を理解する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を適宜すること。また本講義で取り上げる国際社会における諸課題には、普段のニュースや他講義でも触れることがあると思います。主体的な取り組みのためにも、アンテナを張って積極的に知識を吸収してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。事前に読んで欲しい資料は授業支援システムに掲載します。

【参考書】

日本平和学会編(2018)『平和をめぐる14の論点 - 平和研究が問い続けること -』法律文化社

児玉克哉・佐藤安信・中西久枝(2004)『初めて出会う平和学 - 未来はここからはじまる -』有斐閣アルマ
長有紀枝(2012)『入門 人間の安全保障 - 恐怖と欠乏からの自由を求めて -』中公新書
筒井清輝(2022)『人権と国家 - 理念の力と国際政治の現実』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)と小レポート(30%)および出席・リアクションペーパー(20%)による。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講者から、講義の最後にリアクションペーパーを書くことによって理解が深まったとの意見を頂きました。自分で学習した知識をアウトプットするのは重要な学習方法ですので、積極的に記述を行ってください。また講義中に近年の研究動向を理解するために論文講読を行います。積極的に読み解いてください。

【その他の重要事項】

講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The invasion of Ukraine by Russia, which commenced in February 2022, has profoundly shaken the international order, bringing the reality of inter-nation warfare back into focus. Additionally, the ongoing conflict between Israel and Palestine since October 2023 has further complicated global dynamics. Amidst incessant reports of refugees seeking sanctuary, civil unrest, frequent terrorist attacks, and widespread infectious disease outbreaks, accurate comprehension and analysis of these events are imperative for addressing transnational challenges. This course aims to explore approaches to these issues through the lens of peace studies, fostering a proactive mindset among students towards the myriad problems confronting the international community.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class, students will be expected to actively gather information related to the class and comprehend it well.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50 %, Short reports:30%, Reaction Paper: 20 %

POL300HA (政治学 / Politics 300)

人間の安全保障

岡部 みどり

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環コア：G

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要と目的：本講義は、国際社会の変容に伴い重要性が増してきている非伝統的な安全保障であるところの「人間の安全保障(Human Security)」について学習します。本講義の到達目標は以下の通りです。(1)人間の安全保障の基本的な理論や概念を理解する。(2)現代の安全保障課題に対するアプローチを検討する。(3)課題解決に向けた行為主体（国際機関、地域機関及び国家）の動向を理解する。授業時間外の学習としては、日々国内外のニュースや報道に目を通しておくことが望ましい（1週間で合計190分程度）。

【到達目標】

本講義を受講することで、学生は「人間の安全保障」問題に代表されるような現代的な外交課題を克服するための国家の試みや、グローバルな規模での政治的課題についての理解を深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要、講義形態、スケジュール、評価方法及び基準の説明
第2回	「人間の安全保障」概念と歴史的背景	講義の導入。概念誕生の背景についての説明
第3回	理論（1）：国家安全保障との相違	さまざまな安全保障概念の体系的整理
第4回	理論（2）：グローバル・ガバナンスとの関わり	国際政治（国際構造変動）との関わりからの考察
第5回	現代の安全保障課題（1）：紛争と平和構築	人間の安全保障アプローチの対象を順次ケースごとに紹介。初回は紛争と平和構築について
第6回	現代の安全保障課題（2）：テロリズム	同上。テロリズムについて
第7回	現代の安全保障課題（3）：サイバー、環境、宇宙	同上。トランスナショナルな政治課題について
第8回	現代の安全保障課題（4）：難民問題、人権問題との関わり	同上。トランスナショナルとインターナショナルの接点領域について
第9回	国際機関の動向（1）：国連	人間の安全保障概念を含む外交アプローチを順次紹介。初回は国連、その他の国際機関
第10回	国際機関の動向（2）：地域機構	同上。EU等地域連合に焦点を当てる。
第11回	先進国の動向	各国政策の動向。カナダを中心とする欧米諸国
第12回	先進国の動向（続き）	各国政策の動向。日本

第13回 途上国の動向 各国政策の動向。BRICSを含む

途上国

第14回 人間の安全保障の将来 まとめ

来

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。国内外のニュースを日々目にしておくことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

(1) 長有紀枝『入門 人間の安全保障—恐怖と欠乏からの自由を求めて（増補版）』中公新書(2021年) (2) 国連開発計画(UNDP) 著・訳、星野 俊也 監訳『2022年特別報告書 人新世の脅威と人間の安全保障』日経BP(2022年) (3) C. Daase and C. Friesendorf eds., Rethinking Security Governance: The Problem of Unintended Consequences (Contemporary Security Studies), Routledge, 2010.

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価を行う(100%)。しかし、毎回の授業出席はもちろんのこと、講義や終了後の質疑応答の時間における積極的な参加を求めます。成績評価についての詳細は、授業初回時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの回は、各自PC等デバイスやイヤホン等を用意すること。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with "Human Security" which has become increasingly important in response to changes in the international community. Learning objectives: A. Understanding the basic theories and concepts of human security. B. Studying approaches to address contemporary security challenges. C. Understanding the dynamics of key actors (including international organizations, regional organizations, and nation-states) to tackle these challenges." Learning activities outside of classroom: Be attentive to the internal/international political affairs through mass media (total 190 minutes per week). Grading Criteria/Policy: End-term exam (details are to be explained in the first class)

MAN100FA (経営学 / Management 100)

簿記入門 I

大下 勇二

配当年次 / 単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考 (履修条件等)：環7：経 / 主催：経営

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門 I の受講により、学生は、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成することができる。具体的には複式簿記の原理、帳簿記入の方法および決算の概要を理解し、帳簿の作成とそれに基づいた決算書の作成方法を習得し、簿記入門 II とあわせて日商簿記検定の3級程度のレベルに到達することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の授業は対面授業を基本としています(初回はZoomによるオンライン授業です)。学習支援システムには、毎回テキストを要約した講義スライドと小テスト(全12回)をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	簿記の意義としくみ(1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第2回	簿記の意義としくみ(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産(資本)について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第3回	簿記の意義としくみ(3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第4回	仕訳と転記(1)	勘定の意義、勘定科目の分類、勘定記入を学習します。
第5回	仕訳と転記(2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第6回	仕訳と転記(3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」と「転記」について学習します。
第7回	仕訳帳と元帳(1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第8回	仕訳帳と元帳(2)	勘定記入、仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第9回	決算(1)	決算の意味と手続き、試算表の作成、合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第10回	決算(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きを学習します。
第11回	決算(3)	精算表の仕組み、6桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第12回	現金と預金	現金・預金の記帳、現金出納帳、現金過不足、当座預金、その他の預金、小口現金の処理を学習します。
第13回	計算演習(1)	小テストとレポート課題の解答を解説します。
第14回	計算演習(2)	総合計算問題演習を実施します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストと講義スライド(パワーポイントのスライド)で予習・復習する形で学習を進めて下さい。テキストを良く読んでおき、テキストの例題・練習問題、ワークブックの問題を解くことが大切です。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3級』(最新版)中央経済社。

『検定 簿記ワークブック 3級』(最新版)中央経済社。

【参考書】

最初の授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上での「小テスト」(第1回～第12回)、「課題レポート」(1回程度)および「最終テスト」の3つに基づいて評価します。各評価の配分は、小テスト(全12回)45%、課題レポート5%、最終テスト50%の予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解を深めながら授業を進めて行きます。また、小テストの結果を定期的に観察して、授業の理解をその都度確認する取組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびパワーポイント、さらに初回のオンライン授業ではZoomを用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

この講義は、2年次の会計学入門 I / II、3・4年次の財務会計論 I / II、税務会計論 I / II、国際会計論 I / II、監査論 I / II、原価計算論 I / II、管理会計論 I / II、経営分析論 I / II、経営分析論 III / IV など会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the book-keeping of an introductory level. Accounting based on Bookkeeping is called the language of business. Income statements and balance sheets published by companies are prepared based on accounting books that record their economic activities according to bookkeeping technique and certain accounting rules. This course deals with this bookkeeping technique from journal entry to settlement of accounts.

Learning objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basics of bookkeeping technique from journal entry to settlement of accounts, the double-entry system and basic accounting process.

Learning activities outside of classroom

Before/after each meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content. Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

MAN100FA (経営学/Management 100)

簿記入門Ⅱ

大下 勇二

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考(履修条件等)：環コア：経/主催：経営

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。簿記入門Ⅱでは、簿記入門Ⅰで学習した仕訳から決算までの簿記の基礎を前提として、さまざまな取引を取り上げその具体的な処理を学習していきます。

【到達目標】

簿記入門Ⅱでは、受講生は、簿記入門Ⅰで学習した簿記の基礎に基づいて、複式簿記による帳簿記録のルールの理解と簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを出発点として、具体的な各種取引の会計処理、帳簿組織の仕組み、決算整理と8桁精算表および貸借対照表・損益計算書の作成方法を修得し、最終的に日商簿記3級程度のレベルへ到達することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

簿記入門Ⅱは対面授業を基本としています(初回、第8回および第11回はZoomによるオンライン授業の予定です)。学習支援システムには、毎回テキストを要約した講義スライドと小テスト(全12回)をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売上の記帳を学習します。
第2回	繰越商品・仕入・売上 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを学習します。
第3回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳、売掛金・買掛金、人名勘定、売掛金元帳・買掛金元帳などを学習します。
第4回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券等の処理を学習します。
第5回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、受取手形記入帳・支払手形記入帳、手形貸付金・手形借入金、電子記録債権・電子記録債務等の処理を学習します。
第6回	有形固定資産	有形固定資産の取得・売却、減価償却の計算と会計処理を学習します。
第7回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒れの処理、貸倒れの見積りと引当りの処理を学習します。
第8回	資本	株式会社の設立と株式の発行、繰越利益剰余金、配当等の処理を学習します。
第9回	収益と費用	収益と費用の未収・未払と前受けと前払いの処理とその意義、消耗品の処理等を学習します。
第10回	税金	税金の処理を学習します。
第11回	伝票	伝票を用いた記入方法を学習します。
第12回	財務諸表	決算手続き、決算整理の処理、8桁精算表および財務諸表の作成方法を学習します。
第13回	計算演習(1)	小テストと課題レポートの解答を解説します。
第14回	計算演習(2)	総合計算問題演習を実施します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストと講義スライド(パワーポイントのスライド)で予習・復習する形で学習を進めてください。テキストを良く読んでおき、テキストの例題・練習問題、ワークブックの問題を解くことが大切です。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3級』(最新版)中央経済社。

『検定 簿記ワークブック 3級』(最新版)中央経済社。

【参考書】

最初の授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上での「小テスト」(第1回～第12回)、「課題レポート」(1回程度)および「最終テスト」の3つに基づいて評価します。各評価の配分は、小テスト(全12回)45%、課題レポート5%、最終テスト50%の予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解の程度に注意しながら授業を進めていきます。また、小テストの結果を定期的に観察して、授業の理解をその都度確認する取組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびパワーポイント、さらにオンライン授業ではZoomを用いますので、これらを利用できる環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

この講義は、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the book-keeping of an intermediate level and the preparation of balance sheet(B/S) and income statement(P/L).In this course,we will take up various transactions and learn the specific processing based on the bookkeeping technique learned in "Introduction to Bookkeeping I".

Learning Objectives

By the end of the course,students should be able to understand the introductory accounting practices for merchant(Nishou-Boki-kentei 3-kyu level).

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting(on-line test)and mid-term report.Before/after each meeting,students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting(on-line test)(45%),mid-term report(5%),term-end examination(50%).

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

現代社会論 I

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性等の問題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンドで講義ビデオを配信し、小課題を出します。学習支援システムにおいて、提出されたコメントシートや課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	理論と概念の重要性、社会学と持続可能な社会の構築、授業の進め方
第2回	「社会を社会的に考える」とは	社会学的想像力
第3回	近代化と社会	分業、連帯、アノミー、社会的事実
第4回	個人と社会	社会的存在としての人間、アイデンティティ、社会化
第5回	資本主義と労働	労働、階級、搾取
第6回	格差の再生産	ハビトゥス、文化資本、教育、文化的再生産
第7回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第8回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第9回	フェミニズム理論	知識とジェンダー、労働としての家事、感情労働、インターセクショナリティ
第10回	ポストコロニアリズム	オリエンタリズム、サバルタン、人種、多様性
第11回	社会変化	構造機能主義と紛争理論、社会運動論
第12回	テクノロジー	格差、ジェンダー、人種、権力の理論を使って検討
第13回	現代日本社会と社会学理論	理論を使って社会を分析するとは
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014『社会学の歴史 I』有斐閣

クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎週の小課題を含む）50%、試験50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間での学びの共有や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society.

【Course outline】

Specific topics to be covered include modernization, inequality, identity, education, and diversity. Each class consists of lectures and activities to apply theories to social issues we have today.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including small weekly assignments) 50%; Exams 50%

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

現代社会論Ⅱ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：〈他〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会」は、多くの場合その構成員全ての経験や考えを平等に反映したものではありません。この歪みのひとつがジェンダーであり、社会を理解し議論する上で欠かすことのできない視点です。この授業では、家族、教育、労働、政治を含む社会の様々な側面をジェンダーの観点から検討します。学生一人一人が講義内容を理解するだけでなく、理論や概念を使って社会問題について議論することから主体的に学び、考える力を身につけることを目指します。

【到達目標】

本科目では、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に与える影響を、基本的な理論と概念、国内の歴史の変遷、諸外国との比較を通して探ります。日常生活や現代日本社会における制度、規範を多角的・多面的に分析することから新たな知見を獲得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ジェンダーの視点で社会を分析する意義、本科目の進め方
第2回	ジェンダーとセクシュアリティ	性別と性差、ジェンダーの規範、家父長制、グラデーションとしての性
第3回	家族の歴史と現在	家族とジェンダー、異性愛規範、母性イデオロギー、婚姻制度
第4回	子ども	家庭において子どもは何を学び育つのか、社会化
第5回	学校教育、スポーツ	学校教育の歴史、機会の平等と結果の平等、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム、スポーツとジェンダー
第6回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第7回	科学、知識、医療	科学史の中の女性、ジェンダーイノベーション
第8回	賃金労働	少子化問題と労働問題、雇用体系、賃金格差、ワークライフバランス
第9回	リプロダクティブ・ライツ	生殖、性教育、セクシュアリティ
第10回	暴力	性犯罪と性暴力、法制度
第11回	表象と言葉	構築物としてのメディア
第12回	政治	民主主義、政治参画
第13回	フェミニズム	社会変革、持続可能な社会の構築
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

伊藤公雄・牟田和恵編 2015 『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
千田有紀・中西祐子・青山薫 2013 『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge and skills that enable them to examine various aspects of contemporary society (e.g., family, education, labor, and politics) from perspectives of gender.

【Course outline】

Lectures introduce historical changes and international comparisons, as well as theories. In addition to comprehending concepts and specific cases, students are required to complete assignments where they demonstrate their knowledge and ability to analyze social issues with gender perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

現代社会論Ⅲ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：〈他〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「身体」や「生命」について理解を深めようとする際、しばしば医学や生物学等の自然科学に頼ろうとします。しかし、「健康」とは何か、性別や人種におけるカテゴリーはどのようにつくられるか、「美しい身体」や「正しい身体」という規範にどのような意味があるのか、生殖医療や臓器移植等の技術を通して私たちはどこまで「いのち」をコントロールすることができ、すべきなのか、といった問いには、社会科学的視点が欠かせません。それは、「身体」が極めて個人的な体験であると共に社会的、文化的、歴史的な要因に左右されるものであり、また、「生命」という概念の定義が社会や文化の文脈の中で作りだされるものだからです。

社会学は「常識」や「当たり前」を疑うことを可能にしますが、身体社会学はその醍醐味を特にダイレクトに感じることのできる領域であると言えます。受講者ひとりひとりが自分で社会を観察し、考え、議論することを通して、身体と医療の社会学の内容の理解と共に、社会学的想像力を身につけることのできる授業とすることを目指します。

【到達目標】

本科目では、一般的に自明なものであると考えられている「身体」及び「生命」を社会学的観点から捉えることにより新しい知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体社会学という領域は近年、急速な発展を遂げましたが、一方でその蓄積や議論の多くは日本語に翻訳されていないため、多くの学生にとってアクセスの難しいものでもあります。講義では理論を含めたこのような流れを、画像や短い映像資料を使用しながらわかりやすく紹介し、理解を深めるための枠組みを作ります。小課題では、理解した内容を身近な例を使って自分の言葉で説明し、学びを深めます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要とねらい、身体を社会学的に分析する意義
第2回	身体社会学とは何か、階級と身体	労働、貧困、食、健康格差
第3回	人種	植民地主義、レイシズム、人種に関するカテゴリーの歴史の変遷
第4回	現代日本社会と人種	人種差別問題を自分たちの問題として考える
第5回	ジェンダー	「男らしさ」「女らしさ」と身体、身体の客体化、ステレオタイプ
第6回	ボディ・イメージ	身体の表象、「美」とされる姿の変遷、摂食障害、美容整形
第7回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	性自認と身体、異性愛規範

第8回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第9回	「正しい」と考えられている身体とは何か、逸脱は何を意味するか	障がい、医療化、障がいの社会モデル
第10回	優生思想	優生政策、優生思想は過去のものか、日本におけるハンセン病の歴史
第11回	いのちの始まりと生命倫理	リプロダクティブ・ライツ、生殖補助医療
第12回	いのちの終わりと生命倫理	終末期医療と尊厳死、脳死と臓器移植
第13回	身体と未来	機械と人間の融合、ナラティブを変える
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

安藤泰至、高橋都編『シリーズ生命倫理学 終末期医療』丸善出版(2012年)

磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか 拒食と過食の文化人類学』春秋社(2015年)

谷本菜穂『美容整形と化粧の社会学—プラスチックな身体』新曜社(2008年)

マーゴ・デメット『ボディ・スタディー—性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』(2017年)

アリス・ドムラット・ドレガー『私たちの仲間 結合双生児と多様な身体の未来』緑風出版(2004年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This course on Sociology of the Body and Medicine will examine sociocultural aspects of our knowledge and experiences on the body. By completing this course, students are expected to be able to identify social issues pertaining to the theme of this class in their everyday lives and analyze them critically using sociological perspectives.

【Course outline】

We will consider topics including social class, gender, race, eugenics, and bioethics. After each lecture, students are expected to reflect on the contents and outline their thoughts on their comment sheets.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

NPO・ボランティア論

新田 英理子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がより良くありたいと願うように、社会をより良くしたいと願うときに、ボランティア、NPO（Nonprofit Organization）について、多面的、多角的に理解していることで、社会との向き合い方の幅を広げることができます。

日本において、NPOが一般的になってきたのは、ここ20年ほどです。ボランティアは、「奉仕」を越えて、現代社会においてますます重要性を増しています。また、NPO・ボランティアと親和性の近い言葉として、市民社会・市民という言葉があります。

この授業では、NPOやボランティアを多角的、多様に理解すると同時に、SDGs達成に向けて活動する、NPOの実践者、ボランティアの実践者からの情報提供も受けます。それらを通じて、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように向き合い、関わっていくのか、理解を深め、考える機会とします。

【到達目標】

- ・NPOの意味、役割、これまでの歴史、運営や財源、行政や企業との関係などについて理解を深めます。
- ・ボランティアの意味、役割、これまでの歴史、NPOとの関係について理解するとともに、SDGsとボランティア、SDGsと市民について、考えます。
- ・日本社会においては、1990年代からNPO・ボランティアが取り組んできた社会課題解決への理解を通して、現代の社会の変化やなぜ社会の持続可能性やSDGsへの貢献が重要なのかについて、問題意識が持てるようになります。
- ・今後のより良い社会のあり様を、どのように考えていけばよいのか。市民一人ひとりが、社会とどのように向き合い、関わるべきか、学生自身も含めて考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います。
- ・毎回、ランダムな小グループで話し合い、グループの意見をグループスプレッドシートに書き、授業中にディスカッションする時間を設けます。
- ・出欠を兼ねたリアクションペーパー（感想・質問・意見）を毎回提出してもらいます。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。
- ・NPO・ボランティア活動の実践を聞く機会として、ゲスト講師をお呼びします。事前に質問を集めます。
- ・リアクションペーパーの意見等をもとに、学生からも意見を出してもらい、学生間で様々な視点や考えを学びあいます。
- ・毎回の授業で、ノートパソコン、タブレットなどを使って記入していただく時間がありますので、準備して参加してください。
- ・授業の資料は教材にあげますが、プリントアウトしませんので、必要な方は、自身でプリントアウトしてください。
- ・履修人数によって、12回、13回、14回の授業の持ち方は変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ボランティア、 NPO、SDGsに関する基礎知識	・授業の目標、内容、進め方についての説明 ・私たちの生活と、持続可能性
第2回	NPOの基礎知識～ NPOとは何か	・NPO歴史的背景 ・NPOの意味と意義 ・日本社会におけるNPO種類（NPO、NGO、CSOなど）
第3回	SDGsの基礎知識～ SDGsとは何か	・SDGsの歴史的背景 ・SDGsの意味と異議 ・SDGsの担い手としてのNPO、ボランティアの意味
第4回	ボランティア・ボランティア活動とは何か？	・ボランティアの歴史的背景 ・ボランティアの意味と意義 ・個人、組織や法人格とは
第5回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して①	差別/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例を通して、持続可能性について考える
第6回	課題設定	5回の授業を通して、グループもしくは自身が解決したい、社会課題を設定します。
第7回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して②	環境問題（プラスチックごみ問題）と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例（クリーンアップ等）を通して、持続可能性について考える
第8回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して③	生物多様性と向き合うNPO・ボランティアの実践事例（希少種保全等）を通して、持続可能性について考える
第9回	市民社会とは何か	・市民社会とは ・行政組織や企業組織との違い ・連携について
第10回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して④	外国にルーツをもつ人たちが抱える問題と向き合うNPO・ボランティアの実践事例（学習支援等）を通して、持続可能性について考える
第11回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して⑤	貧困/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例を通して、持続可能性について考える
第12回	授業の振り返りと発表①と補足	・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表①
第13回	授業の振り返りと発表②	・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表②
第14回	パートナーシップ	・パートナーシップによって課題を解決するとは ・NPO・ボランティアにとってのパートナーシップの概念を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします
- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
 - ・各回のレジュメ（パワーポイント資料）配布するので、授業後、各自授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してみる。疑問点等があれば、次回授業のリアクションペーパーで提出してください。
 - ・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておくこと。
 - ・参考書等で授業内容と関連する内容を読み、考察を深めること。
 - ・各自で、関心のある分野のNPOの事例をインターネット等で調べたり、NPO支援センターなどで情報収集したり、実際にボランティア参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

「基本解説。そうだったのかSDGs」SDGs市民社会ネットワーク発行 1000円

「知っておきたいNPOのこと基本編」日本NPOセンター発行 500円

その他、授業内でも紹介します。授業で聞くだけでなく、参考書のいずれかを購入するか、各自でNPOに関する本や小冊子を購入し、授業とあわせて理解や考察を深めるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発言、リアクションペーパーの提出、参加姿勢、グループワークへの参加など）：40%

テスト・レポート：60%

なお、原則として、自分都合で4回以上欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の時間、ゲスト講師からのインプットには高評価が得られている

【学生が準備すべき機器他】

授業中に、学習支援システムからアンケートを実施したり、グループワークシートに記入したりするため、ノートパソコンやタブレットなどを持参して授業を受講してほしい。

【その他の重要事項】

- ・現在もSDGsを達成するために活動しているCSOのネットワーク組織で活動をしています。
- ・また、20年間、NPOとしてNPOを支援し、活動を行ってきた経験をもとに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。
- ・学生による発表を随時取り入れたいと思いますので、授業計画を一部変更することもあります。
- ・履修人数により、グループワークや発表方法などを変更します。

【Outline (in English)】

In this class, we will receive reports from NPO/volunteer practitioners, who understand NPOs and volunteer work from multiple points of view. Through such experiences, students in this class will have opportunities to deepen their understanding of such work and consider how they want to engage with society as citizens.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The lecturers are required to prepare for and review the lectures by using the materials introduced in the lectures.

After the class, each student should review the lecture content, understand the content well, and organize his/her own ideas. If you have any questions, please submit them in the reaction paper for the next class.

If you are absent from class, download the resumes from the class support system to grasp the contents of the class.

Students are expected to deepen their understanding of the contents of the class by reading the related contents in reference books, etc.

It is recommended that you research NPOs in your field of interest on the Internet, gather information at NPO support centers, etc., and actually participate in volunteer activities.

Grading criteria

Ordinary points (in-class comments, submission of reaction papers, participation attitude, etc.): 40

Tests and reports: 60

As a general rule, students who are absent four or more times will not be graded.

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

フィールド調査論

藤田 研二郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査の方法は、研究やマーケティングにおいて必要なばかりでなく、ときに調査を受けたり、また日常的にニュースを読み解く際にもかかわる重要な知識である。本授業では、量的・質的双方の社会調査（アンケート調査とインタビュー調査）の方法について講義と実習を行う。それらを通じて、社会調査を計画的に実施し、また調査結果を適切に読み解くためのスキルを学ぶ。

【到達目標】

社会調査の方法、量的調査と質的調査の特徴について説明できるようになる。それぞれの特徴にもとづき、量的・質的双方の社会調査を計画的に実施できるようになる。日常生活のなかで、社会調査の結果を適切に読み解くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

量的・質的双方の社会調査の方法について、主に各回の前半で講義し、後半で実習を行う。実習は、授業時間外で作業が必要になる場合がある。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義：本授業の概要を示し、社会調査の定義と種類、量的調査と質的調査の概要について学ぶ。
第2回	社会調査の基礎①	講義：社会調査の歴史、調査倫理、二次データの利用について学ぶ。
第3回	社会調査の基礎②	講義：調査研究のプロセス、リサーチ・クエスチョンと仮説、変数について学ぶ。 実習：調査研究を企画する。
第4回	量的調査①	講義：アンケート調査のプロセス、種類について学ぶ。 実習：調査研究企画をプレゼンし、ディスカッションする。
第5回	量的調査②	講義：調査票の構成、質問項目・選択肢の作り方、ワーディングの問題について学ぶ。 実習：アンケート調査の質問項目・選択肢を作成する。
第6回	量的調査③	実習：調査票のプリテストを行う。
第7回	量的調査④	講義：データ化と集計方法の種類、統計学の基礎、記述統計と推測統計の概要について学ぶ。

第8回	量的調査⑤	講義：Excelによる集計方法、単純集計、クロス集計について学ぶ。 実習：単純集計、クロス集計を実践し、分析結果をまとめる。
第9回	量的調査⑥	講義：リサーチ・リテラシーについて学ぶ。 実習：分析結果をプレゼンし、ディスカッションする。
第10回	質的調査①	講義：質的調査の種類、インタビュー調査、参与観察の方法と研究例について学ぶ。
第11回	質的調査②	講義：インタビュー調査の流れ、質問項目の作り方について学ぶ。 実習：インタビュー調査の質問項目を作成する。
第12回	質的調査③	講義：トランスクリプトの作成、補助ツールについて学ぶ。 実習：インタビュー調査を実践し、トランスクリプトを作成する。
第13回	質的調査④	講義：質的データの分析方法について学ぶ。 実習：質的データ分析を実践し、結果をまとめる。
第14回	質的調査⑤／まとめ	講義：量的・質的調査の特徴、組合せについて学ぶ。 実習：分析結果をプレゼンし、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、日常的に社会調査に関するニュースに関心をもち、調査結果を批判的に読み解くこと。復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。また適宜、授業時間外の実習の作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、社会調査法の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編, 2023, 『最新・社会調査へのアプローチ』 ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+実習（40%）+期末レポート（30%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】

提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。また実習でPCを使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】

本授業は25人程度を定員とし、受講者は第1回の授業で決定する。なお、グループワークを行うため、遅刻・欠席しないこと。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

Social research methods are not only necessary in academia and marketing but are also relevant when you receive surveys and interviews and read daily news. In this class, students will learn and practice both quantitative and qualitative methods of social research, including surveys and interviews. Students will learn skills to systematically conduct social research and to appropriately interpret the results.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the characteristics of social research methods and the differences between quantitative and qualitative research.
- To systematically conduct both quantitative and qualitative social research based on the characteristics of each method.
- To appropriately interpret the results of social research.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about social research and critically read the results. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Practical Work (40%) + Final Report (30%).

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

フィールド調査論

藤田 周

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の文化人類学はほとんどありとあらゆる現象を研究対象にすることができます。その上、きちんと人類学的なフィールドワークをすれば、どんな研究対象でも大量の情報が集まってしまうでしょう。ほんやりと人類学っぽいものを書こうとすると、下手をすると単なる「雑学」の収集になってしまいがちです。もちろん、一般的に言われるように人類学にとってフィールドワークが不可欠ですが、フィールドワークと同じくらい重要なのが、フィールドワークにおいて触れた現実からのみ可能な思考を立ち上げることです。

本授業では、演習を中心に、人類学者がフィールドワークから書く文章としての民族誌 (エスノグラフィ) を制作する方法を理解し、実践することによって、フィールドワークをもとに思考する方法を学びます。授業の前半では民族誌映像の編集を行い、授業の後半ではすでに発表されている民族誌の再編集を行うことで、段階的に民族誌の制作に取り組みます。この授業を通して、最終的には、押し着せられた仕方によらずに具体的なものを感じ、考えるとともに、そこから立ち上がる抽象的なものを適切に他人に伝える術について、その端緒が掴めるでしょう。

【到達目標】

- ①フィールドワークにおいて撮影された映像から民族誌映像を作る方法を学ぶ
- ②既存の民族誌で描かれた事例から、新たに民族誌を作る方法を学ぶ
- ③以上の経験をもとに、人類学的に思考することを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習を中心に、それに関わる講義が行われる。学生は授業時間の間に、またはその前後に、民族誌映像や民族誌を制作し、一部の学生はそれを授業内で発表し、講評を受けることになる。加えて、リアクションペーパーの提出が求められる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
民族誌のイメージ	授業のガイダンス、民族誌とは何か	本授業の目的、進め方、成績評価について理解する。また、民族誌映像を見た上で、民族誌とはどのようなものかについての講義を受ける。
民族誌映像の制作方法 (1)	民族誌映像の制作方法を学ぶ	民族誌映像を見た上で、民族誌映像を作る過程を技術面を含めて学ぶ。
思考の技芸としての人類学	ありふれたものから考えることとしての人類学	講師が行ったフィールドワークについて説明し、ありふれたものから思考すること、人類学の思考の自由さについて学ぶ。
民族誌映像の制作方法 (2)	民族誌映像の制作	実際に民族誌映像の制作に取り組む。
民族誌映像の講評 (1-1)	民族誌映像の講評	自身の民族誌映像を発表し、また他の学生の民族誌映像を見て、相互に講評を行うことで、民族誌映像の構成と効果を学ぶ。

民族誌映像の講評 (1-2)

喚起としての民族誌

民族誌映像の講評 (2-1)

民族誌映像の講評 (2-2)

民族誌の読み方と書き方

民族誌の執筆

民族誌の講評 (1)

民族誌の講評 (2)

総括 民族誌の意義と可能性

自身の民族誌映像を発表し、また他の学生の民族誌映像を見て、相互に講評を行うことで、民族誌映像の構成と効果を学ぶ。

喚起という観点から民族誌や民族誌映像が示しているものを理解する。

自身の再編集した民族誌映像と、付随する文章を発表し、また他の学生の民族誌映像と文章を見て、相互に講評を行うことで、民族誌映像の構成と効果を学ぶ。

自身の再編集した民族誌映像と、付随する文章を発表し、また他の学生の民族誌映像と文章を見て、相互に講評を行うことで、民族誌映像の構成と効果を学ぶ。民族誌がどういう構成になっているか理解し、民族誌を書く過程を学ぶ。

民族誌の再編集によって実際に民族誌を書く。

自身の民族誌を発表し、また他の学生の民族誌を読んで、相互に講評を行うことで、民族誌の構成と効果を学ぶ。

自身の民族誌を発表し、また他の学生の民族誌を読んで、相互に講評を行うことで、民族誌の構成と効果を学ぶ。

授業を通して学んだことを振り返り、他の学生とのディスカッションを通して人類学的に考えることの意義と可能性について考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生が個人で民族誌映像と民族誌を制作する。具体的には、民族誌映像を一度編集して提出し、講評を踏まえてそれを再編集しもう一度提出する。民族誌は一度編集して提出する。

また、必要に応じて、テキストなど読んで予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

担当教員が適宜資料・レジュメを配布する

【参考書】

○映像

青山俊彦、藤田周 (2023) 『音があろうとなかろうと』 <https://youtu.be/kYiePpIqRTs?si=R4IQnvOmqH8NHdDG> オンライン映像. 2024年2月8日閲覧

藤田周 (2023) 『通り過ぎないもの 2023』 <https://youtu.be/kYiePpIqRTs?si=R4IQnvOmqH8NHdDG> オンライン映像. 2024年2月8日閲覧

○本

松村圭一郎 (2017) 『うしろめたさの人類学』 ミシマ社。

松村圭一郎・中川理・石井美保 (編) (2019) 『文化人類学の思考法』 世界思想社。

マラニー, T. & R. クリストファー (2023) 『リサーチのはじめかた——「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』 安原和見訳、筑摩書房。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーなど講義に付随する課題 (50%)

民族誌映像の初回編集、再編集、民族誌の編集 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

大量の映像をもとに映像編集をするため、パソコンを各自用意すること (性能はYouTubeなどが見られるものであれば十分です。また、映像編集には無料のアプリ Clipchamp を使います)。

【その他の重要事項】

必ず「参考書」に挙げられた二つの映像を見て、こうした映像を作ることに関心を持った場合にのみ参加してください。

定員は20名とし、受講者は第1回目の講義で決定します。

また、本科目は文化人類学の基礎的な知識をもったうえで履修することが奨励され、受講者の決定においてこれまで文化人類学系科目(ILAC科目文化人類学、環境人類学I、II、III)などを履修してきた学生を優先とします。1年生もしくは文化人類学系科目未履修者は、あらかじめ「参考書」に挙げられた本などを読んで人類学のイメージを掴んだ上で、初回授業またはメールで教員に相談してください。

【Outline (in English)】

Course outline

Contemporary cultural anthropology can study almost any phenomenon. Besides, if you do proper anthropological fieldwork, you may get a large amount of information on any research subject. If you try to write something vaguely anthropological, it tends to be a mere collection of "trivia". Of course, fieldwork is essential to anthropology as is often said, but just as important as fieldwork is to construct the kind of thinking that is possible only from the realities touched upon in fieldwork.

In this class, you will learn how to think based on fieldwork by understanding and practicing how to produce ethnography, which is a text written by anthropologists from their fieldwork. In the first half of the class, students will edit ethnographic videos, and in the second half of the class, they will re-edit ethnographies that have already been published, thereby working on the production of ethnographies in a step-by-step manner. In the end, this class will give you the beginnings of how to feel and think about concrete things out of the way with which you are made to learn, and how to appropriately communicate the abstractions that emerge from these things to others.

Learning Objectives

- (1) To learn how to make ethnographic films from the images taken during fieldwork.
- 2) Learn how to create a new ethnography from examples depicted in existing ethnographies.
- (3)Based on the above experiences, learn how to think anthropologically.

Learning activities outside of classroom

Students will produce their own ethnographic video and ethnography. Specifically, students will edit the ethnographic video once, submit it, and then re-edit and submit it again based on the critique. The ethnography will be edited once and submitted.

In addition, students are expected to prepare for and review the text and other materials as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Assignments related to the lecture such as reaction papers (50%), initial editing and re-editing of ethnographic footage, and editing of ethnographic material (50%)

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

社会統計論**藤本 隆史**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、社会統計の基礎として、調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフト（Excel）を使ってデータの集計・分析の方法を学習する。

【到達目標】

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。分析の目的（何を比べているのかなど）や分析の意味（どのようにしてその分析が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計・分析を行えるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業資料を配布し、指示された課題に取り組んで提出してもらう。データの集計・分析には、エクセルを用いる。基礎的なデータ処理の手法を中心とし、高度な統計処理は行わない。学期末に確認テストを実施する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。なお、PC教室を利用するため、第1回については受講者数が超過する可能性もあるので、オンライン形式で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う（受講人数確認のため教室ではなくオンライン形式で実施する）
第2回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第3回	データとは何か	データの種類や、統計データの収集方法（手順）などを学ぶ
第4回	基礎統計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第5回	確率分布および統計的推定について	確率分布の考え方や、標本統計量による母数の推定（点推定・区間推定）の考え方を学ぶ
第6回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方や作成方法を学ぶ
第7回	エラボレーションおよび関連係数	第3変数を用いたエラボレーションの考え方や、クロス集計表による変数の関連の測定方法を学ぶ
第8回	統計的検定の基礎およびカイ2乗検定	統計的検定の基礎知識と、クロス集計表を使った離散変数間の検定を学ぶ
第9回	平均値の比較の分析（1）t検定	独立変数の値が2値の平均値の比較の分析方法（t検定）を学ぶ

第10回	平均値の比較の分析（2）分散分析	独立変数の値が3値以上の平均値の比較の分析方法（分散分析）を学ぶ
第11回	相関係数	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第12回	回帰分析	連続変数間の因果関係の分析方法を学ぶ
第13回	集計結果のまとめ方	集計結果を利用・加工する方法を学ぶ
第14回	試験・まとめ	統計データの収集から分析に関する知識の確認テストを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

向後千春、2007、『統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学』技術評論社。

その他、講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業資料で指示した課題の提出を求める（60%）。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関する確認テストを実施する（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of statistics, which include how to read and use data to students taking this course, using statistical software, such as Excel. The goal of this course is to understand the basics of data analysis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content with handouts and so on distributed in class.

Grading will be decided based on class assignments (60%), and the term-end examination (40%).

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考(履修条件等)：定員制RSP履修不可

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。

・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。

・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。

・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。

・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。

・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。

・第14回：まとめの講義と、授業内試験(レポート)を行う。

*第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる(毎回提出のこと)。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての(また参加者としての)言動については、その都度フィードバックを行う。
*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する(講義)
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ(講義・演習)
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ(講義・演習)
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ(講義・演習)
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ(講義・演習)

6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ(講義・演習)
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ(講義・演習)
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ(講義・演習)
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ(講義・演習)
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約を学ぶ(講義・演習)
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ(講義・演習)
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ(講義・演習)
13	ファシリテーション実践	参加型の場(ワークショップ)の運営を体験する(演習)
14	まとめ	まとめ(講義)および授業内試験(レポート)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。(予習・復習各120分程度)

・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。(予習・復習各120分程度)

・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。(予習・復習各120分程度)

【テキスト(教科書)】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法(改訂版)』(2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8)。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』(岩波書店、2009年)
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』(日本経済新聞出版社、2016年)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題(各回の振り返りシート)の質と量(約60%)、レポート課題(授業内試験)(約20%)、発言や質問・演習など授業への参加度(約20%)から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システム(Hoppi)を使用します。

【その他の重要事項】

◎グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください(第1回授業はオンラインで実施します)。

◎RSP生は、本科目は履修不可です。火曜2限のファシリテーション論(C2240)を受講してください。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 40%, term-end report: 30%, in class contribution: 30%.

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

グローバル・コミュニケーション

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

【到達目標】

The aims of the course are:

- ・ to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- ・ to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- ・ to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- ・ to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- ・ to develop the process of cultural adaptation.
- ・ to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing, including research techniques and oral presentation skills. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Hosei Learning Management System (hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第2回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第3回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第4回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第5回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第6回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第7回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture
第8回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture
第9回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第10回	Potential Problems in Intercultural Communication	Seeking similarities/ uncertainty reduction/ stereotyping/ prejudice/ racism/ ethnocentrism and power
第11回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第12回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context- cultural views toward management
第13回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming intercultural competent / The future of intercultural communication
第14回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in each class.

【参考書】

Jackson, Jane. (2020). *Introducing language and intercultural communication* (2nd Edition). Routledge.

James W. Neuliep. (2020). *Intercultural Communication: A Contextual Approach* (8th Edition). SAGE Publications.

Larry A. Samovar, Richard E. Porter and Edwin R. McDaniel. (2014). *Intercultural Communication: A Reader* (14th Edition). Wadsworth Publishing.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (20%), learning journals (60%), and a take-home exam (20%).

* Note that students who miss four (4) classes or more cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【Outline (in English)】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning. Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class.

Assessment will consist of in-class participation (20%), learning journals (60%), and a take-home exam (20%).

ADE300HA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

地域形成論

小島 聡

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の持続可能性に関する高度な学習への入門として、様々な視角から地域について検討する。特に、地域学のイメージ、地域に関する近現代史と現在の課題、ローカルキャリアとローカルプロジェクト、21世紀の都市コミュニティ、新たな実践としてのソーシャルイノベーションやソーシャルデザインについて取り上げる。この授業の目的は、学生が地域学の基礎について学びながら、自分のキャリアを考えることである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・地域社会に関する高度な専門学習に必要な基礎知識を習得する。
- ・現代日本における多様な地域問題と解決策のケースを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイント、映像等に基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパーや中間レポートの提出と応答・講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「揭示版」）を活用し、授業でもフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「地域」の解剖学～「地域」のとらえかた	講義のプロローグとして、地域を空間スケールと時間スケールから多角的に俯瞰する。
第2回	地域の解剖学～「地域」「地域社会」の構造	環境、経済、社会、文化、政治など、人間活動の総体としての「地域」「地域社会」を構造的にとらえる。
第3回	地域と記憶～原風景から始まるライフヒストリーとパブリックヒストリー	人々の生活史（個人的記憶）と地域史（社会的記憶）の関係性について検討し、オーラルヒストリーによる地域づくりについても言及する。
第4回	地域形成の近現代史 150年～明治の近代化から戦前期	19世紀後半から20世紀初頭の日本における地域形成史について検討する。
第5回	地域形成の近現代史 150年～敗戦から高度経済成長期	20世紀半ばの日本における地域形成史について検討する。
第6回	地域形成の近現代史 150年～20世紀後半から世紀転換期・21世紀前半	20世紀後半から21世紀前半の日本における地域形成史について検討する。特に「東京一極集中」とその行方について考える。
第7回	郊外と住宅からみた都市の軌跡と現代	地域形成の近現代史の各論として、郊外と住宅の変遷に焦点をあて、さらに、21世紀前半の逆都市化・郊外の危機について検討する。
第8回	ローカルキャリアを生きる	地域にコミットする人々のローカルキャリアについて考える。

第9回	現代都市のキーワードとしてのコミュニティ	高齢社会、格差社会、多文化共生社会など、いくつかの視点から、21世紀の都市コミュニティ問題について多角的に検討する。
第10回	都市コミュニティを耕す	ソーシャルキャピタルやサードプレイス、プレイスメイキング、コミュニティデザインなどの概念とともに、コミュニティカフェやこども食堂をはじめとする「居場所」づくりなどの地域実践について検討し、さらにコミュニティの拠点としての商店街の再生にも言及する。
第11回	ローカルプロジェクトとソーシャルイノベーション	地域の課題解決に関する実践について、ソーシャルイノベーション・ソーシャルデザインの視角から検討する。
第12回	持続可能な過疎地域と内発的發展	持続可能な過疎地域・農山漁村に向けた1970年代から21世紀前半に至る内発的發展論の展開について検討する。
第13回	過疎地域の挑戦～「懐かしい未来」に向けて	過疎地域の内発的發展・持続可能な発展に向けた挑戦の動向と可能性について検討する。
第14回	あらためて地域に向きあうということ	講義のエピローグとして、「定住人口」「交流人口」「関係人口」など、地域との多様なかかわりについて考えながら、地域と向きあうライフキャリアについて問い直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、中間レポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（65%）+積極的な参加姿勢（15%）+中間レポート（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・日々、報道される地域に関する出来事は、現代社会の様々な課題と関係しているため、地域に関する学習を通して、時事問題に関するリテラシーを身につける機会になるようです。
- ・ゲストスピーカーの話は、地域人の取り組みをリアルに理解し、自分自身のローカルキャリアや学部での学びを考える機会になるようです。
- ・さらに、地域をめぐって考え、対話し、ワークする方法と機会を模索していきたいと思います。

【その他の重要事項】

- ・ローカル・サステナビリティコースおよび人間文化コースのコースコア科目・基幹科目として、コース履修の導的かつ基盤的な位置にあるため、2つのコース登録者または履修予定者の履修を強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目、または人間文化コースの地域に関するコースコア科目とあわせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースと人間文化コース以外にもサステナブル経済・経営コースなどでも、地域に関するテーマと関連する部分が多いので、それらのコースの登録者や登録予定者にも履修を推奨します。
- ・登録コースにかかわらず、どこかの地域で生活する現代人の基礎教養としての履修を推奨します。

【関連深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide an introduction to the advanced studies about “Sustainable community”. Especially, we will examine the various themes, such as the image of local studies, “Local career” and “Local project”, the modern history and the present agenda of community, the urban community in the 21st century, “Social innovation” and “Social design” as new practice. The purpose of this course is for students to consider one’s career while learning about the foundation of local studies.

The goals of this course are to acquire basic knowledge required for advanced studies about local community, and to understand various regional issues and the cases of solution over them in modern japan.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Term-end examination:65%, Active class participation:15%, Mid-term reports:20%

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

地域経済論 I

湯澤 規子

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考 (履修条件等)：環コア：経、口

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義で受講生は、地域経済の基盤である産業とその担い手に焦点を当てて、地域の経済発展の基礎と論理について考察します。

【到達目標】

拡大するグローバル社会の中では、国家経済的な視点だけでなく、地域の主体性 (ローカル・イニシアティブ) も同時に求められています。本講義では①地域の経済理論、②事例分析にもとづいた昨今の課題を通して、地域の経済に対する具体的な分析能力と企画立案能力を習得し、サステナブルで豊かな地域社会のありかたについて考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域の経済に関する理論と実践について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な範囲で対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「地域経済」とは何か、「豊かさ」とは何か、今なぜ地域経済を考えるのか
第2回	日本の地域構造	データ (人口・家族・所得・産業など) からみた地域経済と地域構造
第3回	身近な経済学	地域の環境・経済・社会・文化的側面から地域経済を読み解く
第4回	第一次産業 (1) ぶどうとワインからみた地域経済	山梨県甲州市を事例として地域経済の展開について考える
第5回	第一次産業 (2) 地域づくりの実践と理論	ワインの共同醸造、観光果樹園、住民イベントから地域づくりを考える
第6回	第一次産業 (3) 持続的社會と地域産業の役割	熊本県水俣市の甘夏生産組合の歴史と現状から環境配慮型地域産業と「内発的発展論」について考える
第7回	第二次産業 (1) 日本経済と地域産業	産業地域社会論について考える
第8回	第二次産業 (2) 伝統織物生産地域の構造と展開	ライフヒストリーからみた小規模家族経営と日本経済について考える
第9回	第二次産業 (3) 在来的経済発展論の射程と課題	地域の経済発展とは何か？ 在来と近代から「複線的発展論」を考える
第10回	第三次産業 (1) 商店街からみた地域経済	商業と地域の経済について考える

第11回	第三次産業 (2) まちづくりの実践と理論	千葉県酒々井町、茨城県取手市などを事例として社会的企業の実践と理論について考える
第12回	第三次産業 (3) 地域鉄道からみた地域の経済	地域鉄道の経営事例と地域の経済について考える
第13回	地域の経済を考える視点と意義	ローカルの価値について考える
第14回	まとめ	地域の主体性とは何か。その意義と可能性について議論する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「地域」や「産業」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

- ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』(単著、古今書院、2009年)
- ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
- ・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
- ・その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、期末試験 (用語説明30%、論述40%程度) によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の考えを知ることで講義内容が深まりました。引き続き毎回配布するリアクションペーパーを通して、相互的な講義を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・初回 (4月9日) はオンデマンドで配信します。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

In this lecture, students will examine the fundamentals and logic of regional economic development, focusing on the industries that are the foundation of regional economies and their players.

◆ Learning Objectives

In the expanding global society, not only national economic perspective but also local initiative is required at the same time. In this course, students will learn (1) regional economic theory and (2) specific analysis and planning skills for regional economies through recent issues based on case study analysis, with the aim of thinking about the ideal sustainable and prosperous regional society.

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Be interested in newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to "region" and "industry", and if possible, actually visit, eat, and experience them through the five senses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be made on the basis of ordinary points (30%) and the final exam (explanation of terms 30%, essay 40%).

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

地域福祉論

宮脇 文恵

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域には、様々な人が存在していることを知り、お互いにその存在を認め合い、共存するあり方について、主に福祉的な観点から学ぶ。
2. 自分が暮らそうと思う地域を、だれもが自分らしく「暮らしたい場所」とするために、どうすればよいか。福祉的な観点から学ぶ。
3. 地域において、誰もが仲間はずれにされないためにどうすればよいか、その技法について学ぶ。

【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎日を送り、「生きていてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。

地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きていてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができることを働きかけていくことが求められる。

本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人々に対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしくみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）などへの理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。授業はすべて講義形式で行い、毎回リアクションペーパーの提出を伴う。リアクションペーパーに記述された学生の問題意識をもとにして、授業内容を再構成して実施したり、課題を再設定する回もあるため、積極的な記述をしてほしい。代表的な問題意識や感想などは、授業の冒頭で教員から受講生に共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方「地域福祉」とは～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認 地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類(ICF)に基づいて、「本人と他者(地域社会)との関わり」を考える。
第2回	優生思想・差別・偏見と私たち	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ。

第3回	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン	「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」についてまなぶ。
第4回	認知症と地域福祉	認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。介護保険と高齢者を取り巻く現状をとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第5回	高齢者と地域福祉	児童虐待を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える。子どもの愛着形成・社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。
第6回	子ども・家庭と地域福祉①	
第7回	子ども・家庭と地域福祉②	
第8回	障害のある人たちと地域福祉①	これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第9回	障害のある人たちと地域社会②～	これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害(各種依存症を含む)・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第10回	社会的孤立・生活困窮者と地域福祉	野宿生活者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ。
第11回	多様な性と地域福祉	13人に1人と言われるLGBTへの理解と、地域社会で共に生きる方策を探る。
第12回	外国人と地域福祉	日本に暮らす外国にルーツを持つ人の置かれている現状と、私たちが地域で共に生きるあり方について学ぶ。
第13回	地域福祉の推進主体)～社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO、民生委員・児童委員、保護司	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ。
第14回	地域福祉推進における住民参画～福祉教育、地域福祉計画、ソーシャルサポートネットワーク	住民参画の方法として、福祉教育と地域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意識の醸成と、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また、地域住民の身近な支え合いとして、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

授業時間内、また、課題において視聴覚教材を多用します。高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話題もチェックしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさか里樹『ヘルプマン！』1～27巻(講談社)、『ヘルプマン！！』1～10巻(朝日新聞)

さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』（青泉社）
柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』（小学館）他
随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回、授業のリフレクションを短くまとめる課題）が50%、
学期末レポート50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください（あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えられません）。

授業のリフレクションの小レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

1. 授業についてのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。
2. 授業は、①授業で得た学びを短くまとめ、合わせて②復習または翌週までの予習として映像を視聴し、そこから得た学びを小レポートにまとめる、という双方について学習支援システムに期限内に提出することをもって、授業1回ごとの出席とします。
3. 授業の記録は原則的に手書きとして、ノートPCもしくはタブレット、携帯電話の持ち込みはご遠慮ください。（事情がある方には対応しますので、ご相談ください）

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about people who need some kind of help and people who need help but are unable to receive services due to the gap between systems, and learn about how they can live in their own way in the community.

Classes are conducted in a lecture format, and students have the opportunity to present what they have learned as necessary. Study using many audiovisual materials, and submit a small report each time about your impressions. At the end of each class, submit a reaction paper. Based on the student's problem awareness written in the reaction paper, there are times when the class content is reorganized and implemented, and the assignment is set again, so I would like you to write positively. At the beginning of the class, teachers share their thoughts and impressions about typical problems with students.

【Learning Objectives】

Learn about people with various attributes, deepen your understanding of "social inclusion" in which people live while accepting and including each other in society, think about what you can do, and put it into practice become able to.

【Learning activities outside of classroom】

Please collect information about welfare, such as newspapers and news, and attend classes with more interest. In addition, we will give you a pre-work assignment, so please work on it.

【Grading Criteria /Policy】

40% for regular grades (watching class videos and assignments), 10% for short reports (mainly about videos), and 50% for term papers.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

地域コモンズ論

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・

時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。この授業では具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

【到達目標】

まずコモンズ研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に、様々な地域資源やそれに関する実践活動から資源の持続可能な利用や地域社会の持続可能性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。毎回授業後には、授業内容を踏まえた課題を課し、そのレポートを次回の授業までに提出してもらう。次回の授業、または学習支援システムにおいて課題への解答からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コモンズとは何か？ (1)	コモンズの定義について説明する。
第2回	コモンズとは何か？ (2)	コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかを説明する。
第3回	地域社会と資源	日本の農山村と地域資源との関係性について説明する。
第4回	日本のコモンズ (1) 入会地	入会地の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第5回	日本のコモンズ (2) 農業用水	農業用水の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第6回	日本のコモンズ (3) 棚田	棚田の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第7回	日本のコモンズ (4) 里山	里山の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第8回	人と野生動物 (1) マタギ	狩猟を生業とするマタギの自然観を踏まえ、人間と自然のかかわりについて説明する。
第9回	人と野生動物 (2) 獣害と狩猟	野生動物による農業被害問題を踏まえ、狩猟による動物資源の利用・管理について説明する。
第10回	限界集落と集落維持	「他出子」という人的資源も「コモンズ」に位置づけたうえで、その資源による農山村維持の可能性について説明する。

第11回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (1)	グローバリゼーションによる食料の不平等分配を踏まえ、食料の生産・消費について説明する。
第12回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (2)	資源枯渇が危惧されるウナギ・マグロ・クジラなどの現状を踏まえ、漁業資源の利用・管理について説明する。
第13回	コモンズ研究の整理	今後のコモンズ研究の可能性と課題について説明する。
第14回	「コモンズ論」のまとめと振り返り	これまでの授業内容を振り返り、それを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで授業において紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に課す課題レポートの内容を80%として評価する。さらに学期末に課すレポート（4千字以上）の内容を20%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加と授業理解を促すために、毎回授業終了後にリアクションペーパーを課したい。

【Outline (in English)】

This class engages with studies on “local commons.” The goal of the lesson is to understand the content of the local commons and their sustainable use. As learning outside of class hours, I would like to review the class and read the literature introduced in the class. The standard time for preparation and review of classes is two hours each. Regarding the method and criteria for grade evaluation, the content of the report submitted at the end of the semester will be evaluated as 20%, and the content of the reaction paper imposed after class will be evaluated as 80%.

ADE300HA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

都市デザイン論

佐谷 和江

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考 (履修条件等)：環コア：口、文

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- ①都市デザインでは、さまざまな人々が一緒になって都市をデザインし、実現している。この講義では、実際の事例を通して、「参加・協働」の重要性とそのプロセスを学ぶ。
- ②市民として都市にオーナーシップを持ち、積極的に関わっていくための考え方や方法を探求する。
- ③都市デザインに取り組む人々の背景や価値観を理解し、自分自身の価値観を形成する。

【到達目標】

- ①都市をデザインする理由、プロセス、実現後の評価方法について学び、都市環境に対する洞察力を養う。
- ②都市デザインへの具体的な関わり方を学び、自分も都市の一員として関わる意識を高める。
- ③都市デザインの背景や価値観を深く理解し、それに基づいて都市をどのように評価するかの判断基準を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・対面で行う。
- ・講義を聞き、それに関連した質問に対して意見を述べてもらう。
- ・毎回、講義の感想を提出してもらう。Google フォーム使用。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	都市デザインと参加・協働	授業の概要や進め方を紹介する。また、都市デザインにおいて重要なキーワードを理解する。
2 回	都市全体のデザインとは？	市町村などの都市全体をデザインする方法について理解する。また、市民の関わり方について理解する。
3 回	景観デザインとは？	美しく秩序ある景観を形成するための方法について理解する。また、景観の基準を実現する取り組みについて理解する。
4 回	計画を承認するための仕組みのデザインとは？	計画を進めるためには市長や議会、審議会などが関わっており、これらの仕組みや市民の関わり方を理解する。
5 回	身近な地域でのルールデザインとは？	身近な地域で自分たちで環境に関するルールをつくることのできることを知るとともに、そのプロセスや結果について理解する。
6 回	身近な地域でのルールづくりがうまく行かない場合とは？	身近な地域で自分たちでまちづくりを始めたが、結果がでないこともある。それらの事例分析からうまくいかなかった要因を知るとともに、それを回避する方法について理解する。

7 回	復興まちづくりとは？	東日本大震災の被災地で、復興に地域住民がどのように取り組んだか、また、その支援方法について理解する。
8 回	コミュニティのデザインとは？	孤独死や引きこもりなど、地域での孤独が問題となる中、コミュニティのデザインに関する行政の対応について理解する。
9 回	住まいのデザインとは？	住宅政策について知るとともに、多様な事業主体の関わりや、住まいづくりやマンション管理など住み手の主体的な取り組みについても理解する。
10 回	ひろばのデザインとは？	多様な意見がある中で、意見をまとめながらデザインしていくプロセスや、その結果としての環境について理解する。
11 回	地域での居場所のデザインとは？	衰退傾向にある商店街の中で、地域の居場所をつくれたプロセスを把握するとともに、継続のための工夫を理解する。
12 回	地域での三世代の居場所づくりと運営とは？	高齢者施設を三世代の居場所へとデザインを変更したプロセスや、その運営について理解する。
13 回	市民活動への支援とは？	暮らしやすいまちにするために、市民活動を支援する取り組みについて理解する。
14 回	試験・まとめと解説	1～13回についての試験を実施する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。各ケースのURLを下記に示すので、事前に概要を把握する。
- 第2回：練馬区都市計画マスタープラン
<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/index.html>
 - 第3回：大田区景観計画
https://www.city.ota.tokyo.jp/kuseijoho/ota_plan/kobetsu_plan/sumai_machinami/keikan/keikankeikaku.html
 - 第4回：横須賀市土地利用調整審議会
<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4805/tokei/chosei/chosei.html>
 - 第5回、第6回：横浜市地域まちづくり
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/>
 - 第7回：授業の事前に知らせる
 - 第8回：川崎市「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」
<http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000097375.html>
 - 第9回：港区住宅基本計画
<https://www.city.minato.tokyo.jp/jutakuseisaku/kankyo-machi/sumai/kekaku/3jutakuhon.html>
 - 第10回：川崎市カッパーク鷺沼
<http://www.city.kawasaki.jp/miyamae/category/117-10-2-5-0-0-0-0-0-0.html>
 - 第11回：墨田区寺島・玉ノ井まちづくり協議会/玉ノ井カフェ
<https://www.facebook.com/teratama/>
 - 第12回：新宿区落合三世代交流サロン
https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file03_04_00001.html
 - 第13回：江戸川総合人生大学
<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

【参考書】

- ・都市のイメージケヴィン リンチ 岩波書店 新装版 (2007/5/29)
- ・都市計画とまちづくりがわかる本 彰国社 (2017/7/1)
- ・縮充する日本「参加」が創り出す人口減少社会の希望 山崎亮 PHP 新書 (2016/11/16)
- ・BIOCITY 〈2018 No.74〉特集エコロジカル・デモクラシーのデザイン ブックエンド (2018/4/1)

・新・公民連携最前線PPP まちづくり <https://project.nikkeibp.co.jp/ppp/>
・COLOCAL リノベのスズメ <https://colocal.jp/category/topics/lifestyle/renovation>

【成績評価の方法と基準】

レポート（40%）、授業の感想の提出（30%）、授業での意見の発表（30%）

【学生の意見等からの気づき】

他の学生の意見が聞ける質問の時間を設け、様々な視点から問題を捉えることができたことが好評だったので、質問時間を充実させるとともに、評価の項目に加えた。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

● Course outline

① Urban design involves a collaborative effort where diverse individuals come together to design and realize cities. This lecture will explore the significance and process of "participation and collaboration" through real-world examples.

② It will investigate the mindset and methods for citizens to actively engage and take ownership in urban environments.

③ The course aims to understand the backgrounds and values of those involved in urban design and to develop one's own set of values.

● Learning Objectives

① Learn about the motivations, processes, and methods of evaluating urban design, enhancing insight into urban environments.

② Acquire specific ways to engage in urban design, raising awareness of one's role as a member of the urban community.

③ Deeply understand the background and values behind urban design, establishing criteria for evaluating cities based on these insights.

● Learning activities outside of classroom

You are expected to prepare and review the materials introduced in each lecture.

You are expected to understand the outline of each case in advance by referring to the Internet.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

● Grading Criteria /Policy

Report (40%), submission of class impressions (30%), presentation of opinions in class (30%)

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論 I

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を紹介する。環境社会学では、「地域住民や市民がどう環境問題の解決にかかわるか」ということが、重要な論点の一つとなってきた。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、解決のために必要な行動について学ぶ。

【到達目標】

日本の環境問題・環境政策の歴史を説明できるようになる。環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴を指摘できるようになる。解決のために必要な行動を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の歴史を、産業公害期（～1970年代）、都市・生活型公害期（1970年代～1980年代）、地球環境問題期（1990年代～）に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義とタイプ、環境社会学のアプローチ、住民・市民のかかわりについて学ぶ。
第2回	産業公害期①	戦後から1970年代までの産業公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	産業公害期②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造論について学ぶ。
第4回	産業公害期③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏論について学ぶ。
第5回	都市・生活型公害期①	1970年代から80年代までの都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第6回	都市・生活型公害期②	自動車排気ガス規制と技術革新を事例に、生産の踏み車論とエコロジーの近代化論について学ぶ。
第7回	都市・生活型公害期③	自然資源管理を事例に、コモングの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。
第8回	都市・生活型公害期④	森は海の恋人運動を事例に、集合行為、環境運動について学ぶ。
第9回	地球環境問題期①	1990年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。

第10回	地球環境問題期②	市民風車の取組みを事例に、環境NGO・NPOの役割と課題を学ぶ。
第11回	地球環境問題期③	ブラックバス問題を事例に、環境問題の構築主義について学ぶ。
第12回	地球環境問題期④	長良川河口堰問題を事例に、河川政策の展開について学ぶ。
第13回	地球環境問題期⑤	河川法改正を事例に、住民参加の意義、ローカルな知の役割について学ぶ。
第14回	地球環境問題期⑥／まとめ	自然再生事業を事例に、順応的ガバナンスについて学ぶ。環境問題解決への住民・市民のかかわりという観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったため、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will introduce the theories of environmental sociology, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on how residents and citizens are engaged in the process of environmental problems, which is one of the most important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and actions to solve them based on the theories of environmental sociology.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the history of environmental problems and policies in Japan.

- To point out the characteristics of environmental problems based on the theories of environmental sociology.

- To propose actions for solving environmental problems.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers or assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論Ⅱ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直交流について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。
第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フーコーの権力論について学ぶ。

第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

坂本治也編、2017、『市民社会論』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is not the government or business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.

- To propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers or assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論Ⅲ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代社会の環境問題を概観しながら、関連する環境社会学の研究動向を紹介する。とくに生物多様性と地球温暖化の2つをテーマとして、また環境問題解決での「多様な主体による連携」を中心的な論点とする。それらを通じて、今日的な環境問題解決のあり方を検討するとともに、問題解決に向けた課題を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題の特徴を説明できるようになる。今日的な環境問題解決のあり方を提案できるようになる。問題解決に向けた課題を整理できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、現代社会の環境問題を生物多様性と地球温暖化に大別したうえで、関連する環境社会学の研究動向を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、生物多様性、地球温暖化の問題の特徴、多様な主体の連携による問題解決について学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史について、それぞれの時期の問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	生物多様性①	生物多様性の概念と4つの危機、昆明・モンリオール枠組までの対策の展開について学ぶ。
第4回	生物多様性②	白神山地の保全を事例に森林政策の展開と、里山保全について学ぶ。
第5回	生物多様性③	東京湾三番瀬、名古屋港藤前干潟などを事例に干潟保全の展開と、藻場保全活動について学ぶ。
第6回	生物多様性④	佐渡のトキ認証米を事例に、環境保全型農業の展開と環境アイコンの役割について学ぶ。
第7回	生物多様性⑤	環境保全米を事例に農業協同組合（農協）の事業と、農政のグリーン化の動向を学ぶ。
第8回	生物多様性⑥	獣害対策を事例に、コミュニティ・ビジネスの視点と、内発的発展論について学ぶ。
第9回	地球温暖化①	温暖化対策とエネルギー政策との関係、原子力政策の歴史について学ぶ。

第10回	地球温暖化②	温暖化対策の展開と、再生可能エネルギーの促進、パリ協定以降の流れを学ぶ。
第11回	地球温暖化③	海外の原子力政策と、再生可能エネルギーの促進、エネルギー協同組合の取組みについて学ぶ。
第12回	地球温暖化④	日本の太陽光発電、風力発電をめぐる地域トラブル、環境正義の視点について学ぶ。
第13回	地球温暖化⑤	環境経営とESG投資の展開、気候変動に関する情報開示枠組とNGOの役割について学ぶ。
第14回	地球温暖化⑥／まとめ	自然関連情報開示の流れ、グリーンウォッシュの課題について学ぶ。 今日的な環境問題解決における多様な主体の連携という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+定期試験（70%）、を想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったため、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will review environmental problems in contemporary society and introduce related research trends in environmental sociology. In particular, biodiversity and global warming are the two main themes, and partnership among various actors in the process of environmental problems is one of the most important points of discussion. Students will learn contemporary ways and issues of solving environmental problems

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the characteristics of environmental problems in contemporary society.
- To propose contemporary ways of solving environmental problems.
- To identify issues for solving environmental problems.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers or assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

労働環境論 I

櫻井 洋介

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、雇用や労働に関する基本的な知識の習得を目指します。企業等に就職した後、昇進や転職等を通じてキャリアを形成し、退職や定年等でキャリアを終えるまでのライフステージの変遷に沿って、時事的事象も紹介しながら、現代における雇用現場の変化や課題を学んでいきます。

【到達目標】

労働者・職業人として自らの意思でキャリアを形成していくための基本的な知識を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とします。講義では、採用から労働条件決定における基本的なルール、多様な働き方に関する制度や雇用・労働分野の現代的課題等、労働環境に関する様々なトピックを取り上げます。基礎的な法律や制度の解説のみならず、ニュース記事や時事的なトピックを取り上げることで、現代の労働環境において実際に起きている諸課題への理解を深めていきます。

授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論概要	本講義の概要と目的 (何を学ぶのか、何故学ぶのか) について考える。
第2回	企業の募集・採用と就職活動	募集や採用に関する諸制度について概観するとともに、現代社会における学生の就職活動に関する問題について考える。
第3回	賃金に関する諸課題	賃金に関する日本の諸制度の概要と諸外国の賃金システムとの異同、近年の動向や変化等を学ぶ。
第4回	労働時間管理とワークライフバランス	労働時間管理の基礎を学ぶとともに、労働時間に関する諸外国との比較や日本の特色、近年の動向や変化等を学ぶ。
第5回	多様な働き方とキャリア形成①	諸外国との比較を踏まえた日本における多様な働き方に関する基本的な制度と、それらが企業においてどのように活用されているかを学ぶ。
第6回	多様な働き方とキャリア形成②	多様な働き方に関する現代のトレンドやキャリア観の変遷等について考える。
第7回	ジェンダー平等	女性活躍推進法やLGBTQ等、ジェンダーダイバーシティの基礎について学ぶ。
第8回	雇用における平等原則 (年齢・国籍・障害等)	雇用における平等原則や雇用差別の禁止、各種の法令 (障害者雇用促進法等) について学ぶ。

第9回	非典型雇用 (派遣・パート・ギグワーカー等)	非典型雇用の現状や制度的な変遷等をたどり、問題点を考える。
第10回	労働安全衛生とメンタルヘルス・ハラスメント	労働安全衛生の基礎知識を学ぶとともに、職場のメンタルヘルスやハラスメント等の問題を取り上げる。
第11回	労働組合の役割と意義	労働組合の役割や意義について学ぶ。
第12回	労働契約の終了 (解雇・定年・再就職)	解雇規制や定年制、退職後雇用等について、人口動態やキャリア観の変化に伴う課題を考える。
第13回	労働環境における現代的課題 (DX・AI・人的資本投資等)	DX・AI・人的資本投資等といった、現代社会の労働環境における諸課題を考える。
第14回	まとめ：日本における労働環境の現在と未来	これまでの講義で取り扱ってきた日本の現代的な雇用システムを総括しつつ、今後の展望等を考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から参考書や新聞記事等を読んで理解を深めること。②インターンシップやアルバイトなど、仕事や企業と接する機会を通じて、講義で学習した議論や理論をもとに、仕事と雇用をめぐる実態や課題を考え、授業での学習内容について理解を深めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

自主学習用の教材として、①浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第9版』(有斐閣アルマ、2023年)、②小川慎一・山田信行・今野美奈子・山下充『働くこと』を社会学する 産業・労働社会学』(有斐閣アルマ、2015)を挙げておきます。①は労働法の学習用に、②は日本の労働環境における諸課題の学習用に使用して下さい。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (80%) により、講義内で学習した論点等についての理解度や問題認識の深さ等を評価するとともに、平常点 (20%、出席を含む) を加味して総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

担当教員は実務家教員 (現役のサステナビリティコンサルタント) であり、企業や官公庁向けのコンサルティング業務にも従事しています。本講義では、それらの経験を踏まえて具体的な事例を交えながら講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture aims to acquire basic knowledge of employment and labor laws. The lecture will introduce the latest issues and changes in the employment field in the modern society, following the transition of life stages from entering a company and developing your career through promotions and job changes, to ending your career.

【Learning Objectives】

Students will acquire the basic knowledge for developing their own careers independently.

【Learning activities outside of classroom】

(1) Deepen students' understanding of the themes and issues studied in lectures by reading reference books, newspaper articles, etc. on a daily basis. (2) Deepen students' understanding of the contents studied in lectures by considering the actual conditions and issues surrounding work and employment through internships, part-time jobs, and other opportunities. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The final report (80%) will be used to evaluate the level of understanding and depth of awareness of the issues studied in the lecture, as well as the overall evaluation by taking into account the usual performance score (20%, including attendance).

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

労働環境論Ⅱ

櫻井 洋介

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をベースとしつつ、特に、現代社会において企業に求められるサステナビリティ経営の観点から、雇用や労働に関する諸課題を深掘します。企業経営における「人的資本投資」や「人権尊重」の重要性、「労働CSR」の意義・役割等について学ぶとともに、企業の実践事例を通じてその理解を深め、サステナビリティの視点から労働環境の今日的課題をとらえるための知識の習得を目指します。

【到達目標】

サステナビリティ経営の観点から、現代の企業に求められる雇用や労働に関する取り組みの全体像を知識として習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とします。講義では、日本の雇用慣行やキャリア観の変遷、それに伴い企業に対して求められる取り組み等について取り上げていきます。必要に応じて、企業関係者等をゲストスピーカーとして招聘することも検討します。ゲストスピーカーが講演した回は、リアクションペーパーの提出を求めます。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論の概要	労働環境論Ⅰの内容を概括するとともに、本講義の目的やゴールを共有する。
第2回	日本の雇用慣行の特色と変化	職務非限定型の雇用 (いわゆるメンバーシップ型雇用) や年功序列型賃金制度といった日本の雇用慣行が、現代社会においてどのように変化しつつあるかを学ぶ。
第3回	キャリア観の変遷と求められる人材像の変化	学生の就職観やキャリア観の変遷に伴い、労働市場がどのように変わってきたか、当該変化に対して企業がどのように対応してきたかについて学ぶ。
第4回	ポストコロナ時代の働き方	コロナ禍において、テレワークの導入等、ニューノーマルの働き方が浸透した一方で、一部には揺り戻しの動きもある中、コロナ前後で働き方がどのように変わったのかを学ぶ。
第5回	労働時間に関する現代的課題	長時間労働の規制強化の流れや柔軟な勤務制度の導入等、現代における労働時間の諸課題を学ぶ。
第6回	DE&I (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)経営	企業に求められるDE&Iとは何か、それぞれの定義やメリット、取組事例等を学ぶとともに、ジェンダー平等や性的マイノリティの問題について考える。

第7回	日本における障害者雇用制度と障害を持つ労働者の権利	障害者差別解消法や障害者雇用促進法において、企業に求められる合理的配慮等について学ぶ。
第8回	外国人労働者に関する問題	現在、見直しが進んでいる技能実習制度や特定技能制度等、外国人労働者の受入に伴う諸課題を学ぶ。
第9回	「ビジネスと人権」 - 企業に要請される人権尊重の経営	サステナビリティ経営の観点から企業に求められる人権尊重の責任について学ぶ。
第10回	グローバルサプライチェーン上の労働課題	サプライチェーン上に存在する人権・労働問題に対して、企業がどのように取り組みを進めているかを具体例を通じて学ぶ。
第11回	健康経営とウェルビーイング	健康経営の重要性やメリット等について具体例を交えて理解を深めるとともに、近年注目されているウェルビーイングの概念について学ぶ。
第12回	無形資産としての「人材」の重要性と人的資本経営	人材版伊藤レポートや人的資本可視化方針等の策定により人材価値の重要性が見直される中で、企業に問われる人材戦略や情報開示について学ぶ。
第13回	新しい技術の発展と労働環境への影響	AIによって奪われる仕事があると言われる一方で、DXの推進は少子高齢化へのソリューションとなり得るとされている等、新しい技術の導入が労働環境に与える影響や功罪について考える。
第14回	まとめ：サステナビリティ経営からみた労働環境	これまでの講義内容を概観し、今後の労働環境について学生とともに考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業は、労働環境論Ⅰを受講済であることを前提に進めますので、事前の学習と事後の復習を必須とします。毎回、取り扱うテーマが異なるので、次回講義までに予習として目を通しておいていただきたい資料等は、講義の中で都度ご紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

労働環境論Ⅰで紹介した参考書の他、①濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か: 正社員体制の矛盾と転機』(岩波書店, 2021)、②櫻井洋介『人権尊重の経営 SDGs時代の新たなリスクへの対応』(日本経済新聞出版, 2022)を挙げておきます。各テーマごとの参考文献や参考図書は、個別に講義の中でお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (80%) により、講義内で学習した論点等についての理解度や問題認識の深さ等を評価するとともに、平常点 (20%、出席を含む) を加味して総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

担当教員は実務家教員 (現役のサステナビリティコンサルタント) であり、「ビジネスと人権」や「労働CSR」、「サプライチェーン上の労働問題」等を専門に企業や官公庁向けのコンサルティング業務に従事しています。それらの経験を踏まえて、「サステナビリティ×労働」の視点から、具体的な企業事例を交えながら講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on the content learned in Working Conditions I, the program aims to deepen various issues related to employment, especially from the perspective of sustainable management required of companies in modern society. Students learn about the importance of "human capital investment" and "respect for human rights" for corporate management and labor issues in CSR and deepen their understanding of these issues through practical examples from companies, aiming to acquire knowledge to understand today's labor environment issues from the perspective of sustainability.

【Learning Objectives】

To acquire knowledge of the overall employment and labor initiatives required of modern companies from the perspective of sustainability management.

【Learning activities outside of classroom】

The lecture will proceed on the assumption that students have already taken "Working Conditions I," so preparation and review for the lecture will be required. Since the topics covered in each class are different, materials that you should read through in preparation for the next class will be introduced in each class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The final report (80%) will be used to evaluate the level of understanding and depth of awareness of the issues studied in the lecture, as well as the overall evaluation by taking into account the usual performance score (20%, including attendance).

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

NGO活動論

小野 行雄

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環コア：G

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界が直面する問題を理解し、NGOの活動する場と方法を確認した上で、日本のNGO、国際NGO、「途上国」NGO等の現状を把握し、市民社会におけるNGOの役割、市民としての自分の役割について考える。

【到達目標】

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。

毎回授業後は学習システムを利用してふりかえりレポートを提出することを必須とする。次の授業では、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション NGOの基礎	グループづくりワークショップ NGOとNPOについて講義
第2回	市民社会1	社会における市民社会の位置と役割に関するワークショップと講義
第3回	NGOの支援方法	インド山岳民族支援をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」
第4回	開発と近代	インド山岳民族支援をめぐる介入と近代化についてグループ討議
第5回	NGOケーススタディ1	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するワークショップ「ミッション・チョコレート」
第6回	NGOケーススタディ2	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するグループ討議
第7回	NGOの資金	フィリピン支援事例についてシミュレーションワークショップとグループ討議
第8回	市民社会2	ボランティアと寄付について講義とグループ討議
第9回	日本のNGO1	日本NGO史について講義と日本のNGOについてのグループ調査

第10回	日本のNGO2	日本NGOについてグループ調査発表と講義
第11回	世界のNGO1	世界NGO史について講義と世界のNGOについてのグループ調査
第12回	世界のNGO2	世界のNGOについてのグループ調査発表と講義
第13回	ゲスト講義	NGOで活動してきた方をゲストに迎えて講義と討論
第14回	NGOの役割	NGOの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。ふりかえりシートを重視するので、自身のそれまでの知識・経験を学んだことと結びつけたていねいなふりかえりを時間をかけて行い学習システムにて提出すること
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。
ふりかえりシートによるレポート80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

ふりかえりシート作成にあたり毎回ポイントを提示する

【学生が準備すべき機器他】

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートホン持参が必須となる。

【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 Understanding modern issues of the world and situations of NGOs. Thinking of roles of NGOs and our own in the civil society, and developing the positive attitude toward the participation.
【到達目標 (Learning Objectives)】

- 1 To understand modern issues of the world and the their relations.
- 2 To understand the past and present of the NGOs and civil society and acquire broad view of the world citizens.
- 3 To acquire a strong sense of citizenship and positive attitude to get involved in the society.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content.
Prepare the class by skimming through the materials provided.
After the class, take time to write a reflection paper. Try relating what you learned in the class to your previous knowledge and experiences.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Active participation to the class and thoughtful reflection is important.
Reflection report after every class 80%
Term-end report 20%

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

ローカルスタディーズ I

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：サマーセッション/Summer Session | 曜日・

時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「農山村（中山間地域）」の現状と課題について考える。

【到達目標】

「農山村（中山間地域）」の現状や課題を理解するだけでなく、その問題解決策まで考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式で進め、「地域」を「農山村（中山間地域）」に絞り、その仕組みや根幹の産業である農林業、そして農山村の集落の現状と課題について理解する。テキストとして、①日本村落研究会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）、②日本村落研究会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）、③小田切徳美『新しい地域をつくる：持続的農村発展論』（岩波書店、2022年）を使い、毎回1～2章分を受講生に発表をしてもらい、その解説と説明をしたうえで、全員で討論を行う。毎回授業後には、授業内容を踏まえた課題を課し、そのレポートを次回の授業までに提出してもらう。次回の授業、または学習支援システムにおいて課題への解答からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。ゼミ形式を導入するため受講者の定員を30名程度とする。もし受講希望者が定員超過する場合は、第1回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第2回	テキストの輪読・発表・討論（1）	『むらの社会を研究する』の「村落空間」をとりあげる。
第3回	テキストの輪読・発表・討論（2）	『むらの社会を研究する』の「都市化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「むらにとっての資源とは」をとりあげる。
第4回	テキストの輪読・発表・討論（3）	『むらの社会を研究する』の「農業の近代化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「集団的土地利用」をとりあげる。
第5回	テキストの輪読・発表・討論（4）	『むらの社会を研究する』の「過疎化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「水をめぐる排除と協同」をとりあげる。
第6回	テキストの輪読・発表・討論（5）	『むらの社会を研究する』の「縮小化する世帯・家族と家の変化」、『むらの資源を研究する』の「森林問題と林野資源の可能性」をとりあげる。

第7回	テキストの輪読・発表・討論（6）	『むらの社会を研究する』の「今、農村家族の問題は何か」、『むらの資源を研究する』の「日本における農政の変遷と地域政策」をとりあげる。
第8回	テキストの輪読・発表・討論（7）	『むらの社会を研究する』の「農山村の開発に伴う環境破壊」、『むらの資源を研究する』の「農業技術と自然」をとりあげる。
第9回	テキストの輪読・発表・討論（8）	『むらの社会を研究する』の「自然環境と歴史環境の保全活動」、『むらの資源を研究する』の「近代農法の成果と限界」をとりあげる。
第10回	テキストの輪読・発表・討論（9）	『むらの社会を研究する』の「農村女性とパートナーシップ」、『むらの資源を研究する』の「有機農業をめぐるむらのコンフリクト」をとりあげる。
第11回	テキストの輪読・発表・討論（10）	『むらの社会を研究する』の「担い手としての高齢者」、『むらの資源を研究する』の「農村の多面的価値を『引き出す』ツーリズムを目指して」をとりあげる。
第12回	テキストの輪読・発表・討論（11）	『むらの社会を研究する』の「限界集落論からみた集落の変動と山村の再生」、『むらの資源を研究する』の「農業共同化の背景と生産組織の展開」をとりあげる。
第13回	テキストの輪読・発表・討論（12）	『むらの社会を研究する』の「農業者として生きる都市住民の転身」、『むらの資源を研究する』の「農の経営から地域経営へ」をとりあげる。
第14回	テキストの輪読・発表・討論（13）	『むらの社会を研究する』の「定年帰農と新たな農村コミュニティの形成」、『むらの資源を研究する』の「農村女性起業とエンパワメント」をとりあげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は授業内容について復習しておくこと。また次回の授業で扱うテキストも読んで、予習しておくこと。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ①日本村落研究会編 2007『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』農山漁村文化協会。
- ②日本村落研究会編 2007『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』農山漁村文化協会。
- ③小田切徳美 2022『新しい地域をつくる：持続的農村発展論』岩波書店。

上記のうち絶版となっているテキストについては、授業で扱う部分のみ、学習支援システムにおいて配布する。

【参考書】

授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（発表内容・討論への参加姿勢・授業後の課題レポートなど）を80％として評価する。さらに学期末に課すレポートを20％として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ形式で授業を進めるため、なるべく多くの履修学生の意見に耳を傾けたいと考えている。

【その他の重要事項】

受講者が30名程度を超過する場合、初回授業にて選抜する。

【Outline (in English)】

This class engages with studies on the current situation and challenges of rural areas. The goal of the lesson is not only to understand the current situation and issues in rural areas, but also to think about solutions to those problems. The standard time for preparation and review of classes is two hours each. Regarding the method and criteria for grade evaluation, the content of the report submitted at the end of the semester will be evaluated as 20%, and the content of the reaction paper imposed after class will be evaluated as 80%.

SOS300HA (その他の社会科学 / Social science 300)

ローカルスタディーズⅡ

坂本 昭夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

悪化する海洋環境、地球環境。その原因を一つづつ解析し、現状の問題点を洗い出し、未来へきれいで豊かな地球、海洋を残すためのアイデアを引き出したいと思います。海洋漂着ゴミ、プラスチック、マイクロプラスチック、干潟や海藻の役目、農業問題、日常生活に潜む環境汚染等。そして人体への影響等を解析。

【到達目標】

海洋に漂う無数のマイクロプラ。そのプラが生物に対してどのように影響しているのか、またどのように我々に影響するのか。そしてその結果、現在どうなっているのかを探り出します。海洋、ゴミ、プラスチック、可塑剤（添加剤）、農業等の問題点を探り、これからの時代、自分の未来環境をどう慮するかを勉強しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主にPPTを使用しDVD視聴等で進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。また動画配信にリアルタイムのディスカッションなどを組み合わせる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	海洋環境概論	現状の海の状態を把握
2	東京湾における生物	生物の状態、そして問題点を探ります。
3	海洋ゴミ問題①	現状に海洋ゴミに関し探ります。『概要』
4	海洋ゴミ問題②	講義3に続き、海洋ゴミ問題に関しますが、深く掘り下げデータ共有いたします。
5	震災ゴミ	2011年東北震災における漂着ゴミに関し探ります。
6	プラスチック	プラスチックとは？を探ります。
7	マイクロプラスチック	5mm以下に小さくなったプラスチックの現状を探ります。
8	海洋温暖化に伴う赤潮、青潮発生メカニズム	赤潮、青潮発生に関するメカニズムを探ります。
9	海草 アマモ	海草の役目と海洋環境改善策を探ります。
10	海洋ゴミ	海洋ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には『ゴミ特番』を視聴します。
11	河川ゴミ	河川ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には市民団体の1年の活動を振り返ります。
12	海藻 ワカメ	海藻 その役目と海洋環境改善策を探ります。

13	農業	農業がどのように地球環境、生物環境を破壊しているかを探ります。
14	総括	1～13までの総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『授業前・授業後に各2時間ずつ』復習に関しては、講義内で使用したPPT等を参考の上、改めて見直しする必要があり、最後のレポート提出には、各講義における見直しは不可欠と判断いたします。ただし講義毎に講義テーマが変わり、多岐にわたる内容から講義一つ一つをすべて完全理解することはかなり難しいと判断しております。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

ありません。

【成績評価の方法と基準】

13回目の講義において、レポート課題を発表し、最終講義（第14回）にレポートを回収し評価といたします。成績評価はこのレポートのみ。レポートで100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

ありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、海洋環境改善活動を40年以上行ってきた経験があり、他校においても講師の経験を保有している。

平成24年（2012年）長年にわたり社会に奉仕する活動に授与される緑綬褒章を受章している。

平成20年（2008年）～平成23年（2011年） 横浜国立大学教育学部付属横浜小学校「海洋環境教育」臨時講師

平成25年（2014年）～平成26年（2015年）&平成28年（2017年）横浜国立大学教育人間科学部「理科教育講座」兼任講師

【Outline (in English)】

Deteriorating marine environment, global environment. I would like to analyze the causes one by one, identify the current problems, and draw out ideas for leaving a clean and affluent earth and ocean for the future. Analyzes marine debris, plastics, microplastics, the role of tidal flats and seaweed, pesticide problems, environmental pollution hidden in daily life, and the effects on the human body. (Learning Objectives) Countless micro plastics floating in the ocean.

How the plastic affects living things

How will it affect us?

And as a result, we will find out what is happening now. Explore the problems of marine debris, garbage, plastics, plasticizers (additives), pesticides, etc., and learn how to think about your future environment in the future. (Learning activities outside of classroom) Regarding the review of "2 hours each before and after class", it is necessary to review it again with reference to the PPT etc. used in the lecture, and it was judged that the review in each lecture is indispensable for the final report submission. increase. However, the theme of the lecture changes from lecture to lecture, and we judge that it is quite difficult to fully understand each lecture from a wide variety of contents. (Grading Criteria/Policy) In the 13th lecture, the report assignment will be announced, and the report will be collected and evaluated in the final lecture (14th). Grade evaluation is only for this report. 100% rated in the report

SSS300HA (社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300)

災害政策論

中川 和之

配当年次／単位：2～4年／2単位
 開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5
 備考（履修条件等）：環コア：口
 その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、法制度以前の自然環境を利用するための約束事や、災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】

①災害とは何かを、事例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③非日常を前提には生きていない人々の暮らしと、今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回リアクションペーパーとして学習支援システムに記入する。次の授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進める。1回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。教室の対面でも密を避けるためにZoomも利用する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？ 災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。

第2回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科1	地球の46億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。
第3回	身近な景観と災害＝理科2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホやpad、PCなどで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。GW期間中に取り組む、地元土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。
第4回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と1995年の阪神大震災の直前までを取り上げる。
第5回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。
第6回	3つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういった備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。

第7回	東日本大震災後の災害政策の今=これからの備え=「己」がどこまで分かった政策なのかを考える	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家はどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。	第12回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。
第8回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	第13回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持続するのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ること、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第9回	近年の地震災害から、課題を考える	2024年能登半島地震、令和4年福島県沖の地震、2019年山形県沖地震、2018年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016年熊本地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2度の震度7に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	第14回	試験レポート	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホやPC、何でも持ち込んでOK。
第10回	近年の風水害から、課題を考える	令和4年台風第8号、令和2年7月豪雨、2020年7月豪雨や台風10号、2019年台風15号や19号（東日本台風）、2018年西日本豪雨や台風21号、2017年九州北部豪雨や2016年台風10号、2015年9月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、学習支援システムも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。
第11回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNSなどの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。			【テキスト（教科書）】 授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、学習支援システムに掲載する。 【参考書】 授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。 【成績評価の方法と基準】 平常評価（学習支援システムでのテスト・アンケートを使ったリアベで授業内容の理解を評価）40%、授業中の課題ワークシート・レポート評価20%、期末試験（試験レポート）評価40%。 【学生の意見等からの気づき】 災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、学生同士でのディスカッションの時間をもちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。 【学生が準備すべき機器他】 学習支援システムの利用は必須。講義室でPCやスマホを使って、その場でリアクションペーパーの提出を求める。試験課題なども学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

試験レポートの作成時には、時間内であればどのような資料を参考に書いても良い。

【実務経験のある教員による授業】

通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。2005年から2011年まで主に自治体の防災施策を支援するメディアの「防災リスクマネジメントWeb」編集長。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与した以降、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組む。現在は内閣府の「TEAM防災ジャパン」のアドバイザー。子どもたちと地震や火山を学ぶワークキャンプを、地震学会として20世紀から実践。災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

- 1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
- 2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.
- 3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.

【Learning Objectives】

1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.
2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.
To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.
4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.

【Grading Criteria /Policy】

Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

社会開発論

新村 恵美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環コア：グ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。開発、国際協力分野における社会的側面の重要性はSDGsの随所に見られる。しかし、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。本科目では、SDGsを意識しつつ、世界の現状、社会開発の枠組みを学び、先進国の私たちの役割を考察する。

【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

- 1、SDGsに関連づけながら、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
- 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
- 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。第1に、社会開発の概要として、様々な理論や国連・政府の枠組みから社会開発を概観する。第2に、社会開発で取り上げられる課題を分野別に理解し、最後に社会開発とそれによる社会変容の事例を取り上げて検討する。各回で、SDGsの関連する目標に照らし合わせ、それぞれの指標も確認する。授業計画の内容欄に、該当するSDGsの目標番号【 】で記す。学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入 社会開発の概要1 定義と背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。【SDGs全体】
第2回	社会開発の概要2 国連とSDGs	国連のSDGsの枠組み、内容と指標を概観する。【SDGs全体】
第3回	社会開発の概要3 国連と人間開発	国連の「人間開発」の概念を学び、人間開発指数(HDI)、ジェンダー開発指数(GDI)などの主な国際指標を理解する。【SDGs 目標1, 2, 3, 4 & 5】
第4回	社会開発の概要4 日本政府による社会開発	社会開発を行う主体としての、国際機関、各国政府の活動について概観する。【SDGs 目標17】
第5回	社会開発の概要5 市民、NGO	NGOの活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。【SDGs 目標16】

第6回	社会開発の分野1 途上国の貧困	バングラデシュのストリートチルドレンの「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。【SDGs 目標1 & 11】
第7回	社会開発の分野2 日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECDやILOのデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。【SDGs 目標1】
第8回	社会開発の分野3 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差を体験し、考察する。【SDGs 目標10】
第9回	社会開発の分野4 フェアトレード	「不公正な」貿易は途上国において何をたらしているのか。ファストファッションを題材に考える。【SDGs 目標8 & 10】
第10回	社会開発の分野5 人口問題と国際協力	高齢社会においても途上国においてもそれぞれ喫緊の課題である人口問題の概観し検討する。【SDGs 目標3 & 5】
第11回	社会開発と社会変容1 教育・識字の役割	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることの意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。【SDGs 目標4】
第12回	【グループ発表】 課題レポートの発表	課題で取り組んだ内容について、グループに別れて話し合い、発表する。
第13回	社会開発と社会変容2 ネパールの債務労働者	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動とNGO等による社会開発の役割について考える。【SDGs 目標8】
第14回	期末のまとめ	全体の内容のまとめを行い、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習します。各回の配布資料に、テーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布します。授業内容が依拠する引用文献は、各回で配布する資料にリスト化します。

【参考書】

新村恵美（2023）「SDGsとは何か：起源と概要、達成状況」、佐藤龍三郎・松浦司編『SDGsの人口学』人口学ライブラリーNo.23、第2章。
佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者
高柳彰夫・大橋正明編（2018）「SDGsを学ぶ-国際開発・国際協力入門」法律文化社
南博・稲場雅紀（2020）「SDGs-危機の時代の羅針盤」、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：30%
期末試験：40%
毎回の授業での記述:30%

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当しています。SDGsに関連付けたことが、学びやすさにつながった、提出したレポートを互いに発表し合いコメントし合う機会が学びにつながったとのコメントがみられました。今後も履修学生との対話をとおして、授業を作ってゆきたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】

レポート提出などでパソコンを使用し、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to learn the theory and practice of social development.

It is structured as follows:

1. Students will review the definition and the history of social development, the theories that influenced social development, as well as the actors of social development such as government, international agencies, NGOs, etc.
2. Specific issues on social development are examined according to the Sustainable Development Goals (SDGs).
3. Several case studies are introduced so that students can discuss the practice of social development.

Students are expected to be cooperative and active during group discussions and presentations.

【Learning Objectives】

1. To acquire basic knowledge of the concept of social development;
2. To understand "poverty" not in terms of dichotomies, such as developing countries and developed countries, people concerned and supporters, and without othering people who are in different positions from oneself; and
3. Use your imagination to realize that social development is something that brings about human change.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on

1. Mid-term report(30%),
2. Final exam(40%), and
3. submission of feedback paper in each class(30%).

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

開発教育

福田 紀子

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：主催：キャリアデザイン

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化(開発)に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準/Sphere Standards)のテキストやHuman Rights Based Developmentの研修素材を通して、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した人権尊重の基本的な概念を理解し、どのように伝えようとしているのかをテキストとアクティビティからとらえます。そして、自分たちの社会にある人権問題への理解と関与につなぐ力をつけることを目指します。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材から、ジェンダーをはじめとする脆弱性の理解、パワーの所在、気付きにくい差別、参加とエンパワーメントなど市民社会と人権に関わるに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、社会の公正な運営方法に必要な思考と行動のスキルを自分と社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワーメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。

授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートの中からも、議論を展開したり、関連情報について取り上げていきます。その中のディスカッション、フィードバックは日本語で行います。課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Sphere Handbook as Humanitarian Standards and background	この授業の進め方 この授業の進め方、評価について。人道支援の国際基準から「人権」に基づく考え方、その背景を概説します。
2	Humanitarian Response with Rights Base Approach～ a case of the Shelter for affected people on Disaster	日本の避難所の場面から人権に基づく課題と対応を考えます

3	Humanitarian Response with Rights Base Approach～Core Humanitarian Standards/CHS flower & reality	CHS(人道支援の必須基準)の構成と内容
4	Humanitarian Response with Rights Base Approach～ Real Suation on NOTO Hanto Earthquake	現実の災害時の状況とスフィアについて (facilitation準備)
5	From Poverty To Dignity-a learning manual on human rights based development, introduction	From Poverty To Dignityの概説、構成 (facilitation準備)
6	From Poverty To Dignity Mod- ule2:Understanding Human Rights	ファシリテーション実践 /人権とその理解に必要な概念に触れます
7	From Poverty To Dignity Mod- ule3:Understanding Development	ファシリテーション実践 /開発・発展とは何かについて考えます
8	From Poverty To Dignity Module-Human Rights Based Approaches- Module4: Links to Human Rights Standards	ファシリテーション実践 /人権関連の国際合意について理解します
9	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module5: Links to Human Rights Obligations	ファシリテーション実践 /人権尊重社会をどう作るのかについて考えます
10	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module6:Accountability & Redress	ファシリテーション実践 /Accountability と刷新のための現代的なキーワード「暴力」「同意」他について考えます
11	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module7:Non- discrimination & Attention to Vulnerable Group	ファシリテーション実践 /脆弱性の理解に必要なパワーとエンパワーメント,Intersectionality,などについても考えます、
12	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module8:Participation	ファシリテーション実践 /参加、Citizenship、Advocacy等について考えます
13	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢と参加を阻害する要因について考えます

14	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context	日本における参加を阻害する文化価値観を超えるため変化の要因やアドボカシーについて考えます
----	--	--

②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ/パートナーとの発表の準備が必要となります。

国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心を持ち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

The Sphere Handbook

Sphere-Handbook-2018-EN.pdf

(参考) Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf

<https://wunrn.com/2009/01/poverty-to-dignity-learning-manual-on-human-rights-based-development/>

Microaggressions in Everyday Life /

Derald Wing Sue, Lisa Beth Spanierman

Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)

Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;

[http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/](http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf)

ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf

『2030年未来への選択』（西川潤）

『ワールドスタディーズ-教え方学び方ハンドブック』『参加型で考

える12のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）

『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート50%

翻訳課題、発表、成果（対面授業の場合模造紙作業、オンラインの場合の記録など）25%

最終レポート25%

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じる時もあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への関与を重視します。授業の進行によって分担の発表日を変更することもあります。

なお、担当教員は人道支援団体、参加型人権教育ファシリテーター、複数の自治体の男女共同参画センターを経て、現在スフィアトレーナーとして、また大阪西成区釜ヶ崎の支援団体の職員として活動するものです。様々な課題を抱える現場に共通して求められる「人権」「人権尊重」の実践力につながる学びについて取り組んでいます。

【Outline (in English)】

The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.

Students are expected to

read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation. Main text would be the Sphere Standards- Chapter of WHAT'S SPHERE & CORE HUMANITARIAN STANDARD, and FROM POVERTY TO DIGNITY, as a training manual. Students are required to read the distribution documents in the classroom, and prepare the group facilitation.

Grading Criteria:

Participation in class, the feedback sheet for each class 50%

Assigned Translation & Group Presentation/ Facilitation 25%

Final Report 25%

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

国際社会学

新藤 慶

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金1/Fri.1

備考（履修条件等）：環コア：コ、グ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本における在留外国人の現状と課題を、特に政策・教育・労働の観点から把握する。このことを通じて、国際社会学における主要テーマであるトランスナショナルな移動と定住の状況について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

本授業を通じて、在留外国人の移動と生活の実態を総合的な観点から理解することで、今日、世界的に生じているトランスナショナルな現象について理解し、自分なりに考察を進めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、資料に基づいた講義によって進める。ただし、リアクションペーパーに質問事項を記載してもらうことで、その質問に答えながら、受講生の関心に基づいた授業展開ができるよう心がける。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	移民という現象(1): 国際移民の時代	日本の在留外国人の概況について講義する。
第2回	移民という現象(2): 加速する国際移動	人々の国際移動に関する実態と理論的な知見について講義する。
第3回	外国人技能実習制度(1): 外国人技能実習制度の変遷と課題	外国人技能実習制度の変遷と課題について講義する。
第4回	外国人技能実習制度(2): 地域における技能実習制度の導入	水産加工業を中心に、技能実習生を受け入れた地域の実態について講義する。
第5回	オールドカマーの生活と課題(1): 在日朝鮮人社会の形成と展開	戦前・戦中・戦後の在日朝鮮人社会の展開について講義する。
第6回	オールドカマーの生活と課題(2): 在日朝鮮人教育の実態と課題	在日朝鮮人教育の実態と課題について講義する。
第7回	ニューカマーの生活と課題(1): ニューカマーの労働と生活	在日ブラジル人を中心に、ニューカマーの来日から現在の状況までについて講義する。
第8回	ニューカマーの生活と課題(2): ニューカマーの教育の実態と課題	在日ブラジル人を中心に、ニューカマーの子どもの教育について講義する。
第9回	地域社会と外国籍住民(1): 外国籍住民とコミュニティ実践	外国人集住地域の公営住宅を中心に、住民間の関わりについて講義する。
第10回	地域社会と外国籍住民(2): 外国籍住民に対する日本人住民の意識	ブラジル人集住地域における日本人住民の意識について講義する。

第11回	移民の統合と社会保障への影響(1): 移民統合の理念	ヨーロッパを中心に、移民統合の実態と理念について講義する。
第12回	移民の統合と社会保障への影響(2): 移民受け入れの社会保障への影響	移民受け入れによる社会保障制度への影響について講義する。
第13回	国民国家とシティズンシップの変容(1): 外国人住民とシティズンシップ	外国人住民とシティズンシップに関わる理論的な背景について講義する。
第14回	国民国家とシティズンシップの変容(2): 現代日本のシティズンシップ	日本におけるエスニック・マイノリティとシティズンシップの関係について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。まず、授業で紹介した文献等で学習を深めることが挙げられる。それに加えて、国際社会学が扱う対象は、現代社会のさまざまなところで見つけることができるため、普段から国際社会的な関心を持ちながら生活することも重要となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義資料を配布する。

【参考書】

宮島喬ほか編、2015、『国際社会学』有斐閣。
永吉希久子、2020、『移民と日本社会』中央公論新社。
永吉希久子編、2021、『日本の移民統合』明石書店。
額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子編、2019、『移民から教育を考える』ナカニシヤ出版。
小内透編、2009、『講座トランスナショナルな移動と定住』（全3巻）、御茶の水書房。

【成績評価の方法と基準】

論述試験（70%）+毎回のリアクションペーパー（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、写真や図のさらなる活用の要望が出されていたので改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業と、Zoom等を使ったオンライン授業を交互に行うので、そのための機器や接続環境を準備いただきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an understanding of the current situation and issues facing foreign residents in Japan, particularly from the perspectives of policy, education, and labor. The purpose of this course is to deepen the understanding of transnational migration and settlement, a major theme in international sociology.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To understand the reality of the movement and lifestyle of foreign residents from a comprehensive perspective.
- To understand the transnational phenomena occurring globally.
- To discuss transnational phenomena.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to prepare and review the materials distributed in each lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on term-end examination (70%) and reaction papers for each class (30%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

文化経営論

武田 知也

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考(履修条件等)：環コア文／主催：キャリアデザイン

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2020年2月26日、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から芸術文化事業は「不要不急」のものとして、スポーツイベントなどと共に開催や活動の自粛を政府から要請されました。一方で、芸術文化を希求する多くの人たちからも声があがり、これを機に日本社会における芸術文化の立ち位置が改めて可視化されたとも言えます。本授業では、この状況で起きたいくつかの事例を参照しながら日本における芸術文化の現在地を紐解くところからはじめ、芸術と社会の関わりを考察していきます。

【到達目標】

芸術文化を担う様々な主体(創り手・企業・行政・NPO等)の現状、取り組み事例、その背景や歴史を概観した上で、芸術と社会をつなぐマネジメント・プロデュースの視点から学修します。芸術そのもの、クリエイティブ産業、まちづくり、福祉、教育など芸術文化と学生自身の生活との多岐にわたる関わりに新たな気づきを獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面での講義とオンデマンドでの講義を予定しています。毎回リアクションペーパー(小レポート)の提出を求め、授業の理解度、社会的な問題意識や関心を把握しながら進行します。また、毎回の授業の際に、その前の回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。初回は授業概要の説明と意識調査を主としたアンケートを行います。前学期中のフィールドワーク課題も出します。具体的には、授業支援システム内で随時指示します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と進め方について説明する。
第2回	コロナ禍と芸術文化	新型コロナウイルスによって様々な影響を受けた芸術文化事業の状況を概観する
第3回	芸術文化と文化政策①	芸術文化と文化政策の関わりを知る。文化政策の成り立ち、歴史を概説。
第4回	芸術文化と文化政策②	オリンピックを軸として振興を目指してきた2020年までの最新の文化政策の動向を探る。
第5回	芸術文化と行政(地方自治体)	都市と芸術文化(創造都市)、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。
第6回	芸術文化と企業	産業としての芸術文化、また企業メセナを中心とした企業による芸術文化支援、関係を学ぶ。
第7回	フィールドワーク	公立セクターが主体となった芸術文化事業を自身の関心に応じて視察・見学します。

第8回	芸術文化とNPO、ソーシャルアクション	芸術文化を通じたNPOの多彩な活動を学ぶ
第9回	アーティストとは何か①	そもそもアーティストとは誰か? なにをする人たちなのか? アーティストという存在を作品映像等も鑑賞しながら考える
第10回	アーティストとは何か②	舞台芸術を中心とした多彩なアーティストの作品群を通して、社会との交わりを考察する
第11回	芸術文化とマネジメント・プロデュース①	マネジメント、プロデュースの実践について、舞台芸術を中心に知る
第12回	芸術文化とマネジメント・プロデュース②	マネジメント、プロデュースの実践について、他分野との協働事例を中心に知る
第13回	芸術文化とキャリア形成	講師自身のキャリアも含め、芸術文化と関わる多様なキャリア形成と課題を知る。
第14回	授業内試験	授業内試験を実施し、ここまでの学びを振り返る。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べたり、芸術文化事業(劇場、美術館、ライブ、フェスティバル等)の現場に足を運び、フィールド調査を行い、レポートにまとめてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しないが、授業中に資料の送付、読むべきリンク先の指示をします。

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

最終試験(70%)と授業内の小レポート(リアクションペーパー)、課題レポートなどの平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使用する資料から更に調査・研究に繋がる資料をなるべく多く提示したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット、授業システムへの登録

【その他の重要事項】

新卒時は法政大学からアートNPOに就職し、その後フェスティバル/トーキョー(国際舞台芸術祭)、ロームシアター京都(公立劇場)、さいたま国際芸術祭2020(国際芸術祭)などで企画・制作、キュレーターなどを担い、2021年に自身が代表を務める法人を設立し現在に至っています。

そのような経験を元に、現在の文化芸術を取り巻く状況と学生諸君の生活との接点を見出すような授業を展開できればと考えています。

【Outline (in English)】

On 26 February 2020, in order to prevent the spread of the new coronavirus, the Japanese government requested that arts and cultural activities, along with sporting events, be refrained from being held as "unnecessary". On the other hand, many people who are interested in art and culture have also voiced their opinions, and it can be said that this occasion has made the position of art and culture in Japanese society visible again. In this class, we will begin by unravelling the current state of arts and culture in Japan by referring to some of the cases that occurred in this situation, and examine the relationship between art and society. (Learning Objectives)

Students will study from the perspective of management and production that links the arts and society, based on an overview of the current status of the various actors (creators, companies, government, NPOs, etc.) responsible for arts and culture, examples of their initiatives, and their background and history. Students will gain new insights into the diverse relationships between arts and culture and their own lives, including the arts themselves, creative industries, community development, welfare, and education.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be asked to research the actual development of the case studies introduced in the class, visit the sites of arts and culture projects (theaters, museums, live performances, festivals, etc.), conduct field research, and summarize their findings in a report.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Comprehensive evaluation will be made based on the final examination (70%) and regular marks (30%) such as in-class small reports (reaction papers) and assignment reports.

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考(履修条件等)：定員制RSP優先

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。

・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。

・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。

・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。

・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。

・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。

・第14回：まとめの講義と、授業内試験(レポート)を行う。

*第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる(毎回提出のこと)。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての(また参加者としての)言動については、その都度フィードバックを行う。
*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する(講義)
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ(講義・演習)
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ(講義・演習)
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ(講義・演習)
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ(講義・演習)

6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ(講義・演習)
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ(講義・演習)
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ(講義・演習)
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ(講義・演習)
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約を学ぶ(講義・演習)
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ(講義・演習)
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ(講義・演習)
13	ファシリテーション実践	参加型の場(ワークショップ)の運営を体験する(演習)
14	まとめ	まとめ(講義)および授業内試験(レポート)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。(予習・復習各120分程度)

・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。(予習・復習各120分程度)

・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。(予習・復習各120分程度)

【テキスト(教科書)】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法(改訂版)』(2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8)。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』(岩波書店、2009年)
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』(日本経済新聞出版社、2016年)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題(各回の振り返りシート)の質と量(約60%)、レポート課題(授業内試験)(約20%)、発言や質問・演習など授業への参加度(約20%)から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システム(Hoppi)を使用します。

【その他の重要事項】

◎グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください(第1回授業はオンラインで実施します)。

◎上記の通り受講者数を限定する際には、社会人学生(含むRSP生)を優先的に受け入れます。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

SHS300HA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300)

科学技術社会論 I

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術と社会は相互に複雑に作用し、その相互作用からさまざまな社会問題が生じています。本講義では、そうした問題が生じる背景や原因について、具体例を取り上げながら、専門家と市民の両方の観点から考察できるようになることを目指します。それを通して、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方の基礎づくりを行います。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。

・科学技術がもたらす社会問題について、具体例を挙げながら説明できる。

・科学技術がもたらす社会問題について、専門家および市民の立場から考察できる。

・科学技術がもたらす社会問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッション（ケースメソッド学習）を行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第2回	ケースメソッド授業①	事例を通して、専門家としての意思決定を疑似体験し、そのあり方を考察します。
第3回	巨大技術システムがもたらす問題	スペースシャトル・チャレンジャー号事故を取り上げて、巨大技術システムがもたらす問題について説明します。
第4回	ケースメソッド学習②	事例を通して、先端技術がもたらす可能性のある問題について考察します。
第5回	ケースメソッド学習③	先端技術がもたらす可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。

第6回	ケースメソッド学習④	先端技術がもたらす可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第7回	科学技術社会における専門家の役割	専門家のあり方について、プロフェッション概念などをもとに説明します。
第8回	科学技術とリスク	具体例を取り上げながら、科学技術とリスクの問題について説明します。
第9回	科学技術社会における市民の役割	科学技術の発展と市民の役割について、具体例を取り上げながら考察します。
第10回	ケースメソッド学習⑤	事例を通して、企業が直面する可能性のある問題について考察します。
第11回	ケースメソッド学習⑥	企業が直面する可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。
第12回	ケースメソッド学習⑦	企業が直面する可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第13回	これからの科学技術と私たち	これからの科学技術について専門家と市民の協働の観点から考察します。
第14回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

金沢工業大学・科学技術応用倫理研究所編『科学技術者倫理：本質から考え行動する』白桃書房、2017年
 札幌順編著『新しい時代の技術者倫理』放送大学教育振興会、2015年
 小林傳司『誰が科学技術について考えるのか：コンセンサス会議という実験』名古屋大学出版会、2004年
 金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します（60%）。また、第14回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（40%）。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。詳しくは初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology and society interact with each other in a complex manner, and various social issues arise from this interaction. The aim of this course is to enable students to consider the background and causes of such issues from the perspectives of both experts and citizens, taking up specific examples. By doing so, students will build a foundation for thinking about how to deal with future social issues related to technology.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social issues brought about by technology, giving specific examples.
- Examine social issues brought about by technology from the perspective of experts and citizens.
- Think critically about the social issues that technology can bring about.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (40%) and in class contribution (60%).

SHS300HA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300)

科学技術社会論 II

金光 秀和

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会を生きる上で科学技術は不可欠の存在です。しかし、科学技術は常に新しい事態をもたらす、時にそれを振興すべきか規制すべきかといった意思決定を迫ります。本授業では、科学技術をめぐる社会的決定に参加する一市民あるいは専門家として、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方、態度、行動について具体例を通して学びます。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義+ディスカッション

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。

・科学技術がもたらす光と影について、具体例を挙げながら説明できる。

・科学技術がもたらす新しい事態について、批判的に思考できる。

・本授業で扱う事例について、自らの意思決定を他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第2回	科学技術と社会をめぐる諸理論	パラダイム論、社会構成主義、モード論などについて説明します。
第3回	「公害」から学ぶ	公害を取り上げながら、科学および科学者の役割などを考察します。
第4回	「遺伝子組み換え作物」から学ぶ	遺伝子組み換え作物を取り上げながら、フレーミングの問題などを考察します。
第5回	「BSE問題」から学ぶ	BSE問題を取り上げながら、専門家と市民の協働などを考察します。
第6回	「Winny事件」から学ぶ	Winny事件を取り上げながら、最先端技術と法の関係について考察します。

第7回	「地球温暖化」から学ぶ	地球温暖化を取り上げながら、通訳不可能性や合理性などについて考察します。
第8回	「動物実験」から学ぶ	動物実験を取り上げながら、二重基準や自然さからの議論などについて考察します。
第9回	「チャレンジャー号事故」から学ぶ	チャレンジャー号事故を取り上げながら、巨大技術システムの問題を考察します。
第10回	「モーゼスの橋」から学ぶ	モーゼスの橋の事例を取り上げながら、技術の政治性の問題を考察します。
第11回	事例分析に向けて	各自で実施する事例分析について、方法論やアプローチの仕方を説明します。
第12回	プレゼンテーション「事例分析」	各自で実施した事例分析について、クラス内で発表・議論します。
第13回	これからの科学技術と私たち	これからの科学技術にどのようにかかわるのかについて考察します。
第14回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しません。

【参考書】

藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東京大学出版会、2005年
伊勢田哲治 [ほか] 編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013年
藤垣裕子責任編集『科学技術社会論とは何か』(科学技術社会論の挑戦1) 東京大学出版会、2020年
平川秀幸『科学は誰のものか：社会の側から問い直す』(生活人新書) 日本放送出版協会、2010年
金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します (60%)。また、第14回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します (40%)。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。詳しくは初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology is an essential part of living in modern society. However, technology always bring new situations and sometimes force us to make decisions about whether to promote or regulate them. In this course, we will learn how to deal with future social problems related to science and technology as a citizen or an expert who participates in social decisions about science and technology through specific examples.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the light and shade brought about by technology, giving specific examples.
- Think critically about new situations brought about by technology.
- Explain your own decision-making to others regarding the cases covered in this course.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (40%) and in class contribution (60%).

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。

・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。

・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。

・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。

・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。

・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。

・第14回：まとめの講義と、授業内試験(レポート)を行う。

*第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる(毎回提出のこと)。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての(また参加者としての)言動については、その都度フィードバックを行う。
*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する(講義)
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ(講義・演習)
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ(講義・演習)
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ(講義・演習)
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ(講義・演習)

6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ(講義・演習)
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ(講義・演習)
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ(講義・演習)
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ(講義・演習)
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約を学ぶ(講義・演習)
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ(講義・演習)
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ(講義・演習)
13	ファシリテーション実践	参加型の場(ワークショップ)の運営を体験する(演習)
14	まとめ	まとめ(講義)および授業内試験(レポート)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。(予習・復習各120分程度)

・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。(予習・復習各120分程度)

・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。(予習・復習各120分程度)

【テキスト(教科書)】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法(改訂版)』(2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8)。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』(岩波書店、2009年)
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』(日本経済新聞出版社、2016年)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題(各回の振り返りシート)の質と量(約60%)、レポート課題(授業内試験)(約20%)、発言や質問・演習など授業への参加度(約20%)から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システム(Hoppi)を使用します。

【その他の重要事項】

グループでの話しあいを中心とした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください(第1回授業はオンラインで実施します)。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

西欧近代批判の思想

越部 良一

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、西欧の近代とその思想に、批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の目的は、西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること、これにより、西欧近代の影響を大きく受けている現代の日本社会を広く理解する視点を獲得することである。

【到達目標】

西欧近代批判として、この授業では主として2つの視点から学んでゆく。一つは、西欧の古典思想からの視点であり、もう一つは西欧近代思想自身からの視点である。これにより、西欧近代への批判を、人間を超えた存在（イデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判という方向で把握し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

まず、西洋思想の源泉であり、古典であって、近代西欧批判の視点を提供するものとして、古代ギリシャのプラトンの哲学と聖書（キリスト教）の思想を取り上げ、次に近代西洋の代表的思想として、功利主義、デカルト、ヘーゲルなどをみていく。そのうえで、そうした近代思想と批判的に対峙するものとして、キルケゴール、ニーチェなどの思想をみてゆきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	この講義の全体の概観、試験のやり方など
第2回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代とは何か
第3回	プラトンの思想 I	人間の魂の在り方と正義
第4回	プラトンの思想 II	様々な国家体制と民衆制（民主制）批判
第5回	聖書の思想	人の戒めを超える神の命令
第6回	功利主義の思想	最大多数の最大幸福
第7回	デカルトの思想	自然支配者としての人間
第8回	ヘーゲルの思想	人間理性は絶対者（神）である
第9回	マルクス主義	マルクス主義における人間中心主義
第10回	キルケゴール I	現代の批判（神を見失うことと主体性の喪失）
第11回	キルケゴール II	ヘーゲル哲学批判（人間精神は神でない）
第12回	ニーチェ I	「神は死んだ」（「ニヒリズム」としての近代西洋批判）
第13回	ニーチェ II	近代西洋の大衆化批判
第14回	授業のまとめ	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の著作（むろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%くらい）と期末の筆記試験（60%くらい）によって成績を評価する予定である。期末の筆記試験は教室で最終授業内に行う予定である。ただし、受講者数によっては定期試験期間内に行うかもしれない。6月下旬頃の授業でのアナウンスに注意してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているから、近現代の日本の思想状況と照らし合わせる視点を背景にしながら講義するつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the modern Western thought and the philosophical critique to it in the history of Western civilization. The aim of this course is to understand some of the modern Western thoughts and some of the philosophical critiques to them. It also enhances students' understanding of the modern Japanese society greatly influenced by the modern West.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

LIT200HA (文学 / Literature 200)

日本詩歌の伝統

日原 傳

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」を実作する機会も設ける予定である。実作の手助けになるように、なるべく多くの先人の名作を紹介し、鑑賞したい。

【到達目標】

- ・「俳句」の定型詩としての規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者には毎回俳句の実作を提出してもらい、提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

※第1回目の授業はオンラインで行ないます。

※第2回目以降は対面授業の予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	俳句の三要素 俳句形式の特質	俳句の約束事～定型・季語・切れ 俳句の片言性
第2回	季語の重層性	俳句のみなもと（和歌・連歌・俳諧）、俳諧の発句、季題と季語、歳時記の世界／実作（俳句）
第3回	切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第4回	座の文学 I	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第5回	座の文学 II	正岡子規の場合／実作（俳句）
第6回	子規の俳句革新	子規の生涯、子規山脈、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第7回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌・俳句）
第8回	俳句と川柳	俳句と川柳の違い／実作（俳句）
第9回	子規の後継者	虚子とその弟子たち、碧梧桐の新傾向俳句・自由律／実作（俳句）
第10回	俳句の技法 I / 近代の俳句①	比喩（直喩・隠喩）、擬人法／鑑賞（近代俳句②）／実作（俳句）
第11回	俳句の技法 II / 近代の俳句②	字余り・字足らず・句またがり／鑑賞（近代俳句②）／実作（俳句）

第12回	海外俳句／国際俳句／漢俳	「海外歳時記」の紹介、鑑賞（海外詠・国際俳句・漢俳）／実作（俳句）
第13回	現代俳句／青春俳句	観賞（現代俳句・青春俳句・俳句甲子園）／実作（俳句）
第14回	授業の総まとめと期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義で紹介された資料を導きに自分の好きな作家を見つけ、その作品を読む。
- ・自作の俳句（毎回2～3句ほど）を作って提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、前後2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者が作成した資料を配布する。

【参考書】

- 小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）
山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）
『合本 俳句歳時記 第五版』（角川書店）
平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）
日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）
岸本尚毅『文豪と俳句』（集英社新書）
佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）
Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）
馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）
岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

- 平常点（授業への参加姿勢・提出作品）40％
自信作10句（春学期に作った自作10句）10％
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50％

【学生の意見等からの気づき】

提出された実作について解説する時間を多くとりたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write haiku poems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (or Term-end report) : 50%, Short reports: 10%, in class contribution: 40%

ART200HA (芸術学 / Art studies 200)

比較演劇論 I

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環ア：文／定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、とても密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。春学期の講義のうち3回ほど学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書きいただきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、志望理由を簡潔に書いていただきます。それにより選抜を行う可能性もあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第3回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第4回	何もない空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第5回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、など、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第6回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第7回	歌舞伎のせりふ	間かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第8回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第9回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第10回	日本人の主情性 一家 庭悲劇のドラマツルギー（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。『平家物語』の原話「敦盛最期」から歌舞伎『熊谷陣屋』へ。

第11回	日本人の主情性 一家 庭悲劇のドラマツルギー（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。「敦盛最期」から能『敦盛』へ。最終的に、同じ原話から生まれた歌舞伎と能のそれぞれの作品を比較考察します。
第12回	歌舞伎と文楽	歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。
第13回	総括	春学期の学習内容の復習をします。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第14回	期末試験（記述式） と復習	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URLおよび関連動画については、

必ず予習・復習をしてください。

日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBSブリタニカ

野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%

参加態度（授業に関係のない私語や行動には厳しく対応します。）

3回分のジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムに提出していただきます。）

【期末試験】50%

記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施します。学習支援システムを利用します。

Zoom講義でも頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前にご確認ください。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。

・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You can learn basic knowledge about each genre of mainly traditional performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

ART300HA (芸術学 / Art studies 300)

比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：文／定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があります。

【到達目標】

春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。秋学期の講義のうち3回ほど学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書きいただきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（3）	平成中村座海外公演について考察します。
第3回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第4回	ギリシャ悲劇： ソフォクレス作『オイディプス王』	オイディプス王の物語とギリシャ悲劇の特色を学びます。
第5回	ジャンル横断的考察 （1）	歌舞伎と落語： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第6回	ジャンル横断的考察 （2）	歌舞伎と映画： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第7回	ジャンル横断的考察 （3）	能と歌舞伎： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第8回	ジャンル横断的考察 （4）	文楽と歌舞伎： 共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第9回	翻案劇とは何か？	日本におけるシェイクスピア受容を中心に、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第10回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。
第11回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。

第12回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第13回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察をまとめます。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第14回	復習と期末試験	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URLおよび関連動画については、必ず予習・復習をしてください。日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本—日本人の美意識—』 TBSブリタニカ

野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】**【平常点】50%**

参加態度（授業に関係のない私語や行動には厳しく対応します。）
3回分のジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムに提出していただきます。）

【期末試験】50%

記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的な好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施します。学習支援システムを利用します。

Zoom講義でも頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前にご確認ください。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。
・ただし、能や歌舞伎など伝統芸能の基礎知識を前提に授業を進めるので、春学期の「比較演劇論Ⅰ」と併せて履修することを強く勧めます。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You are encouraged to enhance your insight into performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

ART200HA (芸術学 / Art studies 200)

日本美術史論

手塚 恵美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代の日本における美術の展開を、海外との美術交流、美術制度・美術政策の進展、美術と社会の関係にも着目しながら学びます。明治以降の日本では、欧米の美術作品や技法、美術制度（美術教育・ミュージアム・展覧会など）を受容したことにより、新たな局面が開かれます。そして、近世以前からの伝統美術を見直しながら、新たな創造へ向かい、現代へと続く美術界の礎が築かれました。この授業では、そうした時代の代表的な画家・彫刻家・工芸家・建築家らの活動と作品を取り上げ、その魅力と意義を、当時の時代背景と社会、文化的状況や自然環境・都市環境とも関連づけながら考察していきます。授業の終盤には現代の身近なアートにも眼を向けます。現在、私たちが見ることのできる美術作品は、どのように受け継がれてきたのか、それらを保存・活用し、持続可能な文化資源として未来へ手渡していくには、どのような課題があるのか、自分自身の身近な問題として思考する視点も養っていきましょう。

【到達目標】

1. 近代日本の主要な美術家・美術作品・美術界の動向に関する基本的知識を身につけ、説明できる。
2. 主要な美術家の活動と作品を、時代背景・社会・環境・文化と関連づけ、近世から現代への流れの中で考察することができる。
3. 現代へ受け継がれてきた文化資源としての美術の保存と活用、未来への継承について、主体的な問題意識をもって思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式で、講義内容の要点と美術作品の映像をパワーポイントで映写しながら、講義資料を参照しつつ進めていきます。毎回の授業後に課題（リアクションペーパー）を提出、講義内容に対する自身の意見や考察を述べ、関心を持ったことや疑問点は参考文献や関連サイトを調べて課題に反映させます。次回授業でフィードバックを行い、受講生の意見や疑問を共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、日本美術の流れと特色
第2回	西洋美術の受容と洋風画・洋画	西洋画の受容史、江戸時代の洋風画、明治時代の洋画
第3回	博覧会と美術工芸	19世紀後半の万国博覧会と国内の博覧会、海外で高い評価を得た日本の美術工芸と明治政府の美術政策
第4回	ミュージアムとコレクション	博物館・美術館の成立と展開、美術コレクションの形成、ミュージアム建築
第5回	近代都市の形成と洋風建築	国家の首都東京が近代都市の相貌を整え洋風建築が導入されていく過程、お雇い外国人コンドルと日本人建築家第一世代の代表作

第6回	美術学校・美術団体	工部美術学校と東京美術学校、伝統美術団体と洋風美術団体、主要な美術家（日本画家・洋画家・彫刻家・工芸家）の活動と代表作
第7回	洋風美術と伝統美術	東京美術学校西洋画科の開設、美術団体の白馬会と日本美術院、両団体の主要な美術家とその代表作
第8回	個性の時代とモダニズム	文部省美術展覧会（文展）開設以降のアカデミズムと反アカデミズム、新しい傾向の美術団体、日本のモダニズムを特徴づける主要な日本画家・洋画家・彫刻家の活動と代表作
第9回	近代建築と装飾	日本人建築家第二世代以降の代表作と建築装飾、建築家と美術家の協働による総合芸術としての近代建築、日本的な表現の模索とモダニズム建築
第10回	文化遺産を守る、伝える	文化財保護法など文化遺産（文化財／文化資源）をめぐる制度の枠組み、文化遺産の保存・活用、近代建築と建築装飾の保存・修復
第11回	グラフィックアート	江戸時代の浮世絵（伝統木版画）から明治時代の新しい木版画・石版画・銅版画への流れ、ポスター・絵葉書・ブックデザインなど
第12回	パブリックアート	公共空間を彩るパブリックアートの歴史と作例、環境に及ぼす影響と機能、アートによる街づくり
第13回	アーバンアート	現代の都市環境の中のグラフィティ、ミューラル、モザイクなど、身近な公共空間の壁面に見られるアートの機能と問題点
第14回	フォローアップ、ディスカッション	授業全体の振り返り、グループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として講義資料に目を通して授業内容を把握しておく。授業後に学んだ内容を振り返り、課題（リアクションペーパー）を提出、関心を持った点や疑問点については調べ学習を行い、課題に反映させる。特に関心を持ったテーマについて詳しい調査研究を行い、期末レポートの準備を進める。こうした準備学習・復習・課題・調べ学習・期末レポートに要する時間は、各回平均4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、講義資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で講義内容に関する参考文献、参考サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への積極的な参加姿勢と課題 60%、期末レポート 40%を基準として、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックは記載しません。

【その他の重要事項】

授業内容に関連のあるミュージアム、展覧会、建築、パブリックアートなどにも積極的に足を運び、実際に作品を見る体験を大切にしてください。美術に関する日々のニュースにも、意識を向けるようにしましょう。

【Outline (in English)】

This course provides basic knowledge of modern Japanese art history. We will consider the activities and artworks of major painters, sculptors, decorative artists and architects, from diverse perspectives such as intercultural exchange, the progress of the cultural policy, the relationship between art and society, historical background, cultural conditions and environments of the time. We will also focus on the public arts, murals and graffiti of today for thinking about art as our close issue. Students will be expected to examine how the artworks have been passed down to the present, how to protect and utilize them as cultural resources in our time, and how to pass them to next generation. Through this course, students will be encouraged to explore the issues they are interested in and express their own opinions. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours on average for preparatory study, reviewing the course contents, self-directed investigative learning, working on the term-end paper. Grading will be decided based on active participation (60%), and the term-end paper (40 %).

ART200HA (芸術学 / Art studies 200)

西洋美術史論

板橋 美也

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環ア：文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在では日本のアニメや食べ物などが海外に広く浸透しましたが、今からおよそ1世紀半前の日本の開国直後、ジャポニスムと呼ばれる現象が起こり、日本の事物に対する高い関心が欧米諸国で湧き起こりました。この時期、様々な欧米諸国との通商関係の成立とともに、多くの人や物が日本から流れ出し、特に日本の美術工芸品が欧米で大きな注目を集めました。そして、欧米諸国の芸術家たちは、自分の創作活動のインスピレーションの源の一つとして日本の美術工芸品を眺め、また、各々の支持する美術・デザイン思想の裏付けとして日本の美術工芸品について論じたのです。本講義は、1860年代から1930年代までの時期、このジャポニスムという現象が、世界に覇権を広げた帝国としての威容を誇っていた国、そして産業化・近代化による弊害にいち早く気づくこととなった国としてのイギリスで、どのような美術・デザイン思想と連関しながら変遷を遂げ、その中で日本がどのように表象されてきたのかを考えます。そうすることで、現代の文化の多様性をめぐる問題と関連付けながら、ある文化が他文化の諸要素を取り入れるときに生じる異文化間交流のあり方について自分の考えを述べるができるようになることを目指します。

【到達目標】

美術・デザインを歴史的背景とともに考察できるようになること。異文化理解・異文化交流のあり方について、文化的・社会的背景を踏まえながら考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、まず、日本の美術工芸品の諸要素をイギリスの芸術家たちが取り入れた際に前提としていたイギリス側の背景（当時の社会状況や美術・デザイン潮流）を解説します。そのうえで、その社会状況や美術・デザイン潮流に身を置いていた芸術家・批評家による「日本」観を、彼らの発表した文章や作品を通して考えます。また、講義内容を踏まえて自分の考えを簡潔にまとめたリアクション・ペーパーを随時書き、提出してもらいます。課題（リアクション・ペーパー）提出後の授業でフィードバックを行い、皆さんの関心のある現代の課題と結びつけながら講義内容を発展させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	(1) ジャポニスムとは？ (2) 授業の進め方 (3) 成績評価
第2回	ジャポニスム前史 (1)	シノワズリーからジャポニスムへ（磁器・漆器を中心に）
第3回	ジャポニスム前史 (2)	シノワズリーからジャポニスムへ（建築・室内装飾・織物などを中心に）
第4回	デザイン改革運動におけるジャポニスム (1)	デザイン改革運動の背景説明
第5回	デザイン改革運動におけるジャポニスム (2)	Christopher Dresser その他の「日本」観を分析

第6回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム (1)	ゴシック・リヴァイヴァルの背景説明
第7回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム (2)	William Burges その他の「日本」観を分析
第8回	唯美主義におけるジャポニスム (1)	唯美主義の背景説明
第9回	唯美主義におけるジャポニスム (2)	James McNeill Whistler その他の「日本」観を分析
第10回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム	アーツ・アンド・クラフツ運動の背景説明と、同運動の影響のもと日本の美術工芸品の諸要素を取り入れた芸術家たちによる「日本」観の分析
第11回	日英博覧会	1910年にロンドンで開催された日英博覧会での日本政府による「日本美術」の表象とその受容について分析
第12回	民芸運動をめぐる日英交流 (1)	民芸運動の背景説明
第13回	民芸運動をめぐる日英交流 (2)	Bernard Leach その他の「民芸」観を分析
第14回	試験とまとめ	授業内容に基づいた試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を聴きながらとったノートをもとに、よく復習をしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（リアクション・ペーパー）(50%)と期末試験(50%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受験で世界史を選択しなかった人も分かるように工夫します。

【Outline (in English)】

By looking at the history of Japonisme in art and design in Britain, this course encourages students to think about how art and design has been inextricably linked to the society, how "Japan" has been represented and how we can understand other cultures. By the end of the course, students should be able to express their own opinions about intercultural exchange and cultural diversity. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be decided based on participation (50%) and the final exam (50%).

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

応用倫理学

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学について生命倫理と動物倫理を中心に学ぶ。

【到達目標】

応用倫理学の概要と、特に医療倫理（生命倫理）と動物倫理の議論を理解し、自分なりに現代社会における倫理を考えることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。メールで意見を募り、それを授業に反映させる。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	応用倫理学について	応用倫理学の特徴について説明する。
2	インフォームドコンセント：専門家と素人の関係	医療倫理のキーワードであるインフォームドコンセントについて説明する。
3	美容整形とスマートドラッグ：治療と改造	美容整形とスマートドラッグを題材に治療と改造の線引きについて考える。
4	遺伝子治療と脳手術：治療と改造	遺伝子治療と脳手術を題材に治療と改造の線引きについて考える。
5	脳死と臓器移植：先端技術の倫理	脳死と臓器移植を題材に先端技術がもたらす倫理問題について説明する。
6	安楽死と尊厳死：生と死の倫理	安楽死と尊厳死を題材に生と死について考える。
7	出生前診断と優生思想：生命の価値	出生前診断と優生思想を題材に生命の価値について考える。
8	法律上のペットの位置づけ	ペットを題材に動物倫理について説明する。
9	工場畜産と動物実験：動物解放論	工場畜産と動物実験を題材に動物解放論について説明する。
10	肉食とベジタリアン：文化とライフスタイル	肉食を題材に動物の福祉と食について考える。
11	中間チェックテスト	これまでの内容が理解できているか確認する
12	情報倫理学	情報倫理学の概説を行う。
13	ビジネス倫理学	ビジネス倫理学について「内部告発」を中心に紹介する。
14	労働と教育について	労働と教育について倫理学の立場から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

医療や動物に関するニュースを把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年。

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年。

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年。

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（第1章から第3章）。

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（40%）と書評レポート（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with bioethics and animal ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on bioethics and animal ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, midterm exam:40%,book review:60%.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

環境倫理学 I

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。メールで質問を募り、授業に反映させる。チェックテストとレポートについては個別にメールで講評を行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と倫理学理論	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	環境問題と現代社会	環境問題が「現代社会」の仕組みに由来する問題であることを示す
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	土地倫理と自然の権利	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」と「自然の権利」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	生物多様性の価値	生物多様性はなぜ保全すべきなのかについての議論を紹介する
6	加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
7	鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
8	公害の環境倫理	公害に関する映画を見て意見交換する
9	環境正義	環境正義について議論する
10	リスク論	リスク論の概要を紹介する
11	中間チェックテスト	ここまでの内容を理解しているかを確認する
12	災後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電についての論点を紹介し議論する
13	災後の環境倫理学：復興のありかたについて	震災復興についての論点を紹介し議論する
14	人新世の環境倫理学	人新世と気候工学について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（序章、第4章～第10章）

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

（第1章と第2章の内容が関連します）

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（40点）と書評レポート（60点）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

環境倫理学Ⅱ

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「都市の環境倫理」について学ぶ。その中で、哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論などを紹介する。さらに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と哲学・倫理学	環境問題に対する哲学・倫理学のアプローチについて説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論：ベルク	オギュスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二と桑子敏雄の議論を紹介する
7	都市論：ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する
8	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップについて	過去のアメニティマップを紹介しながら、作り方を説明する
10	環境と観光:白川郷と妻籠	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
11	環境と観光：湯布院の地域づくり	湯布院のドキュメンタリーを見て議論する
12	アメニティマップの発表（1）	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
13	アメニティマップの発表（2）	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
14	アメニティマップの発表（3）全体の講評	アメニティマップについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（第11章～第14章）

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

（第3章と第6章の内容を扱います）

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（40%）とマップ作成（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with urban environmental ethics. At the end of the course, students are expected to understand human environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, amenity map:50%, term-end examination:50%.

HIS300HA (史学 / History 300)

日本環境史論 I

芳賀 和樹

配当年次 / 単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業 / Spring | 曜日・時限：月3 / Mon.3

備考 (履修条件等)：環コ7：口,文

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近世日本の人びとは、資源の開発を通じて自然をつくり変え、さまざまなサービスを獲得しようとしてきました。過剰な自然の改変が“ひずみ”を生み、災害などが頻発するようになると、今度は開発を抑制し、自然資源の持続的利用により人と自然の共存を目指すようになりました。本授業では、縦軸に時間の流れを置き、横軸に「人と自然の関係」、自然をめぐる「人と人の関係」、人の生業を通じた「人と自然の関係」を置き、それらの関係がどのように変化したのかを講義します。本授業の目的は、「近世日本の人と自然の関係史」について基礎的な知識を習得し、その関係の変化について歴史的に考察する力を身につけることです。

【到達目標】

本授業では、「近世日本の人と自然の関係史」について、①歴史用語の意味や使い方、歴史資料の読み解き方を、具体的な事例に基づいて説明できるようにすること、②「近世日本」という時間・空間を意識しつつも、時間の流れによる変化、全国的な動向だけでなく地域性にも注目し、豊かな歴史像を構築できるようにすること、を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに進めます。レポート等提出後の授業においては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに—近世日本の人と自然の関係史	「人と自然の関係史」において、「近世日本」がどのような時間・空間であったのかを考える。
第2回	近世日本の社会のしくみ—自然は誰のものか？	近世日本の社会のしくみについて、基礎的な歴史知識を習得する。耕地や山野河海の所有と利益について理解する。
第3回	開発による自然の改変 (1) — 鉱石を掘る	第3回～第5回では、17世紀前半の資源開発の様子と、それによる自然のつくり変えについて学習する。第3回では、金銀銅を産出した鉱山開発と、これによる自然の改変について理解する。
第4回	開発による自然の改変 (2) — 水を引く耕地を拓く	鉱山開発を通じて得られた土木技術を用い、幕府や藩が河川の治水に取り組んだことを学習する。治水により洪水を回避できた場所で、村人による耕地開発が進んだことを理解する。
第5回	開発による自然の改変 (3) — 木材を伐り出す	城や城下町の建設などで建築用材の需要が高まり、各地で森林の伐採が進んだことを学習する。

第6回	人の生業を通じた自然と自然の結びつき	地下の鉱物資源の開発を支えたのは、地上の森林資源であったことを学習する。耕地資源を維持したのは、森林資源であったことを学習する。
第7回	自然の連鎖的改変による“ひずみ”	開発によって森林が荒廃し、災害が頻発したことを学習する。開発の進展により、水と山をめぐる争いが増加したことを理解する。人の生活圏の拡大により、「鳥獣害」が問題となった点について考える。
第8回	開発の促進から抑制へ (1) — 治山治水の思想	第8回と第9回では、災害の頻発を背景にして、17世紀後半に、開発の促進から抑制への転換が起こったことを学習する。第8回では、経験に基づく治山治水の思想について理解する。
第9回	開発の促進から抑制へ (2) — 開墾の抑制と山地保全	幕府が耕地の開発、草木の掘り採りを抑制し、植林を命じた意味を考える。17世紀後半以降、農業政策の方針が、耕地の拡大から生産性向上に転換したことを理解する。
第10回	水と山をめぐる人と人の争いと合意形成	第7回に関連して、水と山をめぐる人と人の争いの実際を学習する。争論の過程を通じて、人と人がどのように合意を形成したのかについて考える。
第11回	村の暮らしと動物—「鳥獣害」の防除と水田生態系	第7回に関連して、当時の「鳥獣害」の防除方法について学習する。水田という人工的な環境において、豊かな生態系が作り出された意味を考える。
第12回	人と自然の共存 (1) — 森林資源の持続的利用	第12回と第13回では、自然資源の持続的利用による人と自然の共存について考える。第12回では、17世紀後半から19世紀にかけて、森林資源の持続的利用が目指されたことを学習する。
第13回	人と自然の共存 (2) — 水産資源の持続的利用	17世紀後半から19世紀にかけて、水産資源の持続的利用が目指されたことを学習する。
第14回	まとめと試験	授業を総括し、試験を実施する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

芳賀和樹「日本近世社会の発展から近代社会へ」(高橋美由紀編『現代社会を考えるための経済史』創成社、2023年、32-156ページに所収)

徳川林政史研究所編『徳川の歴史再発見 森林の江戸学』東京堂出版、2012年

平野哲也「近世」(木村茂光編『日本農業史』吉川弘文館、2010年、143-253ページに所収)

高橋美貴『資源繁殖の時代』と日本の漁業』山川出版社、2007年

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験 (60%)、レポート等 (40%) により行います。期末試験は授業内容の理解度に応じて、レポート等は課題に対する内容の充実度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In early modern Japan, people sought to transform nature and obtain various services through the development of natural resources. However, excessive modification of nature created "distortions" that led to frequent disasters, and people began to curb development and aim for coexistence between people and nature through sustainable use of natural resources. In this course, the flow of time is placed on the vertical axis, and "the relationship between people and nature," "the relationship between people and people," and "the relationship between nature and nature through people's livelihood" are placed on the horizontal axis, and how these relationships have changed is lectured. The purpose of this class is to acquire a basic knowledge of "the history of the relationship between people and nature in early modern Japan" and to acquire the ability to historically examine the changes in this relationship.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In this course, taking up "the history of the relationship between people and nature in early modern Japan," the objectives are 1) to be able to explain the meaning and usage of historical terms and how to read and understand historical materials based on specific examples, and 2) to be able to construct a rich historical picture by focusing on changes over time and regional as well as national trends while being aware of time and space as "early modern Japan."

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students are expected to prepare and review using handouts, reference books related to the theme, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on the final exam (60%) and reports, etc. (40%). The final exam will be evaluated based on the level of understanding of the course content, and the reports, etc. will be evaluated based on the richness of the responses to the assignments.

HIS300HA (史学 / History 300)

日本環境史論Ⅱ

芳賀 和樹

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世の日本列島では、さまざまな災害が発生しました。こうした自然の脅威に対し、人びとは、ただ手をこまねいていたわけではありません。経験から、森林が土砂流出や渇水・洪水、飛砂、津波等の被害を防止する機能をもつことを発見し、その機能の発揮を期待して各地で“暮らしを守る森林”を保護・育成したのです。この“暮らしを守る森林”は、近代における保安林制度成立の基礎となり、現在まで受け継がれてきました。本授業では、空間として日本列島の北から南までを広範に取りあげ、近世から近代への時間の流れのなかで、“暮らしを守る森林”がどのように保護・育成されてきたのかを講義します。本授業の目的は、災害をキーワードにして、近世・近代日本の「人と自然の関係史」について考察することです。

【到達目標】

本授業では、災害をキーワードに、近世・近代日本の「人と自然の関係史」について学習し、①歴史用語の意味や使い方、歴史資料の読み解き方を、具体的な事例に基づいて説明できるようにすること、②「近世・近代日本」という時間と空間を意識しつつも、時間の流れによる変化、全国的な動向だけでなく地域性にも注目し、豊かな歴史像を構築できるようにすること、を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配布プリントにより、シラバス通りに進めます。レポート等提出後の授業においては、いくつかポイントを上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに—災害からみた人と自然の関係史	今、災害をキーワードにして、「人と自然の関係史」を学習する意義について考える。
第2回	近世日本の“暮らしを守る森林”	近世日本の人びとが、経験に基づき、“暮らしを守る森林”を保護・育成したことを学習する。
第3回	山を治める	草木の掘り採りが森林を荒廃させ、河川への土砂流出の原因となったことを理解する。土砂災害に対し、植林などが進められたことを学習する。
第4回	水源を育む	渇水・洪水を受けて、水源涵養林が保護・育成されたことを学習する。
第5回	強風に備える	強風を防ぐため、平野部の屋敷の周囲で防風林（屋敷林）が植栽されたことを学習する。
第6回	飛砂に備える	内陸部の森林荒廃による土砂流出が、海岸部での飛砂の被害を助長したことを理解する。主に日本海側で、飛砂の被害を防ぐため、海岸砂防林が植栽されたことを学習する。

第7回	潮風と高潮に備える	主に太平洋側で、潮風や高潮の被害を防ぐため、防潮林が植栽されたことを学習する。
第8回	地震と津波からの復興	地震とそれにもなう津波の被害からの復興について学習する。被災経験に基づき、堤防の建設と海岸林の植栽が進められたことを理解する。
第9回	飢饉への対応	凶作による飢饉が起こったことを理解する。飢饉の際、森林から得られる食料が人びとの命を繋いだことを学習する。「御救山」と呼ばれる制度が、飢饉からの復興に果たした意味を考える。
第10回	火災からの復興	明暦年間の大火後における、都市江戸の復興過程と防火林の植栽について学習する。
第11回	近代日本の国土保安 (1) 一国土保安の思想	第11回～第13回では、近代日本における国土保安の思想と実践について学習する。第11回では、森林行政の展開と、国土保安の思想について考える。
第12回	近代日本の国土保安 (2) 一旧規旧慣の再発見	明治政府が、近世の“暮らしを守る森林”の歴史について調査・収集したことの意味を考える。
第13回	近代日本の国土保安 (3) 一保安林制度の成立	森林に関する日本初の体系的な法令「森林法」が制定され、そのなかで近世の“暮らしを守る森林”を基礎とする「保安林制度」が定められたことを学習する。
第14回	まとめと試験	授業を総括し、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

芳賀和樹「総説“暮らしを守る森林”—江戸時代からのメッセージ—」（徳川林政史研究所編『徳川の歴史再発見 森林の江戸学』Ⅱ、東京堂出版、2015年、1-48ページに所収）
北原糸子編『日本災害史』吉川弘文館、2016年

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（60%）、レポート等（40%）により行います。期末試験は授業内容の理解度に応じて、レポート等は課題に対する内容の充実度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The Japanese archipelago in the early modern period has experienced a variety of disasters. People have not simply stood idly by and let nature's threats be ignored. Through experience, they discovered that forests have the ability to prevent damage from landslides, droughts, floods, flying sand, tsunamis, and other disasters, and they protected and nurtured "forests that protect people's lives" in various regions in the hope that they would fulfill this function. These "forests to protect people's lives" became the basis for the establishment of the safety forest system in the modern period, which has been handed down to the present. This course will cover a wide area from the north to the south of the Japanese archipelago, and will explain how "forests that protect people's lives" have been protected and nurtured in the passage of time from the early modern period to the modern period. The purpose of this course is to examine the "history of the relationship between people and nature" in early modern and modern period Japan, using disasters as a key word.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In this course, students will learn about the "history of the relationship between people and nature" in early modern and modern Japan, with disaster as the key word. The objectives of this course are (1) to be able to explain the meaning and usage of historical terms and how to read and understand historical materials based on specific examples, and (2) to be able to construct a rich historical picture by focusing on changes over time and regional as well as national trends while being aware of time and space as "early modern and modern Japan.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students are expected to prepare and review using handouts, reference books related to the theme, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on the final exam (60%) and reports, etc. (40%). The final exam will be evaluated based on the level of understanding of the course content, and the reports, etc. will be evaluated based on the richness of the responses to the assignments.

HIS300HA (史学 / History 300)

ヨーロッパ環境史論 I

梅原 秀元

配当年次 / 単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業 / Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考 (履修条件等)：環コア：G,文

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

歴史学が環境を環境史として積極的に研究対象とするようになってから、まだ半世紀も経っていない。しかし、他方で、環境史の研究の対象・方法は日々革新を遂げている。本講義では、地理的にはヨーロッパを、時間的には近現代を対象として、環境を歴史的に考えるとはどのようなことを学ぶ。

【到達目標】

ヨーロッパ環境史について、まず、ヨーロッパにおける戦後の歴史学の展開について概観し、その中で環境やそれに関連するテーマがいつ頃、どのように扱われるようになったのかを理解する。次に、とくに近現代に焦点を絞った場合、環境の歴史を考える上で避けて通ることのできない、近現代のヨーロッパ経済の変化について西洋経済史の成果から学ぶ。

これらの基礎作業ののち、近現代のヨーロッパの環境の歴史を、マクロの視点から検討する。この作業を通じて、ヨーロッパの環境の歴史について理解を深めるとともに、それとの対比で、今の世界や日本における環境について考えるための参照軸を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、基本的には、対面で行う。受講する場合には、教室に来て講義を受けることになる。

講義は、パワーポイントを使ってスライドを示しながら行う。適宜、黒板に必要と思われる事項を書くこともある。

こうした講義形式の場合、受講者はノートを取る事が非常に難しいので、スライドにかかれていることを極力プリントにして、事前に配布することになっている。

受講者は、講義中に講師が話したことの中で大事だなと思うことを、プリントにメモすることでノートになる。

プリントは、毎回、紙の状態でも配布することを予定している (講義前に、PDFデータとして配布することも考えている)。

毎講義後、一定期間中にリアクションペーパーを「学習支援システム」から提出すること。本講義では、これをもって出欠確認も行うので、必ず提出してほしい。

なお、講義に出ずにリアクションペーパーだけを提出することは絶対にしないこと。

本講義の内容に特化した教科書のようなものはないので、受講生は、プリントやスライドをもとに講義を聴きながらあれやこれやと考えて、リアクションペーパーに書いてほしい。リアクションペーパーに基づいて、次の回の時に復習を行う。

詳しいことは、第1回講義の際に説明する予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンティールン グ	講義の構成などを提示するとともに、本講義のテーマを「ヨーロッパ」「環境」「史」に分解し、テーマがいったい何を意味しているのかを議論する。

第2回	歴史学の成立 - 20世紀のヨーロッパにおける歴史学について (1)	19世紀後半以降のヨーロッパにおける歴史学の確立と展開を検討する
第3回	政治の向こうへ - 20世紀のヨーロッパにおける歴史学について (2)	20世紀前半における、社会史と呼ばれる新しいアプローチの出現とそれ以後の歴史学の展開について検討する
第4回	政治の向こうへ - 20世紀のヨーロッパにおける歴史学について (3)	主にイギリスの社会史について概観する
第5回	政治の向こうへ - 20世紀のヨーロッパにおける歴史学について (4)	主にドイツの社会史について概観する
第6回	環境史への入り口	第2 - 5回の講義を踏まえて、環境史とはどのような研究領域なのかを検討する
第7回	森と木と (1)	ヨーロッパにおける森林と木材産業についての歴史を2回にわたって概観する
第8回	森と木と (2)	ヨーロッパにおける森林と木材産業について。後編。
第9回	呼吸できない? (1)	19 - 20世紀における大気汚染の歴史について概観する
第10回	呼吸できない? (2)	引き続き、大気汚染について概観する
第11回	寒い?! - 気候の歴史 (1)	気候の歴史について概観する (1)
第12回	寒い?! - 気候の歴史 (2)	気候の歴史について概観する (2)
第13回	疫病と環境 コレラ	疫病と環境について、コレラを例に考える。
第14回	総括	講義を踏まえて、人間と環境の関係を動かした・動かすものについて考える

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義は、19・20世紀のヨーロッパ史をベースにしている。高等学校の世界史の教科書などで該当部分を読んでおくだけでも、講義の理解の助けとなるだろう。その他、『世界の歴史』(中央公論新社)、『興亡の世界史』(講談社)、『世界史リブレット』(山川出版社)などの概説書の該当巻を読むと背景がわかってよい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

適宜レジュメを配布する。

【参考書】

講義中に指示するので、それを参考に各自で読んでみてほしい。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる平常点 (0 - 10%) と学期末のレポート (90-100%) による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として講義を進めますが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人にもわかりやすいようにするので、ためらわずに履修してください。
・秋学期のヨーロッパ環境史論II も合わせて受講できるとよいです。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース (旧・国際環境協力コース)、人間文化コース (旧・環境文化創造コース)

【Outline (in English)】

The environmental history is very young discipline. It is not until 1990s years that historians have dealt with environment. Before the background the lecture tries to explore some topics from the history of environment in modern Europe to learn how to study and discuss environment historically.

(Work to be done outside of class (preparation, etc.))

This lecture is based on the history of Europe in the 19th and 20th centuries. If you read the relevant part in a high school world history textbook, it will help you understand the lecture.

(Grading criteria)

Based on the normal score (0-10%) by the reaction paper and the report at the end of the semester (90-100%).

HIS300HA (史学/History 300)

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

梅原 秀元

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考(履修条件等)：環コア：G,文

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、19・20世紀のヨーロッパ、とくにドイツを中心とした地域における環境の歴史について、いくつかのテーマを選んで議論する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【到達目標】

本講義では、19・20世紀のドイツを中心とする地域の環境をめぐる諸問題から、環境と人間の経済活動・資源(森林と木材)、都市と環境(都市と生活環境)、労働と環境、科学技術と環境、ナチスと環境、環境と政治 というテーマを通じて、環境と私たち人間の営みとが、どのような関係を作っていたのか、その関係が作られていく中で、それぞれがどのように変わっていったのか/変わらなかったのか、それぞれがどのように影響しあったのか、といったことを一緒に議論・考える。それを通して、現在の環境をめぐる問題を考える際の手掛かりを身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、基本的には、対面で行う。受講する場合には、教室に来て講義を受けることになる。

講義は、パワーポイントを使ってスライドを示しながら行う。適宜、黒板に必要と思われる事項を書くこともある。

こうした講義形式の場合、受講者はノートを取る非常に難しいので、スライドにかかっていることを極力プリントにして、事前に配布することにしていく。

受講者は、講義中に講師が話した内容の中で大事なと思うことを、プリントにメモすることでノートになる。

プリントは、毎回、紙の状態配布することを予定している(講義前に、PDFデータとして配布することも考えている)。

毎講義後、一定期間中にリアクションペーパーを「学習支援システム」から提出すること。本講義では、これをもって出欠確認も行うので、必ず提出してほしい。

なお、講義に必ずリアクションペーパーだけを提出することは絶対にしないこと。

本講義の内容に特化した教科書のようなものはないので、受講生は、プリントやスライドをもとに講義を聴きながらあれやこれやと考えて、リアクションペーパーに書いてほしい。リアクションペーパーに基づいて、次の回の時に復習を行う。

詳しいことは、第1回講義の際に説明する予定である。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンティールン グ。ドイツ近現代史 と環境	ドイツ近現代史研究とそこでの環境について概観するとともに、本講義についての概要を説明する。
第2回	19世紀のドイツ	19世紀のドイツ史について概観する
第3回	20世紀のドイツ	20世紀のドイツについて概観する

第4回	「おらが森」と「私の森」-森林を巡って(1)	18世紀末から19世紀初めのドイツにおける森林とその利用をめぐる問題について、検討する。
第5回	森と産業-森林を巡って(2)	19世紀初頭にドイツにも到来し、19世紀後半以降著しく進む工業化を背景にして、経済と木材・森林の関係を考える
第6回	19世紀初頭バンベルク市におけるばい煙問題	ドイツの環境をめぐる争いの最初の事例から、環境問題がどのように論じられたのかを学ぶ
第7回	ルール地方の煙(1)	ルール工業地帯の成立とそれにとまなうばい煙問題について検討する
第8回	ルール地方の煙(2)	ルール工業地帯の成立とそれにとまなうばい煙問題について検討する
第9回	ルール地方の煙(3)	ルール工業地帯の成立とそれにとまなうばい煙問題について検討する
第10回	ナチスと自然保護- ナチスと自然(1)	ナチス期の環境保護について検討する。この回は、19世紀末から20世紀初めにかけてのドイツにおける自然保護運動について概観する
第11回	ナチスと自然保護- ナチスと自然(2)	ナチス期における自然保護について、帝国自然保護法(1935年)を中心に検討する。
第12回	ナチスと自然保護 (3)	ナチス期の自然保護について、1945年の敗戦までの状況について検討する。
第13回	原子力開発を巡って -1960年代以降の西 ドイツにおける環境 と政治	戦後西ドイツにおける反原発運動を取り上げ、その後のドイツの環境政党の出現や市民運動の展開について考える。
第14回	総括	19世紀から20世紀にかけてのドイツにおける環境・自然保護について、全体的な総括を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

近現代ドイツ社会史の概観については、矢野久/アンゼラム・ファウスト(2001)『ドイツ社会史』(有斐閣)が参考になる。ドイツ史全般については、木村靖二(2022)『ドイツ史』(上下巻)(山川出版社)も参考になる。また、高校での世界史の教科書で、19・20世紀のドイツについての部分を読むことも、本講義の理解の助けになるだろう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

適宜レジュメを配布する。

【参考書】

参考書として、以下のようなものがある。ただし、これらは、必ずしも買う必要はない。大学図書館や公立図書館で借りるなどして読むことができれば、講義の理解の助けになるだろう。
19・20世紀のドイツ史：
矢野久/アンゼラム・ファウスト(2001)『ドイツ社会史』(有斐閣)
木村靖二(2022)『ドイツ史』(上下巻)(山川出版社)
ドイツ環境史について
フランク・ユケッター(2014)『ドイツ環境史 エコロジー時代への途上で』(昭和堂)
フランツ=フランツ・ブルックゲマイヤー/トーマス・ロンメルスバッハー(2007)『ドイツ環境史 19世紀と20世紀における自然と人間の共生の歴史』(リーベル出版)
ナチス期の農業について
藤原辰史(2012)『ナチスドイツの有機農業』(柏書房)
ナチス期の環境について
フランク・ユケッター(2015)『ナチスと自然保護 景観美・アウトバーン・森林と狩猟』(築地書館)
戦後西ドイツにおける原子力開発および反原発運動について
ヨアヒム・ラートカウ/ロータル・ハーン(2015)『原子力と人間の歴史 ドイツ原子力産業の興亡と自然エネルギー』(築地書館)

ヨアヒム・ラートカウ（2012）『ドイツ反原発運動小史 原子力産業・核エネルギー・公共性』（みすぶ書房）などがある。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（0－10％）と学期末のレポート（90－100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めます。高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人にもわかりやすいようにすすめるので、ためらわずに聞きに来て下さい。
・春学期にヨーロッパ環境史論Iを履修しているとよいです。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【Outline (in English)】

This lecture deals with some topics from the history of environment in Europe, especially German in the 19. and 20. century.

(Learning Objectives)

This lecture explores from various topics related to the environment of the region centered on Germany in the 19th and 20th centuries, the environment and human economic activities / resources (forest and timber), city and environment (city and living environment), labor and environment. On this basis the lecture deals with the relations of science and technology and the environment, Nazis and the environment, environment and politics in the Federal Republic Germany (West Germany). Through it this lecture discuss, which relations were created between the environment and our human activities, and the relations were created, how they changed or did not change during their creation and how they influenced each other.

By these discussion this lecture tries to gain clues when we the problems surrounding the actual themes about the environment.

(Work to be done outside of class (preparation, etc.))

This lecture is based on the history of Europe in the 19th and 20th centuries. If you read the relevant part in a high school world history textbook, it will help you understand the lecture. Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

(Grading criteria)

Based on the normal score (0-10%) by the reaction paper and the report at the end of the semester (90-100%).

CUA200HA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

環境人類学 I

高橋 五月

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：環コア：G,文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学 I は、人間と環境の関係についての文化的側面を探究する学問である環境人類学の基礎を学ぶ講義科目です。文化人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景をもとに多様に存在する人間と環境の関係について学びます。本授業の目的は、文化人類学的な視点を用いて身近な環境問題における文化的側面についての理解を深めることです。

【到達目標】

本授業では、文化人類学的な視点について基礎的な知識を身につけること、また身近な環境問題について文化人類学的アプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係の文化的側面についての知識とクリティカルシンキングを養うことを目的にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は映像資料を随時活用しながらオンデマンド形式で行います。また、クリティカルシンキングを育てることを目的とし、ディスカッションコメントを課題とします。この課題では、講義内で出題する講義内容に関連する「お題」に対して、学生が各自ディスカッションコメントとして回答を Hoppii にて提出します。この課題を通して学生は「お題」に対する自らの考えを言語化するスキルを向上するだけでなく、他学生の回答を通して多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。講義はオンデマンド形式ですが、中間・期末試験は対面で実施予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方、課題、成績評価の方法について説明します。
第2回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介します。
第3回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・シュチュワードの研究を紹介します。
第4回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介します。
第5回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介します。
第6回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義します。
第7回	中間試験	試験・まとめと解説
第8回	複合社会	文化的変容が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第9回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点を講義します。
第10回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義します。

第11回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第12回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第13回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義します。
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献がある場合は授業前までに読んでおきましょう。

（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用される文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します

【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションコメント（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義で使用するスライドを「ハンドアウト」として支援システムにて公開しています。ただ、これは講義の要点が書かれているだけのものですので、学生各自で授業メモを取り、自分なりの授業ノートを完成させてください。

映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。

ディスカッションコメントの回答例紹介コーナーは他学生や教員の意見を知ることができるので楽しく、より深く考える機会になるという意見をたくさんいただいたので、今後も続けていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学 I では、資料配布、お知らせ配信、ディスカッションコメントの提出は全て Hoppii（学習支援システム）を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

"Environmental Anthropology I" is an introductory course to learn about environmental anthropology and related discussions on human-environment relations. The main goal of this course is to help students obtain basic knowledge of environmental anthropology and develop critical thinking skills by asking questions that require them to apply course materials and lectures for their thoughts on human-environment relations and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams and post discussion commentaries on Hoppii. A study time for a class, on average, is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and discussion commentaries (30%).

CUA300HA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考(履修条件等)：環コア：G,文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

環境人類学Ⅱは、「サステナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と文化人類学的アプローチをもとに講義し、議論します。本授業の目的は、講義で紹介する文化人類学的アプローチを参考にしながら、学生たちが自ら「サステナビリティ」とは何かという問いに向き合い、理解を深めることです。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライズメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

関連文献と映像資料を随時活用しながら講義を行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングの機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します
第2回	サステナビリティとは？(1)	サステナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義します
第3回	サステナビリティとは？(2)	持続可能な社会とは何か？これまで実行された方策とその課題について講義します
第4回	コモンズ(1)	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論します
第5回	コモンズ(2)	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論します
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論します
第7回	中間試験	中間試験を行います
第8回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続的な水産業について講義・議論します

第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論します
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します
第11回	災害	災害とサステナビリティの関係について講義・議論します
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します
第13回	アンソロポシオン	アンソロポシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論します
第14回	期末試験	期末試験を行います

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

(準備学習) 詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。

(復習) 中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

資料を配付します

【参考書】

授業中に提示します

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出(30%)、中間・期末筆記試験(70%)。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業なのですが、リアクションペーパーなどを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。今後もできるだけ意見交換ができる時間を授業中に設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅱでは、資料配布、お知らせ配信、リアクションペーパー提出は全て Hoppii(学習支援システム)を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This lecture course is designed to introduce a variety of cases that people are intended to promote sustainability, and provide opportunities for students to think critically about socio-cultural dimensions of "sustainability." The main goal of this course is to help students to obtain basic knowledge of environmental anthropology and also to develop critical thinking skills by asking questions which require them to apply course materials and lectures for their own thoughts on sustainability and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams in addition to submit weekly commentaries by the deadline. A study time for a class on average is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and weekly commentaries (30%).

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

技術哲学 I

金光 秀和

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間と環境の共存、人間と人間の共存に技術 (technology) は大きな役割を演じます。しかし、技術はそうした共存を促進するとともに、時にそれを脅かす存在にもなります。持続可能な社会にとって技術が人間社会に及ぼす影響の批判的省察が欠かせないのです。本授業では、技術哲学 (philosophy of technology) の知見にもとづきながら、技術が人間社会に及ぼす力を理論的に考察し、それがもたらす問題に対処するための基礎づくりを行います。

なお、「科学技術社会論 I・II」と「技術哲学 I・II」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論 I・II】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学 I・II】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義 + ディスカッション

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。

- ・現代の技術の特徴について、授業で扱った概念を用いて説明できる。
- ・技術が人間社会に及ぼす影響について、授業で扱った概念を用いて説明できる。
- ・技術がもたらしうる問題について、論理的・批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、ディスカッション・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ディスカッション・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第2回	グループディスカッション①	事例を通して、身の回りの技術について考察します。
第3回	技術の存在論	技術的人工物のあり方について考察します。
第4回	グループディスカッション②	技術の存在論に関連する事例を検討します。
第5回	技術の認識論	技術的知識の特徴について考察します。
第6回	グループディスカッション③	技術の認識論に関連する事例を検討します。
第7回	技術の方法論	技術的プロセスについて考察します。
第8回	グループディスカッション④	技術の方法論に関連する事例を検討します。
第9回	技術の形而上学①	技術と人間の関係について考察します。

第10回	グループディスカッション⑤	技術の形而上学に関する事例を検討します。
第11回	技術の形而上学②	技術と人間の関係について考察します。
第12回	グループディスカッション⑥	技術の形而上学に関する事例を検討します。
第13回	これからの技術と私たち	科学技術にどのようにかかわるのかについて考察します。
第14回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しません。

【参考書】

村田純一『技術の哲学』岩波書店、2009年

伊藤邦武ほか執筆『科学/技術の哲学』(岩波講座哲学) 岩波書店、2008年

加藤尚武『技術論』(加藤尚武著作集) 未来社、2019年

金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は、知識を得ることだけでなく、積極的にディスカッションに参加するなどして、自ら問題を考察することを期待します。このような観点から、議論への参加度合やディスカッション・ペーパーの提出によって平常点を評価します (30%)。また、第14回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します (70%)。なお、授業内試験も知識の習得だけを目的としたものではありません。詳しくは初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology play an important role in the coexistence of humans and the environment, and humans and humans. However, while technology promote such coexistence, they also threaten it at times. Critical reflection on the impact of technology on human society is essential for a sustainable society. In this course, we will theoretically examine the power that technology exert on human society, based on the findings of the philosophy of technology, and build a foundation for dealing with the problems it brings.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the characteristics of modern technology using the concepts covered in the course.
- Explain the impact of technology on human society using the concepts covered in the course.
- Think logically and critically about the problems that and technology can bring about.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (70%) and in class contribution (30%).

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

技術哲学Ⅱ

金光 秀和

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術（technology）は人間と環境の共存、人間と人間の共存にとって不可欠の存在ですが、時にそれを脅かす存在にもなります。持続可能な社会にとって技術が人間社会に及ぼす影響の批判的省察が欠かせないのです。本授業では、特に先端技術（emerging technologies）を取り上げて、技術哲学の知見にもとづきながら、それがもたらしている問題を規範的に考察します。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。

・先端技術がもたらしている問題について、授業で扱った概念を用いて説明できる。

・先端技術がもたらしている問題について、論理的・批判的に思考できる。

・先端技術がもたらしている問題について、自らの考えを他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、ディスカッション・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第2回	グループディスカッション①	事例を通して、先端技術のあり方について考察します。
第3回	AI	AIが人間社会にもたらしている問題を考察します。
第4回	グループディスカッション②	AIに関連する事例を検討します。
第5回	ロボット	ロボットが人間社会にもたらしている問題を考察します。
第6回	グループディスカッション③	ロボットに関連する事例を検討します。
第7回	テレプレゼンス	テレプレゼンスが人間社会にもたらしている問題を考察します。
第8回	グループディスカッション④	テレプレゼンスに関連する事例を検討します。

第9回	スマート農業	スマート農業が人間社会にもたらしている問題を考察します。
第10回	グループディスカッション⑤	スマート農業に関連する事例を検討します。
第11回	宇宙開発	宇宙開発が人間社会にもたらしている問題を考察します。
第12回	グループディスカッション⑥	宇宙開発に関連する事例を検討します。
第13回	これからの技術と私たち	事例を通して、これからの科学技術にどのようにかわるのかについて考察します。
第14回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

ラングドン・ウィナー著、吉岡斉・若松征男訳『鯨と原子炉：技術の限界を求めて』紀伊國屋書店、2000年

ピーター＝ポール・フェルバーク著、鈴木俊洋訳『技術の道徳化：事物の道徳性を理解し設計する』法政大学出版社、2015年

M. ケーケルバーク著、直江清隆訳者代表『AIの倫理学』丸善出版、2020年

M. ケーケルバーク著、直江清隆訳者代表『AIの政治哲学』丸善出版、2023年

金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は、知識を得ることだけでなく、積極的にディスカッションに参加するなどして、自ら問題を考察することを期待します。このような観点から、対面回における議論への参加度合やディスカッション・ペーパーの提出によって平常点を評価します（30%）。また、第14回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（70%）。なお、授業内試験も知識の習得だけを目的としたものではありません。詳しくは初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【Outline (in English)】**Course Outline**

Technology are essential to the coexistence of humans and the environment, and humans and humans, but they can also be a threat to it at times. Critical reflection on the impact of technology on human society is essential for a sustainable society. In this course, we will take up emerging technologies and normatively examine the problems that they can bring about, based on the findings of the philosophy of technology.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the problems that emerging technologies can bring about, using the concepts covered in the course.
- Think logically and critically about the problems that emerging technologies may bring.
- Explain your own ideas to others about the problems that emerging technologies may bring.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (70%) and in class contribution (30%).

CUA300HA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

環境人類学Ⅲ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：G,文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅲは、人類学の基礎知識をもった学生を対象に開講する中・上級コースです。定員制（30名）とし、定員数を超える希望があった場合は、第一回授業内で志望理由書を書いて提出していただき、選考します。選考結果は同日中にHoppiiにて掲示します。授業では、講義に加えて、学生によるプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実践します。授業のイメージとしては、講義とゼミが合わさったような感じです。質問等がある方は、第1回ガイダンスに出席する、または教員にメールで連絡を下さい。

2024年度のテーマは災害人類学です。災害の文化・社会的側面について日本国内外の文化人類学的研究をもとに学びます。災害とは何か。リスクとは何か。復興とは何か。私たちは、災害にまつわるキーワードについて、知っているようで、その意味について深く考えずに使用していることが多々あります。本授業では、震災にまつわるキーワードの意味を多角的に探求することで、その先に見える文化や社会システムについて考察することを目標とします。従って、本授業の目的は、キーワードを「正しく定義する」ことではありません。学生が自ら疑問を探求し、考察する力を身につけること、またその力を磨くことが最終的な目的です。

【到達目標】

- 1) 災害人類学の議論や視点について基礎的な知識を取得する
- 2) 災害にまつわるキーワードについて、批判的に考察する力を取得する
- 3) 国内外の災害事例についての基本的な知識を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義に加え、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを行います。プレゼンテーションは、テーマリストから1つを学生各自が選び、新聞記事などを調査し、自分なりの考えを発表します。テーマは例えば、「日本で最古の災害とは何か」などがあります。「正しい答え」はないので、学生各自が調査をもとに得た知識をクラスメイトと共有し、議論することが目的です。グループワークのテーマは、災害ミュージアムです。国内外の災害事例ごとにグループ分けをし、オリジナルの災害ミュージアム構想をつくり、発表します。ミュージアムづくりを通して、災害を記録すること、記憶すること、伝えることの意味について理解を深めることを目的とします。この授業ではディスカッションの機会を多く設けます。自分の考えを自分の言葉で表現出来るスキル、また人の意見を自分の考えと対比させながら考察を深めるスキルを磨くことが目的です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的や進め方について、また定員制と選考についての説明をする
第2回	震災人類学の意義 (1)	文化人類学者が災害を研究する意義について講義、討論する

第3回	震災人類学の意義 (2)	文化人類学者が災害を研究する意義について、具体的な事例研究をもとに更に理解を深める
第4回	「災害」とは何か (1)	「災害」とは何か。その意味を探る。
第5回	「災害」とは何か (2)	「災害」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第6回	「災害」とは何か (3)	「災害」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第7回	「リスク」と「安全」の意味 (1)	「リスク」とは何か。「安全」とは何か。その意味を探る。
第8回	「リスク」と「安全」の意味 (2)	「リスク」とは何か。「安全」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第9回	「復興」の意味 (1)	「復興」とは何か。その意味を探る。
第10回	「復興」の意味 (2)	「復興」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第11回	「復興」の意味 (3)	「復興」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第12回	災害ミュージアム (1)	グループごとに災害ミュージアムの構想をまとめ、発表する
第13回	災害ミュージアム (2)	グループごとに災害ミュージアムの構想をまとめ、発表する
第14回	災害ミュージアム (3)	グループごとに災害ミュージアムの構想をまとめ、発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業の前日までに読み、感想文（300字程度）を授業支援システムにアップしましょう。（復習）期末試験の問題は講義で使用する文献、映画、および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文献はHoppiiにて配布します。

【参考書】

文献はHoppiiにて配布します。

【成績評価の方法と基準】

文献感想文（20%）、プレゼンテーション（20%）、グループワーク（20%）、平常点（20%）、レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションとグループワークではノートパソコンを持参してください。手持ちのノートパソコンが無い学生は各自で校内レンタルタブレットなどを利用して持参してください。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【Outline (in English)】

Environmental Anthropology III is an advanced seminar/lecture course requiring a basic knowledge of cultural anthropology. The main focus of this year is disasters. Beginning with a question on what a disaster is, we will explore how disasters affect human and nonhuman lives and how they live with disasters. Students are expected to actively participate in class discussions and group projects. A final grade will be based on reading commentaries (20%), presentation (20%), group project (20%), class participation (20%), and paper (20%).

TRS200HA (観光学 / Tourism Studies 200)

環境表象論 I

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考 (履修条件等)：環コア：口、文

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にとりまわすか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために1992年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も2005年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業(農林水産業や鉱工業)を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できる。

・「景観」は見た目だけではなくことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながる人が多いということに気付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることにメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。(小テストは時間制限なし、参照可)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説(「文化的景観」導入の経緯)	併せて国内の世界遺産を紹介
第3回	ユネスコの「世界遺産」概説 その2	前回の補充(授業テーマに関連する海外の世界遺産紹介など)
第4回	文化財保護法の既存の文化財との比較(1)	日本の文化財の種類、内容

第5回	文化財保護法の既存の文化財との比較(2)	「環境」、持続可能性重視の潮流のなかで
第6回	文化的景観の多面的効用(1)	国土の自然環境保全、食料自給率の改善、生態系保全等
第7回	文化的景観の多面的効用(2)	エコツーリズム、グリーンツーリズム、エコミュージアムの素材/「原風景」
第8回	近江八幡の文化的景観とまちづくり(1)	重要文化的景観第1号のまちの市民活動の歴史、特色
第9回	近江八幡の文化的景観とまちづくり(2)	六次産業創出ほか、新たなとりくみと「有機的に進化する景観」
第10回	精神文化と一体の景観(1)	熊野三山(世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」)
第11回	精神文化と一体の景観(2)	沖縄の御嶽、富士山
第12回	精神文化と一体の景観(3)	童話・映画・アニメの名作の舞台：「フィルムツーリズム」との関連
第13回	精神文化と一体の景観(4)	古典文芸が創った名所の例として、松島・鞆の浦
第14回	総集編	初回～13回の授業のふりかえり

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

不要。学習支援システムに掲載する毎回のスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『「文化的景観」の特質と可能性』(小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』(第2版)第I部第6章、ミネルヴァ書房、2021)ほか、授業のなかで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、毎回の小テスト40%。小テストを1回も受けていないと、期末試験を受けても満点でない限りは単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習することへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、興味を惹かれる(実際に行ってみたくなる)といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサステイナビリティの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】

人間・文化コース、ローカル・サステイナビリティコースと深く関連します。履修の手引きの「コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building, from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.

Goal

・ This lecture aims to help students to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment", which is different from the conventional way of thinking of cultural properties.

・ This lecture also aims to help students to realize that "landscape" is not just about appearance, and that things that seem to have little to do with "environment" often lead to ecological issues.

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 60%, each quiz 40%

TRS300HA (観光学 / Tourism Studies 300)

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考 (履修条件等)：環コア：口、文

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：「生きて変化する文化財」／「五感」が形づくる表象・風景

「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、まずその最大の特徴ともいえる「有機的に進化する景観」の意味を、具体例とともに考察します。続いて、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象 (= 心の中に結ばれる像) の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

- ・「有機的に進化する景観」の意味を理解できる
- ・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと (言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ) を理解できる。
- ・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと (快適、便利ではない要素もかなり重要であること) を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることがメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。(小テストは時間制限なし、参照可)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「環境表象論Ⅰ」の概要／循環する自然に即した生活文化の遺産
第2回	有機的に進化する景観 (1)	文化的景観
第3回	有機的に進化する景観 (2) 一うつぐみの島・竹富島 (前編)	ユネスコの定義の意味／、「観光文化」／四万十川の事例
第4回	有機的に進化する景観 (3) 一うつぐみの島・竹富島 (後編1)	景観の有形部分の真正性
第5回	有機的に進化する景観 (4) 一うつぐみの島・竹富島 (後編2)	景観の有形部分を支える無形文化の厚み (伝統祭事等)
第6回	伝統継承の階層的発想、無形文化尊重の潮流	鳥の子供からみる文化継承、持続可能な「観光」のとりくみと課題
第7回	「五感」のエコロジーと文化的景観 (前)	「文化財」概念の進化に関する日本人の好適性
第8回	「五感」のエコロジーと文化的景観 (後)	「五感」の視点の概説、視覚・聴覚・嗅覚の事例
第9回	光と影・闇 (前)	「光環境」という視点、夜の灯りに関するとりくみ事例
第10回	光と影・闇 (後)	伝統文化における「闇・影」、星空、エコの視点からの重要性
第11回	音風景とは何か	サウンドスケープの概念、日本人の「風景を聴く」伝統
第12回	「残したい日本の音風景100選」から (1)	「自然・生き物」の音風景と伝統文化
第13回	「残したい日本の音風景100選」から (2)	その他 伝統的な生業に関わる音風景
第14回	総括一人間の「身体性」(内なる環境)重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含め

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

不要。学習支援システムに毎回アップするスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『「文化的景観」の特質と可能性』(小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』(第2版)第Ⅰ部第6章、ミネルヴァ書房、2021)ほか、授業のなかで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (レポート形式) と期末試験 (教室筆記) 65%、毎回の小テスト 35%。小テストを1回も受けていない場合や、中間試験 (レポート) 未提出の場合は、期末筆記試験を受けても単位取得できません。

【学生の意見等からの気づき】

環境表象論Ⅰとはほぼ同様で、オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習できることへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、紹介された場所に実際に行ってみたくなる、といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

環境表象論Ⅰと同様、人間・文化コースおよびローカル・サステイナビリティコースに深く関連します。

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural assets that live and change" / Representations and landscapes formed by the "five senses"

For the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation theory I", we will first consider the meaning of "organically evolving landscape", which can be said to be its greatest feature, with concrete examples. Next, various aspects of the collective representation of the region beyond the individual (= the image connected in the heart), which is mainly formed by the fusion of the "five senses", and the human formation and regional formation of the environmental symbiosis type. We will consider the possibility of contributing to.

Goal

・ This lecture aims to help students to understand the meaning of "organically evolving landscape"

・ This lecture also aims to help students to understand that it is effective not to distinguish the "five senses" separately, but to regard them as a sense of fusion of interactions (in other words, the importance of actual experience in the field in a "visually-oriented society").

・ It is understandable that "rich senses" does not mean only comfortable things (comfortable and inconvenient elements are also quite important).

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

mid-term exam & final exam 65%, each quiz 35%

BSC200HA (基礎化学 / Basic chemistry 200)

サイエンスカフェ I

石井 利典

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習にまず取り組みます。さらに、よりクオリティーの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学についてもできるだけ理解を深めていきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を履修するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

2024年度の授業は、すべて対面での開講を予定しています。各回の授業では、化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。提出された課題(確認テストなど)からいくつかのポイントを取り上げ、課題提出後の授業、または学習支援システム、Google Classroomにおいて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1章 原子の構造と性質	原子の構造, 放射線, 化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量的関係	物質質量, 化学反応式
第3回	第3章 酸と塩基	溶液pH値, 酸と塩基の反応, 中和滴定
第4回	第4章 酸化と還元(1)	酸化剤と還元剤の反応, 酸化還元滴定
第5回	第4章 酸化と還元(2)	COD(化学的酸素要求量)値およびDO(溶存酸素量)値の測定原理
第6回	第5章 有機化学の基礎(1)	有機化合物の命名法, 異性体, 有機化合物の構造と性質
第7回	第5章 有機化学の基礎(2)	炭化水素の反応, アルコールの反応, エステル・アミドの構造
第8回	第6章 身近な有機化合物(1)	脂肪酸の種類, 脂肪と脂肪油
第9回	第6章 身近な有機化合物(2)	単糖類, 二糖類, 多糖類の構造と性質
第10回	第6章 身近な有機化合物(3)	アミノ酸, タンパク質の種類と立体構造
第11回	第6章 身近な有機化合物(4)	合成繊維, 合成樹脂, 合成ゴム
第12回	第7章 酵素	酵素, 補酵素, 補欠分子族のはたらき
第13回	第8章 核酸	DNAとRNAの構造, 遺伝子発現のしくみ
第14回	期末テスト(60分間), まとめ・解説	第1回講義~第13回講義の内容に関する筆記テスト, およびまとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。授業終了後に10分間程度で解答できる確認テストを実施します。提出は必須ではありませんが、提出されたものについては採点し、成績評価時に加点します。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成したプリントを使用します。授業で取り扱うすべてのプリント類は、学習支援システムまたはGoogle Classroomから各自ダウンロードしてください。

【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書(出版社は問わない)を入手することが望ましい。

入手先は、<http://www.text-kyoukyuu.or.jp>を参照

【成績評価の方法と基準】

講義内で実施する確認テスト(10分間程度で解答×13回):20%, 期末テスト(60分間で解答×1回):60%, 課題レポート(800字程度×2):20%の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、日常生活で体験する身近な科学に関するテーマもさらに多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムとGoogle Classroomとにアクセスできる情報機器と通信環境が必要です。

受講予定者は、Google Classroomのメンバーへの登録が必須になりますので、第1回講義がスタートする前にメンバー登録をお願いします。メンバー登録方法・登録可能期間は学習支援システムで予告します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course provides an interdisciplinary introduction to environmental science in a chemical perspective. Central theme is the interaction between life and the environment. The course is suitable for students who plan further study in this field, also suitable for students without basic knowledge of environmental chemistry.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to understand basic theory of chemistry and biochemistry for "Environmental chemistry I", "Environmental chemistry II" and "Environmental chemistry III".

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:60%, Short reports:20%, in class contribution:20%

BLS200HA (生物科学 / Biological science 200)

サイエンスカフェⅡ

宮川 路子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生は高校の生物学の知識を基本として、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

対面講義とオンデマンド講義により授業を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き。免疫について。ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。心臓について。血管について。循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。口腔、食道、胃、腸。消化器系の働きと病気。ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能。ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能。関節の仕組みと働き。筋収縮について。ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能。尿について。ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み。ビデオ鑑賞

第11回	神経	神経の仕組みと働き。中枢神経系と末梢神経系。神経伝達のメカニズム。神経の病気。ビデオ鑑賞
第12回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚。嗅覚、味覚、皮膚感覚。内臓感覚。ビデオ鑑賞
第13回	発達	発達の成り立ち。赤ちゃんの発達。ビデオ鑑賞。
第14回	まとめ（授業内試験またはレポート提出）	講義のまとめ、授業内試験またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終講義における授業内試験、または学期末に提出を求めるレポートにより評価を行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

Learning Objectives

Students will acquire a broad knowledge of histology and physiology necessary to understand the structure and mechanisms of their own bodies and to nurture good health.

The ultimate goal is to maintain and improve health and prevent diseases, which are important for students to live in the future.

Learning activities outside of classroom

Be curious about and observe your own body on a daily basis. Collect knowledge on related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the semester (100%).

BAB200HA (基礎生物学 / Basic biology 200)

サイエンスカフェⅢ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みと、地球における生物の進化と適応、生物多様性について、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②生物の進化と適応
- ③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、生態学と生物多様性に関する基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第3回	鳥類の生態2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第4回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第5回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第6回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第7回	生物の進化1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第8回	生物の進化2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第9回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第10回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第11回	海洋と沿岸の生物1	クジラとイルカの生態
第12回	海洋と沿岸の生物2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁

第13回	生物多様性1	3つの生物多様性、レジリエンスとは
第14回	生物多様性2	日本が世界の生物多様性ホットスポットとなっている理由

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで見にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as wildlife and ecosystems in Japan, biological evolution, biodiversity.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

INE200HA (総合工学 / Integrated engineering 200)

エネルギー論 I

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

【到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. エネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。質問は随時受け付ける。また、レポート課題のフィードバックについては授業最終回に時間を設けたり、動画配信などにより実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーと環境、エネルギーの姿
第2回	エネルギーの量を表すもの、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第3回	電力の需要と供給	電力事業の歴史、発電・送電・配電のネットワークと電力消費
第4回	電力システムの安定	電力需給のバランスとコントロール、電力供給の事故
第5回	電力供給の源	三相発電機と送電線
第6回	電力供給のさらなる源	熱力学の基礎、サイクルとは何か
第7回	運動のエネルギー	ピストン（サイクルの一例）における仕事
第8回	エントロピー	エントロピーとはどのようなものか
第9回	熱エネルギーの移動と出入り	エントロピーと熱との関係、カルノーサイクル、エネルギー効率
第10回	熱から電力への変換	熱と水の関係、発電で用いられるサイクル
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義での資料などを用いて予習・復習をすること。

次の内容を事前に学習して授業に臨むと良い。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実験、第5～9回：前回の講義内容の見直し、第10回：水の性質、第11～14回：火力発電と原子力発電

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100%）：各種エネルギーの特性に関する課題により、到達目標の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

エネルギー分野は広範囲の内容を含み、楽しく学べます。わからないところは質問してください。メールなどで質問しても構いません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations, and on the energy demand-supply relationship. Special attention is paid to the electricity power generations using the heat produced by fossil and nuclear fuels.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

A. to learn about the energy supply and consumption in our society,

B. to understand the characteristics of various resources and the energy conversion systems from the view points of thermodynamics, and

C. to obtain the knowledge on the international and domestic trends of energy development and trading.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

PLN200HA (地球惑星科学 / Earth and planetary science 200)

気候変動論 I

松本 倫明

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

備考 (履修条件等)：環コア：G,サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。

春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことからを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体的には (1) 気候変動科学のこれまでの経緯、(2) 温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、(3) 温暖化予測の概要、(4) 大気と海洋の循環と熱収支、(5) 炭素循環、(6) 簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。スライドを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	地球温暖化の概要 (1)	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第3回	地球温暖化の概要 (2)	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第4回	地球温暖化の概要 (3)	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第5回	地球温暖化の概要 (4)	将来取り得る選択肢についての議論
第6回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第7回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第8回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第9回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第10回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。

第11回 温室効果

温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。

第12回 放射平衡

大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。

第13回 炭素循環

二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。

第14回 まとめ

授業をまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストを使用せず、資料を授業中やHoppiiを用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

EAE200HA (環境解析学 / Environmental analyses and evaluation 200)

気候変動論Ⅱ

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：環コア：G,サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見を学ぶ。

秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても学習する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体には（1）気温の変化とその測定方法、（2）温室効果ガスの増加とその原因、（3）エアロゾルの影響、（4）降水・積雪への影響、（5）海洋への影響、（6）気候変動の予測と不確実性、（7）適応策・緩和策、（8）古気候学について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。最新の研究や観測の結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動論Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化（1）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化（2）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス（1）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス（2）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。

第12回 緩和策・適応策

地球温暖化に対する緩和策と適応策を紹介する。

第13回 古気候学

様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。

第14回 まとめ

講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中やHoppiiを用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。履修者数が多くない場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

ミニテストでは携帯電話やスマートフォンを用いる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Advanced knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about global warming. In the fall semester, we lean on the detail of climate change.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

DES300HA (デザイン学/Design science 300)

自然環境政策論 I

高田 雅之

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：口、サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論 I（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論 II（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれている主な自然環境保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第3回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第4回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第5回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第6回	自然環境をめぐる難題：貴重種1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第7回	自然環境をめぐる難題：貴重種2	種の保存法に関する事例、種の再導入など
第8回	自然環境をめぐる難題：外来種1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第9回	自然環境をめぐる難題：外来種2	最近の動向、根絶事例、淡水における外来種問題など
第10回	日本の自然環境保全政策1	ワイルドライフマネジメント

第11回	日本の自然環境保全政策2	自然公園、自然環境保全地域など
第12回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、自然再生事業など
第13回	里山	里山の特徴と変貌
第14回	生物多様性	生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論 I（春期）と II（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしてしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

DES300HA (デザイン学/Design science 300)

自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：G,サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国における特徴的な保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化など
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	法によらない保全メカニズム	生態学と環境計画、自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、ドイツのピオトープ
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ3	欧州の農業環境政策、環境支払い

第9回	国際的な取り組み1	ラムサール条約、世界遺産条約
第10回	国際的な取り組み2	ワシントン条約と生物多様性条約
第11回	国際的な取り組み3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	地域資源の活用とエコツーリズム	エコツーリズムとは、管理型観光と自主型観光、自然の価値を高める経済的な循環事例、地域づくりに生かす試み
第13回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、自然資本
第14回	生物多様性と政策	生物多様性オフセット、ピオトープ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとして行っていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

環境科学 I

藤倉 良

配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考 (履修条件等)：環コ：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I では比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II では地球規模や国境を超える問題について、環境科学 III では資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I、II、IIIのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染 (ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、アスベスト)
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁 (富栄養化のメカニズム、工場排水の処理)
- ・土壌汚染 (原因、対策技術)
- ・廃棄物 (法律上の定義と現状)
- ・リサイクル (意義と現状)
- ・基準の決め方 (リスク論と基準の決定方法)
- ・環境アセスメント (法制度、具体例)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト (下記参照) とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (序章)	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その1 (第1章)	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第3回	大気汚染・その2 (第1章)	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道 (第2章)	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽 (第2章)	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁 (第3章)	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染 (第3章)	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭 (第4章)	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音 (第4章)	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その1 (第5章)	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その2 (第5章)	産業廃棄物

第12回	リサイクル・(第5章)	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク、基準の決め方 (第6章)	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第14回	環境アセスメント (第12章)	法制度、手続き、事例

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良 (2015) 環境学は総合格闘技? 人間環境論集, 第16巻, 第1号, pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30%、期末試験70%です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁 (現環境省) で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this lecture, students will acquire the basic engineering knowledge of mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances (this is learning objectives). Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・プラスチックごみ対策
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・4（第8章）	エネルギー資源
第8回	気候変動・5（第8章）	緩和策
第9回	気候変動・6（第8章）	適応策
第10回	気候変動・7（第8章）	気候安全保障
第11回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント
第12回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第13回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業後の小テストによる出席(30%)と期末試験(70%)で行います。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, and acid rain. Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time and attendance will be taken after the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環Ⅱ：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回Hoppiiで配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30%、期末試験70%です。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関わりました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

This course includes an explanation of the importance of resources, freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, base metals and rare earths. Students will acquire basic knowledge about the importance of resources, the scientific nature of resources, and the prospects for their use. Major topics include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals. Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken when the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学 I

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座において学生は、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

学生は、各種の健康問題の実情を学び、必要とされる健康行動について考えていく。

たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起るのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に付けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学 I～III の内容は若干重複することがある。授業において感想文などの提出を求めた場合には授業内でコメントをするなどのフィードバックを適宜行う。

対面とオンライン（オンデマンド）を組み合わせて講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念予防医学の基礎について
第2回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第3回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第4回	ライフスタイルと生活習慣病③	活性酸素と水素生活習慣病各論
第5回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第6回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第7回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について
第8回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について

第9回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第10回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題
第11回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題、高齢者虐待
第12回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第13回	感染症	性感染症・食中毒
第14回	まとめ	まとめ、レポート提出、または授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

人生100年の健康づくりに医師がすすめる最強の水素術 宮川路子

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention of infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement. In this course, students will learn the basic concepts of preventive medicine and will acquire the knowledge on various health-related issues that are latent in modern society. The aim of the course is to raise health awareness and to acquire the skills necessary for individuals to manage their own health.

Learning Objectives

Students will learn about the realities of various health problems and think about the health behaviors required from younger age. For example, students will learn what happens to their bodies when they consume alcohol, which is often a problem in their daily lives, and will be able to think about specific ways to develop healthy behaviors to prevent problems related to drinking. By accumulating these lessons, students will be able to prevent future diseases and extend their healthy life expectancy.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。本講義で学生は、健康に生きていくための公衆衛生についての重要な知識を身に付けることが可能となる。

学生は疫学の知識を身に付けることにより、ヘルスリテラシーを高める。また、生命倫理について深く学び、いかに健康に生きるかということを考えることを目標とする。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。また、学生は日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。さらに学生は生命倫理の諸問題について学び、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について学習する。さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。映画の視聴に際し、感想文の提出を求めた際には講義の中でコメントを行う。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。対面と、オンライン（オンデマンド）を組み合わせて講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるので、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康

第9回	社会保障	日本の医療制度について
第10回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務
第11回	生命倫理②	安楽死・尊厳死 医療訴訟
第12回	生命倫理③	遺伝子関連問題 遺伝病、色覚異常
第13回	生命倫理④	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第14回	まとめ	講義のまとめ、授業内試験、またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, students will have the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

Learning Objectives

In this course, students will learn the process of using epidemiology, health statistical methods, and sociological methods to investigate and raise issues, as well as to take further action. This will enable students to evaluate and discard health information that they come into contact with in their daily lives, and to take appropriate health actions.

In addition, students will learn about the current state of medical care in Japan and consider appropriate treatment behavior as a patient. Students will also learn about bioethical issues and consider how to live and how to die.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。

現在、我が国においては、年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えていた。その後減少傾向となり、2019年には2万人を切ったが、2020年には再び上昇した。いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルへするケアを適切に行えるようになることを目的とする。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を考えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。

栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンライン、オンデマンドによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア ①	生涯にわたる精神保健の必要性 について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第3回	メンタルヘルスケア ②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア ③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について
第5回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと

第6回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第7回	精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性うつについて学ぶ 摂食障害について
第8回	精神障害④	不安障害
第9回	精神障害⑤	統合失調症
第10回	精神障害⑥	発達障害と就労問題
第11回	精神障害⑦	精神障害に対する栄養療法の実 際について（有効な疾患）
第12回	精神障害の栄養療法 ①	精神障害に対する栄養療法の実 際について（サプリメント）
第13回	精神障害の栄養療法 ②	講義のまとめを行う
第14回	まとめ、レポート提出	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートまたは授業内試験で行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【実務経験のある教員による授業】

産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスケアに力を入れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心とした統合医療の診療を行っている。

【Outline (in English)】

The purpose of public health is to protect people from disease, to preserve and promote health, and to enable people to develop fully and to reach their full physical and mental health status. In this course, students will learn about mental illness and be able to take appropriate care of their own mental health.

Learning Objectives: Students will learn about mental illnesses so that they can maintain their own mental stability and be sensitive to the condition of not only themselves but also those around them, such as family, colleagues, and friends. Through learning about the symptoms, students will be able to recognize mental illnesses at an early stage.

Students will learn how to change their mindset in order to maintain mental health.

Students will gain knowledge on how to prevent and improve mental illness through nutritional therapy.

Through the lectures, students will aim to prevent mental illness (prevention, early detection and treatment, and reintegration into society), as well as to remove prejudices prevalent in Japanese society.

Learning activities outside of classroom: Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

INE300HA (総合工学 / Integrated engineering 300)

エネルギー論Ⅱ

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという再生循環の輪の中にあった。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

【到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、環境負荷低減効果、課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	再生可能エネルギーによる電力供給
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、再生可能エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、落差、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車のタイプと性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量子測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱資源と地熱発電、海洋温度差発電
第14回	エコカーなど	(B)EVとFC(E)Vなどのエコカーのバラエティ、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の資料などを使用して予習・復習をすること。次の内容を事前に学習して授業に臨むと良い。第1回：再生可能エネルギーの売電、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100％）：各種再生可能エネルギーの利用に関する課題により、到達目標の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。わからないことがあれば、メールでも構いませんので質問しましょう。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations. Special attention is paid to the electricity generations using renewable resources such as hydropower, wind power, solar power, biomass fuel and geothermal power.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn about the relationship between the energy consumption and the environmental problems,
- B. to understand the characteristics of the renewable energy systems and
- C. to obtain the knowledge on the efficiency of the renewable energy systems as well as on the problems of the renewable resources.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

EAE300HA (環境解析学 / Environmental analyses and evaluation 300)

大気と社会 I

丸本 美紀

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気象や気候は人間生活に密着したものであり、常に人間生活に影響を及ぼしています。「大気と社会 I」では、近年急増している日本の気象災害の事例を中心に、気候の構成要素や気候の特性、人間社会への影響について学んでいきます。

【到達目標】

1. 気候の構成要素から、日本の気候の特徴を説明することができる。
2. 日本の主な気象災害について、その要因も含めて説明することができる。
3. 日常生活において、どのように気候の影響を受けているのか、功罪両面から考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で授業を行います。各回資料を配布してパワーポイントで説明し、授業内にミニレポートを提出してもらいます。提出してもらったミニレポートについては、翌授業以降でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要説明、気候・気象と人間の歴史、気象災害の歴史
第2回	気候変動と気象災害	気候変動の歴史、地球温暖化と気象災害
第3回	気象観測の方法日本の気候	日本の気象観測網、生物季節観測
第4回	日本の気候	大気大循環、天気図パターンと気象災害、二十四節気七十二候、日本の気候の特徴
第5回	春の気象災害①	春一番とフェーン、局地風と自然エネルギーへの転換
第6回	春の気象災害②	メイストームと雷雨、晩霜害と気温の逆転、熱収支
第7回	夏の気象災害①	梅雨とエルニーニョ、集中豪雨、冷害
第8回	夏の気象災害②	猛暑とラニーニャ、WBGT
第9回	夏の気象災害③	干害と水収支
第10回	秋の気象災害①	秋雨前線、霧
第11回	秋の気象災害②	台風の特徴と被害
第12回	冬の気象災害①	寒さと体感指数
第13回	冬の気象災害②	雪害、山雪と里雪
第14回	まとめ、試験	災害の構造、環境可能論と環境決定論、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。天気予報や新聞、インターネットなど身近な気象・気候情報に関心を持っておくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。各回、資料を配信します。

【参考書】

荒木健太郎『雲の中では何が起きているのか』ベレ出版
仁科淳司『やさしい気候学：気候から理解する世界の自然環境』古今書院
その他、授業内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、授業内のミニレポート+平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】

平常点も成績に反映するようにします。

【その他の重要事項】

防災士の資格を生かして、防災の視点も取り入れて、授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course deals with climatic disasters in Japan and climatic impacts on the human environment and the structure of the atmosphere.

At the end of the course, students are expected to illustrate the feature of climatic disasters in Japan with their factors and impacts for human environment.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), and short reports in each class (40%).

PHY200HA (物理学 / Physics 200)

サイエンスカフェⅣ

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題などの考察へ
 本科目は文系の皆さんに物理学という分野の内容について慣れ親しんでもらうための科目である。日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1)我々の生活に密接に関連していること、そして(2)環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような(難しい?)式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はその3つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

【到達目標】

物質とエネルギーに関する内容について学習する。物理学的な知識の修得は環境問題をはじめとして様々な社会的課題を考察するために必須であることが理解できるようにすることをめざしている。具体的な目標としては次に示すとおりである。

- ・物理学の基礎事項を修得する。
- ・様々な自然科学的な単位について説明できる。
- ・エントロピーの概念について説明できる。
- ・物理学と環境問題などの関係性について説明できる。

なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。視覚的教材をできるだけ多く取り入れながら授業を進めていく。授業資料を毎回事前に学習支援システムに掲載するので、資料を参照しながら受講してほしい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか?
第2回	物体の運動とエネルギー (力学の法則、エネルギーの概念と様々な単位、エネルギーの保存と散逸など)	物体の運動、力学について。エネルギー保存則とは何か? ジュール(J)、ワット(W)などの基本的単位の超入門。
第3回	熱とエネルギーを理解しよう (エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る)	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは? 比熱とは? calとJについて。太陽定数の大きさと地球-宇宙の間のエネルギー収支を知ろう。

第4回	熱とエネルギーを理解しよう (気体の性質、エンジンなどの熱機関の原理を理解する)	気体の圧力、体積、温度などの関係(ボイル・シャルルの法則)を理解する。気象現象の考察。熱機関(熱から仕事への変換)と熱効率について。
第5回	熱とエネルギーを理解しよう (熱の伝わり方を見る、金属棒を伝わる熱+空気の流れにより伝わる熱+電気ストーブによる加熱)	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は? 人間活動と熱との関係は? ヒートアイランド現象とどのように関係しているのか?
第6回	物質の三態と状態変化を調べよう (氷の融解・水の蒸発と潜熱、地球上に存在する水の役割について)	物質の三態(液体、固体、気体)と相転移を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は? 生命体維持における水の役割は?
第7回	物質の三態と状態変化を調べよう (水の密度と膨張率+氷の密度と浮力、氷の融解現象について)	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇と海面水位の上昇との関係は? 氷山が融解すると海面水位は上昇するのか?
第8回	波の性質を知ろう (横波と縦波を観察する、自然の中に現れる様々な波を調べる)	横波と縦波、周期と振動数(周波数)、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波などの理解。
第9回	電気回路の性質を知ろう (電流、電圧、抵抗の超入門、抵抗線を通れる電流による熱発生(ジュール熱)について)	乾電池、導線、抵抗などによる電気回路とオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。電力系統網における送電ロスとは何か?
第10回	磁石を使って電気を作ろう&電池を使って磁石をつろう (電界と磁界について、発電機とモーターの原理を知る)	発電機とモーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か? 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線などは電磁波の仲間。
第11回	原子・分子を理解しよう (原子の構造とエネルギー、核分裂と原子力発電のしくみについての超入門)	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq(ベクレル)とSv(シーベルト)などについて。原子力発電、ウラン、プルトニウムなどに関する入門的解説。
第12回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう (水と湯の間の熱移動+水中に落とされたインク拡散などの現象からエントロピーの概念へ)	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第13回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう (エントロピー論)	なぜLED電球は白熱電球に比べて省エネなのか? エネルギー変換にはロス(損失)が伴われる。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動をエントロピーから解釈する。
第14回	総括	講義内容を概観し、環境問題および社会の持続可能性について考察する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本科目では期末試験を行う予定です。また授業内においてレポートを提出してもらうことがあります。成績は期末試験の結果80%、提出されたレポートの充実度20%によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。

この科目は「環境モデル論I」「環境モデル論II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお薦めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Physical fundamentals for energy and materials In this course we learn fundamentals of physics. Features concerning energy and materials will be clarified with relation to environmental problems on the earth. The following themes will mainly be examined: the law of motion, the concept of energy, the units of energy and power, energy conversion, energy balance on the earth, heat and its capacity, the three states of substances, molecular dynamics for gases and liquids, thermal engine and the heat efficiency, thermal expansion of liquids and solids, the mechanism of thermal transference (conduction, convection, and radiation), phase transition among three states (melting, boiling, and sublimation), fundamentals of wave phenomena, electric circuit, magnetism and electricity, the structure of atomic nuclear and energy, the fission and radioactivity, the first and the second law of thermodynamics, etc. They are instances lectured in this course. (Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the knowledge of fundamentals of physics. The concept of energy and materials is expected to be acquired in class. We will explain the meaning of units appearing in nature. The concept of entropy is necessary to be understood. Students will learn the mechanism of environmental problems from the viewpoint of physics. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with the term-end examination 80% and reports presented in class 20%.

ENV200HA (環境保全学 / Environmental conservation 200)

環境モデル論 I

渡邊 誠

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考 (履修条件等)：環コア：サ

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える
 モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。また人間活動などにおいて考えられる典型例や標準例、理想化された例などのことを指す場合もある。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生起する環境問題はどのような自然法則に支配されて(制約を受けて)いる結果なのか? 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な指標(手法)についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する(空間的に拡散する)という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」という現象や「持続可能」に関する社会的課題を科学的に考察するための基礎という位置づけになっている。

【到達目標】

地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることをめざしている。具体的な目標は次に示す通りである。

- ・地球システムの概要について説明できる。
- ・自然界における物質循環(例えば炭素循環)のメカニズムについて説明できる。
- ・エネルギーの変換と効率について説明できる。
- ・物質・エネルギーに関する量の保存則と質の劣化則について理解する。
- ・環境負荷の大きさを表す指標について説明できる。
- ・物質・エネルギーの観点から、社会の持続可能性の条件について考察できる。

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。授業資料を毎回事前に学習支援システムに掲載するので、資料を参照しながら受講してほしい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明について。関連する他の科目(サイエンスカフェⅣ、統計とデータ分析、環境モデル論Ⅱなど)の概要と本科目との関連性についての解説。

第2回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか?	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化(消費)」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは?
第3回	地球というシステムを眺める(宇宙から微生物までを考える)	太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと食物連鎖。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物(生産者、消費者、分解者)は物質循環に対してどのような役割を担っているのか?
第4回	物質と人為を考える(人間活動による物質とその移動について)	工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか? 廃棄物を焼却処理すると減容化するが、はたして物質は消えて無くなったのか?
第5回	エネルギーと人為を考える(人間活動によるエネルギーの変化とその移動について)	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこに行くのか? エネルギーは消費されるのか? 消えて無くなるものなのか?
第6回	自然の法則と環境(基礎)	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門(その1)。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか? エントロピーとは何か? 環境系のモデルとしての定常開放系について。
第7回	自然の法則と環境(発展)	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門(その2)。エントロピーが増大するとはどのようなことか? ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。
第8回	ライフサイクルアセスメント(LCA)に見る人為の熱力学(基礎)	人間活動の特徴をLCAの立場から考察する。ライフサイクルとは何か? インベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則はLCAではどのように表現されているか?
第9回	ライフサイクルアセスメント(LCA)に見る人為の熱力学(発展)	製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費(使用)、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。
第10回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る(基礎)	人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培(野菜工場)の環境負荷はどれくらいなのか? 露地栽培と比べてどちらが負荷は小さいのか?

第11回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る（発展）	人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球上で行われている人間活動の負荷はどれくらいなのか？地球は現在の人間活動を支え扶養する力を持っているのか？
第12回	持続可能性への考察（科学技術考）	資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性（地球の有限性）から見た成長の限界について。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クローズド・ループ・インダストリは存在するのか？ゼロエミッションは可能なのか？そもそも永久機関は存在するのか？エントロピー増大則に伴う人為の「壁」について。
第13回	持続可能性への考察（熱力学考）	玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。狭い空間で動きを持続させる方法はあるのか？エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデル化する。
第14回	総括	講義内容を概観し、環境問題および社会の持続可能性について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本科目では期末試験を行う予定です。また授業内においてレポートを提出していただくことがあります。成績は期末試験の結果80%、提出されたレポートの充実度20%によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。

本科目は「環境モデル論II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので併せてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェIV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらを履修することもお勧めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to modelling of the earth system and human action. Aim of this course is to acquire the basic knowledge concerning environmental problems and sustainability of the earth. The scientific approach is schemed with thermodynamics. In order to consider the problems, we need to understand the mechanism of the earth system including energy balance and material circulation on it. Feature of human action is required to be examined with relation to natural law on it. This course mainly deals with the matter “energy and materials” which is analyzed through the law of thermodynamics appeared in the field of physics. We formulate the nature of the energy conversion and flow of materials on the earth. The earth system is modeled as one of the stationary-open systems. The techniques of the life-cycle assessment and the ecological-foot print are introduced here. In this course, we recognize that the concept is important for the first law of thermodynamics as energy conservation and the second one as quality consumption (i.e. entropy increment). This is valid not only for energy phenomena but also for material ones. (Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the concept of the mechanism of the earth system and human actions based on the thermodynamics. We are expected to understand the life-cycle assessment and the ecological footprint. As actual examples of the objectives, students will explain the mechanism of the energy conversion and material circulation. We need to understand the concept of entropy increment and its discharge. The conditions for sustainable society will be discussed. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with the term-end examination 80% and reports presented in class 20%.

ENV200HA (環境保全学 / Environmental conservation 200)

環境モデル論Ⅱ

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考 (履修条件等)：環コア：サ/定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：環境基礎論として「共生」と「持続」を考える
 本科目では持続可能とは何か？という問題を自然科学的な観点からより具体的に考えることをテーマとする。対象となる系が持続するということは、システムの時間経過に対する不変性(安定性)を意味するものである。その問題を考察するためには対象系の状態遷移の様子(時間発展、ダイナミクス)を調べることがひとつのアプローチとなる。本科目では、例えばウサギとヤマネコのような喰う者喰われる者の関係性をもとに個体数変動のシミュレーションを体験して考察する。それにより自然界の持っている「持続」のメカニズムを理解する。またこれに伴い「共生」することの意味についても考えていく。このほか、自然界において観察されている幾つかの現象や具体例を眺めてみることににより定常開放システムが持続していくための条件等を探ることにする。このためシステムダイナミクス(SD)手法の初歩的な事項を習得し様々な系の時間発展の様子を理解していく。フィードバック機構とその役割、時間遅れの影響などについて理解を深める。さらには持続可能性というテーマに対してエントロピー増大則などを含めた熱力学的考察をおこなう。

【到達目標】

自然界で観察される現象をコンピュータ上で再現し、その時間発展を追跡するシミュレーションを体験する。具体的な目標は次に示す通りである。

- ・EXCELの各種機能の利用法を習得し、これを高度(実務)利用することができる。
- ・システムダイナミクスの手法を習得し、これを応用することができる。
- ・ウサギとヤマネコのモデルに見る異生物種間の共生関係(捕食—被食関係)のメカニズムが説明できる。
- ・共生関係をもつ系の安定性(持続性)が考察できる。
- ・カオス、フラクタルの概念が説明できる。

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

情報実習室に設置されているPCを利用しながら対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。また授業で必要な資料などについても学習支援システムで提示する。

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたい。EXCELを利用してのダイナミクス・シミュレーションの例を紹介するので、これをもとに考察を進めていく予定である。EXCELをより高度利用したいと考えている方にとっても有意義な内容となるであろう。この授業では情報実習室を使用するため受講者数に制限を設けている。

授業内でレポート課題を出題することがある。それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第2回	EXCELラーニング(基礎)	表計算機能を中心にその使用法を習得する。
第3回	EXCELラーニング(発展)	表計算機能、グラフ機能、データベース機能の使用法を習得する。
第4回	成長の限界(基礎)	ローマクラブ「成長の限界」(1972)と世界モデルの紹介。人口、食糧、工業生産、資源消費量などの成長とその限界について。幾何級数成長(指数関数的成長)のメカニズムを銀行預金、利子返済などの具体的な例で体感する。
第5回	成長の限界(細菌増殖モデル)	細菌増殖モデルとそのシミュレーションについて。限られたスペースで増殖する細菌の増殖曲線(S字型曲線、ロジスティック曲線)にこめられた成長と限界のメカニズムの分析。細菌数増加と残されたスペース(資源、栄養)の減少との関係について。
第6回	生物と共生(捕食—被食のモデル)	捕食者と被食者(例えばウサギとヤマネコ)に関する個体数変動のダイナミクスについて。ロトカ・ヴォルテラによる捕食と被食(2種間)の競合関係と正・負フィードバックの効果の分析。自然界が持っている持続性のメカニズムを解析する。
第7回	生物と共生(捕食—被食の発展モデル)	捕食者と被食者の関係の拡張としての多種間の個体数変動のダイナミクスについて。3種、4種間の競合と持続性を解析する。
第8回	システムダイナミクス(基礎)	様々な問題の構造とその分析、原因と結果の因果関係の分析、シナリオの描画、モデルの検証などについて。SDで使用される記号とフローの描き方。レベル(ストック、状態)とレート(流量)、フロー(流れ)と情報、コンバータ、ソース、システム境界等の概念と計算手法の習得について。
第9回	システムダイナミクス(発展)	具体例をもとにしたSD計算について。正と負のフィードバック(因果関係)ループの理解。その構造がシステムに与える影響(効果)を調べる。それにより「持続する」を考察する。
第10回	複雑系の世界(基礎)	複雑系とカオス理論について。決定論と確率論、初期値敏感性(バタフライ効果)と予測(不)可能性、ロジスティック写像とリターンマップなどの理解。決定論カオス(非線形力学)から社会を考察する。
第11回	複雑系の世界(発展)	複雑系とフラクタルについて。自己相似性、フラクタル次元などの理解とグラフィックスによる描画。自然界においてフラクタル構造はなぜ出現するか?などを考察する。株価の変動、地震のエネルギーなどもフラクタル分布。

第12回	エントロピーの概念	情報理論の紹介。情報量とエントロピーの概念、情報の価値・役割と確率について。エントロピーが最大になるとはどのようなことか？ エントロピーの直感的理解について。持続するということとの関係。
第13回	共生と持続可能な概念	本科目で見えてきたダイナミクスの特徴を熱力学的側面から浮き彫りにする。フィードバックと時間遅れ、多体間の競争・競合、非線形力学等のメカニズムとエントロピー論との関連性について。
第14回	総括	授業内容を概観し、環境問題および社会の持続可能性について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

この科目では、最終授業時に学習支援システムを通じて期末レポート課題を出題しますので、必ず提出してください。それ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますのでこれも評価に加えます。授業参加の積極性50%、提出されたレポートの充実度50%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅においてEXCELを利用することのできる環境があれば、予習・復習しやすくなります。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。

本科目は「環境モデル論I」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので併せてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェIV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらを履修することもお勧めします。

本科目は情報実習室を使用して授業を進めます。このため受講者数に制限を設けています。初回授業において受講者の選抜を行いますので、受講を希望する方は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to system dynamics and sustainability studies with computer simulation In this course we execute computer simulation for dynamical systems with interaction. Personal computers with software EXCEL are used in a computer-practice room. The number of students for this class is limited. Object of this course is to examine the conditions which realize the stable state for dynamical systems. By means of the simulation studies, we clarify the mechanism of sustainability for feedback systems. For instance we practically examine the population change of rabbits and wildcats in forest for a model system as the prey-predator relation. The symbiotic relationship is studied for the systems. (Learning Objectives) At the end of this class, students are expected to have the concept of the symbiotic relation among different species. Simulation technic for dynamical systems is obtained by means of EXCEL usage. The skills of computational processing are obtained in this class. Students will understand the concept of chaos and fractal phenomena as a description of nature in this class. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and Mid- and End-term reports 50%.

DES300HA (デザイン学 / Design science 300)

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：G,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通じた共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
- ③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	北米の自然1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	北米の自然2	北米の国立公園と生態系
第6回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第10回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり

第11回	南～東南アジアの自然	南～東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第12回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第13回	海洋島の自然	海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わりなど
第14回	世界の自然とツーリズム	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

環境管理論 I

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：環コ：経,サ

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、PFAS（ペルフルオロアルキル化合物）に代表される残留性有機化合物やマイクロプラスチックによる水質汚染が国際的に注目されている。気候変動による豪雨や淡水の枯渇により利用できる水が減少しており、水危機の時代ともいわれている。人間は水が無いと生きていけないが、我々が日々安全で安心な水を利用するためには水源である河川や地下水を汚染しないことが重要である。日本は1960年代に水俣病に代表されるような甚大な産業公害を経験し、現在は水質保全のための法律が整備され、工場による法順守が徹底されることで公害防止が行われている。本講座では水質保全のために企業が行うべき水環境管理について学ぶ。具体的には、水質汚濁防止に関する法律、水質汚染の現状と発生源、水質汚染機構と健康影響、水の浄化技術と水質測定について学ぶ。

【到達目標】

水質汚濁防止に関連する法律や工場内における公害防止管理者の役割について理解する。工場から排出される汚染物質の種類とその処理方法について理解する。具体的には水質を管理するための指標となるBOD、COD、SS等の専門用語、凝集沈殿処理、活性汚泥法等の水処理の基本的技術の概要を理解する。実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルを養う。公害防止管理者国家試験の問題を解く訓練を行い、授業終段階では、水質概論及び汚水処理特論の問題を6割程度正解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、講師の作成したパワーポイントの資料を使用して講義を行う。公害防止管理技術だけでなく、近年の水質汚染の問題等にも触れ、2回の課題によるディスカッション形式の講義を通じて、水質汚染に対する問題意識をもって学べるよう工夫された講義となっている。講義内で公害防止管理者国家試験の過去問題にも挑戦し、理解を確かめる。

授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	公害の歴史と公害防止管理者の役割	日本の環境問題の変遷と公害防止管理者法について学ぶ。
2	水質汚濁の発生源、汚濁機構、環境影響	水質汚濁の発生源と富栄養化、赤潮発生、生物濃縮、地下水汚染等の環境影響について学ぶ。
3	水質汚濁に関連する法律	環境基本法及び水質汚濁防止法について学ぶ。
44	第1回課題 発表 ディスカッション	グループ又は個人で最近の公害防止違反事例を調べ、その原因対策について考えまとめる。授業内で発表し、ディスカッションを行う。
5	汚水処理を学ぶための基礎知識	BOD、COD等の用語定義を学び、溶解度、酸とアルカリ、酸化還元、化学反応、錯体とキレート等の化学の基礎を復習する。

6	汚水処理1 排水処理計画、沈降分離	工場における水利用の考え方について学ぶ、排水の基本処理である沈殿分離について理解する。
7	汚水処理2 凝集分離と浮上分離	凝集分離及び浮上分離の原理と装置構成を学ぶ。
8	汚水処理3 ろ過分離、化学処理	砂ろ過の機構、中和、酸化還元、活性炭吸着等の各種物理・化学処理について学ぶ。
9	汚水処理4 生物処理法（活性汚泥法）	生物処理法の概要、活性汚泥法の原理や装置について学ぶ。
10	汚水処理5 生物処理法（嫌気処理法）	嫌気処理法の原理や装置について学ぶ。
11	汚水処理6 窒素及びりん処理、汚泥の脱水	生物処理による脱硝脱窒方法およびりん除去技術、汚泥の脱水技術について学ぶ。
12	課題2回 発表ディスカッション	グループ又は個人で国内外の水質汚染問題を調査し、その原因と課題についてまとめる、授業内で発表する。
13	水質測定	BOD及びCOD等の水質測定について学ぶ。
14	期末テスト	本講座で学んだ、法律および排水処理、水質測定に関連する問題に関する理解度を確認するテストを行う。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義で配布するパワーポイントを講義前に学習支援システムにアップするので、ダウンロードして予習する。「新・公害防止技術と法規（水質編）」のテキストで講義に関連する箇所を予習、復習する。

【テキスト（教科書）】

基本的に講義毎にパワーポイントの資料を配布する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（水質編）（一社）産業環境管理協会 出版

【成績評価の方法と基準】

2回の課題を実施し提出する。課題は最高20点満点/1回とし、2回提出なので、最高40点とする。期末テストは最高60点とする。課題と期末テストの合計で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

排水処理技術は化学式や計算が多く出てくるため、ゼロベースの学生にも分かりやすく、基礎から教えるよう心掛ける。講義内で化学の基礎知識についても適宜、復習する。文系の学生にも興味を持ってもらえるよう、近年の水質汚染が社会に与える影響なども交えて講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

講師は中国及びタイ、カンボジア、ミャンマー、カンボジア等の東南アジアにおいて、公害防止管理者制度及び公害防止技術の移転事業に18年携わっており、さらに、水質測定の日本産業標準規格（JIS）及びISO（国際標準化機構）において水質測定関連の規格開発を長年行っている。これらの経験を活かし、学生には、国内だけでなく、国際的視点で水質汚濁問題をとらえるような講義を行う。関連資格は公害防止管理者資格（水質）、関連する科目は環境法規、環境ビジネスなどである。

【Outline (in English)】

In recent years, water pollution by persistent organic compounds represented such as PFAS (perfluoroalkyl compounds) and microplastics has attracted international attention. Heavy rainfall and the depletion of fresh water due to climate change have reduced the amount of available water, and we are said to be in an era of water crisis. Humans cannot live without water, but in order for us to use safe and secure water on a daily basis, it is important not to pollute rivers and groundwater, which are the sources of water. Japan experienced enormous industrial pollution in the 1960s, as exemplified by Minamata disease, and now laws have been established to protect water quality, and pollution is being prevented through thorough compliance with the law by factories. In this course, students learn about water environment management that companies should implement to protect water quality. Specifically, students learn about laws related to water pollution control, the current status and sources of water pollution, water pollution mechanisms and health effects, water purification techniques, and water quality measurement.

The evaluation for this course is as follows: Students should perform 2 kinds of report assignments. Submission of the assignment can be worth a maximum of 20 points per assignment. If they submit the assignment reports twice, they will be worth a maximum of 40 points. The final exam is worth a maximum of 60 points. The grade will be based on the sum of the assignments and the final exam.

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

環境管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：経、サ

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を抑制、

管理するための関連法令や技術について学びます。国際的に脱炭素社会への変換が進む中、企業のESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。企業は大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。大気関連の法律体系や行政施策及び、硫黄酸化物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄等、企業における環境管理の基礎的知識を学びます。

公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題（その1）	気候変動への国際的な取組やその他の大気環境問題について学ぶ。
第3回	近年の大気環境問題（その2）	国内の大気状況について、環境基準の達成率やPM2.5及び光化学オキシダント生成、水銀排出等の問題について学ぶ。
第4回	大気保全のための各種法律	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第5回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。

第6回	アクティブラーニング 課題1	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDGsの17のゴールとの関連についても考察する。
第7回	燃焼管理技術	燃料の種類や燃焼計算について学ぶ。効率的な燃焼管理及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第8回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物及びその他の有害物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第10回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第11回	アクティブラーニング 課題2	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第12回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第13回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第14回	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習は事前に配布された資料を読み、分からない用語等は事前に調べ勉強する。復習は講義で勉強した内容を講義資料を中心に復習し、分からなかった部分については、インターネットや関連文献を調査し、理解するようにする。さらに、興味をもったテーマについて、自分なりに調べ、より深く理解するように努める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

新・公害防止の技術と法規（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（大気編）発行所（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート2回の評価 各20(%)×2 期末テスト60(%)

【学生の意見等からの気づき】

化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるよう、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で配布した資料

【その他の重要事項】

担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

Course outline :

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities. The transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives :

-To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.

-To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.

-To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.

-To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom :

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Each Report : 20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

ENV300HA (環境保全学 / Environmental conservation 300)

廃棄物・リサイクル論

山本 昌宏

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

備考（履修条件等）：環コア：口、サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々の生活や、あらゆる事業活動から生じる廃棄物について、これを適正に処理・リサイクルすることは、健全な社会活動を維持する上で不可欠である。しかし、その機能不全により、自治体における埋立処分場のひっ迫や大規模な不法投棄事案の発生等が社会問題化し、これに対応するため制度の創設や改善が行われてきた。このような制度の変遷について理解し、課題解決の多様な取組みについて学ぶ。さらに、脱炭素社会に必須となる循環型社会の実現について、プラスチックの資源循環の取組を取り上げ、今後の取組の方向性について学ぶ。加えて、非常時（災害時）の廃棄物問題として、東日本大震災により生じた膨大な災害廃棄物の処理と、原発事故により生じた環境汚染への対応から、災害に対する備えの重要性について学ぶ。

【到達目標】

廃棄物処理・リサイクルを取り巻く課題と、課題解決のための多様な取組について理解する。
循環型社会、ひいては脱炭素社会につながる今後の資源循環の取組の方向性について理解する。
東日本大震災への対応を通じて災害への備えの重要性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行い、リアクションペーパーの提出があります。リアクションペーパーや講義時のコメントは、積極的に講義内容に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の全体構成と進め方
第2回	ごみ・し尿処理の歴史	廃棄物処理法以前のごみ・し尿処理
第3回	廃棄物処理法	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理の制度
第4回	廃棄物に係る社会問題	埋立処分場のひっ迫、大規模不法投棄等
第5回	各種リサイクル制度	容器包装、家電製品、食品廃棄物、建築廃棄物、小型家電製品のリサイクル
第6回	廃棄物・リサイクル制度の改善	不法投棄対策、排出事業者責任の強化
第7回	PCB廃棄物処理	特別措置法の制定と国による有害化学物質の無害化処理
第8回	循環型社会	基本法の制定と循環型社会を目指す取組
第9回	プラスチック資源循環	プラスチックの資源循環の取組と法制化
第10回	浄化槽と下水道	し尿・生活排水処理の取組
第11回	東日本大震災への対応	震災により生じた膨大な災害廃棄物の処理

第12回	福島第一原発事故への対応	放射性物質汚染廃棄物の処理、除染、中間貯蔵の取組
第13回	災害廃棄物対策	東日本大震災以降の災害に備える取組
第14回	試験・まとめ	授業内試験、全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を通じて興味を持った事項について、自ら関連情報を探し学習することを推奨します。講義のテーマに関して、参考となる図書等の情報を提供しますので、活用して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で使う資料は、学習支援システムにアップロードすることを基本とします。

【参考書】

環境・循環型社会・生物多様性白書
環境省五十年史
廃棄物行政概論 日本環境衛生センター
災害初動期指揮心得 国土交通局東北地方整備局
災害廃棄物管理ガイドブック—平時からみんなで学び、備える— 廃棄物資源循環学会 編
その他講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等による平常点40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の講義資料配布に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Regarding waste management and recycling, which are essential to maintaining healthy social activities, students will learn about the changes in the system to deal with various problems and the various efforts to solve problems.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand followings

-A. Understand the issues surrounding waste management and recycling and the various efforts to solve them.

-B. Understand the direction of future resource recycling efforts that will lead to a recycling-oriented society and, ultimately, a decarbonized society.

-C. Understand the importance of disaster preparedness through responding to the Great East Japan Earthquake.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look for and study the related information about the matter interested in through lectures.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

SEE300HA (科学教育・(教育工学) / Science education/ Educational technology 300)

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

その他属性：〈他〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。

また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業では、講義および対話型・参加型の手法を用いる。毎回のテーマに即した資料を読み自主学習を行う。リアクションペーパーや提出された課題に対しては、代表的なものをいくつか授業内で取り上げコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方、成績評価方法などについての説明および授業の導入を行う。
第2回	環境教育の基礎	環境教育の目的や範囲、世界の環境教育の歴史など基本的な内容について講義を行います。
第3回	環境教育と持続可能な開発	持続可能な開発のための教育・ESDについて扱います。
第4回	地域に根差した環境教育・ESDの事例	優れた環境教育ESDの実践事例を紹介し、ゲストスピーカーの可能性あり(調整中)。
第5回	(ゲストスピーカー) 地域に根差した環境活動と論島の事例から	地域に根差した環境活動をしている事例について、ゲストの方からお話を聞きます。
第6回	中間まとめ	講義とグループディスカッション
第7回	学校における環境教育・ESD	日本の学校における環境教育について皆さんの経験を踏まえながら意義と課題を考えましょう。
第8回	ワークショップ—公害と教育	ワークショップ形式で公害と教育について学びます。
第9回	公害と教育(解説)	公害問題について講義を行い、公害教育と教育の果たす役割などさらに考察します。
第10回	気候変動と子どもの権利	2023年8月に国連子どもの権利委員会より出された「子どもの権利と環境」について、紹介します。

第11回 自然とかわる環境教育の意義

自然とかわる環境教育の意義を多面的に検討します。ワークショップの可能性あり。

第12回 施設見学

JICA地球広場の見学を予定しています。

第13回 これからの環境教育を考えよう

環境教育の可能性と課題についてディスカッション。これからの環境教育プログラムを作成する

第14回 まとめ

各自が取り組んだ採択課題を発表。授業の内容や学びを振り返り、まとめにかえます。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

講義ごとに紹介する。参考資料を授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
 『環境教育学—社会的公正と存在の豊かさを求めて—』井上有一・今村光彦編
 『持続可能性の教育—新たなビジョンへ—』佐藤学ほか編著、教育出版
 『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協
 『知る・わかる・伝えるSDGs I』、阿部治・野田恵編著、学文社
 『知る・わかる・伝えるSDGs II』阿部治、二ノ宮リムさち編著、学文社
 『知る・わかる・伝えるSDGs III』阿部治、岩本泰編著、学文社

【成績評価の方法と基準】

I. 平常点(学習状況(コメントペーパーおよび小テスト)、グループワークやワークショップの参加、授業態度を総合的に評価) 50%
 II. 中間レポートとディスカッション 第5回までの内容を踏まえて1000文字程度の中間レポート内容と第6回のグループディスカッションの参加で評価 25%
 III. 最終課題 「これからの環境教育を考える」25%
 ・授業内容を踏まえて環境教育とは何か、課題と意義・可能性について論じる
 ・それを踏まえて、理想的な環境教育の在り方・プログラムなどを考案する
 ・授業内で発表(人数に応じてグループで発表)
 ・提出課題の内容と第14回の授業内で発表で総合的に評価。
 詳細はガイダンスおよび授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

対面形式の授業では、参加型・グループワークの機会を増やす予定です。積極的に参加してください。講義型の授業はオンライン形式で行います。

【学生が準備すべき機器他】

初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。
 資料は、hoppi経由で配布します。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業(ガイダンス)に必ず出席してください。成績に関係する課題を発表する時間を授業内で取りますが、発表の形式は受講人数などを鑑みて決定します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the Environmental Education, and Education for Sustainable Development(ESD). you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to explain the role and examples of Environmental Education and ESD.

【Learning activities outside of classroom Before/after】 each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Policies】 Final grade will be calculated according to the following Mid-term report (25%), term-end report (25%), and in-class contribution and quiz(50%).

CAR200HA (キャリア教育 / Career education 200)

キャリア入門

櫻井 洋介

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、これから社会に出て自身のキャリアを形成していく学生が、自らの意思で自律的なキャリアを構築できるように、キャリアに関する必要な理論や基礎知識の習得を目指します。また、講義の後半には、自分自身のキャリアを考えてもらう機会を提供します。

【到達目標】

自らの意思で自律的にキャリアを形成していくため、キャリア論や労働環境に関する基礎知識を習得すること。自身のキャリア展望について、理論をもとに考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は講義形式で進めます。受講人数にもよりますが、後半は個人ワークやグループワーク等を通じて、自身のキャリアについて考えていただき、個人発表またはグループ発表を行ってもらいます。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方等に関して説明を行う。
第2回	キャリアとは何か	キャリア概念の定義や特徴、キャリア研究のアプローチ方法等について学ぶ。
第3回	ライフサイクルと組織内キャリア形成	ライフサイクルの進展に合わせたキャリアの発達について学ぶ。
第4回	就職活動とインターンシップ	近年の就職活動の動向や求職市場にインターンシップ制度の役割等について学ぶ。
第5回	日本の雇用慣行と組織制度	日本の雇用慣行や変遷、組織制度について学ぶ。
第6回	伝統的キャリアから現代的キャリアへ	バウンダレス・キャリア、プロティアン・キャリアといったような現代的なキャリア観を学ぶ。
第7回	ワークライフバランスとメンタルヘルス	ワークライフバランスに関する近年の動向や労働者の価値観、企業の取り組み等について学ぶとともに、メンタルヘルスの重要性についても取り上げる。
第8回	キャリアの発達と自己実現	自身のキャリア発達が成功であると感じる要素は何か、先行研究等をもとに考える。
第9回	労働関連法規と労働者の権利	自律的にキャリアを構築していく上でおさえておくべき労働関連法規の基礎や、労働者としての権利 (キャリア権等) について学ぶ。
第10回	持続可能なキャリア (サステナブルキャリア) とは	近年、注目を集めるサステナブルキャリアの概念について考える。

第11回	人と組織に関する現代的課題	人的資本経営の推進や最新技術の導入による働き方の変化、それによる労働者への影響等、人と組織を取り巻く現代的課題について考える。
第12回	自身のキャリアについて考える① (個人ワーク、グループディスカッション)	これまで学んできたことをもとに、自己理解のための個人ワークやグループディスカッションを通じて、自身のキャリアを考える。
第13回	自身のキャリアについて考える② (個人発表またはグループ発表)	個人あるいはグループで発表を行い、ディスカッションを実施する。
第14回	まとめ：自律的なキャリアを構築するために	これまで学んできたことを概括した上で、一人ひとりが自律的なキャリアを構築するために必要な要素を考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料や参考書等をもとに予習・復習をお願いします。毎回の講義の後に、予習箇所は指示します。また、個人発表やグループ発表に向けて、授業時間外にも準備をしていただくことになります。講義の最後に、ワークや発表の成果をレポートの形でまとめてもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

柏木仁『キャリア論研究 補訂版』(文眞堂, 2020)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (講義やディスカッションへの参加、貢献) を20%、個人ワークやグループワーク等の成果発表を30%、レポート課題を50%とします (レポートは、個人ワークやグループワークの成果発表の内容をまとめて頂くことを想定しています)。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連、コンサルファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、現役の企業コンサルタントとして様々な企業と接点を有していること等も踏まえて、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture aims to provide students who are going to develop their own careers with the necessary theories and basic knowledge so that they can build autonomous careers on their own initiative. The lectures also provide students with an opportunity to consider their own careers.

【Learning Objectives】

To acquire basic knowledge of career theory and the working conditions in order to develop their own career autonomously on their own initiative.

To be able to consider their own career prospects based on the theory.

【Learning activities outside of classroom】

Please prepare and review based on the handouts and reference books. Preparation materials will be given after each lecture. In addition, students are expected to prepare for individual and group presentations outside of class time. At the end of the lecture, students will be required to write a report on the results of their work and presentations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

20% will be given for usual performance score (participation and contribution to lectures and discussions), 30% for presentation of individual and group work, and 50% for reports (the summary of the results of individual and group work).

ASS300HA (社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300)

食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考 (履修条件等)：環コア：経, 口, グ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、学生が現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・実態・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解することを試みる。経済発展段階が先進国段階に到達するとともに、メガFTAの締結等による貿易自由化が進む中で、農業という産業が国民・地域経済にどのような意義を持つのか、学生は学修する。

【到達目標】

学生が、①農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、②日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、③論理的に表現することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式による講義を実施する。不定期にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ：農業問題と農業政策	経済発展が先進国段階に到達するとともに、貿易自由化が進む中で、日本農業が直面している問題と取るべき政策について理論的に解説する。
第2回	国際農産物貿易交渉の展開過程	1980年代のGATTウルグアイ・ラウンドから近年のFTAに至る過程を、世界経済の構造転換に注目しながら解説する。
第3回	TPP・日米貿易協定と日本農業	日本も参加したTPP及び日米貿易協定の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済学的特質が見られたのか検証する。
第4回	アメリカ農業の歴史と現状①	日本にとって政治的・経済的につながりが強いアメリカの農業について、歴史と現状を多面的に概説する。
第5回	アメリカ及びカリフォルニアの稲作	日本の稲作にとって潜在的な競争相手であるカリフォルニア州の稲作の実態と課題について、水問題への対応に注意を払いながら検討する。
第6回	アメリカ農業の歴史と現状②	アメリカの食料・農業問題を扱ったDVDを鑑賞し、第4～5回授業の理解を深める。
第7回	国際農産物市場の現局面と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易の状況を開設するとともに、食料自給率と食料自給力に示される食料安全保障のあり方について考察する。

第8回	日本経済の構造転換と食料消費	日本経済の構造転換、及び家族関係の変化の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。
第9回	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに登場してきた集落営農組織、農外企業の企業参入等の農業の担い手について、地域的多様性や農地制度改革に注目して検討する。
第10回	農業労働力の脆弱化と確保の課題	農業労働力が昭和・一桁世代や団塊世代の高齢化・引退によって枯渇していること、新規就農者や外国人労働者等によって確保が試みられていることを説明する。
第11回	農業の多面的機能と生態系サービス	農業が発揮する経済的機能以外の様々な機能やサービスを、環境経済学の理論的フレームワークや実例を用いて解説する。
第12回	条件不利地域農業と農山村政策	農業の多面的機能を多く担いながらも、衰退と再生の動きが交錯する日本の農山村再生のために求められる政策について、近年の田園回帰の動向に注意を払いながら検討する。
第13回	グループワークの報告会	グループワークの希望者は授業までに課題を実施し、授業中にその成果を報告する。
第14回	エビローグ：現代日本の農業政策	これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。学生は、授業の前に学習支援システムにアップされる講義資料を予め読んでおく、また授業後に見返しておく。また、授業中に紹介される参考書を読むことも推奨される。興味関心を養うために、学生は新聞で農業関係の記事があったら読んでおくことも望ましい。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。資料を事前に学習支援システムにアップするので、各自プリントアウト等をして授業に臨むこと。授業内では配布しない。

【参考書】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012年(本体2,600円+税)。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年(4,200円+税)。
- ④農林水産省『食料・農業・農村白書』(各年版)(www.maff.go.jp/j/wpaper/)。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：100% (実施方法は授業内で指示する)

【学生の意見等からの気づき】

学生と教員のコミュニケーションの強化を求める声があったので、リアクションペーパーの実施回数を増やす等、学生との双方向の授業を心がけたい。また、希望者に対してはグループワークを導入することで、農業・農村に対する理解を深めることを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

資料や連絡事項を学習支援システムにアップするので、定期的にチェックをすること。また、公開期限を過ぎた資料は再度アップしないので注意されたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims that students become to understand the agriculture and agricultural policy of contemporary Japan which has arrived at the stage of developed countries from the perspectives of agricultural economics and agricultural politics. This class tries to understand various aspects of the agriculture and agricultural policy in terms of theory, history, current status and international comparison. Students can finally understand significances agriculture have as an industry under the stage of developed country and the progress of trade liberalization caused by mega FTAs.

[Learning objectives]

Students will be expected to 1) have basic knowledge of agricultural economics and politics, 2) have thoughts about issues and future directions of Japan's agriculture, and 3) be able to express them logically.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to study for two hours outside of classroom through reading class materials uploaded on the Hoppii.

[Grading criteria/policy]

Grading will be given based on term-end examination (100%).

ASS300HA (社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300)

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考 (履修条件等)：環コア：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義で受講生は「食」と「農」からみた社会と経済の歴史を検討し、現代社会と未来を考える視座を得ることを目的とします。

【到達目標】

受講生はフィールドワークにもとづいた食と農の研究を中軸に据え、地理学、歴史学、人類学、社会学、民俗学などの知見と成果を加えた、多面的かつ複眼的な視点から、食と農と環境の関係の問題を考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な限り、対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション—1番身近なSDGs	地球と人類の課題として「幸せ」と「豊かさ」を実現する社会について考える。
第2回	食と農の現代的課題—アフリカとインドと日本の現場から	身近な現代的課題から食と農とSDGsについて考えるきっかけを得る。
第3回	環境を考える「環」の視点—私たちは何者なのか	食べるという行為をみつめると、どのような社会の様相が見えてくるのかを考える。
第4回	近世日本の食と農と環境—下肥の世界	近世日本の人びと、食と農と環境の関係について考える。
第5回	近代日本における循環構造の再編—都市化と疫病と衛生観	都市化と疫病と衛生観について考える。
第6回	戦後日本の環境行政—清掃事業をめぐって	戦後日本の食と農と環境の関係を清掃事業から考える。
第7回	講義前半についてのオープンダイアローグ	簡単なワークショップを実施する予定。
第8回	現代日本の食と農と環境—「環」の世界は今	現代日本の現状を再考する。
第9回	食べものはどこから来たのか—「種子」から考える	現代の食と農について考える。
第10回	食べものとは何か (1) 一胃袋と社会	地域社会事業と食と農の関係について考える。
第11回	食べものとは何か (2) 一土と農業	戦後農政と農村について考える。
第12回	食べものはどこへ行くのか (1) 一食の再考	食べもの、食べること関わる現代社会の状況を把握する。

- 第13回 食べものはどこへ行くのか (2) 一食の可能性
- 食と農と環境の今後の展望を考える。
- 第14回 私たちはどこへ行くのか
- 講義内容を総括し、今後の課題を議論する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義内容に関連する新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち考察を深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

- ・湯澤規子、伊丹一浩、藤原辰史編著『入門 食と農の人文学』ミネルヴァ書房、2024年
- ・湯澤規子『胃袋の近代—食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
- ・湯澤規子『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年
- その他、随時紹介します。
- ・湯澤規子『ウンコはどこから来てどこへ行くのか—人糞地理学ことはじめ』ちくま新書、2020年
- ・佐藤大介『13億人のトイレ—下から見た経済大国インド』角川新書、2020年

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー (30%)、期末レポート (70%) によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な資料を用いた講義が好評でしたので、引き続き活用したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

初回4月12日 (金) 初回はオンラインで実施します。

【Outline (in English)】

◆Course outline

In this lecture, students will examine the history of society and economy from the perspective of "food" and "agriculture," with the aim of gaining a perspective on contemporary society and its future.

◆Learning Objectives

Students are expected to think about food and agriculture issues from a multifaceted and multifaceted perspective, based on fieldwork-based research in regional economics, as well as knowledge and results from geography, history, anthropology, sociology, and ethnography.

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Please pay attention to newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to the lecture content and deepen your consideration. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on reaction papers (30%) and final report (70%).

ASS300HA (社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300)

食と農の環境学Ⅲ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史という縦軸、地域という横軸にもとづいて、地域の「食べものがたり」を知り、考える。「食」と「農」の関係を考える視座を共有し、持続可能な「環境」やこれからの社会について議論する。

【到達目標】

受講生は「食」と「農」をつなげて「環境」や「地域」の魅力を理解し、説明し、発想・構想・実践できる知識と能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	食と農の「今」に関わるトピックを紹介する。
第2回	地域の「食べものがたり」	知っている、経験したことがある地域の「食べものがたり」について話し合う。
第3回	食を生み出す地域を歩く（1）	歴史・自然・技術を複合的に理解し、食と農と環境の関係を論じる。
第4回	食を生み出す地域を歩く（2）	歴史・自然・技術を複合的に理解し、食と農と環境の関係を論じる。
第5回	食と農の歴史をひもとく（1）	歴史的な視座から食と農を論じる。
第6回	食と農の歴史をひもとく（2）	歴史的な視座から食と農を論じる。
第7回	食と農のローカルとグローバルを再考する（1）	身近な事象から食と農のローカルとグローバルを考える。
第8回	食と農のローカルとグローバルを再考する（2）	身近な事象から食と農のローカルとグローバルを考える。
第9回	食と農をジェンダーで読み解く（1）	食と農に潜むジェンダーの問題を議論する。
第10回	食と農をジェンダーで読み解く（2）	食と農に潜むジェンダーの問題を議論する。
第11回	食と農の学びと探究をひらく（1）	食と農と環境を様々な分野へつなげて考える。
第12回	食と農の学びと探究をひらく（2）	食と農と環境を様々な分野へつなげて考える。
第13回	食と農の人文学としての環境学	これまでの講義内容をふまえて、現代的な社会課題について議論する。
第14回	まとめ	総括と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や指定教科書等を使用して必ず予習・復習をすること。

「食」や「農」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに興味を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

湯澤規子、伊丹一浩、藤原辰史編著『入門 食と農の人文学』ミネルヴァ書房、2024年3月刊行

【参考書】

・湯澤規子『7袋のポテトチップスー食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年

その他、随時紹介します。

・湯澤規子『胃袋の近代一食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年

・金田章裕『和食の地理学—あの美味を生むのはどんな土地なのか』平凡社新書、2020年

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末レポート60%によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

食と農に関する身近な話題を入口にして、いくつかの基本的な理論を紹介します。やや難しい理論も分かりやすく伝えるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】**◆Course outline**

In this lecture, students will learn and think about the "food story" of the region based on the vertical axis of "history" and the horizontal axis of "region". We will share the perspective of thinking about the relationship between "food" and "agriculture" and discuss sustainable "environment" and future society.

◆Learning Objectives

Students will acquire the knowledge and ability to understand, explain, conceive, conceptualize, and practice the appeal of "environment" and "region" by connecting "food" and "agriculture".

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Be interested in newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to "food" and "agriculture", and if possible, actually visit, eat, and experience them through the five senses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the following criteria:40% for ordinary marks, 60% for final report

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

アーティストと社会貢献

庄野 真代

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境、人権、医療、福祉、災害など多様な公共的課題に関するアーティストの社会貢献活動は世界的にみても20世紀半ばから歴史的蓄積があるが、そこから生きた学問を紡ぎ出す作業は未開拓である。そこで、この授業では、私自身の「音楽を通じた社会貢献・支援活動」を積んだ経験とともに、社会貢献活動を推進しているアーティストが共生社会の実現にどう関わっているのかを考えながら、参加者自身の社会性を問い直す機会とする。さらに、アーティストと大学の協働による新たな社会貢献論を構想する。

【到達目標】

- ・アーティストの社会貢献活動の歴史、現状と課題について理解する。
- ・アーティストが社会貢献活動を通じて訴えたい現代社会の諸問題を考察する。
- ・アーティストの社会貢献活動を通して、自らの社会参加について思考力を高める。
- ・社会貢献活動の実践的な企画力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず「アーティスト」「社会貢献」という言葉の定義について理解を深め、アーティストが国際社会や日本で活動を展開してきた歴史的な経緯を確認する。さらに、現代社会におけるアーティストの多様な社会貢献活動から、それらが社会や一般市民の考えにどのような影響をおよぼしていく可能性があるのかを探る。授業形式は、毎回のテーマに添った内容を解説しながら関連した音楽や映像を紹介する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介と講義ガイダンス
第2回	アーティストとは？ 社会貢献とは？	芸術は人が豊かな精神生活を営む上で不可欠なもの。その担い手であるアーティストの定義や社会貢献の意味への理解を深める。
第3回	プロテストソングの誕生～アーティストと現代史（1）	1960年代にアメリカのフォーク歌手らが政治的抗議の歌を歌い、ジョンレノンらによって他ジャンルに広がり、音楽が社会活動となった経緯を知る。ピート・シーガーなど。

第4回	代表的アーティストの社会貢献と自己変容～アーティストと現代史（2）	イギリスとアイルランドのロック／ポップス界のスター達で結成された「ライブ・エイド」（1984年）を契機に「USAフォー・アフリカ」「LIVE 8」などが作られ、多くのアーティストが慈善活動家として動き出した時代を考察する。ポップ・ゲルドフ、ボノなど。
第5回	社会貢献活動の軌跡～アーティストと現代史（3）	平和・環境・子ども・HIV/AIDS、貧困、災害支援、地域など、諸問題に取りくむアーティストの活動を知る。マイケルジャクソンなど。
第6回	国際社会とアーティスト～親善大使としての役割	国や文化の違いを超えて交流できるアートの有用性を考察するとともに、国内外の親善大使として活動するアーティストがどのような働きをしているのかを探ってみる。アンジェリーナ・ジョリーなど。
第7回	東日本大震災とアーティストの社会貢献活動	震災後、アーティストたちが被災地支援のために手がけたことを検証するとともに、各地における反応や成果、その継続性について考察する。レディガガなど。
第8回	アートと市民社会組織	アート（文化・芸術）の促進活動そのものが社会貢献活動になっているNPO／NGO、市民団体について考察する。
第9回	企業とアーティストの協働	企業や団体が行う社会貢献活動において、アーティストが関わる（チャリティイベントなど）ケースの企画意図や効果について考える。
第10回	コミュニティ形成とアーティストの役割	アートのある場所には人が集まり一時的なコミュニティができる。そこでアーティストの果たす役割について考察する。
第11回	社会貢献活動の企画ワークショップ	社会貢献イベントなどを自分で企画してみる。
第12回	アーティスト参加型プロジェクトのケース	「ピンクリボン」「ほっとけない世界のまじしきキャンペーン」「なんとかしなきゃ！プロジェクト5.5億人」など、啓蒙プロジェクトに参加してきたアーティストの活動を知る。
第13回	クラウドファンディングなどによる支援活動例	アーティストが社会貢献するための資金集めについて最近の動向を考察し、誰もが社会参加につながる方法を知る。
第14回	新たな知の創造と社会貢献活動の展望 授業内試験の実施	授業内容に基づきながら、新たな社会貢献論を構想し、さらに、社会の触媒としてのアートから生まれた提言が、今後どのように市民社会で発展していくのかを探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の講義にて全講義に関するリサーチレポートをアップロードしますので、翌週までに、それを書いて提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回の教材は、学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

その都度、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①課題レポート60%、③授業内試験40% による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

現在活動中のアーティストの動画などの紹介が好評だったため、今期も新しい情報を提供しながら講義を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・履修希望者は、初日に配布したリサーチレポートを翌週までに必ず提出していただきます。

リサーチレポートの提出がない場合および記入が不完全な場合は履修できません。

希望者多数の場合は、レポート内容により100名程度に選考させていただきます。

・動画の紹介もあるので、時間の余裕を十分持って受講してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This is a course to learn social contribution by artists through music and other performances. Students will learn the footprints of artists, who have developed social contribution and support activities through music while analyzing their messages and will explore ways to engage with their own society.

(Learning Objectives)

- ・ Understand the history, current situation and issues of artists' social contribution activities.
- ・ Consider the problems of modern society that artists want to appeal through social contribution activities.
- ・ Improve thinking ability about one's own social participation through social contribution activities of artists.
- ・ Acquire practical planning ability for social contribution activities.

(Learning activities outside of classroom)

You will upload a research report on all lectures in the first lecture, so please write and submit it the next week.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Comprehensive evaluation based on (1) research report 30%, (2) assignment report 40%, and (3) in-class examination 30%

ARS1300HA (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 300)

グローバルスタディーズ I

兼頭 ゆみ子

配当年次/単位：2～4年 / 2単位
 開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5
 備考 (履修条件等)：環コア：グ

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

個人の生活も経済活動もエネルギーに依存しています。どのようなエネルギーをどのように扱うかは、人間社会の存続維持、地球温暖化などの環境課題とも関連する国際社会の重要課題となっています。この授業では、IEA(International Energy Agency: 国際エネルギー機関)による「World Energy Outlook 2023」を読み、議論することを通じて、このような現状について考えます。

【到達目標】

- ・エネルギーに関する基礎知識を身につける。
- ・国際的なデータを読み、考察する能力を得る。
- ・エネルギーに関わる様々な問題について、自らの見解を述べることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教材は英語で書かれています。授業は第3回以降、演習形式で行います。各週、発表とそれに基づく議論で構成されます。発表者のみならず全受講生が、各週に割り当てられている箇所を事前に読む予習が求められます。最終回に期末レポートに関する学生発表を予定しています。予習と教室での議論に意欲的に取り組む受講生を期待します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の目的や進め方などを説明する。その他、自己紹介、発表の割当などを行う。
第2回	(講義)Chapter2	Setting the scene: New context for the World Energy Outlook / WEO scenarios
第3回	(発表と議論) Chapter3.1-3.3.2	Introduction, Total final energy consumption: Industry / Transport
第4回	(発表と議論) Chapter3.3.3-3.5.1	Total final energy consumption: Buildings, Electricity, Fuel: Oil
第5回	(発表と議論) Chapter3.5.2-3.6	Fuel: Natural Gas / Coal / Modern bioenergy, Key clean energy technology trends
第6回	(発表と議論) Chapter4.1-4.3.1	Introduction, Environment and climate, Secure energy transitions: Fuel security and trade
第7回	(発表と議論) Chapter4.3.2-4.4.1	Secure energy transitions: Electricity security / Clean energy supply chains and critical minerals, People-centered transitions: Energy access

第8回	(発表と議論) Chapter4.4.2-4.5	People-centered transitions: Energy affordability / Energy employment / Behavioural change, Investment and finance needs
第9回	(発表と議論) Chapter5.1-5.3	Regional insights: Introduction / United States / Latin America and the Caribbean
第10回	(発表と議論) Chapter5.4-5.5	Regional insights: European Union / Africa
第11回	(発表と議論) Chapter5.6-5.7	Regional insights: Middle East / Eurasia
第12回	(発表と議論) Chapter5.8-5.9	Regional insights: China / India
第13回	(発表と議論) Chapter5.10-5.11	Regional insights: Japan and Korea / Southeast Asia
第14回	(発表と議論)	期末レポートに関する学生発表と議論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各週の内容を予習し、わからないことを調べる。本講義に関連する報道や世界での出来事に関心をもつ。

【テキスト (教科書)】

International Energy Agency, World Energy Outlook 2023 (ネットからダウンロード可)

【参考書】

平田竹男『世界資源エネルギー入門』(東洋経済新報社, 2023)
 ベルナデット・メレンヌ=シュマケル, ベルトラン・バレ著; 蔵持不三也訳『地図とデータで見るエネルギーの世界ハンドブック [新版]』(原書房, 2023)

【成績評価の方法と基準】

発表：40%
 議論への積極的参加：30%
 期末レポート：30%
 ただし、3分の2以上出席することなく提出されたレポートは評価対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

発表資料は電子データで提供されるため、PCの持参を推奨します。資料の配布やレポート提出に、授業支援システム(Hoppiii)を利用します。

【Outline (in English)】

The course will deal with global energy issues through reading and discussion of the World Energy Outlook 2023. Students will also develop their English reading and data analysis skills. By the end of the course, students are expected to have a basic understanding of the global energy situation and be able to express their own opinions, backed up by the critical insights developed in the course. Prior to each session, students are expected to have read the relevant chapters of the text. Preparation and review time is 2 hours each. Grading will be determined by presentation (40%), active participation (30%), and final report (30%).

ARSI300HA (地域研究 (援助・地域協力) / Area studies(Regional cooperation) 300)

グローバルスタディーズⅡ

兼頭 ゆみ子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

備考 (履修条件等)：環コア：グ

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

紛争や経済状況など、様々な原因により生じる人の移動は、社会課題として扱われる面があります。しかし、世界史をみてみると、人の移動が衝突や摩擦だけでなく、発展の契機となったり、文化の伝播などを引き起こしてきたことも事実です。本講義では、人の移動にまつわる現代の事実と課題について、世界銀行による「World Development Report 2023」を読み、議論します。

【到達目標】

- ・国際社会の事象を多角的に考察する視座を得る。
- ・英語の文献を読みこなす能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教材は英語で書かれています。授業は第3回以降、演習形式で行います。各週、発表とそれに基づく議論で構成されます。発表者のみならず全受講生が、各週に割り当てられている箇所を事前に読む予習が求められます。最終回に期末レポートに関する学生発表を予定しています。予習と教室での議論に意欲的に取り組む受講生を期待します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の目的や進め方などを説明する。その他、自己紹介、発表の割当などを行う。
第2回	(講義)Chapter 1	The Match and Motive Matrix
第3回	(発表と議論)Chapter 2	The numbers: Understanding who moves, where to, and why
第4回	(発表と議論)Chapter 3	The outlook: Changing patterns, needs, and risks
第5回	(発表と議論)Chapter 4	Migrants: Prospering—and even more so with rights
第6回	(発表と議論)Chapter 5	Origin countries: Managing migration for development
第7回	(発表と議論)Chapter 6(1)	Destination countries: Maximizing gains through economic and social policies
第8回	(発表と議論)Chapter 6(2)	Fostering social inclusion / Spotlight 6: Racism, xenophobia, and discrimination
第9回	(発表と議論)Chapter 7(1)	Refugees: Managing with a medium-term perspective
第10回	(発表と議論)Chapter 7(2)	Making progress toward durable solutions by combining legal status and access to opportunities / Spotlight 7: Internal displacement and statelessness

第11回 (発表と議論)Chapter 8

第12回 (発表と議論)Chapter 9(1)

第13回 (発表と議論)Chapter 9(2)

第14回 (発表と議論)

Distressed migrants: Preserving dignity
Recommendations: Making migration work better
Weak match and no fear motive: Respect dignity and reduce the need for distressed movements / Essentials for reform
期末レポートに関する学生発表と議論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各週の内容を予習し、わからないことを調べる。本講義に関連する報道や世界での出来事に関心をもつ。

【テキスト (教科書)】

The World Bank, World Development Report 2023: Migrants, Refugees, and Societies
(ネットからダウンロード可)

【参考書】

ロビン・コーエン (著), 小巻 靖子 (翻訳) 『移民の世界史』(2020年)東京書籍

【成績評価の方法と基準】

発表：40%

議論への積極的参加：30%

期末レポート：30%

ただし、3分の2以上出席することなく提出されたレポートは評価対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

発表資料は電子データで提供されるため、PCの持参を推奨します。資料の配布やレポート提出に、授業支援システム (Hoppii) を利用します。

【Outline (in English)】

The course will deal with issues related to human mobility through reading and discussion of the World Development Report 2023: Migrants, Refugees, and Societies. Students will also develop their English reading and data analysis skills.

By the end of the course, students are expected to have a basic understanding of the global human mobility issues and be able to express their own opinions, backed up by the critical insights developed in the course.

Prior to each session, students are expected to have read the relevant chapters of the text. Preparation and review time is 2 hours each.

Grading will be determined by presentation (40%), active participation (30%), and final report (30%).

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考 (履修条件等)：環コア：文

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：現代社会哲学・思想 (個人の自由と反差別)

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念 (自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…) は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに20世紀の思想を扱います。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑 + 次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がけます。

単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	個人の自由と反植民地主義 (1)	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトル『存在と無』を中心に (1) ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) —— 『弁証法的理性批判』を中心に
第3回	個人の自由と反植民地主義 (2)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (1) —— ジャン＝ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に (1)
第4回	個人の自由と反植民地主義 (3)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (2) —— ジャン＝ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に (2)

第5回	個人の自由と反植民地主義 (4)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (3) —— フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (1)
第6回	個人の自由と反植民地主義 (5)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (4) —— フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (2)
第7回	実存とフェミニズム	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『第二の性』
第8回	実存と老いの問題	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『おだやかな死』、『老い』
第9回	全体主義批判と人間性の問題 (1)	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第10回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』を中心に
第11回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』・クロード・ランズマン・『シヨア』を中心に
第12回	全体主義批判と人間性の問題 (4)	ハンナ・アーレント『エルサレムのアイヒマン』・ロニー・ブローマン/エイアル・シヴァン『スペシャリスト』を中心に
第13回	全体主義批判と人間性の問題 (5)	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』を中心に
第14回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート (30%) + 期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論 (西洋社会思想史I)」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %

Short reports : 30 %

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近現代社会哲学・思想（個人の自由・所有・権力・社会の関係）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、近現代ヨーロッパ社会哲学・思想を紐解きながら、個人の自由・所有・権力・社会について考えます。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑+次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	自由・所有・契約（1）	社会契約論者たちの考えた自由（1）
第3回	自由・所有・契約（2）	社会契約論者たちの考えた自由（2）
第4回	功利主義の罨	功利主義者たちの考える「効用」
第6回	古典派経済学の誕生	アダム・スミスの道徳感情論と労働価値説
第7回	産業社会の夢	初期社会主義者と「産業社会」
第7回	労働と疎外（1）	カール・マルクス『ドイツ・イデオロギー』、『共産主義者宣言』、『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』など
第8回	労働と疎外（2）	カール・マルクス『資本論』
第9回	勤勉さと資本主義	マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』

第10回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第11回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に
第12回	可視化されない労働	イヴァン・イリイチ『シャドウ・ワーク』
第13回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバルの市民権論
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（30%）+期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %

Short reports : 30 %

CAR300HA (キャリア教育 / Career education 300)

キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を身につける。

【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリアチャレンジ説明会 (春・秋セメスターで各一回行います)	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第2回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第3回～第12回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第13回	キャリアチャレンジ・事後研修 (1)	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第14回	キャリアチャレンジ・事後研修 (2)	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講評会を実施します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集 (参考文献や資料) を行い実習の効果を高めることが望まれます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (80%)・レポート (20%)

【学生の意見等からの気づき】

毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、「選択必修科目」(6単位)の対象科目です。

【Outline (in English)】

◆Course outline

This is an internship program for the designated organization/institution. Students will be able to understand mission and activities of the organization/institution and to obtain necessary knowledge and experiences for the future career planning.

◆Learning Objectives

The goal is for students to experience short-term employment at companies, government organizations, NPOs, etc. while they are still in school to raise their awareness of career development and contribute to their career choices after graduation.

◆Learning activities outside of classroom

It is recommended that students collect information (reference literature and materials) in advance to enhance the effectiveness of the practical training with the guidance of the instructor in charge, including the industry and business characteristics of the training site. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

Normal score (80%), Report (20%)

CAR300HA (キャリア教育 / Career education 300)

キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を身につける。

【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリアチャレンジ説明会 (春・秋セメスターで各一回行います)	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第2回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第3回～第12回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第13回	キャリアチャレンジ・事後研修 (1)	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第14回	キャリアチャレンジ・事後研修 (2)	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講評会を実施します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集 (参考文献や資料) を行い実習の効果を高めることが望まれます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (80%)・レポート (20%)

【学生の意見等からの気づき】

毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、「選択必修科目」(6単位)の対象科目です。

【Outline (in English)】

◆Course outline

This is an internship program for the designated organization/institution. Students will be able to understand mission and activities of the organization/institution and to obtain necessary knowledge and experiences for the future career planning.

◆Learning Objectives

The goal is for students to experience short-term employment at companies, government organizations, NPOs, etc. while they are still in school to raise their awareness of career development and contribute to their career choices after graduation.

◆Learning activities outside of classroom

It is recommended that students collect information (reference literature and materials) in advance to enhance the effectiveness of the practical training with the guidance of the instructor in charge, including the industry and business characteristics of the training site. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

Normal score (80%), Report (20%)

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

地域経済論Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では空間軸とともに時間軸を加えて、地域の経済を立体的に把握し、考える事を目的とします。地域の経済を考える具体的な事例は、①近代編（明治～戦前）、②現代篇（戦後～現在）に分けて紹介する。

【到達目標】

学生は、長期的な視野から、国土開発の歴史を概観し、「地域」や「地方」という概念がいかに登場し、その意味がどのように変遷しながら現在に至るのかを考えます。特に戦後の全国総合開発計画の歴史、高度経済成長期における地域構造の大転換、明治・昭和・平成の合併などが地域に与えた影響をふまえて、今、なぜ地域の経済を論じる必要があるのかを議論してみたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域や地方の構造や論理に関する歴史について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション キミとボクとセカイとチイキ	新しい「地域主義」の時代について論じる。
第2回	近代編1：「地方（じかた）」をめぐる 思想と実践	近世・近代の地方政策について論じる。
第3回	近代編2：繭と葡萄酒	山梨県のワイン醸造業の黎明期について論じる。
第4回	近代編3：米と花	愛知県の花卉産業の歴史について論じる。
第5回	近代編4：羊と大根	愛知県の毛織物業と地域社会事業について論じる。
第6回	近代編5：醤油と本	千葉県の醤油醸造業と社会教育事業について論じる。
第7回	キミとボクとセカイをチイキでつなぐには	ワークショップを実施する予定です。
第8回	現代篇1：「地方（ちほう）」の誕生と全総	戦後の国土開発じぎょうと「地方の時代」の背景を考える。
第9回	現代篇2：海とサッカー	鹿島臨海工業地帯の開発について論じる。
第10回	現代篇3：湖とシジミ	むつ小川原開発計画の光と影について論じる。
第11回	現代篇4：電源開発とおやき	長野県の「味の文化財」と地域固有性への再評価について論じる。
第12回	現代篇5：桜と朝市	山梨県甲州市の地域づくりについて論じる。

第13回 「あたらしい地域主義」から考える地域の経済

担い手、組織、ネットワークなどについて近年の議論にふれる

第14回 まとめ

今、地方から経済を考える意義について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各講義内容に関係のある情報を集め、考察を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

・講義中に配布する資料を用いて進めます。

【参考書】

・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
・その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、ディスカッションペーパー（20%）、期末レポート（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションペーパーを活用する講義方式です。自分自身の問題意識を深めることができたというリアクションがありましたので、今年度も引き続き実施したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

In this lecture, we aim to understand and think about the regional economy in three dimensions. To achieve that, we focus on region and era. As examples for considering the local economy, we will introduce (1) modern edition (Meiji-prewar) and (2) modern edition (postwar-present).

◆ Learning Objectives

From a long-term perspective, students will review the history of national land development and consider how the concepts of "region" and "local" emerged and how their meanings have changed over time to the present. In particular, I would like to discuss why we need to discuss the economy of regions now, taking into account the history of the postwar National Comprehensive Development Plan, the major changes in regional structure during the period of rapid economic growth, and the impact of the mergers of the Meiji, Showa, and Heisei periods on regions.

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture. The standard preparation and review time for this class is 30 minutes each. Gather information related to the content of each lecture and deepen your consideration.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the following criteria: normal score (30%), discussion paper (30%), and final report (40%).

OTR200HA (その他/Others 200)

人間環境特論 (職業選択と自己実現)

才木 弓加

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一人ひとりが自分らしいキャリアを考え、納得のいく職業選択を行うための準備を行います。企業研究、自己分析に加え、人間環境学部での学びを就職活動でどう活かしていくかについて自らが考え、事前準備を進めていきます。就職活動がスムーズにそして有意義なものとなるよう講義を行います。

【到達目標】

キャリアについて考え、職業選択を行うために必要なことを理解し、人間環境学部での学びを今後の就職活動に活かせることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

就職活動の環境が大きく変化し、自己理解、企業理解が深く求められるようになります。本講義では2025年卒の就職活動の変化を具体的に示し、主として2026年卒以降の学生がスムーズに事前準備できるよう方法と進め方を説明します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方・就職活動の全体像
第2回	就職活動の状況について	就職活動の環境変化と求人倍率について
第3回	インターンシップについて	就職活動に重要なインターンシップについての理解
第4回	インターンシップ参加について	インターンシップと就職活動、選考のつながりについて
第5回	企業研究	確立されていない企業研究の方法論を学ぶ
第6回	自己分析①	自己理解の重要性を学ぶ
第7回	自己分析②	自己理解のための方法論を学ぶ
第8回	エントリーシートの意味と重要性	自己分析と企業研究の活かし方
第9回	ゲストスピーカー①	企業の求める人物像と採用時のポイントについて
第10回	ゲストスピーカー②	企業の求める人物像と採用時のポイントについて
第11回	ゲストスピーカー③	企業の求める人物像と採用時のポイントについて
第12回	グループワーク・グループディスカッションについて	人間環境学部での学びの活かし方
第13回	企業の採用方法とポイント	オンライン面接が加速することで及ぼす影響について
第14回	これからの就職活動に向けてのポイント	インターンシップ、企業研究、自己分析、エントリーシート、選考について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義中、講義後に出された「企業分析シート」、「自己分析シート」などの課題を進める。

関連する話題について、常に意識を高く持って情報を収集する。本授業の準備学習、復習時間は各2時間程度とする。

【テキスト (教科書)】

レジメを学習支援システムで配布

【参考書】

- ① サブライズ内定、角川SSC新書、才木 弓加 (著)、2012年
- ② 内定獲得の攻略法、Gakken、才木 弓加 (著)、2024年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%

期末レポート：70%

【学生の意見等からの気づき】

授業の後に配布するリアクションペーパーに、授業への感想や意見だけでなく各自の就職活動に関する疑問や質問を記入してもらい次の授業で回答したところ、学生から好評を得たので、今年も引き続き行います。

【その他の重要事項】

就職活動セミナー等の講師を務める傍ら、就職情報サイトでの動画等のコンテンツへの出演や、直接学生への指導にあたる。長年のキャリアに基づいた独自の指導方法は、徹底した自己分析を行うのが特徴。最新の就職活動のトレンドに適応したオンラインでの就職活動の指導にあたる。企業の採用コンサルティング等も担当。受講した学生の就職活動に直結するような実務的な授業を目指す。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This class is designed to give students the opportunity to plan and prepare for their career and employment futures on their own way. Students will learn how to make use of their college studies and experiences to prepare for the job hunting, as well as exploration of occupations and the self-assessment. This class will help your job hunting and make it meaningful.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to have completed the required assignments such as "Corporate Analysis Sheet" and "Self-Assessment Sheet" that will be issued during or after a class meeting in some cases. Your study time will be about two hours for a class.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 70%, Short report: 30%

BSP100HA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

人間環境学への招待**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「人間環境学への招待」は受講者が「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要を理解し、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ることを目的としている。学部のカリキュラムや基本的なアカデミックスキルについて学び、持続可能性に関する様々な側面について講義を受ける中から、各学生が自らの学習の方向性を見極め、大学での学びをより充実したものにすることが狙いである。

【到達目標】

「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索するとともに、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を身につける。人間環境学部における勉学の方向づけ (カリキュラム構成・コース制・研究会など学部の特色の理解)、人間環境学部における「専門性」(既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的・学際的な思考) について、各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式 (複数教員による講義) により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人間環境学部における学び方 (1)	人間環境学部とは・「人間環境学への招待」の概要
2	人間環境学部における学び方 (2)	大学という環境、セーフキャンパス
3	人間環境学部における学び方 (3)	カリキュラム・コース制・講義概要
4	人間環境学部における学び方 (4)	レポートの書き方 (理論編)・プレゼンテーションの基本 (理論編)
5	人間環境学部における学び方 (5)	レポートの書き方 (実践編)・プレゼンテーションの基本 (実践編)・図書館ミニガイド (文献や情報の集め方)・就職関連 (キャリア形成) ミニガイド (文)
6	人間環境学部における学び方 (6)	語学学習・海外で学ぶことの意味・SCOPEと留学プログラム

7	中間試験	これまでの内容を理解したかどうかをチェックする。
8	コースにおける学び (1)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
9	コースにおける学び (2)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
10	コースにおける学び (3)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
11	コースにおける学び (4)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
12	コースにおける学び (5)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
13	ワークシートを用いて自分の関心と所属コースのマッチングを考える	これまでの授業の内容をふまえて自分がどのコースに所属すべきかを考える。
14	研究会の志望書を書いてみる	研究会の志望書を仮に書いてみることで、研究会に所属する準備を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んだうえで出席する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

資料を適宜配布して使用する。

【参考書】

小島聡・西城戸誠・辻英史編著、2021、『フィールドから考える地域環境-持続可能な地域社会をめざして- [第2版]』、ミネルヴァ書房、378p.

その他にも、各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクション・ペーパーの提出など) 35%、中間試験30%、期末試験35%、で総合的に成績評価を行う。なお、期末試験は定期試験期間中に実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施する。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

This course introduces an overview of the Faculty of Sustainability Studies, basic academic skills, and various approaches towards a sustainable society.

【Learning Objectives】

Through this course, students are expected to:

1. Understand the mechanism behind various issues pertaining to sustainability and consider practical solutions for them;
2. comprehend academic approaches (e.g., how the curriculum is organized, the characteristics of academic courses, and what seminars are), as well as the significance of specialization within the interdisciplinary faculty, through lectures by instructors with diverse backgrounds; and
3. clarify their own academic interests and gain knowledge that is essential to effectively select their academic course and classes.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are required to study before and after the class, using the materials introduced in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including the submission of reaction papers): 35%; Mid-Term Exam:30%, Final Exam 35%

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

岡松 暁子

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

高田 雅之

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【到達目標】**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

金藤 正直

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

櫻井 洋介

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びビテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

北川 徹哉

配当年次／単位：1・2年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

長谷川 直哉

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジユメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジユメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジユメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びビテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

芳賀 和樹

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【到達目標】**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA (初年次教育、学部導入教育及びビテラシー教育 / Basic study practice 100)

基礎演習

佐伯 英子

配当年次／単位：1・2年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3
備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読 (1)	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読 (2)	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読 (3)	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論 1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論 2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論 3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論 4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

武貞 稔彦

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【到達目標】**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

基礎演習

梶 裕史

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読 (1)	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読 (2)	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読 (3)	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論 1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論 2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論 3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論 4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びビテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

板橋 美也

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びビテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

日原 傳

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

吉永 明弘

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【到達目標】**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びビテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

藤倉 良

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：定員制社会人クラス

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びビララー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びビテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

湯澤 規子

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

宮川 路子

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びビテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

藤田 研二郎

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

BSP100HA（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎演習

渡邊 誠

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【到達目標】**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、期末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習はクラス指定があります。学生が担当教員を指定することはできません。

COT100HA (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のためのWord/Excel、ゼミ発表等で必要となるPowerpointの基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義/実習後まとめのレポート作成を行っていく。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとWindowsの基本操作	1.ガイダンス 講義の概要/評価について/実習環境の解説/学内の環境について/スキルレベルの確認 2.Windowsの基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第2回	情報セキュリティ基礎とネットワークの活用1	1.情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2.インターネット インターネットの歴史と仕組み
第3回	ネットワークの活用2	1.電子メール Gmailの活用演習 2.オンラインストレージ Googleドライブの活用演習
第4回	ネットワークの活用3	1.情報検索 インターネットを利用した情報検索と活用演習 2.Googleの各種サービスと生成AIの活用 Googleトレンド等の活用、生成AIの活用と留意点

第5回	ネットワークと情報セキュリティ	1.ソーシャルメディアSNSとトラブルについて 2.情報セキュリティ 安全なネットワークの活用
第6回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第7回	文書作成演習-図表の活用	1.書式設定演習 書式設定、印刷設定 2.図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第8回	文書作成演習-長文の編集・書式	1.ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2.長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第9回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第10回	プレゼン資料作成の応用演習	1.スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint活用演習 配付資料の作成
第11回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excelの基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2.書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第12回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1.数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2.参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第13回	表計算演習-さまざまな関数	1.応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第14回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1.グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2.書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義/実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書とwebサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用(20%)、文書作成(30%)、プレゼン(20%)、表計算(30%)のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式でWordの機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OSやアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。

資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, Power-Point, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のためのWord/Excel、ゼミ発表等で必要となるPowerpointの基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。

講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとWindowsの基本操作	1.ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2.Windowsの基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第2回	情報セキュリティ基礎とネットワークの活用1	1.情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2.インターネット インターネットの歴史と仕組み
第3回	ネットワークの活用2	1.電子メール Gmailの活用演習 2.オンラインストレージ Googleドライブの活用演習
第4回	ネットワークの活用3	1.情報検索 インターネットを利用した情報検索と活用演習 2.Googleの各種サービスと生成AIの活用 Googleトレンド等の活用、生成AIの活用と留意点

第5回	ネットワークと情報セキュリティ	1.ソーシャルメディア SNSとトラブルについて 2.情報セキュリティ 安全なネットワークの活用
第6回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第7回	文書作成演習-図表の活用	1.書式設定演習 書式設定、印刷設定 2.図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第8回	文書作成演習-長文の編集・書式	1.ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2.長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第9回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第10回	プレゼン資料作成の応用演習	1.スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint活用演習 配付資料の作成
第11回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excelの基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2.書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第12回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1.数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2.参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第13回	表計算演習-さまざまな関数	1.応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第14回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1.グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2.書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書とwebサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用(20%)、文書作成(30%)、プレゼン(20%)、表計算(30%)のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式でWordの機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OSやアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。

資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, Power-Point, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.Your required study time is at least four hour for

each class meeting.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報処理基礎

梨本 真志

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理技法を講義・実習を通して学ぶ。特に大学生活で必要なレポート・発表資料の作成に欠かせないMicrosoft Office (Word/Excel/PowerPoint)の基本的な操作方法の習得を目指す。Microsoft Officeを用いて作成したデータを相互に利用することで、効果的な文書・資料作成を行うスキルを身につける。

【到達目標】

- ・Webによる情報検索技法を学び、インターネットを効果的に活用した情報収集・調査を行うことができる。
- ・Wordによる文書作成技法を学び、学術的なレポートを執筆することができる。
- ・Excelによる情報処理技法を学び、データの集計・グラフ化を行うことができる。
- ・PowerPointの利用法を学び、発表資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習を用いて授業を進める。授業の前半では各種ソフトウェアの操作方法を解説し、例題を行うことで確認する。授業の後半では課題を行い、授業で学んだ情報処理技法を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を説明する。
2	Windowsの基本操作	Windowsの基本的な操作方法を学ぶ。ファイルとフォルダの使い方学ぶ。
3	インターネットと情報検索	インターネットの仕組み、ブラウザ利用法と効率的な情報検索法を学ぶ。
4	Word：基本操作	Wordの基本的な操作方法を学ぶ。
5	Word：図表	Wordを用いて図表入り文書を作成する。
6	Word：課題	Wordを用いてレポート文書作成の課題を行う。
7	Excel：基本操作	Excelの基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
8	Excel：表計算	Excelを用いて表計算を行う。
9	Excel：グラフ化	Excelを用いてグラフを作成し、データを可視化する方法を学ぶ。
10	Excel：課題	Excelを用いて作成したグラフを含むレポート文書作成の課題を行う。
11	PowerPoint：基本操作	PowerPointの基本的な操作方法を学ぶ。
12	PowerPoint：プレゼン資料	PowerPointを用いたプレゼン資料作成について学ぶ。

13	PowerPoint：課題	プレゼン資料作成の課題を行う。
14	情報処理技法の応用・総括	情報処理技法の更なる活用について学ぶ。本授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業中に課題を行う時間を設けますが、時間内に完了しない場合は授業時間外に行います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて講義前に教材をデータで配布します。

【参考書】

必要に応じて授業中にwebサイトを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成する文書作成(25%)・表計算&グラフ(25%)・プレゼン資料作成(20%)のレポート課題と平常点(30%)により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。初回時にユーザID・パスワードを利用できるようにしておくこと。

授業時間外に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。

資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスを参照してください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline)

This course introduces basic information processing skills using personal computers to students. This course aims to help students acquire basic skills in Microsoft Office (Word/Excel/PowerPoint), which is necessary to prepare reports and presentation materials for university life.

到達目標 (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To gather information and conduct research using WWW.
- To write academic reports using Word.
- To tabulate and visualize data using Excel.
- To prepare presentation materials using PowerPoint.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. There will be time during class for students to complete assignments, but if students do not complete them on time, they must do so outside of class time.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

- Reports: 70%
- in class contribution: 30%

COT100HA (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報処理基礎

梨本 真志

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理技法を講義・実習を通して学ぶ。特に大学生活で必要なレポート・発表資料の作成に欠かせないMicrosoft Office (Word/Excel/PowerPoint)の基本的な操作方法の習得を目指す。Microsoft Officeを用いて作成したデータを相互に利用することで、効果的な文書・資料作成を行うスキルを身につける。

【到達目標】

- ・Webによる情報検索技法を学び、インターネットを効果的に活用した情報収集・調査を行うことができる。
- ・Wordによる文書作成技法を学び、学術的なレポートを執筆することができる。
- ・Excelによる情報処理技法を学び、データの集計・グラフ化を行うことができる。
- ・PowerPointの利用法を学び、発表資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習を用いて授業を進める。授業の前半では各種ソフトウェアの操作方法を解説し、例題を行うことで確認する。授業の後半では課題を行い、授業で学んだ情報処理技法を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を説明する。
2	Windowsの基本操作	Windowsの基本的な操作方法を学ぶ。ファイルとフォルダの使い方学ぶ。
3	インターネットと情報検索	インターネットの仕組み、ブラウザ利用法と効率的な情報検索法を学ぶ。
4	Word：基本操作	Wordの基本的な操作方法を学ぶ。
5	Word：図表	Wordを用いて図表入り文書を作成する。
6	Word：課題	Wordを用いてレポート文書作成の課題を行う。
7	Excel：基本操作	Excelの基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
8	Excel：表計算	Excelを用いて表計算を行う。
9	Excel：グラフ化	Excelを用いてグラフを作成し、データを可視化する方法を学ぶ。
10	Excel：課題	Excelを用いて作成したグラフを含むレポート文書作成の課題を行う。
11	PowerPoint：基本操作	PowerPointの基本的な操作方法を学ぶ。
12	PowerPoint：プレゼン資料	PowerPointを用いたプレゼン資料作成について学ぶ。

13	PowerPoint：課題	プレゼン資料作成の課題を行う。
14	情報処理技法の応用・総括	情報処理技法の更なる活用法について学ぶ。本授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業中に課題を行う時間を設けますが、時間内に完了しない場合は授業時間外に行います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて講義前に教材をデータで配布します。

【参考書】

必要に応じて授業中にwebサイトを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成する文書作成(25%)・表計算&グラフ(25%)・プレゼン資料作成(20%)のレポート課題と平常点(30%)により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。初回時にユーザID・パスワードを利用できるようにしておくこと。

授業時間外に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。

資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスを参照してください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline)

This course introduces basic information processing skills using personal computers to students. This course aims to help students acquire basic skills in Microsoft Office (Word/Excel/PowerPoint), which is necessary to prepare reports and presentation materials for university life.

到達目標 (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To gather information and conduct research using WWW.
- To write academic reports using Word.
- To tabulate and visualize data using Excel.
- To prepare presentation materials using PowerPoint.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. There will be time during class for students to complete assignments, but if students do not complete them on time, they must do so outside of class time.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

- Reports: 70%
- in class contribution: 30%

COT100HA (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報処理基礎

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンによる情報処理と実務を学ぶ

本科目では現代社会において身につけておくことが必要な情報リテラシーを修得する。PCおよびネットワークの基礎的事項と利用技術、情報倫理とセキュリティなどについて学習する。また各種統計資料などの検索法とその利用のための学習を通してデータを活用する力を修得する。さらには企業などの組織のストラテジ（戦略）とマネジメント（管理）に関する内容についてもIT技術との関わりをふまえて学習する。これらにより現代社会について主体的に考察するために必要な知識と技術を獲得する。

【到達目標】

- ・WordおよびExcelによる文書作成および表計算に関する技法を習得し、レポートおよび論文の作成ができる。
- ・PowerPointの利用法を習得し、効果的なプレゼンテーションができる。
- ・Webによる情報検索法を習得し、各種調査に役立てることができる。
- ・情報セキュリティの基礎事項を習得し、コンピュータ・ネットワークを安全に利用することができる。
- ・ITシステムとテクノロジー（情報処理の理論）、ストラテジ（組織の戦略）、マネジメント（運用・管理）の基礎事項について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報実習室に設置されているPCを利用しながら対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。また授業に必要な資料などについても学習支援システムで提示する。

授業では各種ソフトウェア（OS、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、ブラウザなど）の利用法についてデモを行いながら解説する。またPCの原理と構造、ネットワークとシステム構成、システムに対する脅威・脆弱性と対策などに関する基礎事項について学習する。その他、ITシステムと企業活動、経営戦略と業務分析、システム開発と運用法などについても学習する。なお、これらは情報処理技術者試験「ITパスポート」に関連した内容となっている。授業内でレポート課題を出題することがある。それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明、情報実習室の利用法などの解説
第2回	文書作成と編集（文書作成）	Wordによる文書作成、書式の指定、各種メニューの利用法
第3回	文書作成と編集（図表の活用）	Wordによる図表の活用、描画ツールなどの利用法
第4回	文書作成と編集（実務へ向けての利用と応用）	Wordに関する様々な応用法、レポートライティング
第5回	表計算（表計算と関数利用）	Excelの操作法と表作成、各種関数の利用

第6回	表計算（参照法と分岐構造）	Excelにおける相対参照と絶対参照、分岐関数と多分岐構造
第7回	表計算（データベース機能）	Excelにおけるデータベース機能の活用と図・グラフの作成
第8回	表計算（実務へ向けての利用と応用）	Excelに関する様々な応用法
第9回	プレゼンテーション（資料の作成）	PowerPointの基本操作、プレゼン資料の作成と編集
第10回	プレゼンテーション（図表・画像の利用）	PowerPointにおける図表と画像などの利用、プレゼン体験
第11回	情報検索法（データ検索と分析）	ブラウザ利用法と効率的な情報検索法、統計資料などの検索とデータ収集、各種統計データなどの分析とその活用
第12回	ITシステムとテクノロジー（システムとネットワーク、コンピュータ）	PCの原理と構造、データ表現とビット・バイト、インターネットとLANのしくみ、セキュリティ対策など
第13回	ITシステムとストラテジおよびマネジメント（コンピュータと業務、システム管理）	企業活動と業務分析、品質管理手法、システム開発と運用・管理、テスト・保守と信頼性など
第14回	総括	授業内容のまとめとレポート出題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習してください。またレポート提出のための準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

この科目では、最終授業時に学習支援システムを通じて期末レポート課題を出題しますので必ず提出してください。それ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますのでこれも評価に加えます。授業参加の積極性50%、提出されたレポートの充実度50%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

あまり急がずにできるだけゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅においてWord、Excel、PowerPointを利用することのできる環境があれば、予習・復習しやすくなります。

【その他の重要事項】

この科目では受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to information processing and application to practical business This course is to learn skills concerning information processing and communication techniques by use of personal computers in a practice room. The number of students is limited for this class. We learn the utilization techniques not only for WORD, EXCEL, POWER POINT but also for communication tools such as browsers and mail systems. Fundamentals are lectured concerning network systems and their related matters. We learn strategy and management techniques for practical business. The ethical treatment for communication systems and security management are studied. This course is partially based on the curriculum of “Information Technology Passport Examination” held by Ministry of Economy, Trade and Industry of Japan.

(Learning Objectives) At the end of this class, students are expected to have the knowledge of fundamentals in IT area. The skills of information processing are acquired by use of WORD, EXCEL and POWER POINT tools with a personal computer. We obtain fundamental knowledge for security management of computer systems. Students will have penetrating consideration about the role of IT in our society.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and Mid- and End-term reports 50%.

COT100HA (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のためのWord/Excel、ゼミ発表等で必要となるPowerpointの基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとWindowsの基本操作	1.ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2.Windowsの基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第2回	情報セキュリティ基礎とネットワークの活用1	1.情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2.インターネット インターネットの歴史と仕組み
第3回	ネットワークの活用2	1.電子メール Gmailの活用演習 2.オンラインストレージ Googleドライブの活用演習
第4回	ネットワークの活用3	1.情報検索 インターネットを利用した情報検索と活用演習 2.Googleの各種サービスと生成AIの活用 Googleトレンド等の活用、生成AIの活用と留意点

第5回	ネットワークと情報セキュリティ	1.ソーシャルメディア SNSとトラブルについて 2.情報セキュリティ 安全なネットワークの活用
第6回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第7回	文書作成演習-図表の活用	1.書式設定演習 書式設定、印刷設定 2.図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第8回	文書作成演習-長文の編集・書式	1.ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2.長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第9回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第10回	プレゼン資料作成の応用演習	1.スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint活用演習 配付資料の作成
第11回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excelの基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2.書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第12回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1.数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2.参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第13回	表計算演習-さまざまな関数	1.応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第14回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1.グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2.書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書とwebサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用(20%)、文書作成(30%)、プレゼン(20%)、表計算(30%)のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式でWordの機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OSやアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。

資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, Power-Point, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のためのWord/Excel、ゼミ発表等で必要となるPowerpointの基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義/実習後まとめのレポート作成を行っていく。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとWindowsの基本操作	1.ガイダンス 講義の概要/評価について/実習環境の解説/学内の環境について/スキルレベルの確認 2.Windowsの基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第2回	情報セキュリティ基礎とネットワークの活用1	1.情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2.インターネット インターネットの歴史と仕組み
第3回	ネットワークの活用2	1.電子メール Gmailの活用演習 2.オンラインストレージ Googleドライブの活用演習
第4回	ネットワークの活用3	1.情報検索 インターネットを利用した情報検索と活用演習 2.Googleの各種サービスと生成AIの活用 Googleトレンド等の活用、生成AIの活用と留意点

第5回	ネットワークと情報セキュリティ	1.ソーシャルメディアSNSとトラブルについて 2.情報セキュリティ 安全なネットワークの活用
第6回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第7回	文書作成演習-図表の活用	1.書式設定演習 書式設定、印刷設定 2.図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第8回	文書作成演習-長文の編集・書式	1.ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2.長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第9回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2.資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第10回	プレゼン資料作成の応用演習	1.スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint活用演習 配付資料の作成
第11回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excelの基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2.書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第12回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1.数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2.参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第13回	表計算演習-さまざまな関数	1.応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第14回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1.グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2.書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義/実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書とwebサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用(20%)、文書作成(30%)、プレゼン(20%)、表計算(30%)のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式でWordの機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OSやアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。

資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, Power-Point, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA (計算基盤 / Computing technologies 100)

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Python は世界でもっとも普及しているプログラミング言語である。小さなスクリプトから、深層学習、人工知能、ビッグデータなどその用途は多岐にわたる。Python が使える人材は様々な分野で需要がある。この授業で得た経験は厳しい時代を生き抜く実践知となるだろう。

この授業では、Python を用いてプログラミングの初歩を学ぶ。プログラミング言語に共通する知識を学び、簡単なゲームを作り、データ解析を行う。

春学期に開講する「ネットワークとマルチメディア」とは内容が異なるので、履修の際は注意すること。

【到達目標】

この授業を通じて習得されるプログラミング技術は以下のとおりである。

1. プログラミング言語の初歩を理解できる。
2. オブジェクト指向の初歩を理解できる。
3. 簡単なゲームを作成することができる。
4. データを解析して可視化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第2回	プログラムとは	プログラムにおける命令を学ぶ。
第3回	文字列	文字列の操作を学ぶ。
第4回	変数	変数の使い方を学ぶ。
第5回	繰り返し	ループ (for while) を学ぶ。
第6回	応用問題	理解度を確認するための課題を解く。
第7回	条件分岐	if 構文を学ぶ。
第8回	応用問題	理解度を確認するための課題を解く。
第9回	関数	関数を自作して使う。
第10回	応用問題	簡単なゲームを作る。リストを学ぶ。
第11回	モジュール	モジュールの利用を学ぶ。
第12回	可視化	numpyと配列を学ぶ。 matplotlibによる可視化を学ぶ。
第13回	データ解析	データを解析して可視化をする。
第14回	応用問題	データ解析の応用問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

いちばんやさしい Python 入門教室 改訂第2版、大澤文孝（著）、ソーテック社、2023年（初版ではなく第2版です。ご注意ください）

【参考書】

ウェブから教材を提示する

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題(70%)と平常点(30%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の練習問題の比重を増やす、プログラミング能力の定着を促す。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布されたIDとパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キーボードの操作やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Programming of Python.

Learning objectives: Students learn both basic knowledge and skills on Python programming.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Assignment submissions (70%), class participation (30%).

PRI100HA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

統計とデータ分析

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：EXCELを使って統計学の基礎とデータ分析法を学ぶ
 統計学は環境問題を含む様々な社会的、自然的現象を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。様々な環境情報を調べていくと、例えば、不確実性の幅、信頼区間などという表現に出会うことがある。このことは社会の中にある情報を正確に読み解くには統計学の初歩的知識が必要であることを示している。また情報検索やデータ処理に関する手法を習得しておくことは政策系の学生にとって重要である。本科目ではPCを利用しながら統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。

【到達目標】

具体的な目標は次の通りである。

- ・統計学の基礎知識を習得する。
- ・統計的手法を社会的現象の分析のために応用することができる。
- ・EXCELの各種機能の利用法を習得し、これを高度（実務）利用することができる。

この授業では、様々な情報についてPCを用いて統計処理し、それを応用する力を身につけることをめざしている。もちろんこれらを学習することは、環境学への応用という面だけではなく、大学生として身につけるべき教養という側面もある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報実習室に設置されているPCを利用しながら対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。また授業に必要な資料などについても学習支援システムで提示する。この科目では統計学を初歩から学習していくので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要としていない。

授業内でレポート課題を出題することがある。それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。
第2回	情報実習室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて。
第3回	EXCEL実習（表計算について）	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など。
第4回	EXCEL実習（関数の利用について）	各種関数の利用法、IF関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など。
第5回	EXCEL実習（統計関数の利用について）	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など。
第6回	環境データの検索と分析	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索（データ検索法について）

第7回	環境データの検索と分析（環境情報について）	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの分析など。
第8回	統計学入門（代表値について）	代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？なぜ正規分布が現れるのか？
第9回	統計学入門（散布度について）	散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのように計るのか？
第10回	統計学入門（分布と基準値・偏差値について）	データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が70であるとは、55であるとは統計的にどのような意味か？
第11回	統計学入門（相関分析と回帰分析について）	相関分析と回帰分析（相関係数と2つの量の関係の強さ、最小乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればよいのか？
第12回	統計学入門（推定について）	統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？
第13回	統計学入門（検定について）	統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について。
第14回	演習	様々な現象を統計的に理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習してください。またレポート提出のための準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

この科目では、最終授業時に学習支援システムを通じて期末レポート課題を出題しますので必ず提出してください。それ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますのでこれも評価に加えます。授業参加の積極性50%、提出されたレポートの充実度50%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅においてEXCELを利用することのできる環境があれば、予習・復習しやすくなります。

【その他の重要事項】

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to statistics and data processing with the software EXCEL. This course is to learn the fundamentals of statistics. At the same time, we acquire skills for data-processing techniques by use of personal computers. The EXCEL is used in a computer-practice room. The number of students is limited for this class. In the earlier stage of this course, we master the utilization techniques of it. After that the concept of statistical distributions is examined. We learn the basic items such as average values, mode, median, deviation, variance, standard deviation, range, and so on. The correlation and regression analyses are studied. Fundamentals of statistical testing and estimation techniques are introduced in the latter stage of this course. (Learning Objectives) At the end of this class, students are expected to have the knowledge of fundamentals of statistics. The skill of computational processing is acquired by use of the tool EXCEL with a PC. Students will apply statistical knowledges to the analysis of social phenomena observed. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and Mid- and End-term reports 50%.

COT100HA (計算基盤 / Computing technologies 100)

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。
近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにとともに、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。

この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理についても触れる。

秋学期に開講する「ネットワークとマルチメディア」とは内容が異なるので、履修の際は注意すること。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・基本操作方法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第2回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第3回	ペイント系画像処理：Photoshopによる実習	Photoshopによる写真や画像の処理方法を学ぶ。
第4回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画像処理の基本を学ぶ。
第5回	ドロー系画像処理：自由課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由課題を制作する。
第6回	Webページ製作：HTMLの基本	Webページ作成の基本を学ぶ。HTMLについて重点的に学ぶ。
第7回	Webページ製作：CSSの基本 (1)	CSSについて学ぶ。
第8回	Webページ製作：CSSの基本 (2)	CSSについて学ぶ。
第9回	Webページ製作：課題ページの作成 (1)	Webページの自由課題を作成する。
第10回	Webページ製作：課題ページの作成 (2)	Webページの自由課題を作成する。

第11回	Webページ製作：課題ページのまとめ。	自由課題のまとめと評価を行う。
第12回	WWWの仕組み	WWWの仕組みを学習し、情報発信と受信の仕組みを理解する。
第13回	情報検索のコツと練習	WWWにおける効率的な情報検索の方法を学ぶ。
第14回	インターネットの光と影：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学ぶ。様々な事例を取り上げ、インターネットの利用における問題点や注意点を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

ホームページ辞典 第6版 HTML・CSS・JavaScript、株式会社アーク (著)、翔泳社、2017年、2,200円

【参考書】

WWWを通じて教材を配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題(70%)と平常点(30%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布されたIDとパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic use of the Internet and multimedia.

Learning objectives: Students learn both basic and practical skills on the internet and multimedia.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Assignment submissions (70%), class participation (30%).

LIN100HA (言語学 / Linguistics 100)

英語 I (スキルアップ科目)

平野井 ちえ子

配当年次/単位：1~4年 / 1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、e-learning教材や authentic な映画などを用いて、日常会話の基礎力を養います。

【到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一目標です。教材の英語と生の英語の違いを学ぶことも重要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

最初は、後述のテキストと同e-learning教材により、基礎的なリスニングとスピーキングの力を養います。教材に慣れてきたら、インプットのバラエティを豊かにし authentic な英語表現に親しむため、随時映画やドラマの断片も教材とします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスと後述のテキストに基づいて、講座概要を説明します。e-learning教材のデモンストレーションもあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。希望者多数の場合、選抜を行う可能性もあります。
第2回	テキスト Chapter1・2 (旅行編)	‘Where Do I Get the Bus?’ (Getting information) ‘Do You Have a Reservation, Ma’am?’ (Checking in at a hotel)
第3回	テキスト Chapter3・4 (旅行編)	‘Could You Repeat That?’ (Asking for directions) ‘I’ll Take the Wrangler Convertible’ (Renting a Car)
第4回	テキスト Chapter5・6 (旅行編)	‘Would You Like Soup or Salad?’ (Ordering a meal) ‘Where’s the Fitting Room?’ (Shopping for clothes)
第5回	テキスト Chapter7・9 (旅行編)	‘Would You Mind Taking My Picture?’ (Asking for a favor) ‘I Enjoyed My Stay’ (Checking out of a hotel)
第6回	テキスト Chapter10 (旅行編) テキスト (旅行編) の復習小テスト	‘Aisle Seat, Please’ (Expressing preference) テキスト (旅行編) の Model Dialogue についての復習小テスト。

第7回	映画のリスニング	テキスト (旅行編) で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第8回	邦画の英語字幕作りに挑戦 (1)	ペアワークで英語字幕作りに取り組む。
第9回	邦画の英語字幕作りに挑戦 (2)	作成した英語シナリオについてグループで peer review を行った後、クラス全体にフィードバックする。
第10回	テキスト Chapter14・16 (留学編)	‘I’ll Try to Do My Best’ (Getting advice) ‘Do You Have Any ID?’ (Opening a bank account)
第11回	テキスト Chapter17・19 (留学編)	‘How about Sea Mail?’ (Sending a package) ‘I Have a Sore Throat’ (Buying medicine)
第12回	テキスト (留学編) の復習小テストと映画 (ドラマ) のリスニング 復習 (1)	テキスト (留学編) の Model Dialogue についての復習小テスト。テキスト (留学編) で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を学びます。今期全体についてのポイント講義を行います。
第13回	復習 (2) と期末試験	1・2回分の学習の定着度を確認するため、筆記試験を行います。この試験では、正確さを重視します。直前にポイント講義と質疑応答・復習をします。
第14回	復習 (3)	期末試験を返却して徹底解説します。これに基づく学習アドバイスも行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストのほか配布される関連教材・URL等を利用して予習・復習をしてください。

授業前に、各 Chapter の Communication Focus にも目を通してください。

授業後は、特に Main Dialogue と Face the Camera を復習してください。

授業内でのタスクのために、Model Dialogue は確実に覚える必要があります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Viva! San Francisco (Macmillan Languagehouse)
written by Hiroto Ohyagi and Timothy Kiggell.
2,000 JPY

【参考書】

URL (例)
<https://www.expedia.co.uk/>
<https://www.ox.ac.uk/gazette/>
<https://www.londontheatre.co.uk/> など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

平常点には、テキスト学習回の音声ファイル提出と、対面での小テスト (2回) 等が含まれます。音声ファイルの提出方法は、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

「実践的な英語表現が身についた」「映画を用いたタスクが楽しかった」など、前向きなコメントが多く嬉しく思いました。「映画のタスクをもっとやりたかった」という意見もあったので、2024年度の受講生の様子を見ながら、教材英語と authentic な英語のバランスを調整したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施します。学習支援システムも利用します。

Zoom授業でも頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前にご確認ください。
学習支援システムへの音声ファイル提出のため、スマホの他にPCまたはタブレット端末が1台必要です。

【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。受講を希望する方は、最新情報をHoppii「お知らせ」で確認し、必ず初回授業に出席して下さい。

【Outline (in English)】

You will be encouraged to improve your everyday conversation in English. Learning materials include those for CALL(Computer-assisted-language-learning) and authentic movies and drama which can be adult learner-friendly. Before/after each class, you will be expected to spend four hours to learn the class materials. Grading will be decided based on regular performances(50%) and final exam(50%).

LIN100HA (言語学 / Linguistics 100)

英語 I (スキルアップ科目)

板橋 美也

配当年次/単位：1~4年 / 1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報伝達・問題解決・意思決定などの様々なタスクを英語で行うことで、英語でコミュニケーションを行う基本的なスキル (主にスピーキングとリスニング) を身につける、初級者向けの授業です。

【到達目標】

英語で情報伝達・問題解決・意思決定などを行う際に活用できる表現を身につけること。

英語でコミュニケーションを取るという状況に慣れ親しむこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、ゲームやクイズ感覚で取り組める様々なタスクを、英語でコミュニケーションをとりながら行っていきます。多くのタスクはペアワークを通して行います。コミュニケーションの手段は主にスピーキングとリスニングですが、随時簡単な英作文も取り入れます。これらのタスクを楽しみながら英語でコミュニケーションを取ることで、英語でコミュニケーションを取るという状況に慣れ、同時に教室の外の現実世界で応用できる表現も身につけていきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要・進め方を説明
第2回	Unit 1 Putting things in place Unit 2 Simple drawings	情報伝達 ・絵の中の適切な場所にアイテムを配置する ・簡単な図形やイラストを口頭で描写したり、聞き取ってその絵を描いたりする
第3回	Unit 3 Spot the difference Unit 4 Taking out the garbage	情報伝達 ・絵を見せ合うことなく2つの絵の間の相違点をできるだけ多く見つける ・絵を見せ合うことなく2つの図表の間の相違点をできるだけ多く見つける
第4回	Unit 5 Fantastic flags Unit 6 Daily scenes	情報伝達 ・説明に基づいて国旗を推測する ・特定の場所について描写したり、描写を聞いてその場所を推測したりする
第5回	Unit 7 Tom's accident Unit 8 The truth about me	情報伝達 ・2つの物語の間の違いを指摘する ・人に関する真実を見極める
第6回	Unit 9 Who are they? Unit 10 Search for something in common	情報伝達・情報合成 ・絵の中の人物を描写し、名前を聞き出す ・他の人との共通点を見つける

第7回	Unit 11 Doing the dishes Unit 12 A fishy story	情報合成 ・ある行為の手順を説明する ・ストーリーを表現した絵の異なる断片の情報を伝え合い、正しい順序を特定する
第8回	Unit 13 Safe driving Unit 14 Arrange a meeting	情報合成 ・文章を正しい順番に並べる ・予定を調整する
第9回	Unit 15 Storytelling with a cartoon Unit 16 Storytelling with a video	ナレーション ・一連の絵で表現されたストーリーの展開を説明する ・ストーリーの展開をリアルタイムで説明する
第10回	Unit 17 Find the odd one out Unit 18 Recognize the process	問題解決 ・単語の意味や発音などの特徴について話し合って仲間はずれを探す ・文章が何を説明したものかを見抜く
第11回	Unit 19 Complete the story Unit 20 Get a different perspective	問題解決 ・ページが折れて見えない語句を推測してストーリーを復元する ・同じトピックについて書かれた2つの文章を比較する
第12回	Unit 21 Love match Unit 22 Super schools	意思決定 ・ふさわしいパートナーを見つける ・自分が通っている学校を今よりよくするための方策を考え、話し合って意見をまとめる
第13回	Unit 23 Mad inventions Unit 24 Group members	意思決定 ・グループで協力して何か発明品を考える ・適切な基準を考えて物や人を分類する
第14回	試験とまとめ	授業の内容に基づいた試験とまとめを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業後、その日覚えた表現をよく声に出して復習して、定着させてください。予習や宿題は、それぞれのUnitの内容に応じて適宜指示します。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Paul Wicking・田村祐編著「Getting Things Done Book 1 (タスクで教室から世界へ ブック1)」(三修社) 1700円

【参考書】

必要に応じて指示します

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。欠席4回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

他の学生と交流しながら英語でタスクに取り組むので、楽しみながら英語を学べたという意見をいただきました。英語を楽しむ気持ちを持ちながら、授業外でも英語力定着のための学習習慣を継続しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

授業中の課題や宿題で教科書に書き込んだ内容を写真に撮ってHoppii「課題」に提出してもらうことが多いので、撮影できるスマホまたはタブレットを授業に持ってきていただきます。どちらも持っていない場合は、ご相談ください。

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

また、本授業は教科書に書き込む作業が多いため、教科書を忘れないように気をつけてください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to gain basic communication skills in English (mainly speaking and listening) by working on various tasks (e. g. conveying information, solving problems, making decisions) in English. Most of the tasks are undertaken in pair works. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be decided based on participation (50%) and the final exam (50%).

LIN100HA (言語学 / Linguistics 100)

英語Ⅱ (スキルアップ科目)

磯部 芳恵

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this course, students study English holistically (listening, speaking, writing, reading) using a textbook accompanied by videos to increase their knowledge and understanding of many important aspects of American culture and society.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to learn about American culture and society. By paraphrasing and acting out students should be able to develop communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1. Listening

Students are taught: general comprehension(listening for gist, looking for detailed information, dictation close)

2. Speaking

Students are taught: paraphrasing and acting out

3. Writing(a reaction paper and the favorite line in each unit)
Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 Meeting Truman	About the course, Words & phrases, first viewing, listening exercise
第2回	Unit 1 Meeting Truman	Second viewing, exercises
第3回	Unit 2 Fear of the Ocean	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第4回	Unit 2 Fear of the Ocean	Second viewing, exercises
第5回	Unit 3 Lauren & Sylvia	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第6回	Unit 3 Lauren & Sylvia	Second viewing, exercises and acting out
第7回	Unit 4 Something Strange Is Going On	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第8回	Unit 4 Something Strange Is Going On	Second viewing, exercises
第9回	Unit 5 Truman Tries to Leave	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第10回	Unit 5 Truman Tries to Leave	Second viewing, exercises

第11回	Unit 6 Truman and Meryl Go for a Ride	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第12回	Unit 6 Truman and Meryl Go for a Ride	Second viewing, exercises
第13回	Review	Vocabulary review and discussion about the movie
第14回	Feedback	In-class test and feedback

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are required to be prepared for exercises A,E and talking about their favorite line in each unit.

University guidelines suggest preparation and review may take about 2

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

The Truman Show (松柏社、2,100円)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:
<http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class activities 30 %

Acting out 10 %

Final test 40 %

Homework 20%

Unexplained/unjustified absences exceeding three class sessions may disqualify students from obtaining credit for the course. Lateness exceeding 15 minutes without justification will count as one-third absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes.

The instructor always welcomes and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring general stationery (e.g. pen, pencil, glue, paperclips).

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

In this course, students study English holistically (listening, speaking, writing, reading) using a textbook ad accompanied by videos to increase their knowledge and understanding of many important aspects of American culture and society.

LIN100HA (言語学 / Linguistics 100)

英語Ⅲ (スキルアップ科目)

磯部 芳恵

配当年次/単位：1～4年/1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course will integrate all language skill areas. Listening and reading exercises will be used to acquaint students with a variety of current global topics. Speaking and writing activities will be applied to organize their ideas and opinions. Students will develop discussion and critical thinking skills.

【到達目標】

The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English and to be able to express one's thoughts clearly.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Unit 1 Electronic Devices	Conversation, Discussion and Grammar
第2回	Unit 1 Electronic Devices	Reading, Writing and Challenge yourself
第3回	Unit 2 Health and Fitness	Conversation, Discussion and Grammar
第4回	Unit 2 Health and Fitness	Reading, Writing and Challenge yourself
第5回	Unit 3 On the Phone	Conversation, Discussion and Grammar
第6回	Unit 3 On the Phone	Reading, Writing and Challenge yourself
第7回	Unit 4 Household Chores	Conversation, Discussion and Grammar
第8回	Unit 4 Household Chores	Reading, Writing and Challenge yourself
第9回	Unit 5 Environmental Protection	Conversation, Discussion and Grammar
第10回	Unit 5 Environmental Protection	Reading, Writing and Challenge yourself
第11回	Unit 6 Bargaining for Fun	Conversation, Discussion and Grammar
第12回	Unit 6 Bargaining for Fun	Reading, Writing and Challenge yourself
第13回	Review Part 1-Part 7	Review Unit 1-6

第14回 Wrap-up and final exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. Reading: Preparation for the reading sections of the textbook and answer the questions. (30 minutes every two weeks)

2. Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. Get ready for the recitation of Obama's speech in June.

University guidelines suggest preparation and review may take about 2

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Live Escalate Book 3 (成美堂) 2,750円

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), test(40%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course will integrate all language skill areas. Listening and reading exercises will be used to acquaint students with a variety of current global topics. Speaking and writing activities will be applied to organize their ideas and opinions. Students will develop discussion and critical thinking skills.

LIN100HA (言語学 / Linguistics 100)

英語Ⅳ (スキルアップ科目)

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course focuses on improving the students' communication skills by their summarizing news stories and doing role-playing in order to be better able to deal with business situations in the future.

【到達目標】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context and be able to give a convincing presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course introduction & Unit 1 Meeting People	Mini lesson Unit 1 Speaking, listening & reading about introductions TOEIC (Listening)
第2回	Unit 1 Meeting People	Unit 1 Listening & culture file about gestures TOEIC (Listening)
第3回	Unit 2 Projects	Speaking & listening about making a call TOEIC (Listening)
第4回	Unit 2 Telephoning	Reading & culture file about business communication TOEIC (Listening)
第5回	Unit 3 Schedules and appointments	Speaking, listening & writing about talking about schedules TOEIC(Reading)
第6回	Unit 3 Schedules and appointments	Listening, speaking & reading about rescheduling a meeting TOEIC (Reading)
第7回	Unit 4 Company performance	Speaking a& listening about presenting figures TOEIC (Reading)
第8回	Unit 4 Company performance	Listening & reading about presenting information TOEIC(Reading)
第9回	Review Units 1-4	Review TOEIC (Speaking)
第10回	Unit 9 Future prospects	Speaking, listening & reading about predicting trends TOEIC (Speaking)
第11回	Unit 9 Future prospects	Listening, speaking & reading about long-term future

第12回	Unit 12 Speaking in public	Speaking, listening & reading about a short presentation TOEIC (Speaking)
第13回	Unit 12 Speaking in public	Reading & speaking about an end of course speech TOEIC (Speaking)
第14回	Review	Presentation and in-class test

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to prepare new vocabulary and reading exercises, and review

University guidelines suggest preparation and review are around two hours a week.

【テキスト (教科書)】

Business Venture 2(Oxford University Press)

【参考書】

Students must have access to a computer with internet connection in order to complete some home research tasks.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(40%), homework(20%), tests(40%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを使ってフィードバックに活用する。

【その他の重要事項】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving the students' communication skills by their summarizing news stories and doing role-playing in order to be better able to deal with business situations in the future.

HSS400HA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400)

研究会A

鷹林 貞夫

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

それぞれの年齢層が抱える社会問題への理解を深める為に学生自らの観察力、想像力を働かせ、異なる年齢や立場、環境に合わせた目線で物事を考える方法を習得することを目的とする。またテーマとする社会問題を解決あるいは緩和するための持続可能な提案ができる能力を修得することを目的とする。

【到達目標】

1. 研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べるができる。
2. グループ内でディスカッションができる。
3. 動画を使い、提案を簡潔に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・春学期は主にSGD(スモールグループディスカッション)形式を用いて行う。ロールプレイングを通じ日々の生活や資料から設定したテーマに関する情報を収集、問題点や疑問点を列挙し、グループ内で共有する。グループ内では集まった多くの情報を統合して最終的にグループの意見として発表し、レポートを作成する。

・秋学期は主にPBL(問題解決型学習)形式を用いて行う。グループそれぞれが目標やテーマを決め、調査および討論を行う。導き出された意見をまとめ、PV動画を作成・発表、レポートを作成する。

・発表へのフィードバックは発表後のコメント、及び後日学習支援システムにて行う。レポートへのフィードバックは1週間以内に学習支援システムにて行うものとする。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、目的、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第2回	ロールプレイング、プレゼンテーション、レポート作成	ロールプレイングのやり方、プレゼンテーション、レポート作成に関する説明を行う。各自3回目授業の役設定を行う。
第3回	10代のロールプレイング1	グループワーク、意見交換を行う。
第4回	10代のロールプレイング2	グループワーク、前回の授業で出た意見をまとめて発表。5回目授業の役設定を行う。
第5回	20代のロールプレイング1	グループワーク、意見交換を行う。
第6回	20代のロールプレイング2	グループワーク、前回の授業で出た意見をまとめて発表。7回目授業の役設定を行う。
第7回	30～40代のロールプレイング1	グループワーク、意見交換を行う。
第8回	30～40代のロールプレイング2	グループワーク、前回の授業で出た意見をまとめて発表。9回目授業の役設定を行う。
第9回	50～60代のロールプレイング1	グループワーク、意見交換を行う。
第10回	50～60代のロールプレイング2	グループワーク、前回の授業で出た意見をまとめて発表。11回目授業の役設定を行う。
第11回	70～80代のロールプレイング1	グループワーク、意見交換を行う。
第12回	70～80代のロールプレイング2	グループワーク、前回の授業で出た意見をまとめて発表。
第13回	最終発表	各グループ今まで話し合った内容を発表
第14回	最終発表	各グループ今まで話し合った内容を発表

第15回	ガイダンス	秋学期のスケジュールの確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第16回	資料収集及び購読	テーマを決めグループ分け。図書館やインターネットを通じて資料を収集する。仕入れた文献を整理して内容を理解する。
第17回	発表資料作成	グループワーク、動画編集。
第18回	発表資料作成	グループワーク、動画編集。
第19回	発表資料作成	グループワーク、動画編集。
第20回	発表資料作成	グループワーク、動画編集。
第21回	中間発表	テーマに沿ってゼミ員を前に動画を公開。発表終了後質疑応答を行い議論を深める。
第22回	中間発表	テーマに沿ってゼミ員を前に動画を公開。発表終了後質疑応答を行い議論を深める。
第23回	発表資料作成	グループワーク、動画編集。
第24回	レクリエーション(スポーツ大会)	グループ活動を通じてゼミ員相互のコミュニケーションを図る。
第25回	最終発表	テーマに沿ってゼミ員を前に動画を公開。動画を一般公開。
第26回	最終発表	テーマに沿ってゼミ員を前に動画を公開。動画を一般公開。
第27回	卒業論文報告会	4年生による卒業論文報告会を行う。
第28回	卒業論文報告会	4年生による卒業論文報告会を行う。一般公開された動画の結果発表。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・毎回講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
 - ・設定した役に沿った視点で普段から家族や親戚、街の人を観察し、気づいた点をメモすること。
 - ・各自興味あるテーマを決め、資料を図書館やWEBを活用して文献収集を行う。
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

使用しない。

【参考書】

- ・人間は9タイプ 仕事と対人関係がはかどる人間説明書, 坪田信貴, KADOKAWA
- ・基礎からわかる論文の書き方, 小熊英二, 講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

平常点(80%)、プレゼンテーション(10%)、レポート(10%)を総合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義の始めにその日のスケジュールおよびポイントを示すことで明確な目標をもって講義に臨めるように工夫を行う。常に学生の反応を確認しながら講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を維持させる工夫を行う。授業終了時に次回予告を行うことで自宅での学習機会を増やすことにつなげる。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。それ以外については随時メールを通じて対応する。また、オフィスアワーとして毎週月曜日16時40分～18時15分の95分を設ける。オフィスアワーを利用する場合の事前連絡は不要。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The aim of this class is to understand the life challenges in different ages, social roles, and environment within Japanese society. Students use their own observation skill and imagination skill to find micro-issues that is hidden within our daily life. Also, the student will learn how to come up with financially and socially sustainable solutions towards the social issues of their choice.

【Learning Objectives】

1. Students will be able to choose their own topics and communicate their own opinions through reports.
2. Students will be able to communicate their own opinions in the group discussion.
3. Students will be able to communicate their own thoughts in a concise manner using video as a communication tool.

【Learning Activities Outside of Classroom】

- ・ Students should preview and review the lecture materials before and after every class.
- ・ Students should actively observe their family, relatives, and people in the city, in the view of their preset roles, and take notes as they find anything interesting.
- ・ Students should choose their own topics and find related articles or papers through library or WEB.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Participation in class activities (not attendance): 80%
- 2) Presentation: 10%

3) Assignments and reports: 10%

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

ART400HA (芸術学 / Art studies 400)

研究会A

板橋 美也

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

美術・デザイン・ファッション・建築は、ただ「美しさ」や「センスの良さ」を競うだけのものではなく、人々の生活や社会と分かちがたく結びつき、グローバル化の中での異文化受容、戦争、環境問題、ジェンダー、近代化・工業化・消費文化の功罪などにまつわる、その時々様々な課題を反映してきました。また、様々な問題を明るみに出し、人々の固定観念を問い直して新たな視点を提供してきました。持続可能な社会の実現のために、美術・デザイン・ファッション・建築等を通してどのような試みがなされてきたのか、そして現在されているのか、一緒に探求します。

【到達目標】

美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのかを理解すること。そして、それを踏まえて、現代社会の課題と、それに対して何がなされているのか・なされるべきかについて、自分の考えを述べるができるようになること。クラスでの発表・レポート執筆やその準備作業を通して、資料収集・分析能力や調査内容の概要を報告する能力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) 指定したテキストやテーマに関する発表・ディスカッション・グループワークなどを通して、美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのかを考えます。

(2) 発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。

* (1)(2) いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。

(3) 場合によっては美術館または建築物などを見学に行く機会を設けたいと思います。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の内容、進め方についての説明
第2回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第3回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第4回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第5回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第6回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等

第7回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第8回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第9回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第10回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第11回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第12回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第13回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第14回	春学期のまとめ	春学期に学んだことを復習・秋学期の内容と進め方についての説明
第15回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第16回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第17回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第18回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第19回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第20回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第21回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第22回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第23回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第24回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第25回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第26回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第27回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第28回	1年間のまとめ	1年間で学んだことを復習・総括します

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

指定された文献をよく読んだり、与えられたテーマについて下調べをするなどして、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、秋学期の研究発表に際しては、自らの問題意識にもとづいて主体的に調査を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

随時指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%とし、研究会への貢献度や発表・レポートの内容から総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

取り上げた文献の文章が難しかった、レポートの添削が役にたったという意見をいただきました。読解力・文章力は社会に出てからも役立つ力だと思いますので、文献読解やレポート作成はそれらを磨くトレーニングとして考えていただければと思います。

【関連の深いコース】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

In this course, students do research, have discussions, give presentations and write essays about art and design for a sustainable society. By the end of the course, students should be able to express their own opinions about how art and design should tackle various social problems and to gain skills in gathering and analyzing materials for their research and giving presentations on what they find in their research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be decided based entirely on their participation (in-class contribution, presentation, discussion, etc.).

GEO400HA (地理学 / Geography 400)

研究会A

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境にかかわる理解と考え方は、持続可能な社会を構築する鍵のひとつです。本研究会では、自然環境そのものに加え、自然環境と人間社会のかかわりあいについて、災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、自然環境が人間社会に与える影響や、人間社会のあり方を見つめなおします。

【到達目標】

自然環境の地域的差異とその要因、歴史の変遷を具体的に説明できる。
自然環境と人間社会のかかわりあい、とくに自然環境が人間社会に与える影響を具体的に記述できる。
調査法や発表法を身につける。
地図を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

グループワークや文献講読、個人研究などを行います。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、予測、土地条件、土地利用、ハザードマップ、災害の歴史、土地の歴史、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。自然環境にかかわる内容をひろく扱います。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明、文献検索説明、論文・発表説明
第2回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第3回	文献講読	意見交換
第4回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第5回	課題演習	机上作業
第6回	野外実習	巡検
第7回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第8回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第9回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第10回	グループワーク	意見交換
第11回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第12回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第13回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第14回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第15回	個人研究準備	テーマの設定
第16回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第17回	文献講読	意見交換
第18回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第19回	課題演習	机上作業
第20回	野外実習	巡検
第21回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第22回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第23回	時の話題	発表、質疑応答・討論

第24回	グループワーク	意見交換
第25回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第26回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第27回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第28回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。

資料収集・調査や発表準備、まとめ等を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

知識や応用力、思考力に加え、基礎力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明や効果的な進め方を心がけます。

【Outline (in English)】

Understanding and thinking of the natural environment is a key to improve our social sustainability. We conduct various studies on (1) the natural environment itself, and (2) the relationship between the natural environment and human society, with emphasis on natural disasters. The approaches are mainly based on physical geography. We examine the impact of the natural environment on human society and sustainability of human society.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain the natural environment from the perspective of spatial variation, mechanism, and history, (2) to explain the relationship between the natural environment and human society with emphasis on natural disasters, (3) to conduct survey and presentation, and (4) to use maps. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

LAW400HA (法学 / law 400)

研究会A

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】

自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、問題解決能力を身につける。

卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。

学生による自主的な運営を期待する。

適宜、サブゼミを行う（読書会、映画鑑賞会等）。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際平和の追求	ガイダンス 年間計画
第2回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第3回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第4回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第5回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第6回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第7回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第8回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第9回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第10回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第11回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第12回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第13回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第14回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第15回	国際平和の追求	個人発表と討論
第16回	国際平和の追求	個人発表と討論
第17回	国際平和の追求	個人発表と討論
第18回	国際平和の追求	個人発表と討論
第19回	国際平和の追求	個人発表と討論
第20回	国際平和の追求	個人発表と討論
第21回	国際平和の追求	個人発表と討論
第22回	国際平和の追求	個人発表と討論
第23回	国際平和の追求	個人発表と討論
第24回	国際平和の追求	個人発表と討論
第25回	国際平和の追求	個人発表と討論
第26回	国際平和の追求	個人発表と討論
第27回	国際平和の追求	個人発表と討論
第28回	国際平和の追求	4年生による総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告者が事前に指定する文献を読み、それに基づいて十分に予習をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、発表担当ではない場合、各2時間が目安である。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法〔第2版〕』東京大学出版会、2023年。

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2023年。（旧版でも可）

森川幸一他編『国際法判例百選〔第3版〕』有斐閣、2021年。

繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 壤・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

【参考書】

山本草二『新版 国際法』有斐閣、1994年。

松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂、2010年。

【成績評価の方法と基準】

発表：40%

議論への参加：30%

期末レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

発表に必要なPC、機器使用のための鍵等を準備すること。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

Participants will discuss international peace focusing on armed conflicts, international environmental issues, human rights etc.

This class goal is to learn the ability to solve disputes.

The participants will be expected to read all materials and documents, which takes more than two hours.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

performance of presentations(30%), participation to the discussion(30%), term-end reports(30%) and in class contribution(10%).

TRS400HA (観光学 / Tourism Studies 400)

研究会A

梶 裕史

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、各自の現地調査を通じて事例研究を行う。現地調査(各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する)で選ぶフィールドについては、特定の一か所に限らないテーマ設定のしかたもある。

【到達目標】

・「環境表象論Ⅰ、Ⅱ」の内容を、自主的な現地調査の体験によって実感的に理解する

・沖縄離島ゼミ合宿(3年次夏)の体験や、他のゼミ生の研究発表など様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つめられ、研究成果を「共有」できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、教室での対面授業を予定しています。各回はゼミ生の個人研究発表と質疑応答・ディスカッションおよび教員の助言(フィードバック)が基本です。春学期は新3年生が前年度の個人研究の成果に基づいて発表を担当し、秋学期は新4年生に、主として前年度の沖縄離島合宿の成果を発表してもらう予定です。2年生は先輩の発表を聴いて学びながら、春学期末と秋学期終盤(12月)に、個人研究の構想とその経過報告を、共同発表してもらいます。

「授業計画」各回に記した発表テーマは仮想の一例であり、実際の発表スケジュール(テーマ・順番)は、担当学年のゼミ生が自主的に、有機的なつながりも工夫して組みます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	個人研究発表①	発表は1人30分以内程度、題材は主として昨年度の研究成果に基づき、発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第3回	個人研究発表②	(例) 離島のエコツーリズムと「移住」促進のとりくみ(1)―瀬戸内の島
第4回	個人研究発表③	(例) (例) 離島のエコツーリズムと「移住」促進のとりくみ(2)―伊豆諸島
第5回	個人研究発表④	(例) 文化的景観を主題とする世界遺産の場所の「観光」の課題―富士山
第6回	個人研究発表⑤	(例) 火山が形成した「文化的景観」資源をもつ国立公園と「観光」―阿蘇、別府温泉

第7回	個人研究発表⑥	(例) 東京近郊の大規模緑地(公園)の価値と活動
第8回	個人研究発表⑦	(例) 「アートツーリズム」と文化的景観(1)―箱根の事例
第9回	個人研究発表⑧	(例) 「アートツーリズム」と文化的景観(2)―金沢の事例
第10回	個人研究発表⑨	(例) 近場の文化的景観の価値―東京の「下町」/郷里
第11回	個人研究発表⑩	(例) 「方言」の価値と継承のとりくみ
第12回	2年生共同発表①	今年度の個人研究調査構想を、テーマに共通性のあるグループを作って発表。
第13回	2年生共同発表②	前回の続き
第14回	個別指導	個別に提出する現地訪問計画書に基づく
第15回	秋学期オリエンテーション	スケジュール説明、夏休み中の個人研究の各自ふりかえり等
第16回	個人研究発表⑪	(例) 竹富島の「神」への信仰・祭事と「うつぐみ」の景観
第17回	個人研究発表⑫	(例) 竹富島の「神」への信仰・祭事と「うつぐみ」の景観(2)
第18回	個人研究発表⑬	(例) 竹富島のオーバーツーリズムの課題ととりくみ
第19回	個人研究発表⑭	(例) 白保の「サンゴ礁文化」継承による持続可能な地域づくりのとりくみと課題(1)
第20回	個人研究発表⑮	(例) 白保の「サンゴ礁文化」継承による持続可能な地域づくりのとりくみと課題(2)
第21回	個人研究発表⑯	(例) 竹富島とフィルムツーリズム
第22回	個人研究発表⑰	(例) 白保とフィルムツーリズム
第23回	総括のグループワーク①	「旅」とは何か―日本人の歴史・文化の伝統的特質との関わりからの視点から
第24回	総括の不グループワーク②	「五感」・Lohasの視点から
第25回	2年生共同発表③	個人の調査・研究の進捗状況を、テーマの共通点からグループ分けして発表。
第26回	2年生共同発表④	前回の続き
第27回	学年末論文の構想発表(タイトル・要旨・仮目次等)と個別指導	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第28回	自主「進路」セミナー	3年生が企画し、4年生が語る、目先の「就活」ノウハウに留まらない体験談やs考え方、卒業後の抱負等を聴く。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各自、個人研究の現地調査の準備としての予備知識や現地情報の収集等が課外学習に相当します。予習・復習の時間は毎回各2時間を標準とします。授業内(教室)以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等も奨励します。3・4年生は先輩として新規参加の2年生の指導も行うことが求められます。

【テキスト(教科書)】

特に指定なし。

【参考書】

授業のなかで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文65%、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等35%

【学生の意見等からの気づき】

・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。

・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。

・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・この金曜5限研究会は、新規参加の2年生および継続参加の3・4年生が履修登録対象となります。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural landscape" and ecotourism

Based on the concept of "cultural landscape", we link the viewpoints of eco-tourism, tourism culture, eco-museum and other aspects of Japanese-style ecotourism, tourism culture, and the possibility of human formation utilizing local natural and cultural assets. Students conduct case studies through field surveys of their own. Regarding field to be selected in the field survey (field is decided according to their interests and voluntarily planned, including necessarily hearing survey), there are also methods of theme setting not limited to one specific place.

Goal

・ Understand the contents of "Environmental Representation Theory I and II" through the experience of voluntary field surveys.

・ From the experiences of the Okinawa remote island seminar camp in the previous year and the talks of various fields such as research presentations of other seminar students, you will be able to find a connection with your own local experience and "share" your research results.

Work to be done outside of class

Extracurricular learning is equivalent to collecting preliminary knowledge and local information in preparation for a field survey of individual research. The standard time for preparation and review is 2 hours each. Useful information exchange between seminar students outside the class (classroom). We also encourage voluntary visits in the vicinity. Third and fourth graders are required to provide guidance to second graders who are new participants as seniors.

Grading criteria

Presentation content and year-end dissertation 65%, participation attitude and cooperation / contribution within the organization such as seminars 35%

EVN400HA (その他の環境学 / Others 400)

研究会A

北川 徹哉

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この研究会では都市を構成するエレメントについて勉強する。ここでいうエレメントとは、住宅や建物、交通運輸、食品流通、情報通信、エネルギー、エンターテイメント施設など、さらにはこれらを担うヒトやシステムである。都市を身体に例えると、これらのヒトやモノ、システムは臓器であり、神経であり、血液であったりします。どれも無いと困るものです。このゼミは都市の健康診断をするようなものと考えよう。

【到達目標】

1. 国内または海外の都市の特徴を説明できる。
2. 都市環境と都市基盤について説明できる。
3. 都市内・都市間の各種の交通や流通を説明できる。
4. 都市の政策事例を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、春学期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキスト・資料の内容	輪読するテキスト・資料の確認、輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前半の取りまとめ	開始から前回までの取りまとめ
第15回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪読をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第16回	調査テーマの構想発表・討論 (その1)	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論 (第1回)
第17回	調査テーマの構想発表・討論 (その2)	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論 (第2回)
第18回	調査と分析 (その1)	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第19回	調査と分析 (その2)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第20回	調査と分析 (その3)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第21回	中間発表・討論 (その1)	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論 (第1回)
第22回	中間発表・討論 (その2)	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論 (第2回)
第23回	調査と分析 (その4)	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第24回	調査と分析 (その5)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第25回	調査と分析 (その6)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第26回	調査結果発表の準備	各自あるいは各グループによる最終発表の準備
第27回	調査結果発表	各自あるいは各グループによる最終発表
第28回	調査結果発表	各自あるいは各グループによる最終発表

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業での資料等を使用して予習・復習をすること。
 第1～14回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習
 第15回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出
 第16～17、21～22回：発表用スライドなどの作成、発表の練習
 第18～20、23～25回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析
 第26～28回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、発表本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション (50%：議論・質疑応答の良好度、到達目標1～3への到達度)、発表 (50%：スライド・資料などの完成度や正確性、到達目標1～3への到達度) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

楽しく、じっくりと、小さなことからコツコツ勉強します。また、知識を脳裏に固定するには話すこと、話し合うことが一番です。わからないことも誰かに話すようにしましょう。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class is a seminar for learning about the urban/regional policies, the transportation systems, the communication networks and the energy supply/demand.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

A. to learn about urban/regional policies, transportation systems, communication/information networks and energy supply/demand,

B. to obtain the knowledges of the problems of those in A and

C. to make suggestions for creating better environment of those in A.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

CMF400HA (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 400)

研究会A

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この研究会のテーマは「持続可能な地域社会の創造」である。特に、環境、経済、社会、文化、公共政策、SDGsなど、多様な視点から、21世紀における地域社会のソーシャルイノベーションについて総合的にアプローチする。また、市民、NPO、地方自治体、企業などの参加と協働に注目する。さらに、「持続可能な地域社会」について学内で探究しながら、高度な「アクティブラーニング」としての地域活動に取り組む。このような挑戦を通して、学生は、大学生としての総合的な能力を構築することをめざす。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な地域社会に関する知識を習得する。
- ・PBLといわれる教育手法により、問題発見と問題解決の能力を獲得する。
- ・調査研究と論文執筆のためのアカデミックスキルを身につける。
- ・アクティブラーニングにより、コミュニケーション力、企画運営力、協働力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングであるPBL(問題発見・解決型学習)として、特定地域との連携による実践・交流を行いながら、調査研究を実施し政策提言を含む報告書にまとめる。さらに基礎的な能力構築のために、ワークショップ技法の習得、書評の執筆、時事問題に関する討論などを日常の研究会に組み込む。なお、学生の個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定してゼミ研究論文を作成する。グループおよび個人から提出された報告用ペーパーについてはその場でコメントするとともに、後日、必要に応じて、個別に追加コメントを行う。その他、事後的な感想や意見の提出と応答、課題への講評等については、学習支援システムの機能(「お知らせ」「課題」「揭示版」)を活用して行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。
第2回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告した上で、質疑応答により共有する。
第3回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第4回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第5回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。

第6回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第7回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第8回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第9回	共通テーマに関する調査研究	春学期に行った共通テーマに関する調査研究の成果について、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第10回	共通テーマに関する調査研究	春学期に行った共通テーマに関する調査研究の成果について、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第11回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第12回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第13回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第14回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第15回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第16回	共通テーマの調査研究	秋学期に行う共通テーマに関する調査研究について確認する。
第17回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第18回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第19回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第20回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第21回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
第22回	共通テーマの調査研究	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第23回	共通テーマの調査研究	担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第24回	共通テーマの最終報告と総括	共通テーマについて各グループが最終報告を行った上で、提言報告書の作成に向けて、全体を総括しながら、本年度の成果を全員で共有する。
第25回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第26回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第27回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第28回	1年間のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現について検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・テキストや関連資料による予習と復習
- ・課題や地域プロジェクトへの取り組み
- ・個人テーマに関する調査研究とゼミ論文の執筆

【テキスト（教科書）】

開講時の約2週間前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点=積極的な参加姿勢(40%)、地域プロジェクトへの貢献(30%)、課題提出とゼミ論文(30%)による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特定地域に関するPBL（問題発見・解決型学習）を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとって意義があると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステイナビリティコースの学生を対象としています。したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。

このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is "the creation of sustainable community." In particular, we will approach synthetically about the social innovation of community in the 21st century from various viewpoints, such as environment, economy, society, culture, public policy, and SDGs. Moreover, we will take notice of participation and collaboration of citizen, NPO, local government, company, etc. Furthermore, we will work on community practice as advanced "active learning", with exploring "sustainable community" within the campus. Students aim at building comprehensive abilities as undergraduates through such challenges.

At the end of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (1)Acquire knowledge of sustainable community.
- (2)Acquire problem-finding and problem-solving skills through so-called "PBL" methods
- (3)Acquire academic skills for research and writing the thesis.
- (4)Acquire communication skills, planning and management skills, and collaboration skills through active learning including community practice.

Students need to prepare and review each session by using textbooks and related materials, and to work on some assignments, some community projects in this seminar. Preparatory and review time for this seminar are 2 hours each. Students are also required to research on individual interest and write a final report.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Active class participation:40%, Contribution to local project:30%, Short assignment and final report:30%

CMF400HA (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 400)

研究会A

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会のテーマは、「持続可能な地域社会の創造」である。特に、SDGsと21世紀における地域社会のソーシャルイノベーションに関する学びを基盤として、様々な地域活動を企画し実践する。また学生は、卒業論文を完成させるための調査研究を行う。この研究会の目的は、学生が、社会人として必要な能力の基礎を涵養しながら、将来のキャリアイメージを模索することである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な地域社会に関する知識を習得する。
- ・PBLといわれる教育手法により、問題発見と問題解決の能力を獲得する。
- ・調査研究と研究会修了論文執筆のためのアカデミックスキルを身につける。
- ・アクティブラーニングにより、コミュニケーション力、企画運営力、協働力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングであるPBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流に参画する。さらに、研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果については公開のプレゼンテーションも行う。グループおよび個人から提出されたペーパーについては、その場でコメントするとともに、後日、必要に応じて、個別に追加コメントを行う。その他、事後的な感想や意見の提出と応答、課題への講評等については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。
第2回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第3回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第4回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第5回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第6回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。

第7回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第8回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第9回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの基本構想について検討する。
第10回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施プログラムについて検討する。
第11回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの工程について検討する。
第12回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第13回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第14回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第15回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。
第16回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第17回	地域連携プロジェクトをふまえた提言作成	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言を作成する。
第18回	ソーシャルイノベーション・ミニF S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第19回	文献購読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第20回	文献購読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第21回	ソーシャルイノベーション・ミニF S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第22回	文献購読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第23回	映像視聴と討論	共通テーマに関する映像を視聴し議論する。
第24回	ソーシャルイノベーション・ミニF S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第25回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第26回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第27回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第28回	研究会のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現と各人の「社会人基礎力」の涵養についてふりかえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・文献の事前学習。
- ・地域連携プロジェクトの企画準備。
- ・研究会修了論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

- ・開講時の約2週間前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点＝積極的な参加姿勢(40%)、地域プロジェクトへの貢献(30%)、研究会修了論文への取り組み(30%)による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

PBL(問題発見・解決型学習)として、地域実践を企画運営することは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、社会的責任を体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育てていると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステナビリティコースに登録した学生を対象としています。

したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。

このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is "the creation of sustainable community." In particular, we will plan and work on community practice based on learning about SDGs and the social innovation of community in the 21st century. Moreover, students shall research for completing graduation thesis. The purpose of this seminar is for students to search for future career image, with cultivating the basic ability required as members of society.

At the end of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (1)Acquire knowledge of sustainable community.
- (2)Acquire problem-finding and problem-solving skills through so-called "PBL" methods
- (3)Acquire academic skills for research and writing graduation thesis.
- (4)Acquire communication skills, planning and management skills, and collaboration skills through active learning including community practice.

Students need to prepare and review each session by using textbooks and related materials, and to work on some assignments, some community projects in this seminar. Preparatory and review time for this seminar are 2 hours each. Students are also required to research on individual interest and write graduation thesis.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Active class participation:40%, Contribution to local project:30%, Work on graduation thesis:30%

SOS400HA (その他の社会科学 / Social science 400)

研究会A

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* Mass Media Research *

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and the models of mass communication. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. In the first semester, students will mainly learn theory and an overview of the different aspects in mass communication. In the second semester, students will do their own research project regarding mass media effects. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Hosei Learning Management System (hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of Mass Media Research
第2回	Mass Media & Society	Mass communication vs. Mass Media / Mass media industries
第3回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment

第4回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories
第5回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theories / Development of mass media effects theories
第6回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model
第7回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects
第8回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting
第9回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第10回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第11回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media
第12回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes
第13回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively
第14回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第15回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第16回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第17回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第18回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第19回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第20回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第21回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第22回	Method	Data Collection / Entry data
第23回	Method	Data Collection / Entry data
第24回	Method	Data Collection / Entry data
第25回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第26回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第27回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data

第28回 Class Presentations and Feedback
Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials. Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in each class.

【参考書】

David R. Croteau and William D. Hoynes (2015). *Media/Society: Industries, Images, and Audiences* (5th Edition). SAGE Publications.

James W. Potter (2021). *Media Literacy* (10th Edition). SAGE Publications.

John V. Pavlik and Shawn McIntosh (2018). *Converging Media: A New Introduction to Mass Communication* (6th Edition). Oxford University Press.

Shirley Biagi (2021). *Media/Impact: An Introduction to Mass Media* (12th Edition). CENGAGE Learning.

【成績評価の方法と基準】

1st Semester: Assessment will consist of in-class participation (10%), a presentation (20%) and a take-home exam (20%).

2nd Semester: Assessment will consist of a summary of pieces of literature (15%), a group presentation (15%) and a group research paper (20%).

Note that if you miss four (4) classes or more, you cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【その他の重要事項】

This class is open to students who have taken グローカル コミュニケーション or 'Stockwell's ゼミB (Human Communication) before.

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【Outline (in English)】

* Mass Media Research *

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress. Therefore, students are expected to take about four hours to prepare and review a class.

1st Semester: Assessment will consist of in-class participation (10%), a presentation (20%) and a take-home exam (20%).

2nd Semester: Assessment will consist of a summary of pieces of literature (15%), a group presentation (15%) and a group research paper (20%).

ECN400HA (経済学 / Economics 400)

研究会A

武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2024年度は、「環境（と開発）」がテーマです。持続可能な社会の構想には、「環境保全」という要素が欠かせません。一方で開発途上国では経済成長や生活水準向上のために、環境に後戻りできない影響を与える開発が引き続き求められています。それらを単純に環境破壊だと批判することは適切でしょうか。環境保全と経済開発や貧困削減の両立をどのように考えるべきか、先進国と途上国でそれらに違いはあるのか、そもそもなぜ環境を守る必要があるのか、といった問いについて考えていきます。

本セミナーは持続可能な開発目標（SDGs）全体に関わりますが、とりわけゴール13,14,15と深い関係にあります。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の方法等は、受講者の積極的な提案に基づき、随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第2回	基礎文献の輪読（1）	「環境」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第3回	基礎文献の輪読（2）	「環境」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第4回	基礎文献の輪読（3）	「環境保全／保護」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第5回	基礎文献の輪読（4）	「環境保全／保護」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第6回	基礎文献の輪読（5）	「生物多様性」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第7回	基礎文献の輪読（6）	「生物多様性」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第8回	グループディスカッション 課題1-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第9回	グループディスカッション 課題1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第10回	グループディスカッション 課題2-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第11回	グループディスカッション 課題2-2	グループ発表および全体ディスカッション

第12回	グループディスカッション 課題3-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第13回	グループディスカッション 課題3-2	グループ発表および全体ディスカッション
第14回	春学期のまとめ	春学期全体のまとめ、フィードバック。
第15回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第16回	グループディスカッション 課題4-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第17回	グループディスカッション 課題4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第18回	グループディスカッション 課題5-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第19回	グループディスカッション 課題5-2	グループ発表および全体ディスカッション
第20回	グループディスカッション 課題6-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第21回	グループディスカッション 課題6-2	グループ発表および全体ディスカッション
第22回	グループディスカッション 課題7-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第23回	グループディスカッション 課題7-2	グループ発表および全体ディスカッション
第24回	グループディスカッション 課題8-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第25回	グループディスカッション 課題8-2	グループ発表および全体ディスカッション
第26回	グループディスカッション 課題9-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第27回	グループディスカッション 課題9-2	グループ発表および全体ディスカッション
第28回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への積極的参加や貢献など）（70%）、期末レポート（30%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを増やすことに留意する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、経済協力の実務を通じて得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The theme for FY2024 is "Environment (and Development)". Environmental conservation is an essential element in the conception of a sustainable society. On the other hand, developing countries continue to require development that has an irreversible impact on the environment in order to achieve economic growth and improve living standards. Is it appropriate to criticize them as simply destroying the environment? We will consider questions such as how to balance environmental conservation with economic development and poverty reduction, whether there are differences between developed and developing countries, and why it is necessary to protect the environment in the first place.

This seminar is concerned with the Sustainable Development Goals (SDGs) as a whole, but especially with Goals 13, 14, and 15.

[Learning Objectives]

The goal of this seminar is to enable students to (a) view the debate on development and environmental conservation from a broad perspective, (b) formulate their own opinions and communicate them to others, and (c) imagine and envision a sustainable society for the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the lectures using the materials introduced in each lecture.

Students are required to read carefully the basic literature and the given assignments (including English texts) before attending the exercises. Read through as much as possible of the reference books introduced in the lectures. Students should have opportunities to actively gather in groups to discuss issues. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on performance in the regular session (active participation and contribution to discussions, etc.) (70%) and the final report (30%).

SOS400HA (その他の社会科学 / Social science 400)

研究会A

伊東 直美

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界と日本の生活保障——社会福祉と市民社会
グローバル化と新自由主義経済の拡大により日本を含む世界各地で格差社会が進み、多様な生き方が可能になる反面、貧困や孤立の問題が大きくなっている。

病気や加齢、失業、子育てといったライフイベントのために生活が不安定化してしまった人々を、どのように支え、地域社会やコミュニティに包摂していくのか。それぞれの社会で模索が続いている。

【到達目標】

このゼミでは、ヨーロッパおよび日本を中心に、社会的な弱者の生活を支えるために、どのような試みがおこなわれてきたのかを、各地域の事情に即して比較し、考察します。

2024年度は、外国人との共生社会の実現に注目し、とくに学校と教育にかかわる問題を取りあげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期・秋学期とも前半は文献講読、後半はグループワークをおこなう。テーマに応じフィールド調査をおこなうことがある。

ゼミ終了後の時間帯にサブゼミを開講する。内容は、春学期は、2年生を対象に文献講読のコツやグループワークの進め方の説明、秋学期は、4年生を対象に研究会修了論文の執筆に向けた個別指導である。

夏休みには課題図書を設定する。

また、夏季休業期間中から秋学期期間中に、人間環境学部の他ゼミや他大学との合同ゼミをおこなうことがある。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明。
第2回	概説	今年度のゼミで学ぶ内容について概説を聞き、
第3回	文献講読 (第1回)	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第4回	文献講読 (第1回)	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第5回	文献講読 (第1回)	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第6回	文献講読 (第1回)	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第7回	グループワーク準備	文献講読で明らかになった課題を整理し、グループワークの準備をする。
第8回	グループワーク (第1回)	グループに分かれて調査する。
第9回	グループワーク (第1回)	グループに分かれて調査する。

第10回	グループワーク (第1回)	グループに分かれて調査する。
第11回	グループワーク (第1回)	グループに分かれて調査する。
第12回	グループワーク (第1回) のまとめ	グループワークの結果をまとめ発表の準備をする。
第13回	グループワーク報告 (第1回)	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第14回	グループワーク報告 (第1回)	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第15回	後半イントロダクション	前半の活動を総括し、後半の課題を整理する。
第16回	夏休み課題図書の報告	夏休みの課題図書の内容を確認する。
第17回	文献講読 (第2回)	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第18回	文献講読 (第2回)	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第19回	文献講読 (第2回)	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第20回	文献講読 (第2回)	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第21回	グループワークのテーマ決め	グループワークのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第22回	グループワーク (第2回)	グループに分かれて調査する。
第23回	グループワーク (第2回)	グループに分かれて調査する。
第24回	グループワーク (第2回)	グループに分かれて調査する。
第25回	グループワーク (第2回)	グループに分かれて調査する。
第26回	グループワーク (第2回) のまとめ	グループワークの結果をまとめ発表の準備をする。
第27回	グループワーク報告 (第2回)	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第28回	グループワーク報告 (第2回)	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を扱うことは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。

また、文献講読の際は、必ず事前にテキストを読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は、毎回4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考書】

以下のほか、開講時に指示する。

- ・落合恵美子編『どうする日本の家族政策』ミネルヴァ書房、2021年。
- ・坏洋一『福祉国家』法律文化社、2012年。橘木俊詔『社会保障入門』ミネルヴァ書房、2019年。
- ・埋橋孝文編『どうする日本の福祉政策』ミネルヴァ書房、2020年。
- ・田中聡子／志賀信夫編著『福祉再考—実践・政策・運動の現状と可能性』旬報社、2020年。
- ・田中拓道『福祉政治史—格差に抗するデモクラシー』勁草書房、2017年。
- ・宮本太郎『貧困・介護・育児の政治—ベーシックアセットの福祉国家へ』朝日新聞出版、2021年。

【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論への参加 (30%)、グループワーク、ディベートなどでの貢献 (30%)、秋学期末のレポート (40%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

状況によりオンライン授業を実施します。自宅でZoomに接続して授業を受けることができる環境を準備してください。教室で授業をする場合も、Zoomに接続してもらうことがあります。そのときはノートPCやタブレットを大学に持ってきてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【Outline (in English)】

Seminar on social welfare, social policy and civil society in Japan and other countries.

In this seminar, we will examine how attempts have been made to support the lives of the socially disadvantaged, mainly in Europe and Japan, by comparing the circumstances of each region.

Students will be expected to prepare and review the materials introduced in each lecture. The standard preparation and review time for this class is two hours each time.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Participation in seminar discussions (30%), contribution in group work, debates, etc. (30%), report at the end of the fall semester (40%)

LAW400HA (法学 / law 400)

研究会A

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2024年度は、英文で書かれたサステナビリティ報告書を学習します。

【到達目標】

このゼミナールは、①4年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①実践ビジネス英語の暗誦、②Japan Times1面の訳、③日経新聞「きょうのことは」の記憶、④米国のPBS放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、および、英検準1級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の2回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4年生による研究論文の発表が行われます。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第2回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を2年生のために勉強の仕方等を説明
第3回	春学期本ゼミ発表(1)	環境関連の英文CSRに関する発表
第4回	春学期本ゼミ発表(2)	環境関連の英文CSRに関する発表
第5回	春学期本ゼミ発表(3)	環境関連の英文CSRに関する発表
第6回	春学期本ゼミ発表(4)	環境関連の英文CSRに関する発表
第7回	春学期本ゼミ発表(5)	環境関連の英文CSRに関する発表
第8回	春学期本ゼミ発表(6)	環境関連の英文CSRに関する発表
第9回	春学期本ゼミ発表(7)	環境関連の英文CSRに関する発表
第10回	春学期本ゼミ発表(8)	環境関連の英文CSRに関する発表
第11回	春学期本ゼミ発表(9)	環境関連の英文CSRに関する発表
第12回	春学期本ゼミ発表(10)	環境関連の英文CSRに関する発表

第13回	春学期本ゼミ発表(11)	環境関連の英文CSRに関する発表
第14回	春学期本ゼミ発表(12)	環境関連の英文CSRに関する発表、夏合宿課題の説明等
第15回	秋学期本ゼミ発表(1)	環境関連の英文CSRに関する発表
第16回	秋学期本ゼミ発表(2)	環境関連の英文CSRに関する発表
第17回	秋学期本ゼミ発表(3)	環境関連の英文CSRに関する発表
第18回	秋学期本ゼミ発表(4)	環境関連の英文CSRに関する発表
第19回	秋学期本ゼミ発表(5)	環境関連の英文CSRに関する発表
第20回	秋学期本ゼミ発表(6)	環境関連の英文CSRに関する発表
第21回	秋学期本ゼミ発表(7)	環境関連の英文CSRに関する発表
第22回	秋学期本ゼミ発表(8)	環境関連の英文CSRに関する発表
第23回	秋学期本ゼミ発表(9)	環境関連の英文CSRに関する発表
第24回	秋学期本ゼミ発表(10)	環境関連の英文CSRに関する発表
第25回	秋学期本ゼミ発表(11)	環境関連の英文CSRに関する発表
第26回	秋学期本ゼミ発表(12)	環境関連の英文CSRに関する発表
第27回	秋学期本ゼミ発表(13)	環境関連の英文CSRに関する発表
第28回	秋学期本ゼミ発表(14)	環境関連の英文CSRに関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準1級等の資格取得のための勉強を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CSRに関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです（100%）。春学期・秋学期とも、3回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思います。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、グローバル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2024 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

< Learning Objectives >

The goals of this seminar are:

- (1) to acquire the ability to write a graduation thesis in the 4th grade;
- (2) to acquire English reading comprehension; and
- (3) to learn the basics of environmental law in Japan and the United States.

In addition to the above, in order to improve basic skills, you are required to:

- (1) recite conversational sentences in NHK radio course titled Business English for Global Competence;
- (2) translate of the first page of the Japan Times;
- (3) memorize "Today's Words" on Nikkei newspaper; and

(4) shadow PBS broadcasting programs.

Students are also encouraged to obtain the following qualifications: (1) Fundamental Information Technology Engineer Examination and (2) EIKEN Grade Pre-1.

< Learning Activities outside of Classroom >

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture. You are required to prepare for presentations at lectures, complete sub-seminars assignments. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (100%). If you are absent three times or more in both the spring and fall semesters, or if you do not prepare for presentations or do assignments, you will not be able to earn credits.

LAW400HA (法学 / law 400)

研究会A

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2024年度は、英文で書かれたサステナビリティ報告書を学習します。

【到達目標】

このゼミナールは、①4年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①実践ビジネス英語の暗誦、②Japan Times1面の訳、③日経新聞「きょうのことは」の記憶、④米国のPBS放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、および、英検準1級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の2回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4年生による研究論文の発表が行われます。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第2回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を2年生のために勉強の仕方等を説明
第3回	春学期本ゼミ発表(1)	環境関連の英文CSRに関する発表
第4回	春学期本ゼミ発表(2)	環境関連の英文CSRに関する発表
第5回	春学期本ゼミ発表(3)	環境関連の英文CSRに関する発表
第6回	春学期本ゼミ発表(4)	環境関連の英文CSRに関する発表
第7回	春学期本ゼミ発表(5)	環境関連の英文CSRに関する発表
第8回	春学期本ゼミ発表(6)	環境関連の英文CSRに関する発表
第9回	春学期本ゼミ発表(7)	環境関連の英文CSRに関する発表
第10回	春学期本ゼミ発表(8)	環境関連の英文CSRに関する発表
第11回	春学期本ゼミ発表(9)	環境関連の英文CSRに関する発表
第12回	春学期本ゼミ発表(10)	環境関連の英文CSRに関する発表

第13回	春学期本ゼミ発表(11)	環境関連の英文CSRに関する発表
第14回	春学期本ゼミ発表(12)	環境関連の英文CSRに関する発表、夏合宿課題の説明等
第15回	秋学期本ゼミ発表(1)	環境関連の英文CSRに関する発表
第16回	秋学期本ゼミ発表(2)	環境関連の英文CSRに関する発表
第17回	秋学期本ゼミ発表(3)	環境関連の英文CSRに関する発表
第18回	秋学期本ゼミ発表(4)	環境関連の英文CSRに関する発表
第19回	秋学期本ゼミ発表(5)	環境関連の英文CSRに関する発表
第20回	秋学期本ゼミ発表(6)	環境関連の英文CSRに関する発表
第21回	秋学期本ゼミ発表(7)	環境関連の英文CSRに関する発表
第22回	秋学期本ゼミ発表(8)	環境関連の英文CSRに関する発表
第23回	秋学期本ゼミ発表(9)	環境関連の英文CSRに関する発表
第24回	秋学期本ゼミ発表(10)	環境関連の英文CSRに関する発表
第25回	秋学期本ゼミ発表(11)	環境関連の英文CSRに関する発表
第26回	秋学期本ゼミ発表(12)	環境関連の英文CSRに関する発表
第27回	秋学期本ゼミ発表(13)	環境関連の英文CSRに関する発表
第28回	秋学期本ゼミ発表(14)	環境関連の英文CSRに関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準1級等の資格取得のための勉強を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CSRに関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです（100%）。春学期・秋学期とも、3回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思えます。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、グローバル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2024 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

< Learning Objectives >

The goals of this seminar are:

- (1) to acquire the ability to write a graduation thesis in the 4th grade;
- (2) to acquire English reading comprehension; and
- (3) to learn the basics of environmental law in Japan and the United States.

In addition to the above, in order to improve basic skills, you are required to:

- (1) recite conversational sentences in NHK radio course titled Business English for Global Competence;
- (2) translate of the first page of the Japan Times;
- (3) memorize "Today's Words" on Nikkei newspaper; and

(4) shadow PBS broadcasting programs.

Students are also encouraged to obtain the following qualifications: (1) Fundamental Information Technology Engineer Examination and (2) EIKEN Grade Pre-1.

< Learning Activities outside of Classroom >

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture. You are required to prepare for presentations at lectures, complete sub-seminars assignments. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (100%). If you are absent three times or more in both the spring and fall semesters, or if you do not prepare for presentations or do assignments, you will not be able to earn credits.

SOC400HA (社会学 / Sociology 400)

研究会A

櫻井 洋介

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「人権尊重の経営と労働CSR」

本ゼミでは、近年、企業の社会的責任(CSR)やサステナビリティ経営の文脈で注目を集めている「ビジネスと人権」をテーマに扱います。サプライチェーン上の児童労働などの社会的な問題や、ダイバーシティ経営、働きやすい人間らしい仕事(ディーセントワーク)の実現といった企業経営上の課題など、「人」に関する様々な切り口から、責任ある企業経営の在り方を学んでいきます。グループワーク等を通じて自身の関心領域や問題意識を設定していきます、最終的にはゼミ研究論文を執筆することを目指します。

【到達目標】

「ビジネスと人権」や「労働CSR」に関する知見を深め、責任ある企業行動の観点から「企業」と「人」との関係性を考察する力を身に付ける。

また、グループワークや個人発表、論文の執筆を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、課題設定能力や論理的思考力等を鍛え、アカデミックスキルの基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの講読を行い、その内容をもとにディスカッション形式で進行することを基本とします。また、春学期はグループ発表、秋学期は個人発表を実施してもらうことを想定しています(ゼミ生の人数等に応じて変更の可能性があります)。また、スケジュールやゼミ生の関心領域等に応じて、ゲストスピーカーの招聘や校外学習(企業見学や他組織との交流、イベントへの参加、ゼミ合宿等)も実施する可能性があります。

今年度より募集開始するゼミですので、ゼミ生の皆さんのご要望も聞きながら実施できればと思います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ生同士の自己紹介を行い、合わせて今後のゼミの進め方や年間スケジュールについて確認を行う。
第2回	企業の社会的責任と人権論の概要	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第3回	企業の人権尊重責任と人権デューデリジェンス	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第4回	サプライチェーン上の人権・労働問題	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第5回	ビジネスと人権に関する各国と日本の動向	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第6回	現代的な働き方の特徴と課題	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。

第7回	外国人労働者・ジェンダー平等	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第8回	障害者雇用の課題と展望	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第9回	人的資本経営の重要性	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第10回	グループ分けと発表スケジュールの決定	グループ分けと発表スケジュールの決定を行う。
第11回	グループ研究・発表①	グループ発表およびディスカッションを行う。
第12回	グループ研究・発表②	グループ発表およびディスカッションを行う。
第13回	グループ研究・発表③	グループ発表およびディスカッションを行う。
第14回	まとめ	春学期の総括と秋学期の進め方についての説明を行う。
第15回	イントロダクション	秋学期の進め方の確認を行う。
第16回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える①	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う(ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある)
第17回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える②	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う(ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある)
第18回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える③	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う(ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある)
第19回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える④	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う(ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある)
第20回	特定テーマや企業事例を通じて「責任ある企業行動」を考える⑤	開示情報の閲覧や文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的な企業の取組内容についてディスカッションを行う(ゲストスピーカー講演等を行う可能性もある)
第21回	個人発表に向けたガイダンスと発表スケジュールの決定	個人発表のスケジュールや内容等について協議する。
第22回	個人発表①	個人発表およびディスカッションを行う。
第23回	個人発表②	個人発表およびディスカッションを行う。
第24回	個人発表③	個人発表およびディスカッションを行う。
第25回	個人発表④	個人発表およびディスカッションを行う。
第26回	個人発表⑤	個人発表およびディスカッションを行う。
第27回	国連「ビジネスと人権フォーラム」に関するディスカッション	国連「ビジネスと人権フォーラム」の内容を踏まえてディスカッションを行う。
第28回	1年間のまとめ	1年間の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ内で取り上げるテーマについて事前にリサーチを行い、ディスカッションの中で自分の意見を述べられるように準備をお願いします。また、グループ発表や個人発表の準備等は授業外において実施していただくことになります。グループ発表および個人発表時は、必ずレジュメや資料等を用意するようにして下さい。

ゼミ生には、自身の関心のある分野を定め、自主的にリサーチを進めることを期待します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

櫻井洋介『人権尊重の経営 SDG s時代の新たなリスクへの対応』（日本経済新聞出版、2022）

【参考書】

ゼミ生の研究テーマに合わせて適宜、参考書をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：ディスカッションへの参加、グループワークやゼミ活動への貢献、グループ発表や個人発表の内容等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

担当教員は実務家教員（現役のサステナビリティコンサルタント）であり、「ビジネスと人権」や「労働CSR」、「サプライチェーン上の労働問題」等を専門に企業や官公庁向けのコンサルティング業務に従事しています。これらの経験を踏まえて学生へのフィードバックを行うとともに、コンサルタント業を通じて培ったネットワークを通じて、企業関係者のゲストスピーカー招へいや企業との接点確保等を行うことで、企業実務とのつながりを意識した研究を行っていく予定です。

今年度より募集開始するゼミですので、ゼミ生の皆さんと一緒に作り上げていければと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This seminar will focus on the theme of "Business and Human Rights," which has been attracting attention in the context of corporate social responsibility (CSR) and sustainability management in recent years. We will learn about responsible corporate management from a variety of perspectives related to "people," including social issues such as child labor in the supply chain, and corporate management issues such as diversity management and the realization of decent work.

【Learning Objectives】

Students will deepen their knowledge of "Business and Human Rights" and "Labor CSR" and acquire the ability to consider the relationship between "business" and "people" from the perspective of Responsible Business Conduct.

In addition, through group work, individual presentations, and the writing of a thesis, students will develop communication and presentation skills, problem-solving skills, and logical thinking skills, and acquire a foundation of academic skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to research the topics to be discussed in the seminar in advance and prepare to express their own opinions during the discussion.

In addition, students are required to prepare for group and individual presentations outside of class. Make sure to prepare resumes and other materials for your group and individual presentations.

Students are expected to decide on their own areas of interest and conduct research independently.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Usual performance score (100%): Participation in discussions, contribution to group work and seminar activities, and the content of group and individual presentations will be comprehensively evaluated.

HIS400HA (史学 / History 400)

研究会A

芳賀 和樹

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「人と自然の関わり」で描く日本史

この研究会の目的は、日本の歴史を「人と自然の関わり」から読み解くことです。参加者が自ら「問い」を立て、歴史学などの方法を用いて各自の「答え」を導き出し、共に議論する時間を大切にしたいと思います。

—「問い」の例

・過去の人びとは、どのように「自然資源」を活用し、暮らしていたのだろうか？

・過去の人びとは、どのように「自然災害」に向き合っていたのだろうか？

・「人と自然の関わり」のなかで、どのような「文化」が創り出されてきたのだろうか？

【到達目標】

本授業では、『人と自然の関わり』で描く日本史』をテーマにして学習し、①歴史用語の意味や使い方、歴史資料の読み解き方を、具体的な事例に基づいて説明できるようにすること、②自ら「問い」を立て、各自の「答え」を導き出し、多様な意見を尊重しながら建設的に議論する力を養うこと、を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に対面による演習形式で行います。課題提出後の授業においては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テーマと進め方の説明、年間計画の確認と相談、メンバーの自己紹介。
第2回	文献の講読と発表の方法	文献の読み解き方、発表の際のポイントを学習する。講読する文献を分担する。
第3回	文献の講読と発表(1)	テーマに関連する文献を読み解き、内容を発表し、議論する。
第4回	文献の講読と発表(2)	テーマに関連する文献を読み解き、内容を発表し、議論する。
第5回	研究テーマを考える	研究の進め方や調査方法を学習する。研究テーマについて相談する。
第6回	研究テーマの発表(1)	研究テーマについて発表し、議論する。
第7回	研究テーマの発表(2)	研究テーマについて発表し、議論する。
第8回	歴史資料の読解と発表の方法	歴史資料の読み解き方、発表の際のポイントを学習する。読解する歴史資料を分担する。
第9回	歴史資料の読解と発表(1)	テーマに関連する歴史資料を読み解き、内容を発表し、議論する。

第10回	歴史資料の読解と発表(2)	テーマに関連する歴史資料を読み解き、内容を発表し、議論する。
第11回	歴史資料の読解と発表(3)	テーマに関連する歴史資料を読み解き、内容を発表し、議論する。
第12回	研究計画を考える	研究計画の立て方を学習する。研究計画について相談する。
第13回	研究計画の発表(1)	研究計画について発表し、議論する。
第14回	研究計画の発表(2)	研究計画について発表し、議論する。
第15回	分析結果と考察のまとめ方	分析結果と考察のまとめ方を学習する。夏休みの研究成果のまとめ方について相談する。
第16回	研究成果の中間発表(1)	夏休みの研究成果を発表し、議論する。
第17回	研究成果の中間発表(2)	夏休みの研究成果を発表し、議論する。
第18回	研究成果の中間発表(3)	夏休みの研究成果を発表し、議論する。
第19回	文献・歴史資料の分析と議論(1)	収集した文献・歴史資料の分析を進め、議論する。
第20回	文献・歴史資料の分析と議論(2)	収集した文献・歴史資料の分析を進め、議論する。
第21回	文献・歴史資料の分析と議論(3)	収集した文献・歴史資料の分析を進め、議論する。
第22回	文献・歴史資料の分析と議論(4)	収集した文献・歴史資料の分析を進め、議論する。
第23回	文献・歴史資料の分析と議論(5)	収集した文献・歴史資料の分析を進め、議論する。
第24回	文献・歴史資料の分析と議論(6)	収集した文献・歴史資料の分析を進め、議論する。
第25回	研究成果の発表(1)	一年間の研究成果を発表し、議論する。
第26回	研究成果の発表(2)	一年間の研究成果を発表し、議論する。
第27回	研究成果の発表(3)	一年間の研究成果を発表し、議論する。
第28回	まとめ	一年間の研究成果を総括し、得られた知見や考えたことについて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する文献・歴史資料などを参照し、準備学習と復習をしてください。自身の問題関心に意識を向け、関連する文献や歴史資料などを積極的に集め、読み解いてください。また可能な範囲で、フィールドワーク（地域の博物館や図書館などを訪れることも含む）に出かけてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、レポート（40%）、授業内の発表（60%）により行います。いずれも調査研究への取り組み状況、内容の充実度や独創性に依りて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Theme: Japanese History as Depicted by the "Relationship between People and Nature"

The purpose of this seminar is to read Japanese history from the perspective of "the relationship between people and nature." We would like to value the time when participants can ask their own "questions," derive their own "answers" using methods such as historiography, and discuss them together.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In this course, we will study the theme of "Japanese history as depicted through the relationship between people and nature," with the goals of (1) being able to explain the meaning and usage of historical terms and how to read and understand historical materials based on specific examples, and (2) developing the ability to formulate one's own "questions," derive one's own "answers," and engage in constructive discussion while respecting diverse opinions.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Please refer to the handouts and literature and historical materials related to the theme for preparatory study and review. Please be aware of your own interests and actively collect and read relevant literature and historical materials. Also, please go out for fieldwork (including visits to local museums, local libraries, etc.) to the extent possible. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on reports (40%) and in-class presentations (60%). Both will be evaluated based on the state of commitment to research and study, the richness of the content, and originality.

MAN400HA (経営学 / Management 400)

研究会A

長谷川 直哉

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代企業論、ビジネスストーリー、CSR論Ⅰ・Ⅱで習得した知識をベースに、「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する答えを見出すため、持続可能な社会で求められる企業とは何かについて考えます。SDGs(持続可能な開発目標)、パリ協定(脱炭素)、CSR(企業の社会的責任)、Business Ethics(企業倫理)等のテーマを中心に、サステナブル社会で人々から共感される理想の企業像とは何かを学びます。

【到達目標】

SDGsやESG投資の視点から、社会変革をリードし持続可能な社会の構築に貢献できる企業について実証的アプローチによる研究を行い、4年生は研究会修了論文、2・3年生は日経STOCKリーグのレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、SDGsおよびESG投資に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得を図りディベート能力も涵養します。秋学期は複数のチームを編成し、日本経済新聞社が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグではSDGsへの取り組み、財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルのESG投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方
	日経STOCKリーグ	日経STOCKリーグの説明
	研究会修了論文	卒業論文の執筆スケジュール
第2回	企業と社会に関する文献講読①	担当者による報告と討議
第3回	企業と社会に関する文献講読②	担当者による報告と討議
第4回	企業と社会に関する文献講読③	担当者による報告と討議
第5回	企業と社会に関する文献講読④	担当者による報告と討議
第6回	日経STOCKリーグ第1回テーマ報告	テーマの方向性についての報告と討議
第7回	ESG投資に関する文献購読①	日経STOCKリーグ優秀論文のレビュー 担当者による報告と討議
第8回	ESG投資に関する文献購読②	日経STOCKリーグ優秀論文のレビュー 担当者による報告と討議

第9回	コーポレートガバナンスに関する文献購読①	コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 担当者による報告と討議
第10回	コーポレートガバナンスに関する文献購読②	コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 担当者による報告と討議
第11回	日経STOCKリーグ第2回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告と討議
第12回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読①	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と討議
第13回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読②	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と討議
第14回	日経STOCKリーグ第3回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第15回	日経STOCKリーググループ中間報告①	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第16回	日経STOCKリーググループ中間報告②	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第17回	研究会修了論文中間報告①	論文テーマ・論文構成の報告と討議
第18回	日経STOCKリーグ(企業評価)	チーム毎に分析結果の報告
第19回	日経STOCKリーグ(企業評価)	チーム毎に分析結果の報告
第20回	日経STOCKリーグ(企業評価)	チーム毎に分析結果の報告
第21回	日経STOCKリーググループ中間報告③	ポートフォリオ企業の選定状況報告
第22回	日経STOCK(企業訪問①)	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第23回	日経STOCK(企業訪問②)	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第24回	日経STOCK(企業訪問③)	企業を訪問しヒアリング調査を実施
第25回	日経STOCKリーググループ中間報告④	ポートフォリオの完成 レポート内容の報告
第26回	研究会修了論文中間報告②	論文構成および内容の報告と討議
第27回	日経STOCKリーグ提出用レポートの検討	レポート執筆状況の報告
第28回	日経STOCKリーグ提出用レポートの検討	レポート完成稿の報告

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

ゼミの発表資料や適宜紹介される文献・資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。企業のSDGs活動、財務分析、企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜-時代を超えた企業家の使命』文眞堂, 2021年
Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂, 2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂, 2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂, 2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文眞堂, 2016年
日経エコロジー編『ESG経営ケーススタディ20』日経BP社, 2017年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容
日経ストックリーグレポート (70%)

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、ローカル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

Based on the knowledge acquired in Contemporary Corporate Theory, Business History, and CSR I and II, students will discuss the ideal company in a sustainable society.

Students will build a portfolio and prepare a stock league report on themes such as SDGs (Sustainable Development Goals), Paris Agreement(Decarbonization), CSR (Corporate Social Responsibility), and Business Ethics.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the final report (70%) and presentation (30%).

LIT400HA (文学 / Literature 400)

研究会A

日原 傳

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

名勝、詩跡および都市について考える。

・名勝、詩跡および都市の成立の経緯を探り、その自然や歴史との関わりについて考察する。

・名勝、詩跡の成立に関して、文学や絵画などの果たした役割を考える。

【到達目標】

・名勝、詩跡および都市の成立の経緯について理解を深める。

・近代以前の旅の実態について理解を深める。

・名勝、詩跡の成立に関わる文学、絵画などの存在を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業形態（演習）

・最初の時間に、本年度用いる基本テキストについて説明する。以後は、テキストを輪読してゆく。

・テキストを輪読しながら、浮かび上がってくる問題について議論する。

・各自が自分の興味あるテーマについて調べ、発表する時間を設ける。
※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	名勝・詩跡・都市・旅	テキストの説明。参考文献の紹介。
第2回	文献講読	テキスト輪読
第3回	文献講読	テキスト輪読
第4回	文献講読	テキスト輪読
第5回	文献講読	テキスト輪読
第6回	文献講読	テキスト輪読
第7回	文献講読	テキスト輪読
第8回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第9回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第10回	文献講読	テキスト輪読
第11回	文献講読	テキスト輪読
第12回	文献講読	テキスト輪読
第13回	文献講読	テキスト輪読
第14回	発表、文献講読	発表（個人テーマの進捗状況の紹介）、テキスト輪読
第15回	発表、文献講読	発表（個人テーマの進捗状況の紹介）、テキスト輪読
第16回	文献講読	テキスト輪読
第17回	文献講読	テキスト輪読
第18回	文献講読	テキスト輪読
第19回	文献講読	テキスト輪読
第20回	文献講読	テキスト輪読
第21回	文献講読	テキスト輪読

第22回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第23回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第24回	文献講読	テキスト輪読
第25回	文献講読	テキスト輪読
第26回	文献講読	テキスト輪読
第27回	発表、文献講読	発表（個人テーマの進捗状況の紹介）、テキスト輪読
第28回	総合討論	年間の研究活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
- ・各自に割り当てた基本テキストの担当箇所について、可能な限り調べ、発表の準備をする。

- ・各自テーマを決め、最終レポート執筆のために文献を収集する。

- ・最終レポートを執筆する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、発表内容）70%

最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

最終レポート、研究会修了論文に関して、個別に面談指導する時間を早くから設ける。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the relation between a place of scenic beauty and literature.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term paper (30%), in-class contribution(70%).

ART400HA (芸術学 / Art studies 400)

研究会A

平野井 ちえ子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。

【到達目標】

1. 地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解することです。
2. 基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつことが必要です。
3. 文化というソフトウェアから地域を考える姿勢が大切です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行います。春学期後半には、参加者各自に舞台芸術鑑賞レポートの作成と発表を求めます。秋学期の前半は、文化政策とそのケーススタディの基本書を輪読します。秋学期後半には、「劇場」について講義・ディスカッションを行い、劇場レポートの作成と発表を求めます。各回のゼミでの指導のほか、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 能・狂言(講義・討論)	1年間の流れを概説します。また、春学期の舞台芸術鑑賞レポートについて説明します。能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視聴覚効果の特徴などを講義します。映像資料について意見交換します。
第2回	歌舞伎(講義・討論)	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」「世話物」「所作物」について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第3回	文楽(講義・討論)	文楽と歌舞伎を対照的に考察します。映像資料について意見交換します。
第4回	伝統芸能のまとめ	伝統芸能各ジャンルの関連性について学びます。話芸にも言及します。
第5回	最新舞台情報・舞台芸術鑑賞レポート作成指導	舞台芸術情報の探し方を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第6回	現代演劇1：翻訳劇の導入から日本の現代劇へ(講義・討論)	日本の現代劇に影響を与えた海外の劇作家・作品について講義を行います。映像資料について意見交換します。

第7回	現代演劇2：前衛劇・パフォーマンス(講義・討論)	土方巽を初めとする「舞踏」というジャンルについて講義を行います。映像資料について意見交換します。
第8回	現代演劇3：同時代の日本演劇(講義・討論)	現代日本の劇作家・演出家・演者について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第9回	現代演劇4：同時代の日本演劇(講義・討論)	現代演劇のワークショップについて講義を行います。映像資料について意見交換します。
第10回	民俗芸能(講義・討論)	日本の民俗芸能について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第11回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(1)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第12回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(2)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第13回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(3)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第14回	春学期の総括	春学期に学んだことを振り返り、ディスカッションを行います。
第15回	秋学期オリエンテーション	課題書2冊を紹介し『文化政策の展開』各章の担当者を決めます。夏期休暇中に鑑賞した芸術作品について報告していただきます。
第16回	文献講読・討論(『文化政策の展開』1)	3. 公立文化施設
第17回	文献講読・討論(『文化政策の展開』2)	4. 文化経済学
第18回	文献輪読・討論(『文化政策の展開』3)	5. 文化政策飛躍の時代—1990年代以降
第19回	最新舞台情報・劇場レポート作成指導	6. アーツ・マネジメント
第20回	文献輪読・討論(『文化政策の展開』4)	7. 多様化する事業主体
第21回	劇場レポート発表準備	8. 多様化する芸術表現
第22回	文献講義・討論(『劇場空間の源流』1)	劇場レポートの着眼点を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第23回	文献講義・討論(『劇場空間の源流』2)	9. アートフェスティバル
第24回	文献講義・討論(『劇場空間の源流』3)	10. 場の記憶にこだわるアート
第25回	劇場レポート発表・討論(1)	劇場レポートのテーマ・構想について、各自のアイデアを交換しディスカッションを行います。
第26回	劇場レポート発表・討論(2)	第1章「生成する劇場空間」
第27回	劇場レポート発表・討論(3)	第2章「祭りから歌舞伎小屋へ」
第28回	総括	第3章「リアルからメタフィジカルへ」

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料・URL等を使用して予習・復習を行ってください。

舞台芸術鑑賞レポート・劇場レポート・文献輪読の予習(発表者はスライドの準備)が重要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

野田邦弘(2014)『文化政策の展開』学芸出版社

本杉省三（2015）『劇場空間の源流』鹿島出版会

【参考書】

青山昌文（2015）『舞台芸術への招待』放送大学教育振興会
大笹吉雄（1999）『劇場が演じた劇』教育出版株式会社
舞台芸術財団演劇人会議（2005）『シンポジウム・劇場芸術の地平』
舞台芸術財団演劇人会議

【成績評価の方法と基準】

【平常点】 50%

参加態度、口頭発表（テキスト輪読分担・舞台芸術鑑賞レポート・
劇場レポート）

【期末レポート】 50%

春学期は、舞台芸術鑑賞レポート

秋学期は、劇場レポート

【学生の意見等からの気づき】

好評です。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランス
よく論じ合う交流の場としていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室で行います。Zoomによるオンラインゼミ
の回もあります。Zoomでも頻繁に動画共有を行うので、使用機器
(PC利用のこと)とネットワークの安定性を事前に御確認ください。

【Outline (in English)】

We will discuss regional theatres and performing arts referring to the current Japanese situation of cultural policy and art management. Our goals include understanding cultures(mainly performing arts) specific in each local area and pursuing a subject each student will decide to specialize in. Before each class, you will be expected to have finished reading assignment(s). Presenters must prepare relevant slides to show your ideas. Your study time will be four hours for a class. Grading will be decided based on active participation(50%) and term papers(50%).

EVN400HA (その他の環境学 / Others 400)

研究会A

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人学生が、各自の社会体験などを基本にして関心を有する研究テーマを決め、それについて卒業論文を書くことを目指します。

【到達目標】

4年生に卒業論文を書くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各人が定めた研究テーマに従って、随時、発表を行い、それについて議論します。

また、ほぼ隔週で書籍を指定します。それを読んで、期日までに書評や要旨、感想などを提出してもらいます。

課題提出後の授業、またはHoppiiにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	顔合わせ、自己紹介など
第2回	テーマ決め	何に関心があるか
第3回	テーマ決め	それは論文になりそうなテーマか
第4回	テーマ決め	どのようなデータが入手可能か
第5回	テーマ決め	研究は実行可能か
第6回	調査開始	データ収集
第7回	調査の実施	データ収集1
第8回	調査の実施	データ収集2
第9回	調査の実施	データ収集3
第10回	分析	データ解析
第11回	分析	データ解析
第12回	分析	データ解析
第13回	中間報告準備	データとりまとめ
第14回	中間報告	中間報告
第15回	テーマの確認	卒業論文が書けそうか
第16回	調査の実施	データ収集4
第17回	調査の実施	データ収集5
第18回	分析	データ解析
第19回	分析	データ解析
第20回	論文執筆	目次案作成
第21回	論文執筆	目次案完成
第22回	論文執筆	本文執筆
第23回	論文執筆	本文執筆
第24回	論文執筆	ドラフト完成
第25回	論文執筆	ドラフト修正
第26回	報告準備	PPT作成
第27回	報告	最終報告
第28回	論文提出	論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4年生は卒業研究を進めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

指定された図書を読み、その2週間後の水曜日正午までにレポートを提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜、指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく自己の体験に基づいたテーマにしてください。

【担当教員による参考文献】

1. 藤倉良 (2021) 長い文章の書き方 人間環境論集, 第22巻, 第1号, pp.23-37
2. 藤倉良 (2007) 研究報告ということ, 人間環境論集, 第7巻, 第2号, pp.95-102
3. 藤倉良 (2006) 研究をするということ, 人間環境論集, 第6巻, 第2号, pp.37-48
4. 藤倉良 (2005) 論文を書くということ, 人間環境論集, 第6巻, 第1号, pp.81-87
法政大学リポジトリからダウンロード可能

【Outline (in English)】

Students who are working adults choose their research topics based on their social experiences. The goal is to complete a senior thesis. Students are expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours per class. Students will be graded based on class participation (100%).

MAN400HA (経営学 / Management 400)

研究会A

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、文献調査、現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）、そして、社会実験やフィージビリティスタディを通じて、「企業や地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法について学習していくことを目的とする。

【到達目標】

経営学や会計学の視点から、企業または地域が今後も持続的に成長していくために必要とされるビジネスやその経営手法を論理的に考えながら明らかにしつつ、その結果をわかりやすく、丁寧に説明していく能力やスキルを習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①11の研究チーム(以下参照)のうち、1チームに所属する。

- 1) 地域ビジネスチーム
- 2) 商品開発チーム
- 3) サービスマネジメントチーム
- 4) アパレルチーム
- 5) ヘルスケアチーム
- 6) グローバルビジネスチーム
- 7) エンターテインメントビジネスチーム
- 8) エネルギーマネジメントチーム
- 9) フードロスチーム
- 10) 中小企業チーム
- 11) 人材開発・育成チーム

②所属チームで研究計画書を作成する。この計画書をもとに行われる文献調査やアンケート・ヒアリング調査により、研究対象となる企業または地域のビジネスの現状と課題を明らかにしつつ、その課題への解決策も検討する。

③研究・調査の進捗状況や成果については、異なるチームとの意見交換や中間報告・最終報告を行うとともに、研究・調査レポートまたは研究会修了論文も作成する。

※研究会は原則対面で実施する。

※研究会では、各チームメンバーのさらなるレベルアップのために、大学院生や事業関係者へのプレゼンテーションを始め、学会、インゼミ、企業イベント、エコプロなどへの参加、合宿（特別ゼミ）なども実施予定である。

※課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

※大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、チームを作り、その中で各自の1年間の目標を検討し、設定する。

第2回	研究・調査やその成果報告の方法（A）	文献を用いた研究とその成果報告に関する方法を説明する。
第3回	研究・調査のテーマと方法に関する報告	各チームが行う研究・調査のテーマと方法について報告し、決定する。
第4回	研究・調査の方向性とその内容に関する検討	各チームで1年間の研究・調査の方向性とその内容を検討する。
第5回	研究・調査報告①	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第6回	研究・調査報告②	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第7回	研究・調査報告③	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第8回	研究・調査報告④	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第9回	研究・調査報告⑤	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第10回	研究・調査報告⑥	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第11回	研究・調査報告⑦	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第12回	研究・調査報告⑧	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第13回	研究・調査やその成果報告の方法（B）	アンケート調査およびヒアリング調査とその結果報告に関する方法について説明する。
第14回	研究・調査計画書の作成方法	これまでの研究・調査の成果を整理する計画書の作成方法について説明する。
第15回	研究・調査計画書の報告（中間報告）（A）	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第16回	研究・調査計画書の報告（中間報告）（B）	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第17回	研究・調査に関する映像資料の視聴	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。
第18回	製品・商品の生産・販売店の調査	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第19回	研究・調査報告⑨	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第20回	研究・調査報告⑩	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第21回	研究・調査報告⑪	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第22回	研究・調査報告⑫	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。

第23回	研究・調査報告⑬	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第24回	研究・調査報告⑭	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第25回	研究・調査報告⑮	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第26回	研究・調査報告⑯	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第27回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー（行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等）の講義とその内容に関する討論を行う。
第28回	総括－最終報告－	今年度取り組んだ研究・調査や春学期に作成した計画書（レポートあるいは（小）論文）に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。

The purpose of this seminar is to learn the method of business design for sustainable growth of the region based on literature survey, field survey, and feasibility study.

② Learning Objectives

Thought this seminar, students are able to logically discuss sustainability management system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the seminar, using the materials introduced in seminar. Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 20%
- 2) Content of the resume : 20%
- 3) Content of the research/survey presentation : 30%
- 4) Research/survey report, thesis at the end of the seminar : 30%

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書・論文内容の整理や国内外の取組事例の分析を通して、①研究・調査テーマの決定、②研究・調査の目的・視点・方法、③研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法を学習し、また、今後社会で活躍するための能力やスキルを身に付けていきます。大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。そのために、本研究会での準備学習・復習（チームミーティングなど）は必ず行ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用します。各チームは報告レジュメ（パワーポイント版）とともに、報告概要（ワード版）の作成と配布をお願いします。

【参考書】

各チームメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ①討論への参加（発言内容）（20%）
- ②報告用配布レジュメの内容（20%）
- ③報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ④研究・調査レポート、研究会修了論文（30%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生の意見や要望などを考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、ローカル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

① Course Outline

ENV400HA (環境保全学 / Environmental conservation 400)

研究会A

松本 倫明

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「地球温暖化とその周辺」

地球環境／地球温暖化対策／省エネ／エネルギー問題／エコ技術など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

【到達目標】

地球温暖化とその周辺について理解を深めます。たとえば温暖化政策や温暖化対策と称しているものが本当に正しいか、これらを検証する力を身につけることを目標とします。そのために、客観的に事実やデータにもとづいて定量的に解析し、考察する力をつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

最近の活動内容は以下の通りです。2023年度の全体テーマはゼミ内の話し合いで決めます。

「環境速報」(通年)…環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。「文献輪講」(前期)…地球温暖化に関する文献を輪講します。文献は毎年異なります。近年では、IPCC評価報告書、エネルギー白書、原子力・自然エネルギーに関する書籍、科学技術社会論(STS)の書籍、省庁発行の資料、環境白書を輪講しました。

「研究報告」(後期)…個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。「グループワーク」(逐次)…特定のテーマについてグループで研究します。近年では、環境展における企業研究、文献調査、キャンパスの放射線量調査を行いました。

「報告書」(年度末)…1年間の成果をまとめた報告書を提出します。4年生は研究会修了論文(卒論)を提出します。

必要に応じてサブゼミを火曜6限に行うことがあります。上記の他に親睦会などが行われます。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第2回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。グループワークを話し合います。
第3回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。文献輪講(前半)の議論をします。
第4回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。文献輪講の議論をします。
第5回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。文献輪講の発表準備をします。
第6回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。文献輪講を発表します。

第7回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。文献輪講の発表の振り返りをします。
第8回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。文献輪講(後半)の議論をします。
第9回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。文献輪講の議論をします。
第10回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。文献輪講の発表準備をします。
第11回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。文献輪講を発表します。
第12回	環境速報 文献輪講 グループワーク発表	環境速報と文献輪講を行います。文献輪講の発表の振り返りをします。
第13回	グループワーク発表	春学期のグループワークの成果を発表します。
第14回	まとめ	春学期のまとめをします。
第15回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。個人研究課題の選定について学びます。
第16回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワークについて話し合います。
第17回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。個人研究アイデアを検討します(2年生)。
第18回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。個人研究アイデアを検討します(3年生)。
第19回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。研究アイデアを検討します(4年生)。
第20回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワーク中間報告。
第21回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。年度末報告書と研究会修了論文の執筆方法を学びます。
第22回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。年度末報告書の執筆準備を行います。
第23回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。年度末報告書の進捗について検討します。
第24回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワーク最終報告。
第25回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。個人研究のまとめ方について学びます。
第26回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第27回	グループワーク	グループワークの全体議論を行います。
第28回	まとめ	1年間のまとめをします。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動で学外で調査を実施することがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

授業中に指示をします。

【参考書】

授業中に指示をします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加姿勢(40%)、発表と議論の姿勢(30%)、年度末報告書などの提出物(30%)にもとづき総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークを充実させます。

【学生が準備すべき機器他】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動では、学外で調査を実施することがあります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Seminar A focusing on climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about global warming and related issues.

Learning activities outside of classroom: Preparation for presentation. Group discussion and fieldwork. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Students will be comprehensively evaluated based on their participation in the seminar (40%), presentation and discussion (30%), and submissions such as the end-of-year report (30%).

HSS400HA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400)

研究会A**宮川 路子**

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が1998年から14年連続で3万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2019年には2万人を割ったが、2020年にはまた上昇に転じた。さらに、若者の自殺者数は横ばいであり、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。本講義で、学生は将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、学生は職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1年に2回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第2回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第3回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション（1）

第4回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（2）	研究発表とディスカッション（2）
第5回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（3）	研究発表とディスカッション（3）
第6回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（4）	研究発表とディスカッション（4）
第7回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（5）	研究発表とディスカッション（5）
第8回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（6）	研究発表とディスカッション（6）
第9回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（7）	研究発表とディスカッション（7）
第10回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（8）	研究発表とディスカッション（8）
第11回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（9）	研究発表とディスカッション（9）
第12回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（10）	研究発表とディスカッション（10）
第13回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（11）	研究発表とディスカッション（11）
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第15回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第16回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（12）	研究発表とディスカッション（12）
第17回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（13）	研究発表とディスカッション（13）
第18回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（14）	研究発表とディスカッション（14）
第19回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（15）	研究発表とディスカッション（15）
第20回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（16）	研究発表とディスカッション（16）
第21回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（17）	研究発表とディスカッション（17）
第22回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（18）	研究発表とディスカッション（18）

第23回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（19）	研究発表とディスカッション（19）
第24回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（20）	研究発表とディスカッション（20）
第25回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（21）	研究発表とディスカッション（21）
第26回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（22）	研究発表とディスカッション（22）
第27回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（23）	研究発表とディスカッション（23）
第28回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

Students are expected to prepare and review using the materials introduced in each presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading Policy

The overall evaluation will be based on the evaluation of the resume and the content of the presentation (50%), and the normal participation attitude (50%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価（50%）、通常の参加態度（50%）による総合評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

【その他の重要事項】

2年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース
ローカルサステイナビリティコース

【Outline (in English)】

To live a healthy life in modern society

Course outline

In today's stress-filled society, the number of people living with mental disorders is very high. Stress in the work environment is also shifting and increasing due to diversification of work patterns, overwork, and problems with work-life balance. Many people suffer from lifestyle-related diseases due to irregular lifestyles, and there are many barriers to living a physically and mentally healthy life. In addition, in the rapidly changing environment of healthcare, we are required to manage our own health by accurately selecting and choosing from a flood of information. The purpose of this lecture is to provide students with the knowledge they need to maintain their health, extend their healthy life span, and achieve longevity while working in the future.

Learning Objectives

The aim of this seminar is for all students to deepen their understanding of the research theme through active discussion by students. Students will also learn presentation skills, how to facilitate the proceedings, summarize and present their opinions, and communicate with others through group discussions.

Learning activities outside of classroom

HSS400HA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 400)

研究会A**宮川 路子**

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が1998年から14年連続で3万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2019年には2万人を割ったが、2020年にはまた上昇に転じた。さらに、若者の自殺者数は横ばいであり、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。本講義で、学生は将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、学生は職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1年に2回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第2回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第3回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション（1）

第4回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（2）	研究発表とディスカッション（2）
第5回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（3）	研究発表とディスカッション（3）
第6回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（4）	研究発表とディスカッション（4）
第7回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（5）	研究発表とディスカッション（5）
第8回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（6）	研究発表とディスカッション（6）
第9回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（7）	研究発表とディスカッション（7）
第10回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（8）	研究発表とディスカッション（8）
第11回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（9）	研究発表とディスカッション（9）
第12回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（10）	研究発表とディスカッション（10）
第13回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（11）	研究発表とディスカッション（11）
第14回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第15回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第16回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（12）	研究発表とディスカッション（12）
第17回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（13）	研究発表とディスカッション（13）
第18回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（14）	研究発表とディスカッション（14）
第19回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（15）	研究発表とディスカッション（15）
第20回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（16）	研究発表とディスカッション（16）
第21回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（17）	研究発表とディスカッション（17）
第22回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（18）	研究発表とディスカッション（18）

第23回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（19）	研究発表とディスカッション（19）
第24回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（20）	研究発表とディスカッション（20）
第25回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（21）	研究発表とディスカッション（21）
第26回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（22）	研究発表とディスカッション（22）
第27回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（23）	研究発表とディスカッション（23）
第28回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

Students are expected to prepare and review using the materials introduced in each presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading Policy

The overall evaluation will be based on the evaluation of the resume and the content of the presentation (50%), and the normal participation attitude (50%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価（50%）、通常の参加態度（50%）による総合評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

【その他の重要事項】

2年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース
ローカルサステイナビリティコース

【Outline (in English)】

To live a healthy life in modern society

Course outline

In today's stress-filled society, the number of people living with mental disorders is very high. Stress in the work environment is also shifting and increasing due to diversification of work patterns, overwork, and problems with work-life balance. Many people suffer from lifestyle-related diseases due to irregular lifestyles, and there are many barriers to living a physically and mentally healthy life. In addition, in the rapidly changing environment of healthcare, we are required to manage our own health by accurately selecting and choosing from a flood of information. The purpose of this lecture is to provide students with the knowledge they need to maintain their health, extend their healthy life span, and achieve longevity while working in the future.

Learning Objectives

The aim of this seminar is for all students to deepen their understanding of the research theme through active discussion by students. Students will also learn presentation skills, how to facilitate the proceedings, summarize and present their opinions, and communicate with others through group discussions.

Learning activities outside of classroom

ENV400HA (環境保全学 / Environmental conservation 400)

研究会A

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：人間活動と自然・社会(温暖化対策を含めて)
 本研究会では人間活動の結果として生起する社会課題について考えます。具体的にはエネルギー、廃棄物、リサイクル(物質循環)などについて考察します。千代田区で進められている温暖化対策についても研究します。これらをもとにして「人」と「環境」の関連性について幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を学びます。テーマ例としては、化石燃料の使用によるCO₂の排出と温暖化対策、プラスチックの排出と汚染対策、再生可能エネルギーの可能性と政策、などがあります。都市と地方の自治体間の連携による森林整備事業およびカーボンオフセットなども研究テーマとしています。この他、参加者が関心を強く持っている内容についてもテーマとして取り上げる予定です。

【到達目標】

様々な社会的課題について考え、その政策を模索します。具体的な目標としては次の力を身に付けることにあります。
 ・人間活動の特徴を地球システム概念とともに考察できる。
 ・エネルギーと廃棄物に関する政策について考察できる。
 ・千代田区の温暖化対策について説明できる。
 ・柔軟に考え多角的な観点から研究を遂行することができる。
 ・自分の意見を持ち説得力のある説明(プレゼンテーション)ができる。
 ・調査内容を論文としてまとめ主張することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式で進めていく予定です。連絡事項は学習支援システム上で表示します。授業では、著書、文献等の読み合わせ、あるいは様々なWeb情報に触れることにより現在の社会的課題について考察します。本研究会で必要としている基礎事項についても学習するなど、研究を遂行するための準備も行います。また、特定のテーマを定め、それに関連する内容について調査し、様々な角度から話し合いを行うことにより問題を深く掘り下げます。グループによる調査と検討のほか、個人研究も行います。これにより環境問題の特徴や性質が理解され、様々な分野の内容を結びつけながら問題解決へ向けて考えようとするセンスが養われます。

授業内でレポート課題を出題することがあります。それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間の授業計画とその打ち合わせ
第2回	導入ディスカッション (文献購読)	設定されたテーマに関する文献等の調査
第3回	導入ディスカッション (資料分析)	設定されたテーマに関する分析と検討

第4回	導入ディスカッション (討論)	設定されたテーマに関する総合討論
第5回	基礎的事項の確認 (資料収集)	基礎知識を習得するための資料収集
第6回	基礎的事項の確認 (資料の精査)	基礎知識を習得するための資料研究
第7回	基礎的事項の確認 (討論)	基礎知識を習得するための討論と質疑応答
第8回	共通テーマによる研究 と報告 (テーマ選定)	共通テーマによる調査と分析 (テーマの選定)
第9回	共通テーマによる研究 と報告 (検討)	共通テーマによる調査と分析 (分析と検討)
第10回	共通テーマによる研究 と報告 (報告)	共通テーマによる調査と分析 (報告)
第11回	グループ研究 (テーマ選定)	グループ研究による調査と分析 (調査内容の検討)
第12回	グループ研究 (検討)	グループ研究による調査と分析 (分析と検討)
第13回	グループ研究 (報告)	グループ研究による調査と分析 (発表)
第14回	個人研究 (モチベーションの整理)	学術的関心事の整理と論点の考察
第15回	個人研究 (テーマ選定)	個人研究による調査と分析 (調査内容の検討)
第16回	個人研究 (調査と分析)	個人研究による調査と分析 (調査)
第17回	個人研究 (検討)	個人研究による調査と分析 (調査内容の検討)
第18回	個人研究 (報告)	個人研究による調査と分析 (研究報告)
第19回	個人研究 (討論)	個人研究による調査と分析 (総合討論)
第20回	卒論の中間報告 (課題整理)	研究会修了論文の中間報告と質疑応答
第21回	卒論の中間報告 (報告と討論)	研究会修了論文の中間報告と討論
第22回	個人研究 (課題確認)	個人研究による調査と分析 (課題の確認)
第23回	個人研究 (論点確認)	個人研究による調査と分析 (論点の確認)
第24回	個人研究 (検討)	個人研究による調査と分析 (調査内容の検討)
第25回	個人研究 (総合討論)	個人研究による調査と分析 (総合討論)
第26回	卒論の最終報告(報告)	研究会修了論文の最終報告と質疑応答(発表)
第27回	卒論の最終報告(討論)	研究会修了論文の最終報告と質疑応答(討論)
第28回	総括	総合討論

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準としています。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。このほかグループ研究あるいは個人研究を進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。

【テキスト(教科書)】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性など100%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションのためのP Cなどは各自用意してください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Human actions and society including global warming countermeasure. In this seminar we consider environmental problems caused by a result of human actions in the earth. One of the points at issue is related to the evolution of science and technology in our society. The meaning of the “progress” for us is inquired here. Policy studies are introduced in class. In the spring semester, discussion with common themes will be mainly held for all members of this seminar. Reports from participants will be introduced in the autumn semester. Students should examine practical instances expanded in society and its influence to our living beforehand. In class, they report prepared contents including their own opinions and suggestion. Discussion will be made by all of participants. (Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have active sense to research execution. Skills of paper writing is expected to be acquired. Students will understand the features of human actions with relation to the law of nature on the earth. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

ENV400HA (環境保全学 / Environmental conservation 400)

研究会A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、地域の社会や経済との関わりを視点を中心に、国際的視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の4点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習／ゼミ宿泊とサブゼミ学習を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究1	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究2	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究4	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第7回	テーマ1：グループ研究6	発表と総括講義

第8回	テーマ2：グループ研究1	事前学習
第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第17回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第18回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第19回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってまいります。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してまいります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。

本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from local perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

SOS400HA (その他の社会科学 / Social science 400)

研究会B

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】

自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、問題解決能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかのポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際平和の追求	ガイダンス
第2回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第3回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第4回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第5回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第6回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第7回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第8回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第9回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第10回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第11回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第12回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第13回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第14回	国際平和の追求	まとめと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告者が事前に指定する文献を読み、それに基づいて十分に予習をしてこること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法』東京大学出版会、2020年。

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2023年。（旧版でも可）

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選 [第3版]』有斐閣、2021年。

繫田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

【成績評価の方法と基準】

発表：40%

議論への参加：30%

期末レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

発表に必要なPC、機器使用のための鍵等を用意すること。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

Participants will discuss international peace focusing on armed conflicts, international environmental issues, human rights etc.

Learning Objectives:

Acquire problem-solving skills by conducting research, making presentations, and discussing the themes of each student's interest.

Learning Activities Outside of Classroom:

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentations: 30%; Participation in discussions 30%; Term paper: 30%; In-class contribution: 10%

TRS400HA (観光学 / Tourism Studies 400)

研究会B

梶 裕史

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：海・離島の「文化的景観」とエコツーリズム
「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、夏休みに企画・実施する「沖縄離島ゼミ合宿」(訪問先＝八重山諸島)での調査・体験を活かして事例研究をおこなう。

【到達目標】

「環境表象論ⅠⅡ」の内容を、ゼミ合宿時の現地調査・体験によって実感的に理解すること。また、この刺激で自主的にフィールドワークを計画する意欲を高めると同時に、沖縄に限らず様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、個々の研究成果を共有できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教室で対面授業を行う予定です。「授業計画」に示すように、教室では同学年の共同作業(共同研究発表の準備)や個人研究発表とその後の質疑応答、意見交換など、グループワークが中心となり、教員によるフォードバックもその都度行われます。春学期は主として、夏休みに実施する沖縄離島ゼミ合宿の事前学習、秋学期は主として、合宿の成果をまとめる共同作業を行います。

なお、沖縄離島夏合宿は、台風襲来の場合は秋の学祭休みに延期する可能性があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	沖縄・八重山離島についてのガイダンス	合宿で訪問する地域について概観的な予備学習
第3回	導入課題の小発表(グループワーク)	竹富島を訪ねる旅を想定した自主企画(日帰り/1泊)
第4回	講義とグループワーク①	竹富島の集落景観(有形部分)の価値Ⅰ
第5回	講義とグループワーク②	伝統文化継承と「観光」の両立その経緯
第6回	講義とグループワーク③	島の針路選択の成功
第7回	講義とグループワーク④	集落景観の価値Ⅱ(無形部分)祭事・行事の意義など
第8回	講義とグループワーク⑤	「うつぐみの心」と観光文化(第2回からのまとめ)
第9回	講義とグループワーク⑥	竹富島の「循環する自然」に即した生活文化
第10回	個別小発表	現地で調べたいテーマについて/合宿のグループ分け
第11回	講義とグループワーク⑦	石垣島白保集落について 概観

第12回	講義とグループワーク⑧	白保の「サンゴ礁文化継承」の地域活動について一竹富島との共通点・相違
第13回	夏合宿の打ち合わせ①	島の方々と交流するにあたっての留意事項等
第14回	夏合宿の打ち合わせ②	各自のヒアリングの質問候補の紹介・共有のグループワーク
第15回	秋学期オリエンテーション	合宿を振り返り、その成果をまとめたポスター作成(ゼミ相談会を想定)と共同発表に向けた打ち合わせ
第16回	共同作業①(ポスター作成)	構成(コンテンツ)、見出し、解説文、写真選定等
第17回	共同作業②(ポスター作成)	小グループ毎に、前回の細部をつめる
第18回	共同作業③(ポスター完成)	ゼミ相談会のポイント打ち合わせ
第19回	共同作業④(共同プレゼンの準備)	ポスター作業の収穫をもとに、年末に発表する内容の準備を始める
第20回	共同作業⑤(共同プレゼンの準備)	前回到続いてポスター作業の収穫をもとに、年末に発表する内容の準備を始める
第21回	共同作業⑥(共同プレゼンの準備)	レジュメ完成
第22回	共同作業⑦(共同プレゼンの準備)	プレゼン予行練習
第23回	個人研究発表①(学年末論文作成の準備)	個別に合宿の成果を発表。1人20以内で1回2～3人程度。第1グループ
第24回	個人研究発表②(学年末論文作成の準備)	(例)伝統的な食文化と健康 第2グループ (例)「住」の景観と連帯感・共同規範
第25回	個人研究発表③(学年末論文作成の準備)	第3グループ (例)祭事・芸能と共同体の規範、絆
第26回	個人研究発表④(学年末論文作成の準備)	第4グループ (例)伝統を活かすツーリズムと、破壊する観光開発(レポート問題)
第27回	個別論文指導(1)	グループワークを行う中で、一人一人を呼んで教員がアドバイス
第28回	個別論文指導(2)	前回の続き

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各自、合宿の準備にあたる予備知識や現地情報の収集(主に春学期)。授業内(教室)以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文65%、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等35%。

【学生の意見等からの気づき】

・前年度は、昨年度・一昨年度が秋の学祭休講期間を利用した日程短縮秋合宿に比べて、久々にコロナ前の7泊8日フル合宿が実施できました。台風の影響を少々受けたものの、自主的にコロナ感染予防に留意しつつ感染ゼロで無事に日程を消化し、かつ現地の人々とのリアルな「対面」の交流が短時日でも出来たことは、大きな収穫になったようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・この金曜4限研究会は、梶研究会Aゼミ継続参加の新3年生が履修登録対象になります。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース、

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural landscape" of the sea and remote islands and ecotourism

Based on the concept of "cultural landscape", the possibility of ecological region formation and human formation making full use of the isolated natural and cultural assets of remote islands and beaches, Japanese eco-tourism, tourism culture, eco-museum etc. perspective While linking, we conduct case studies taking advantage of surveys and experiences at "Okinawa island seminar camp" (Yaeyama Islands) where we plan and implement during the summer vacation.

Goal

To understand the contents of "Environmental Representation Theory I II" through field surveys and experiences during the seminar camp. In addition, this stimulus will motivate you to plan fieldwork independently, and at the same time, you will be able to find a connection with your own local experience from stories in various fields, not limited to Okinawa, and share individual research results.

Work to be done outside of class

Students should collect preliminary knowledge and local information to prepare for the training camp (mainly in the spring semester). Useful information exchange between seminar students outside the class (classroom). Voluntary visits in the vicinity, etc. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Presentation content and year-end dissertation 65%, participation attitude and cooperation / contribution within the organization such as seminars 35%.

CMF400HA (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 400)

研究会B

北川 徹哉

配当年次/単位：2～4年 / 4単位
 開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5
 備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

航空、鉄道、モビリティ、船舶などの各種交通機関の施設、業務・サービスを学び、陸・海・空の交通運輸の健全で安全な運用を維持することの重責を知る。

【到達目標】

1. 陸・海・空の交通運輸の性質と経営を説明できる。
2. 空港・港湾・駅・道などの運営・管理を説明できる。
3. 陸・海・空の各種交通のサービスを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを2冊ほど選び、各自の担当部分を決めて春学期は1冊目を、秋学期は2冊目を輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み、発表する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキスト(1)の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	テキスト(2)の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第16回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第17回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第18回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第19回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第20回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第21回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第22回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第23回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第24回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第25回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第26回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第27回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第28回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。第1～28回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション (50%：議論・質疑応答の良好度、到達目標1～3への到達度)、発表 (50%：スライド・資料などの完成度や正確性、到達目標1～3への到達度) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

楽しく、じっくりと、小さなことからコツコツ勉強します。また、知識を脳裏に固定するには話すこと、話し合うことが一番です。わからないことも誰かに話すようにしましょう。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class is a seminar for learning about the operation and the business of aviation, train, vehicle and vessel traffics.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

A. to learn about the systems and policies of transportations,

B. to obtain the knowledge on the traffic facilities,

C. to study about the businesses of traffic operations.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

CMF400HA (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 400)

研究会B

ESTHER STOCKWELL

配当年次/単位：2~4年 / 4単位
 開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月2/Mon.2
 備考(履修条件等)：定員制
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

* Human Communication *

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Hosei Learning Management System (hoppii).

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第2回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第3回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication

第4回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第5回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第6回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第7回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第8回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第9回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第10回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第11回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay
第12回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper
第13回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques
第14回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第15回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication
第16回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships
第17回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships
第18回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups
第19回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups
第20回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture
第21回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication
第22回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network
第23回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication

第24回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process
第25回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第26回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第27回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第28回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class.

The first semester: Assessment will consist of in-class participation (30%), a presentation (20%), a take-home exam (20%) and learning journals (30%).

The second semester: Assessment will consist of in-class participation (20%), a presentation (30%), a take-home exam (20%) and a written assignment (30%).

Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in each class.

【参考書】

Adler, R., & Rodman, G. (2021). *Understanding Human Communication* (14th Edition). New York: Oxford.

Joseph A. DeVito (2018). *Human Communication: The Basic Course* (14th Edition). Pearson.

Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2021). *Human Communication* (7th Edition). Boston: McGraw Hill.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, writing online learning journal postings, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes.

The first semester: Assessment will consist of in-class participation (30%), a presentation (20%), a take-home exam (20%) and learning journals (30%).

The second semester: Assessment will consist of in-class participation (20%), a presentation (30%), a take-home exam (20%) and a written assignment (30%).

Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【Outline (in English)】

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

ECN400HA (経済学 / Economics 400)

研究会B

武貞 稔彦、竹本 研史

配当年次/単位：2～4年/4単位
 開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木5/Thu.5
 備考 (履修条件等)：定員制
 その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2024年度は、「多様性」と「寛容」について考えます。現代社会では、多様な他者との共生が必要です。特に日本では、少子高齢化を背景として、労働力確保のために外国人労働者の増加が期待されています。しかし一方で、移民には消極的な政策を実施しています。そのような背景の中、実際にどうすれば多様に富む寛容な持続可能な社会が可能になるのか、外国とつながりのある人々との共生を中心に考えていきます。持続可能な開発目標 (SDGs) の Goal 17 パートナーシップに直接関わる内容となります。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見をもちそれを人に伝え、(ウ) 途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像・構想できるようになることを目標とします。

特に今年度のテーマに関しては、①「多様性」、「寛容」、「多文化共生」といった概念とその来歴について理解する、②現実の生活における「共生」と個々人の関わり (関わる出来事) を抽出し再考する、③よりよい未来のために必要な「多様な社会の実現」と個人の関係のあり方について何らかの考えや価値観を持つ、ということに重点を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の方法等は、受講者の積極的な提案に基づき随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c) 参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方 (予定) について概説する。
第2回	何が「問題」か?	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。
第3回	誰にとって「問題」か?	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、誰にとって「問題」なのかについて意見交換する。
第4回	グループディスカッション課題1 (「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係総論) (1)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(1)

第5回	グループディスカッション課題1 (「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係総論) (2)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(2)
第6回	グループディスカッション課題1 (「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係総論) (3)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(3)
第7回	グループディスカッション課題2 (日本における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (1)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本における問題について意見交換する。(1)
第8回	グループディスカッション課題2 (日本における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (2)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本における問題について意見交換する。(2)
第9回	グループディスカッション課題3 (先進国における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (1)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における問題について意見交換する。(3)
第10回	グループディスカッション課題3 (先進国における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (2)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における問題について意見交換する。(4)
第11回	グループディスカッション課題4 (途上国における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (1)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(1)
第12回	グループディスカッション課題4 (途上国における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (2)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(2)
第13回	グループディスカッション課題4 (途上国における「多様性/寛容/多文化共生」と「個人」との関係) (3)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(3)
第14回	「多様性/寛容/多文化共生」とは?	春学期の学びの総括を行う。
第15回	秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第16回	「問題」を「解決する」とは? (1)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはということかについて意見交換する。(1)
第17回	「問題」を「解決する」とは? (2)	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはということかについて意見交換する。(2)
第18回	「問題」の捉え方を学ぶ	「多様性/寛容/多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」の捉え方フレーミングについて学ぶ。

第19回	グループディスカッション課題5（過去における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第20回	グループディスカッション課題5（過去における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第21回	グループディスカッション課題6（現代における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第22回	グループディスカッション課題6（現代における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第23回	グループディスカッション課題7（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第24回	グループディスカッション課題7（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第25回	グループディスカッション課題8（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第26回	グループディスカッション課題8（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。(1)
第27回	グループディスカッション課題8（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(3)	グループ発表および全体ディスカッション。フィードバックを含む。(2)
第28回	年間の学びの総括	「多様性／寛容／多文化共生」について理解できた点、できなかった点を整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

基礎文献、与えられた課題は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会での議論への貢献（70%）、期末レポート（30%）にて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを確保することと、個々人の成長の確認方法について工夫を加えたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

【実務経験のある教員による授業】

担当者のうち1名は、途上国への経済協力の実務に携わり、多様性に富む社会（たとえばインド、インドネシア、トルコ、アメリカ、ドイツ）での居住／勤務経験がある。本研究会においては、それらの経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Seminar Outline]

In 2024, we will consider "diversity" and "tolerance. In modern society, we need to coexist with diverse others. Particularly in Japan, against the backdrop of a declining birthrate and an aging population, policies are being implemented to increase the number of foreign workers in order to secure a workforce, but with a reluctance toward immigration. Against this backdrop, we will consider how we can actually create a diverse, tolerant and sustainable society, focusing on coexistence with people who have ties to foreign countries. The content will be directly related to the Goal 17 partnership of the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic idea/concept "diversity", "tolerance", and "multiculturalism" and to nurture their values and attitudes towards an effective measure to construct a sustainable society.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the lectures using the materials introduced in each lecture.

Students are required to read carefully the basic literature and the given assignments (including English texts) before attending the exercises. Read through as much as possible of the reference books introduced in the lectures. Students should have opportunities to actively gather in groups to discuss issues. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on performance in the regular session (active participation and contribution to discussions, etc.) (70%) and the final report (30%).

SOC400HA (社会学 / Sociology 400)

研究会B

櫻井 洋介

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「サステナブルキャリアを考える」

「人生100年」と言われる時代において、年功序列型の賃金や終身雇用といった旧来の日本の働き方が見直され、一人ひとりが主体的・自律的に働き方を選択していく社会に変化しつつあります。本ゼミでは、社会環境の変化を踏まえて「サステナブル (持続可能な) キャリア」を実現するために何が必要か、現代社会における働き方の特徴や諸問題について学んでいきます。

【到達目標】

「サステナブルキャリア」を実現するために必要な基礎知識や理論を学び、自らの意思でキャリアを構築、選択できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの講読を行い、その内容をもとにディスカッション形式で進行することを基本とします。また、春学期はグループ発表、秋学期は個人発表を実施してもらうことを想定しています (ゼミ生の人数等に応じて変更の可能性があります)。また、スケジュール次第では、ゲストスピーカーの招聘や校外学習も実施する可能性があります。

今年度より募集開始するゼミですので、ゼミ生の皆さんのご要望も聞きながら実施できればと思います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ生同士の自己紹介を行い、合わせて今後のゼミの進め方や年間スケジュールについて確認を行う。
第2回	サステナブルキャリアとは	サステナブルキャリアを構築するための諸要素や、キャリア論の基礎を概説する。
第3回	日本的雇用慣行の特徴と課題	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第4回	キャリア観の変遷と採用に関する現代的課題	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第5回	多様な働き方に関する諸制度と傾向の理解①	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第6回	多様な働き方に関する諸制度と傾向の理解②	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第7回	労働者の権利と労働法の基礎	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第8回	健康経営とメンタルヘルス、ワークエンゲージメント	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。

第9回	キャリア成功の指標について考える	予め指示した文献や資料等を講読の上、ディスカッションを行う。
第10回	グループ分けと発表スケジュールの決定	グループ分けと役割分担を行い、今後のグループ発表のスケジュールを決定する。
第11回	グループ研究・発表⑧	グループ発表およびディスカッションを行う。
第12回	グループ研究・発表⑨	グループ発表およびディスカッションを行う。
第13回	グループ研究・発表⑩	グループ発表およびディスカッションを行う。
第14回	まとめ	春学期の総括と秋学期の進め方についての説明を行う。
第15回	イントロダクション	秋学期の進め方の確認を行う。
第16回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える①	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第17回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える②	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第18回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える③	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第19回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える④	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第20回	特定テーマや事例を通じて「キャリア」を考える⑤	文献・資料等の講読を通して、特定のテーマや具体的事例についてディスカッションを行う。
第21回	グループ分けと発表スケジュールの決定	個人発表のスケジュールと内容を決定する。
第22回	個人発表①	個人発表およびディスカッションを行う。
第23回	個人発表②	個人発表およびディスカッションを行う。
第24回	個人発表③	個人発表およびディスカッションを行う。
第25回	個人発表④	個人発表およびディスカッションを行う。
第26回	個人発表⑤	個人発表およびディスカッションを行う。
第27回	個人発表⑥	個人発表およびディスカッションを行う。
第28回	1年間のまとめ	1年間の総括を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

取り上げるテーマについて事前にリサーチを行い、ディスカッションの中で自分の意見を述べられるように準備をお願いします。また、グループ発表や個人発表の準備等は授業外において実施していただくことになります。グループ発表および個人発表時は、必ずレジュメや資料等を用意するようにして下さい。

ゼミ生には、自身の関心のある分野を定め、自主的にリサーチを進めることを期待します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

ゼミ生の関心テーマ等に基づいて、適宜、授業の中でご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%)：ディスカッションへの参加、グループワークやゼミ活動への貢献、グループ発表や個人発表の内容等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

担当教員は実務家教員 (現役のサステナビリティコンサルタント) として、これまでの自身のキャリアから得られた知見やコンサル業を通じて培った経験等を踏まえて、授業を実施していきます。

今年度より募集開始するゼミですので、ゼミ生の皆さんと一緒に作り上げていければと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this era of "100-year life", the old Japanese working style, such as seniority-based wages and lifetime employment, is being reconsidered, and there is a transition to a society in which each person independently and autonomously chooses his or her own way of working.

In this seminar, students will learn about the characteristics and various issues of working styles in modern society and what is needed to realize a "sustainable career" in light of social changes.

【Learning Objectives】

Students will learn the basic knowledge and theories necessary to realize a "sustainable career" and to be able to develop and select a career independently.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to conduct research on the topics to be discussed in advance and be prepared to express their own opinions in the discussions.

In addition, students are required to prepare for group and individual presentations outside of class. Make sure to prepare resumes and other materials for your group and individual presentations.

Students are expected to decide on their own areas of interest and conduct research independently.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Usual performance score (100%): Participation in discussions, contribution to group work and seminar activities, and the content of group and individual presentations will be comprehensively evaluated.

HIS400HA (史学 / History 400)

研究会B

芳賀 和樹

配当年次 / 単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 / Yearly | 曜日・時限：月 5 / Mon.5

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：江戸時代の「古文書」を紐解く

この研究会の目的は、江戸時代の「古文書」を紐解き、読み方や用語の意味を実践的に学びながら、当時の人びとの暮らしや、自然資源の利用・管理について考えることです。とりあげる古文書は、親孝行を褒賞した記録、村人が日々の様子を書き留めた日記、水・山の利用をめぐる行政文書や紛争解決を訴える願書などです。

【到達目標】

本授業では、江戸時代の人びとの暮らしや、自然資源の利用・管理について学習し、①歴史用語の意味や使い方、歴史資料の読み解き方を、具体的な事例に基づいて説明できるようにすること、②自ら「問い」を立て、各自の「答え」を導き出し、多様な意見を尊重しながら建設的に議論する力を養うこと、を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に対面による演習形式で行います。課題提出後の授業においては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テーマと進め方の説明、年間計画の確認と相談、メンバーの自己紹介。
第2回	古文書の読解と発表の方法	古文書の読み解き方、発表の際のポイントを学習する。読解する古文書を分担する。
第3回	古文書の読解と発表 (1)	テーマに関連する古文書を読み解き、内容を発表し、議論する。
第4回	古文書の読解と発表 (2)	テーマに関連する古文書を読み解き、内容を発表し、議論する。
第5回	古文書の読解と発表 (3)	テーマに関連する古文書を読み解き、内容を発表し、議論する。
第6回	古文書の読解と発表 (4)	テーマに関連する古文書を読み解き、内容を発表し、議論する。
第7回	古文書の調査と収集の方法	古文書の調査と収集の方法について、具体的な事例を通じて学習する。
第8回	古文書の読解と発表 (5)	テーマに関連する古文書を読み解き、内容を発表し、議論する。
第9回	古文書の読解と発表 (6)	テーマに関連する古文書を読み解き、内容を発表し、議論する。
第10回	古文書の読解と発表 (7)	テーマに関連する古文書を読み解き、内容を発表し、議論する。
第11回	古文書の読解と発表 (8)	テーマに関連する古文書を読み解き、内容を発表し、議論する。
第12回	研究テーマを考える	研究の進め方や調査方法を学習する。研究テーマについて相談する。

第13回	研究テーマの発表 (1)	研究テーマについて発表し、議論する。
第14回	研究テーマの発表 (2)	研究テーマについて発表し、議論する。
第15回	分析結果と考察のまとめ方	分析結果と考察のまとめ方を学習する。夏休みの研究成果のまとめ方について相談する。
第16回	研究成果の中間発表 (1)	夏休みの研究成果を発表し、議論する。
第17回	研究成果の中間発表 (2)	夏休みの研究成果を発表し、議論する。
第18回	研究成果の中間発表 (3)	夏休みの研究成果を発表し、議論する。
第19回	レポート・論文のまとめ方	レポート・論文をまとめる際のポイントについて学習する。
第20回	古文書・文献の分析と議論 (1)	古文書・文献の分析を進め、議論する。
第21回	古文書・文献の分析と議論 (2)	古文書・文献の分析を進め、議論する。
第22回	古文書・文献の分析と議論 (3)	古文書・文献の分析を進め、議論する。
第23回	古文書・文献の分析と議論 (4)	古文書・文献の分析を進め、議論する。
第24回	古文書・文献の分析と議論 (5)	古文書・文献の分析を進め、議論する。
第25回	研究成果の発表 (1)	一年間の研究成果を発表し、議論する。
第26回	研究成果の発表 (2)	一年間の研究成果を発表し、議論する。
第27回	研究成果の発表 (3)	一年間の研究成果を発表し、議論する。
第28回	まとめ	一年間の研究成果を総括し、得られた知見や考えたことについて議論する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料やテーマに関連する文献・歴史資料などを参照し、準備学習と復習をしてください。自身の問題関心に意識を向け、関連する文献や歴史資料などを積極的に集め、読み解いてください。また可能な範囲で、フィールドワーク (地域の博物館や図書館などを訪れることも含む) に出掛けてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、レポート (40%)、授業内の発表 (60%) により行います。いずれも調査研究への取り組み状況、内容の充実度や独創性に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

Theme: Unraveling the "Old Documents" of the Edo Period
The purpose of this seminar is to think about the lifestyles of the people of the Edo period and the use and management of natural resources, while practically learning how to read and what terms mean through the unraveling of "old documents" of the Edo period. The documents to be discussed include records of praise for filial piety, diaries in which villagers wrote down their daily activities, administrative documents concerning the use of water and mountains, and applications appealing for the resolution of disputes.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In this course, students will learn about the lives of people in the Edo period and the use and management of natural resources. The objectives of this course are (1) to be able to explain the meaning and usage of historical terms and how to read and understand historical materials based on specific examples, and (2) to cultivate the ability to formulate their own "questions," derive their own "answers," and discuss constructively while respecting diverse opinions.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Please refer to the handouts and literature and historical materials related to the theme for preparatory study and review. Please be aware of your own interests and actively collect and read relevant literature and historical materials. Also, please go out for fieldwork (including visits to local museums, local libraries, etc.) to the extent possible. The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on reports (40%) and in-class presentations (60%). Both will be evaluated based on the state of commitment to research and study, the richness of the content, and originality.

MAN400HA (経営学 / Management 400)

研究会B

長谷川 直哉

配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このゼミでは、SDGs (持続可能な開発目標)、CSR (企業の社会的責任)、スチュワードシップコード、コーポレートガバナンスコード、ESG投資 (サステナブル投資) など企業活動の非財務情報の重要性に着目して、サステナブル社会で求められる企業像や企業価値の構成要素について学びます。

【到達目標】

証券投資理論、ESG投資の基本的知識を習得します。特定のテーマに沿って財務情報と非財務情報を使用した企業価値分析の実証的な取り組みを行ない、企業評価の基本知識とスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSRおよびBusiness Ethics (企業倫理) に関する文献の輪読を行いストックリーグに必要な知識を習得し、学外の懸賞論文に応募します。秋学期はCSR構想インターゼミナール、日経ストックリーグに参加します。ESG情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルデータに基づく論文執筆やファンドの組成を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス ゼミスケジュール	ゼミの進め方 日経STOCKリーガの取組方針と学外の懸賞論文への応募方針の確認
第2回	サステナビリティ経営に関する文献講読①	担当者による報告と討議
第3回	サステナビリティ経営に関する文献講読②	担当者による報告と討議
第4回	サステナビリティ経営に関する文献講読③	担当者による報告と討議
第5回	サステナビリティ経営に関する文献講読④	担当者による報告と討議
第6回	懸賞論文の中間報告①	論文テーマの方向性と問題意識についての報告と討議
第7回	コーポレートガバナンスに関する基本文献の講読	担当者による報告と討議
第8回	デジタルトランスフォーメーションに関する基本文献の講読	担当者による報告と討議

第9回	経営戦略論に関する基本文献の講読	担当者による報告と討議
第10回	懸賞論文の中間報告②	論文の進捗状況報告と討議
第11回	証券投資論に関する基本文献の講読①	担当者による報告と討議
第12回	証券投資論に関する基本文献の講読②	担当者による報告と討議
第13回	財務分析に関する基本文献の講読	担当者による報告と全体討議
第14回	懸賞論文の中間報告③	論文の進捗状況報告と討議
第15回	懸賞論文の最終報告	完成論文の発表と討議
第16回	日経ストックリーグ中間報告①	レポートテーマの方向性と問題意識についての報告と討議
第17回	日経ストックリーグ中間報告②	レポートテーマの確定とスクリーニングプロセスの検討
第18回	企業ヒアリング準備	ヒアリング調査項目の内容検討
第19回	日経ストックリーグ中間報告③	スクリーニング結果の報告と討議
第20回	企業ヒアリング報告①	ヒアリング結果の報告と討議
第21回	日経ストックリーグ中間報告④	ヒアリング結果を踏まえた企業評価の検討
第22回	企業ヒアリング報告②	ヒアリング結果の報告と討議
第23回	日経ストックリーグ中間報告⑤	スクリーニングプロセスと企業評価の検討
第24回	企業ヒアリング報告③	ヒアリング結果の報告と討議
第25回	日経ストックリーグ中間報告⑥	ポートフォリオ企業の決定と組入比率の検討
第26回	他大学とのインターゼミの発表準備①	発表内容の報告と討議
第27回	他大学とのインターゼミの発表準備②	発表内容の報告と討議
第28回	懸賞論文 / CSRインゼミ / 日経ストックリーグの結果報告	1年間のゼミ活動の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回のゼミで紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。統合報告書やサステナブル報告書を読み、企業のSDGs活動等に関する基礎知識を習得して下さい。企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと事業構造改革』文眞堂,2023年
 長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会, 2023年
 長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜-時代を超えた企業家の使命』文眞堂, 2021年
 Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan
 長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文眞堂, 2019年
 長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂, 2018年
 長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂, 2017年
 長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文眞堂, 2016年
 日経エコロジー編『ESG経営ケーススタディ20』日経BP社, 2017年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容

レポート（70%）

学外の懸賞論文および日経ストックリテラシーレポートの内容

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

This seminar focuses on the importance of non-financial information on corporate activities, such as SDGs (Sustainable Development Goals), CSR (Corporate Social Responsibility), stewardship code, corporate governance code, and ESG investment (sustainable investment), to learn about the corporate image required in a sustainable society and the components of corporate value.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the final report (70%) and presentation (30%).

ENV400HA (環境保全学 / Environmental conservation 400)

研究会A

高田 雅之

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、国際的視点や海外事例を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の4点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力(プレゼンテーション/レポート能力)
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力(コミュニケーション能力)
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力(論理的思考)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習/ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動/企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究1	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究2	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究4	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第7回	テーマ1：グループ研究6	発表と総括講義

第8回	テーマ2：グループ研究1	事前学習
第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第17回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第18回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第19回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってまいります。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してまいります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ(春期)及びⅡ(秋期)」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ(生態学)」(春期)と「自然環境論Ⅳ」(秋期)の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員(国家・地方)、独立行政法人(研究機関)、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。

本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from global perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

ENV400HA (環境保全学 / Environmental conservation 400)

研究会B

日原 傳

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・『論語』をめぐる様々な解釈に触れる。
- ・日本の先人が中国の古典を読むために工夫して成立した「訓読」の技法を学ぶ。

【到達目標】

- ・『論語』という書物の成り立ちについて理解する。
- ・漢文訓読の力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業形態（演習）
- ・最初の時間に『論語』というテキストおよび幾つかの主要な注釈書について解説します。以後はテキストを輪読してゆきます。
- ※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の運営方法について	基本テキスト及び関連資料の説明
第2回	文献講読	テキスト輪読
第3回	文献講読	テキスト輪読
第4回	文献講読	テキスト輪読
第5回	文献講読	テキスト輪読
第6回	文献講読	テキスト輪読
第7回	文献講読	テキスト輪読
第8回	文献講読	テキスト輪読
第9回	文献講読、発表	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第10回	文献講読	テキスト輪読
第11回	文献講読	テキスト輪読
第12回	文献講読	テキスト輪読
第13回	発表、文献講読	発表（個人テーマの進捗状況の紹介）、テキスト輪読
第14回	授業の総まとめ	研究会活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの次回読む箇所を下読みし、分からないところは辞書を引いて調べて授業に臨む。
- ・最終レポートを提出する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

授業の進行に合わせて、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・発表）70%

最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

最終レポートの構想を発表する場を早めに設ける。

【関連するコース】

全てのコース

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to read "The Analects".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term paper (30%), in-class contribution(70%).

SHS400HA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 400)

研究会B

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

テーマ：ITパスポート試験とその応用

ITパスポート試験(国家試験・経済産業省)の受験を念頭に置いて、その関連知識、技能を修得することを目的としています。またそこで得た内容の応用法について研究します。これにより、本研究会を履修している皆さんが今後進めていく研究および将来の業務に対して、これらの知見がどのように関連していて応用できるのかという点について考察します。科学技術社会のあり方を政策的観点から考察することに繋げていくことも重要な目的のひとつです。

【到達目標】

本研究会では、ITパスポート試験に関連して概ね次の力を身に付けることを目標としています。

- ・テクノロジー(コンピュータ、ネットワークなど)に関する事項が説明できる。
- ・ストラテジ(経営戦略、企業活動、業務分析など)に関する事項が説明できる。
- ・マネジメント(システム開発、運用・管理など)に関する事項が説明できる。
- ・これらの知識の応用法について考察できる。
- ・科学技術社会のあり方について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では指定した教科書を丁寧に読み進めます。テキストに掲載されている章末問題などを解くことを通して、内容の理解度を高めていきます。その際、輪講形式でポイントとなる事項について検討し合うことにします。また、学習で得た知識・技能の応用法についてグループ研究することを含めながら考察します。セキュリティ対策、AIに関する社会的受容などの問題についても重要な検討事項となります。これらを通して社会における科学技術のありかたを参加者全員による総合討論を行いながら考察する予定としています。授業内でレポート課題を出題することがあります。それが提出された後の授業などにおいていくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	年間授業計画と打ち合わせ
第2回	導入ディスカッション(概要)	情報処理技術者試験の概要
第3回	導入ディスカッション(カリキュラム)	ITパスポート試験の概要とカリキュラム研究
第4回	導入ディスカッション(参考資料検討)	ITパスポート試験の教科書研究
第5回	テクノロジー研究(基礎理論)	コンピュータ基礎、ビットとバイト、論理回路

第6回	テクノロジー研究(ハードウェア)	システム構成要素、CPUと演算、記憶装置
第7回	テクノロジー研究(ソフトウェア)	アルゴリズムとプログラミング、OSと各種アプリケーションソフト
第8回	テクノロジー研究(ネットワーク)	クライアント&サーバ、LANとインターネット、セキュリティマネジメント
第9回	演習(コンピュータ基礎関連)	演習問題による学習(コンピュータ関連事項)
第10回	演習(ネットワーク関連)	演習問題による学習(ネットワーク関連事項)
第11回	ストラテジ研究(企業関連)	企業活動と法務
第12回	ストラテジ研究(経営関連)	経営戦略と分析ツール
第13回	ストラテジ研究(技術関連)	システム戦略と応用
第14回	演習(ストラテジ関連)	演習問題による学習(企業と戦略関連事項)
第15回	マネジメント研究(システム開発)	システム開発と技術、組織管理と運用
第16回	マネジメント研究(プロジェクト管理)	プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント
第17回	演習(マネジメント関連)	演習問題による学習(運用・管理事項)
第18回	グループ研究(テーマ選定)	グループによる調査と分析(テーマ検討)
第19回	グループ研究(検討)	グループによる調査と分析(調査実施)
第20回	グループ研究(報告)	グループによる調査と分析(研究結果の発表と討論)
第21回	グループ研究(討論)	グループによる調査と分析(ディスカッション)
第22回	個人研究(テーマ選定)	個人による調査と分析(テーマ検討)
第23回	個人研究(検討)	個人による調査と分析(調査実施)
第24回	個人研究(報告)	個人による調査と分析(研究結果の発表と討論)
第25回	個人研究(討論)	個人による調査と分析(ディスカッション)
第26回	総合討論(IT応用法研究入門)	ITパスポート試験と実務への展開
第27回	総合討論(科学技術社会研究入門)	科学技術社会の考察への発展
第28回	総合討論(科学技術社会研究発展)	持続可能社会の考察への発展

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストについては授業の中で指定します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性100%によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を確実に把握してもらえるよう、授業をゆっくり進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションのためのPCなどは各自用意してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: IT Passport Examination and its application. In this seminar we learn the contents of IT Passport Examination held by Ministry of Economy, Trade and Industry. We deal with the problems of technology of IT systems, management of organizations, and strategy of corporations. Application methods for this knowledge is studied in class. One of the points at issue is related to the evolution of science and technology in society. (Learning Objectives) At the end of this class we are expected to have the knowledge of IT systems and its application. The policy of science and technology in society is considered. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

MAN400HA (経営学 / Management 400)

研究会B

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本研究会では、研究論文やリサーチペーパーの作成、ケーススタディ、ビジネスモデルの構築、量的・質的調査のための基礎的技法を学習しつつ、その成果を実践にも活かしていくことを目的とする。

【到達目標】

本研究会では、企業や自治体、その他関係機関とも連携しながら、「読む」、「書く(描く)」、「調べる」、「考える」、「つくる」、「話す(報告する)」、「計算する」、「分析・評価する」、といった能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①現在取り組んでいるテーマ、または関心のあるテーマごとにチームを作ります。

②チームごとに(またはチーム内のメンバー個人で)実施計画書を作成し、それをもとに研究・調査などを進めていきます。

③②での成果については、中間報告や最終報告を行い、またレポートも作成します。

※研究会は原則対面で実施する。

※ゼミでは、各メンバーのレベルアップのために、企業イベント、学会、インゼミ、エコプロなどへの参加も予定しています。

※課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、各自1年間の目標を検討し、設定してもらう。
第2回	研究・調査のための 諸文献の分析方法 (A)	文献(市販の教材も含む)を用いて、主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第3回	研究・調査のための 諸文献の分析方法 (B)	文献(市販の教材も含む)を用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第4回	諸文献の分析内容の 報告・議論①	文献(市販の教材も含む)の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第5回	諸文献の分析内容の 報告・議論②	文献(市販の教材も含む)の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第6回	諸文献の分析内容の 報告・議論③	文献(市販の教材も含む)の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第7回	諸文献の分析内容の 報告・議論④	文献(市販の教材も含む)の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。

第8回	研究・調査テーマの 選定・検討方法	研究・調査テーマの選定・検討方法を説明するとともに、実際にそのテーマを選定し、検討していく作業も行う。
第9回	研究・調査テーマの 分析方法	第7回までの講義内容に基づいて、第8回で選定・検討した研究・調査テーマを分析していくための方法を説明する。
第10回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論①	研究・調査テーマを分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第11回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論②	研究・調査テーマを分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第12回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論③	研究・調査テーマを分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第13回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論④	研究・調査テーマを分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第14回	小 括	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第15回	研究・調査に関する 報告会(A)	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論する。
第16回	研究・調査に関する 報告会(B)	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第17回	現地調査の方法(A)	現地調査(フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査)の方法を説明する。
第18回	現地調査の方法(B)	現地調査(フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査)のための調査票の作成方法を説明するとともに、実際に調査票の作成作業も行う。
第19回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論⑤-1	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第20回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論⑤-2	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第21回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論⑤-3	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第22回	現地の調査(A)	関係企業または関係者を対象に調査を行う。
第23回	現地の調査(B)	第22回で調査した結果を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第24回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論⑥	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマを検討し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第25回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論⑦	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマを検討し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第26回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論⑧	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマを検討し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第27回	研究・調査テーマの 分析結果の報告・議論⑨	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマを検討し、その内容を報告し、それを全員で議論する。

第28回	総括 研究・調査テーマの 検討内容の整理	これまでの報告・議論の内容を 整理し、その内容を全員に共有 していくとともに、その内容を 研究・調査計画書やそれをもと に作成されるレポートに活かし ていく方法を説明する。
------	----------------------------	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書・論文内容の整理や国内外の取組事例の分析を通して、①研究・調査テーマの決定、②研究・調査の目的・視点・方法、③研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法を学習し、また、今後社会で活躍するための能力やスキルを身に付けていきます。大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。そのために、本研究会での準備学習・復習は必ず行ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用します。各チームは報告レジュメ（パワーポイント版）とともに、報告概要（ワード版）の作成と配布をお願いします。また必要に応じて教材の試作品の紹介をお願いします。

【参考書】

各チームメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（20%）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（20%）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ・ 研究・調査レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

全てのコースが対象

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to learn the methodology for writing research papers, and basic techniques of case study, business model development, quantitative and qualitative research.

② Learning Objectives

Thought this seminar, students are able to learn how to effectively teach methods and practices of research and investigation on business administration.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the seminar, using the materials introduced in seminar. Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 20%
- 2) Content of the resume : 20%
- 3) Content of the research/survey presentation : 30%
- 4) Research/survey report : 30%

CUA400HA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400)

研究会B

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Bゼミのテーマは「文化人類学的エスノグラフィーの基礎を学び、文化を探る」です。人間と環境の関係について、文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、調査論文を作成する。

【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) フィールドワークの実践的なスキルを得る
- 4) 先行研究レビューを参考にしながら調査データを分析し、調査論文にまとめる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、先行研究を講読しながら、エスノグラフィーの入門書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自のフィールドワークの準備、調査計画を行う。フィールドワークは各自の調査計画に応じて、夏季・冬季休暇中および学期中に実施する。秋学期は、先行研究を講読し、先行研究レビューを作成しながら、フィールドワークで収集したデータの分析を調査論文としてまとめ、発表する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかのポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介とゼミのテーマ、進め方、課題についての説明、文献講読の発表担当を決める
第2回	エスノグラフィー入門 (1)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第3回	エスノグラフィー入門 (2)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第4回	エスノグラフィー入門 (3)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第5回	エスノグラフィー入門 (4)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる

第6回	エスノグラフィー入門 (5)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第7回	エスノグラフィー入門 (6)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第8回	エスノグラフィー入門 (7)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第9回	エスノグラフィー入門 (8)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第10回	エスノグラフィー入門 (9)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第11回	エスノグラフィー入門 (10)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第12回	エスノグラフィー入門 (11)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第13回	エスノグラフィー入門 (12)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第14回	前期のまとめ	前期のまとめ、各自の調査計画作成を発表、提出する。
第15回	ガイダンス	後期の進め方についての説明
第16回	調査研究の中間報告 (1)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第17回	調査研究の中間報告 (2)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第18回	調査研究の中間報告 (3)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第19回	調査研究の中間報告 (4)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第20回	エスノグラフィー分析 (1)	関連先行研究文献を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第21回	エスノグラフィー分析 (2)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第22回	エスノグラフィー分析 (3)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第23回	エスノグラフィー分析 (4)	参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する

- | | | |
|------|----------------|--|
| 第24回 | エスノグラフィー分析 (5) | 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する |
| 第25回 | エスノグラフィー分析 (6) | 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する |
| 第26回 | 研究成果の発表 (1) | 調査論文を発表し、討論する |
| 第27回 | 研究成果の発表 (2) | 調査論文を発表し、討論する |
| 第28回 | 研究成果の発表 (3) | 調査論文を発表し、討論する |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献は必ず事前に講読したうえでコメントをHoppiiに投稿し、積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にやる。調査準備とフィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。研究テーマに関連する先行研究文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを随時アップデートすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（20%）、文献感想文（20%）、文献発表（20%）、研究論文（40%）

【学生の意見等からの気づき】

現地調査を自ら計画して遂行するのは苦勞も多いですが、楽しさと達成感を得られるということを学生も感じ取ってくれているようで嬉しいです。

【学生が準備すべき機器他】

高橋ゼミでは、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て Hoppii(学習支援システム)を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

どのコースの学生でも履修可能

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This is a seminar course, which is designed to learn basic knowledge of ethnographic research methods and writing. The main goal of this seminar is to help students to develop necessary skills for research design, ethnographic fieldwork, and academic writing.

Students will be expected to proactively participate in class and to prepare for and review classwork daily. An expected weekly study time for this seminar is four hours on average. A final grade will be based on class participation (20%), weekly commentaries (20%), presentation (20%), and research paper (40%).

CUA400HA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400)

研究会A

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Aゼミのテーマは「文化人類学の視点から文化を探る」です。文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生も自ら興味のあるテーマを選択し、エスノグラフィーを用いたフィールドワークを行ながら問いを探求し、卒業論文にまとめます。

【到達目標】

- 1) 先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) 現地調査を通して、エスノグラフィーの実践的なスキルを得る
- 4) エスノグラフィックな視点と思考を磨き、普段「当たり前」として過ごされてしまう物事に埋め込まれている複雑な文化的側面に面白さを見出し、「問い」を組み立てるスキルを養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生の卒論研究テーマに関連する先行研究を講読と意見交換をしながら、エスノグラフィーと文化人類学的理論についての理解を深める。また、学生は各自で卒論研究のフィールドワークを引き続き実行すると同時に、先行研究の講読と意見交換を参考にしながら卒論研究での理論的議論の発展に努める。また、ゼミでは各自の卒論研究の経過を報告し、他学生や教員からのコメントや質問を随時卒論執筆に反映させる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介とゼミの進め方、課題についての説明。文献講読の司会担当決め。
第2回	本年度の卒論研究計画の発表（1）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第3回	本年度の卒論研究計画の発表（2）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第4回	先行研究の講読（1）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第5回	先行研究の講読（2）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第6回	先行研究の講読（3）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第7回	先行研究の講読（4）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする

第8回	先行研究の講読（5）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第9回	先行研究の講読（6）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第10回	先行研究の講読（7）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第11回	先行研究の講読（8）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第12回	先行研究の講読（9）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第13回	先行研究の講読（10）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第14回	前期のまとめ	期末課題の提出、発表。中間発表の順番決め。
第15回	卒論研究中間発表（1）	卒論研究の中間発表
第16回	卒論研究中間発表（2）	卒論研究の中間発表
第17回	卒論研究中間発表（3）	卒論研究の中間発表
第18回	卒論研究中間発表（4）	卒論研究の中間発表
第19回	先行研究の講読（11）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第20回	先行研究の講読（12）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第21回	先行研究の講読（13）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第22回	先行研究の講読（14）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第23回	先行研究の講読（15）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第24回	先行研究の講読（16）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第25回	先行研究の講読（17）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第26回	先行研究の講読（18）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第27回	卒論発表（1）	卒論提出予定者による研究成果発表
第28回	卒論発表（2）	卒論提出予定者による研究成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献は必ず読み、感想文（300字程度）を授業支援システムにアップロードし、ゼミ当日は積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にす。フィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。加えて、卒論研究に関連する先行文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを執筆する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

議論への参加とコメントペーパー（30%）、発表（20%）、課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

グループワークなども取り入れながら、今後も学生同士で意見交換できる環境を積極的にサポートしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

高橋ゼミでは、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て Hoppii(学習支援システム) を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This is a seminar course, which is designed for students to prepare for their senior theses. The main goal of this seminar is to help student to enhance their skills for research design, ethnographic fieldwork, and academic writing.

Students will be expected to proactively participate in class and to prepare for and review classwork daily. An expected weekly study time for this seminar is four hours on average. A final grade will be based on class participation and weekly commentaries (30%), presentation (20%), and research paper (50%).

PHL400HA (哲学 / Philosophy 400)

研究会 A

竹本 研史

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の問題を考察するために必要な、自由、人権、民主主義、平等、所有、他者、差別、権力、平和、労働、貧困、正義、ジェンダー、セクシュアリティといった諸概念は、これまでの長い思想的・文化的な伝統のなかで数多くの議論が積み重ねられてきた。

本研究会では、マイノリティを中心とした〈他者〉がどのように文化をつくり、逆に〈他者〉はどのように表象されてきているのか、またその他者が実際に、社会においてどのように排除されているのか、どのように社会的に包摂すべきなのか、それら以上の諸点について、ヨーロッパや近現代日本を舞台にして、人文・社会系の文献や芸術作品の分析を通じて考察することがテーマです。

各ゼミ生は、ゼミでの学習や講義、社会連携科目、自身の個人研究とフィールド調査を通じて、テキストの読解力の養成とともに、自身の専門的知見を広め見識を深めることによって、最終的には、4年生の最後にその学生にしか書けない立派な研究会修了論文を完成させることを目標としています。

【到達目標】

(1) ヨーロッパや近現代日本の思想や文学、文化、社会に関する文献の正確な読解力の定着。ならびに、「人間」「社会」「民主主義」をはじめとする諸概念それ自体が、どのような歴史的負荷を帯びているか把握すること。

(2) 個々の問題の発見、必要な情報の収集・分析、論理的な考察、成果の表現（発表や討議を通じた意見表明の方法、レポート作成を通じた論文執筆の方法）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) ヨーロッパや近現代日本の文化や社会に関する文献の輪読+個人研究発表。

(2) 学期に1回、事前学習のうえ、映画館・美術館・博物館、劇場、コンサート・ホールなどでプチ FS。

(3) ゼミ合宿(夏休みか春休み)。

(2) と (3) については、コロナ禍があげたらという条件のもとでの設定である。

学生からの質問・意見や、提出物に対しては、基本的に授業時間内およびZoomを用いた面談でフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、および各人の1年間の研究スケジュールの確認
第2回	テキストの精読 (1)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (1) (入門編)
第3回	テキストの精読 (2)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (2)
第4回	テキストの精読 (3)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (3)
第5回	テキストの精読 (4)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (4)

第6回	テキストの精読 (5)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (5)
第7回	テキストの精読 (6)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (6)
第8回	テキストの精読 (7)	文化や社会に関する基礎的文献の精読 (7)
第9回	フィールド学習準備 (1)	フィールド学習のための事前文献調査 (1)
第10回	フィールド学習準備 (2)	フィールド学習のための事前文献調査 (2)
第11回	フィールド学習準備 (3)	フィールド学習のための事前文献調査 (3)
第12回	4年生研究会修了論文中間発表 (1)	4年生を対象とした卒論中間発表 (前編)
第13回	4年生研究会修了論文中間発表 (2)	4年生を対象とした卒論中間発表 (中編)
第14回	4年生研究会修了論文中間発表 (3)	4年生を対象とした卒論中間発表 (後編)
第15回	フィールド学習発表	フィールド学習で調査した内容を発表
第16回	テキストの精読 (8)	文化や社会に関する古典の精読 (1)
第17回	テキストの精読 (9)	文化や社会に関する古典の精読 (2)
第18回	テキストの精読 (10)	文化や社会に関する古典の精読 (3)
第19回	テキストの精読 (11)	文化や社会に関する古典の精読 (4)
第20回	テキストの精読 (12)	文化や社会に関する古典の精読 (5)
第21回	テキストの精読 (13)	文化や社会に関する古典の精読 (6)
第22回	2、3年生研究構想発表 (1)	2、3年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (1)
第23回	2、3年生研究構想発表 (2)	2、3年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (2)
第24回	2、3年生研究構想発表 (3)	2、3年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (3)
第25回	4年生研究会修了論文中間発表 (1)	研究会修了論文第2章までの執筆段階において中間発表を行う (前編)
第26回	4年生研究会修了論文中間発表 (2)	研究会修了論文第2章までの執筆段階において中間発表を行う (中編)
第27回	4年生研究会修了論文中間発表 (3)	研究会修了論文第2章までの執筆段階において中間発表を行う (後編)
第28回	まとめ	1年間の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

(1) 授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、専門用語などは事前に調べておくこと。(2) 日頃からとにかく本を読むこと。映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、マンガ、スポーツなどを積極的に鑑賞、観戦すること。(3) 人文・社会科学分野の文献を数多く揃えている書店や古本屋を覗いてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業当初はプリント。後半で扱う古典については教場で指示する。

【参考書】

教場にて指示。

【成績評価の方法と基準】

(1) 2、3年生は、授業中の発表と司会 (30%)、夏・冬2回の期末レポート (45%) と3度の小レポート提出 (15%)、ゼミ運営への貢献 (10%)。

(2) 4年生は、発表と司会 (30%)、研究会論文の提出 (45%)。6月まで月1回の小レポートの提出 (15%)、ゼミ運営への貢献 (10%)。

ただし、課題を1回でも未提出の場合は単位を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

毎年どのようなテキストを取り扱うのかを教員、学生双方で議論し合いながら決定している。

【その他の重要事項】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース所属学生のみ受講が可能である。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しない。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the basic concepts and principles of democracy. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and writing research papers.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to make oral presentation and to write research papers.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process

Term-end reports (45 %)

Short reports (15 %)

Presentations & Moderations (30 %)

In-class contribution (10 %)

SOC400HA (社会学 / Sociology 400)

研究会A

佐伯 英子

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本研究会では「身体社会学」の中からジェンダーや家族、多様性に関する問題に焦点を当てて理解を深めます。

【到達目標】

1. 「身体」を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得る。
2. 各自が設定した研究テーマに沿って調査を行い、卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前期と後期でそれぞれに設定されたテーマに基づいてグループプロジェクトを行います。また、個人研究に関する発表やディスカッションの場を設けます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の概要と目標; 年間計画の確認; 自己紹介
第2回	個人研究についての発表	報告、質疑応答とディスカッション
第3回	個人研究についての発表	報告、質疑応答とディスカッション
第4回	グループプロジェクト(1)ブレインストーミング	アイデアや情報の共有、ディスカッション
第5回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第6回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第7回	グループプロジェクト(1)グループワーク	グループワークを行う
第8回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第9回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第10回	グループプロジェクト(1)発表	報告、質疑応答
第11回	グループプロジェクト(1)総括	ディスカッションとまとめ
第12回	個人研究についての発表	進捗状況とこれからの計画について報告
第13回	個人研究についての発表	進捗状況とこれからの計画について報告
第14回	春学期のまとめ	これまでの学びのふりかえり; 夏季休暇中の課題の確認; 秋学期の進め方についての説明

第15回	ガイダンス	秋学期の計画について確認; 夏季休暇中の課題に関しての報告; グループワークについてディスカッション
第16回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第17回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第18回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第19回	グループプロジェクト(2)ブレインストーミング	アイデアや情報を共有、ディスカッション
第20回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第21回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第22回	グループプロジェクト(2)グループワーク	グループワークを行う
第23回	グループプロジェクト(2)発表	報告、質疑応答
第24回	グループプロジェクト(2)総括	ディスカッションとまとめ
第25回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第26回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第27回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第28回	1年間のまとめ	今年度の学習内容と研究活動のふりかえり

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎週課題となる文献を読み、ディスカッションに備え、質問や意見を用意してきてください。また、個人研究として各自がテーマを決めて調査と発表をすることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

開講時に指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションやアクティビティでの参加・貢献度 40%; グループプロジェクト 30%; 期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションや発表の時間を増やし、学生がより主体的に参加できるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This seminar on the Sociology of the Body focuses on issues surrounding gender, families, and diversity.

【Learning Objectives】

In this seminar, students are expected to:

1. deepen their understanding of issues surrounding gender and social diversity from sociological perspectives; and
2. conduct individual research projects and complete their theses by the end of the senior year.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation 40%; Group project 30%; Term paper 30%

HUG400HA (人文地理学 / Human geography 400)

研究会A

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2024年度は「地域の経済」について調べ、考え、議論します。

【到達目標】

この研究会では「地域」や「社会」や「経済」をキーワードとして考えます。①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ（フィールドワークや資料分析）、④リサーチペーパーを作成することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマ「地域の経済」についてのグループワークとフィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（春）	研究会の進め方の説明、研究会メンバーの自己紹介、年間計画の相談をする
第2回	「学び問う」、「調べ考える」ことについて	研究を進めるにあたっての心構え、方法などについて概説する
第3回	研究テーマの検討	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第4回	研究スタート発表	グループ研究の目的、方法を発表し、議論する。
第5回	研究スタート発表	グループ研究の目的、方法を発表し、議論する。
第6回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第7回	研究スタート発表	グループ研究の目的、方法を発表し、議論する。
第8回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第9回	データ収集と分析	データを分析し、議論する
第10回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第11回	データ収集と分析	データを分析し、議論する
第12回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第13回	調査計画の報告	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する

第14回	調査計画の報告	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第15回	研究成果中間報告	卒業研究、グループ研究の成果報告
第16回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第17回	卒論中間発表	4年生の中間発表をもとに議論する。
第18回	卒論中間発表	4年生の中間発表をもとに議論する。
第19回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第20回	卒論中間発表	4年生の中間発表をもとに議論する。
第21回	卒論中間発表	4年生の中間発表をもとに議論する。
第22回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第23回	3年生の卒論構想発表	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。
第24回	3年生の卒論構想発表	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。
第25回	3年生の卒論構想発表	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。
第26回	3年生の卒論構想発表	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。
第27回	3年生の卒論構想発表	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。
第28回	年間のふりかえりとまとめ	「地域の経済」という共通テーマについて得られた知見と課題について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の5感で可能な範囲でのフィールドワークを体感してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

・適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

グループ研究（30%）、個別研究（30%）、研究会への参加姿勢（40%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の主体性を大切にしたい研究会運営をしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆Course outline

In 2024, students will investigate, think and discuss about "the economy of local".

◆Learning Objectives

In this study group, students will consider "region," "society," and "economy" as keywords. The goal of this course is for students to (1) carefully read relevant literature and books, (2) formulate their own "questions," (3) conduct independent research (fieldwork and material analysis), and (4) write a research paper.

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students are expected to actively access papers, documents, and materials related to their own problem consciousness, voluntarily collect and organize them, read them carefully, and become aware of their own originality. In addition, please try to experience fieldwork to the extent possible using your own five senses as well as literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

The evaluation will be based on the overall attitude toward group research (30 %) , individual research (30 %) , and participation in research meetings (40%) .

PHL400HA (哲学 / Philosophy 400)

研究会A

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメニティマップから考える「都市の環境倫理」：マップ作りを通じて環境倫理学と都市問題について学ぶ

【到達目標】

環境倫理学の概要を理解するとともに、倫理的な考え方を身につける。また、マップ作りを通して都市問題、住宅問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

環境倫理学、都市問題、住宅問題などに関する文献を読んで議論する。どのジャンルの本の重点的に読むかは参加学生と相談して決める。その他、アメニティマップ（魅力ある場所と問題のある場所を色分けして記したマップ）の製作と発表を行い、成果を冊子にまとめる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (1)	環境倫理学、都市問題、住宅問題の概要を説明し、講読するテキストやマップ作りの場所を決める。
2	イントロダクション (2)	環境倫理学、都市問題、住宅問題の概要を説明し、講読するテキストやマップ作りの場所を決める。
3	文献講読 (1)	テキストの講読を行う。
4	文献講読 (2)	テキストの講読を行う。
5	文献講読 (3)	テキストの講読を行う。
6	文献講読 (4)	テキストの講読を行う。
7	文献講読 (5)	テキストの講読を行う。
8	文献講読 (6)	テキストの講読を行う。
9	アメニティマップ概説	アメニティマップについて説明する。
10	アメニティマップ準備	アメニティマップ製作の準備を行う。
11	アメニティマップ製作	アメニティマップを製作する。
12	アメニティマップ製作	アメニティマップを製作する。
13	アメニティマップ発表	アメニティマップを用いて発表を行う。
14	アメニティマップ発表	アメニティマップを用いて発表を行う。
15	中間考察	テキストと地図作りから得られた知見について話し合う。
16	文献講読 (7)	テキストの講読を行う。
17	文献講読 (8)	テキストの講読を行う。

18	文献講読 (9)	テキストの講読を行う。
19	文献講読 (10)	テキストの講読を行う。
20	文献講読 (11)	テキストの講読を行う。
21	文献講読 (12)	テキストの講読を行う。
22	冊子の製作 (1)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
23	冊子の製作 (2)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
24	冊子の製作 (3)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
25	冊子の製作 (4)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
26	冊子の製作 (5)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
27	冊子の製作 (6)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
28	冊子の製作 (7)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者はテキストを読んでレジュメをつくってこること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談のうえ決定します。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【成績評価の方法と基準】

担当分のレジュメ (30%)、アメニティマップ (20%)、冊子の作成 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

This course deals with the environmental ethics, urban environment. At the end of the course, students are expected to write a paper on environmental ethics and urban environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Making a book:50%, amenity map:20%, in class contribution:30%.

ECN400HA (経済学 / Economics 400)

研究会A

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時間：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2023年度のテーマは「気候変動問題」です。気候変動問題は、温暖化だけでなく異常気象や生物多様性・エネルギー問題など幅広く関連する問題です。1つの政策が気候変動問題を解決できるわけではない。そのため、複合的な政策（ポリシーミックス）が求められる。この授業を通じて、持続可能な社会を実現するための方策を議論を深めます。

【到達目標】

本研究会では、以下の到達目標を設定しています。

- 1) 気候変動問題をめぐる議論を広い視野から捉える
- 2) 自分の意見を持ち、それを様々な方法によって人に伝える
- 3) 持続可能な社会に必要な政策の立案・構想できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、報告者が指定されたテキストの内容をプレゼンを行います。その後、受講者全員で討論を実施し内容の理解度を含まれる。また研究の方向性や残される問題点を洗い出し、卒業論文のテーマ、研究の完成度を高める。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	登録者間の自己紹介、授業の内容・進め方について概説する
第2回	基礎文献の輪読1	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第3回	基礎文献の輪読2	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第4回	基礎文献の輪読3	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第5回	基礎文献の輪読4	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第6回	基礎文献の輪読5	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第7回	グループディスカッション1-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第8回	グループディスカッション1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第9回	グループディスカッション2-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第10回	グループディスカッション2-2	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする

第11回	グループディスカッション2-3	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第12回	グループディスカッション2-4	グループ発表および全体ディスカッション
第13回	グループディスカッション3	グループ毎に課題について議論し、結論をだす
第14回	春学期の総まとめ	春学期全体のまとめとこれからの課題について
第15回	秋学期のオリエンテーション	春学期の復習と秋学期の進め方について概説する
第16回	中級文献の輪読1	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第17回	中級文献の輪読2	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第18回	中級文献の輪読3	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第19回	中級文献の輪読4	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第20回	中級文献の輪読5	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第21回	グループディスカッション4-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第22回	グループディスカッション4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第23回	グループディスカッション5-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第24回	グループディスカッション5-2	グループ発表および全体ディスカッション
第25回	グループディスカッション6-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第26回	グループディスカッション6-2	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第27回	グループディスカッション6-3	グループ発表および全体ディスカッション
第28回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。必要に応じて関連する文献を読むこと。また、与えられた課題を期限内に実施すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を用いない。

【参考書】

有村・杉野・鷲津（2022）『カーボンプライシングのフロンティア』、日本評論社。
 T.H. Arimura and S. Matsumoto ed. (2021) Carbon Pricing in Japan, Springer.
 有村（2015）『温暖化対策の新しい排出削減メカニズム』、日本評論社。
 有村・蓬田・川瀬（2012）『地球温暖化対策と国際貿易：排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析』、日本評論社。
 有村・武田（2012）『排出量取引と省エネルギーの経済分析』、日本評論社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への積極的参加や貢献など）（60%）、期末レポート（40%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者がいないため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンやタブレットなどを持参すること

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with climate change. Climate change is more than just the global warming issue. For example, extreme weather condition, biodiversity and energy issues are also associated with climate change. Since climate change is complex, there is no one policy solution. We will discuss what policies are need to achieve a sustainable society in this course. It also enhances the development of students' skill in debating and presentation.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) have a wide view on climate change, 2) understand the economic logic of climate change policies and 3) propose relevant climate change policies needed in the future.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the references. Your required study time is at least three hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, presentation 50%, in class contribution: 10%

SHS400HA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 400)

研究会A

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

持続可能な未来を展望できるようになるために、「科学技術と社会」「科学技術と人間」をメインテーマとして考察を進めます。具体的には、各自が「人間」「環境」「科学技術」から課題(問い)を設定し、文献調査・講読、プレゼンテーション、ワークショップの企画、年度末レポートの作成を行い、課題発見能力(疑う力)、論理的思考力(筋道を立てて考える力)、批判的思考力(適切にツッコむ力)の涵養を目指します。テーマは「人間」「環境」「科学技術」を軸としますが、基本的には各自の興味関心を踏まえて自由に設定できます。また、これまでに経験したことのないことにチャレンジして報告をする「チャレンジ報告会」、読書体験を共有する「リーディングセッション」など、未来に向けて実践的に経験を拡張する機会も設けます。

【到達目標】

各自が課題(問い)を設定して研究活動を進めることによって、①課題発見・分析能力、②課題完遂能力、③論理的思考力、④情報管理能力、⑤情報発信・スキルの涵養を目標とします。これらを通して、「科学技術と社会」「科学技術と人間」の問題について考察を深めることが期待されます。また、ワークショップの企画・運営によって、⑤コミュニケーション力、⑥スケジュール管理能力、⑦チームワーク力、⑧ファシリテーション力、⑨リーダーシップ力の涵養を目標とします。これらを通して、「科学技術と社会」「科学技術と人間」の問題に対処するための態度、行動を学ぶことが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自が設定した課題(問い)をもとに、インプット(文献講読、情報収集)とアウトプット(プレゼンテーション、ワークショップの企画・運営)を行います。また、他大学のゼミとの協働、社会人との対話、各自の課題(問い)に即した現場調査などのフィールドワークを実施したいと思います。授業では、提出された論点や質問について、適宜全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期イントロダクション	本授業の問題意識、テーマの概要、進め方について説明します。
第2回	プレゼンテーション①	自己紹介を兼ねたプレゼンテーションを実施してもらい、各自が扱う課題、チャレンジリスト、読書リストを検討します。
第3回	文献講読①	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第4回	文献講読②	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第5回	文献講読③	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第6回	文献講読④	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。

第7回	文献講読⑤	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第8回	リーディングセッション①	課題図書を読書体験を共有するためのワークショップを開催します。
第9回	文献講読⑥	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第10回	文献講読⑦	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第11回	プレゼンテーション②	発表者と質問者を決めて各自の課題について発表します。
第12回	プレゼンテーション③	発表者と質問者を決めて各自の課題について発表します。
第13回	プレゼンテーション④	発表者と質問者を決めて各自の課題について発表します。
第14回	チャレンジ報告会①	春学期の活動を全体的に振り返るとともに、それぞれの経験の拡張を共有するためのワークショップを開催します。
第15回	秋学期イントロダクション	本授業の問題意識、テーマの概要、進め方について確認します。また、チャレンジリスト、読書リストを検討します。
第16回	文献講読⑧	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第17回	文献講読⑨	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第18回	文献講読⑩	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を講読します。
第19回	プレゼンテーション⑤	発表者と質問者を決めて各自の課題(年度末レポートの進捗状況)について発表します。
第20回	プレゼンテーション⑥	発表者と質問者を決めて各自の課題(年度末レポートの進捗状況)について発表します。
第21回	プレゼンテーション⑦	発表者と質問者を決めて各自の課題(年度末レポートの進捗状況)について発表します。
第22回	リーディングセッション②	課題図書を読書体験を共有するためのワークショップを開催します。
第23回	プレゼンテーション⑧	発表者と質問者を決めて各自のワークショップの企画について発表します。
第24回	プレゼンテーション⑨	発表者と質問者を決めて各自のワークショップの企画について発表します。
第25回	ワークショップ①	担当を決めて各自が企画したワークショップを開催します。
第26回	ワークショップ②	担当を決めて各自が企画したワークショップを開催します。
第27回	ワークショップ③	担当を決めて各自が企画したワークショップを開催します。
第28回	チャレンジ報告会②	一年間の活動を全体的に振り返るとともに、それぞれの経験の拡張を共有するためのワークショップを開催します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

自らの興味関心を踏まえて問いを立てられるように、新聞、映画、SF小説などをもとに、「人間」「環境」「科学技術」に関心を払ってください。特に、授業で扱うテーマについては、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。また、授業で指定された文献はしっかりと熟読し、それをもとに自分でも文献(情報)調査を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

使用しません。

【参考書】

特に指定しませんが、各自の課題に即して適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加、文献調査・講読、プレゼンテーション、ワークショップの企画・運営）を80%、年度末レポートを20%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないため、特にありません。

【関連の深いコース】

人間文化コース

ローカル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

Course Outline

The main themes of the course are "Science, Technology and Society" and "Science, Technology and Human Beings" to enable students to see a sustainable future. Specifically, each student will set an issue (question) from the perspective of "human beings," "environment," and "science and technology," and conduct literature research and subscriptions, make presentations, plan workshops, and write end-of-year reports, with the aim of cultivating the ability to discover issues (the ability to question), think logically (the ability to think in a logical manner), and think critically (the ability to think appropriately). Themes will be based on "human beings," "environment," and "science and technology," but students will be free to choose their own themes based on their own interests. There will also be opportunities to expand practical experiences for the future, such as the "Challenge Debriefing Session," where students will report on challenges they have never experienced before, and the "Reading Session," where students will share their reading experiences.

Learning Objectives

Through research activities in which students set their own problems (questions), this class aims to develop (1) problem finding and analysis skills, (2) problem solving skills, (3) logical thinking skills, (4) information management skills, and (5) information transmission skills. Through these activities, students are expected to deepen their consideration of the issues of "science, technology and society" and "science, technology and human beings". By planning and running each workshop, this class also aims to cultivate (5) communication skills, (6) schedule management skills, (7) teamwork skills, (8) facilitation skills, and (9) leadership skills. Through these activities, students are expected to learn attitudes and behaviors to deal with the issues of "science, technology and society" and "science, technology and human beings".

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class contribution (80%) and final report (20%).

SHS400HA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 400)

研究会A

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

今日の環境問題解決では、NGO・NPOをはじめ市民の組織による自発的な活動や行政、企業との連携が重要となっている。本研究会では、関連する環境社会学の研究動向をレビューするとともに、各自のテーマにもとづき具体的な事例を研究する。それらを通じて、環境社会学の観点から市民の活動や行政、企業との連携について検討し、環境問題解決に向けた課題を考察するための方法を学ぶ。

【到達目標】

環境社会学の観点から、環境問題解決における市民の活動や行政、企業との連携の意義について説明できるようになる。具体的な事例の検討を通じて、それらの課題を考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前半では、関連する文献のレビューやフィールドワークを行う。後半では、各自の研究テーマにもとづき具体的なケーススタディを行う。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の授業の概要、文献レビュー、フィールドワークの進め方を示す。
第2回	プレゼンの方法	プレゼンの方法を学び、実習する。
第3回	文献レビュー①	環境社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第4回	文献レビュー②	環境ガバナンス論の文献を読み、ディスカッションする。
第5回	文献レビュー③	ごみ問題に関する文献を読み、ディスカッションする。
第6回	文献レビュー④	地球温暖化問題に関する文献を読み、ディスカッションする。
第7回	文献レビュー⑤	生物多様性問題に関する文献を読み、ディスカッションする。
第8回	文献レビュー⑥	水資源問題に関する文献を読み、ディスカッションする。
第9回	フィールドワーク①	フィールドワークのテーマを設定し、事前の情報収集をする。
第10回	フィールドワーク②	情報収集の結果を報告し、ディスカッションする。
第11回	フィールドワーク③	フィールドワーク、インタビューの方法を学び、質問項目を作成する。
第12回	フィールドワーク④	フィールドワークを実施し、活動に参加するとともに、関係者にインタビューを行う。

第13回	フィールドワーク⑤	フィールドノート、インタビューの結果をまとめ、プレゼン資料を作成する。
第14回	フィールドワーク⑥	フィールドワークの結果をプレゼンし、ディスカッションする。
第15回	オリエンテーション	秋学期の授業の概要、ケーススタディの進め方を示す。
第16回	ケーススタディ①	ケーススタディのテーマを設定し、研究の意義を検討する。
第17回	ケーススタディ②	設定したテーマにもとづき、関連する先行研究のリストを作成する。
第18回	ケーススタディ③	テーマ、先行研究のリストを報告し、ディスカッションする。
第19回	ケーススタディ④	リストのなかから主要な先行研究をレビューし、ディスカッションする。
第20回	ケーススタディ⑤	リストのなかから主要な先行研究をレビューし、ディスカッションする。
第21回	ケーススタディ⑥	リストのなかから主要な先行研究をレビューし、ディスカッションする。
第22回	ケーススタディ⑦	テーマにもとづき、事例を選定する。
第23回	ケーススタディ⑧	選定した事例の概要を報告し、ディスカッションする。
第24回	ケーススタディ⑨	選定した事例について、新聞記事や広報誌、統計資料などから情報収集をする。
第25回	ケーススタディ⑩	情報収集した結果をまとめ、プレゼン資料を作成する。
第26回	ケーススタディ⑪	ケーススタディの結果をプレゼンし、ディスカッションする。
第27回	ケーススタディ⑫	ケーススタディの結果をプレゼンし、ディスカッションする。
第28回	ケーススタディ⑬	ケーススタディの結果をプレゼンし、ディスカッションする。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

指定された文献を事前に読む。フィールドワーク、ケーススタディでは、各回の課題を行うとともに、プレゼンに向けた準備をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】

環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%) + 文献レビュー(20%) + フィールドワークの課題・プレゼン(20%) + ケーススタディの課題・プレゼン(30%)、を想定。

【学生の意見等からの気づき】

提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

Activities of civil society organizations (including NGOs and non-profit organizations) and their partnership with the government and business sector are necessary for solving contemporary environmental problems. This class will review research trends in environmental sociology and practice case studies. Students will learn how to study the activities of civil society organizations and their partnerships and identify issues for solving environmental problems from the perspective of environmental sociology.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the role of civil society organizations and their partnership with the government and business sector in solving environmental problems from the perspective of environmental sociology.
- To discuss issues based on the case studies.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Reading literature. Preparing for presentations of fieldwork and case studies. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Literature Review (20%) + Fieldwork (20%) + Case Study (30%).

SOC400HA (社会学 / Sociology 400)

研究会B

佐伯 英子

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学的視点を養いながら、実践的な社会科学の調査（質的調査）のスキルを身につけるための研究会です。

【到達目標】

- 質的調査の方法を学ぶ。
- 英語文献・論文を探し、読み、使いこなせるようになる。
- 各人のテーマに沿って研究計画書もしくは論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

調査方法に関する講義、個人プロジェクトに関する発表やディスカッション、その他のワークショップを行います。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の概要と目標; 年間計画の確認; 自己紹介
第2回	社会学の「社会の見方」; 質的調査とは何か	ジャーナリズムと社会学; 質的調査と量的調査
第3回	個人研究 ワークショップ	何を知りたいか; どのような方法で調べたいか
第4回	個人研究に使用する文献（日本語）の発表	報告、質疑応答とディスカッション
第5回	英語文献の探し方（図書）	図書館にてワークショップ
第6回	個人研究に使用する文献（英文図書）の発表	報告、質疑応答とディスカッション
第7回	英語資料の探し方（新聞、雑誌記事、学術論文）	データベースの使い方
第8回	英語論文の読み方	構成を知る; 目的に沿った読み方; 読み方のコツ
第9回	個人研究に使用する文献の発表（英語論文）	報告、質疑応答とディスカッション
第10回	半構造インタビュー、フォーカス・グループ	インタビューの依頼; 準備; 手法; ラポール
第11回	参与観察	観察の方法; フィールドノート の取り方; 整理方法
第12回	テキスト分析	雑誌、新聞、テレビ番組等の内容をどのように社会調査に使うか
第13回	質的データの分析方法	データの管理; 整理と分析; コーディング

第14回	春学期のまとめ	これまでの学びのふりかえり; 夏季休暇中の課題の確認; 秋学期の進め方についての説明
第15回	ガイダンス	秋学期の計画について確認
第16回	リサーチクエスト	問いの立て方; 先行研究とのつながり
第17回	研究計画書の書き方	内容と構成
第18回	先行研究のまとめかた	研究課題との繋げ方
第19回	先行研究のまとめについて発表	個人研究のために用意した先行研究のまとめの報告とディスカッション
第20回	調査方法のワークショップ	個人研究で使用する調査方法に関するグループワークとグループディスカッション
第21回	調査方法についての発表	個人研究で使用する調査方法について発表
第22回	アウトラインの共有	個人研究の計画書アウトラインについて発表、質疑応答
第23回	ピアレビュー	受講者同士、計画書の初稿にコメントと質問
第24回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第25回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第26回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第27回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第28回	1年間のまとめ	今年度の学習内容と研究活動のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること、課題を定められた期間内に仕上げる、文献を読み、報告やディスカッションに備えること、自主的に研究を進めることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%; 課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやディスカッションの時間を増やし、学生がより主体的に参加できるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This seminar is designed to have students obtain skills necessary for conducting qualitative social research while cultivating sociological perspectives.

【Learning Objectives】

In this seminar, students are expected to:

1. gain fundamental knowledge of how to conduct qualitative social research using interviews and participant observation; and
2. complete research proposal with extensive literature review or write a paper based on qualitative research.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 50%; Assignments 50%

HUG400HA (人文地理学 / Human geography 400)

研究会B

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、地域経済、人文地理学、歴史学、民俗学、文化人類学などの視点から興味があるテーマを調べ、考え、議論します。受講生の問題関心に合わせて「研究テーマ」を設定します。

【到達目標】

学生はテーマを決定し、それをキーワードとして考えます。①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ(フィールドワークや資料分析)、④リサーチペーパーを作成することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマについてのグループワークとフィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション(春)	研究会の進め方の説明、研究会メンバーの自己紹介、年間計画の相談をする
第2回	研究講座：マイテーマを決める	研究を進めるにあたっての心構え、方法などについて概説した後、研究会メンバーで共通テーマを決める
第3回	テーマ報告(1)	研究テーマを報告し、議論する。
第4回	テーマ報告(2)	研究テーマを報告し、議論する。
第5回	テーマ報告(3)	研究テーマを報告し、議論する。
第6回	研究講座：論文を読む・紹介する	論文紹介の方法を講義する。
第7回	基礎文献講読と報告(1)	関連する文献を読み、報告にもとづき議論する。
第8回	研究講座：読みやすいレジュメをつくる	レジュメの作り方を講義する。
第9回	基礎文献講読と報告(2)	関連する文献を読み、報告にもとづき議論する。
第10回	研究講座：研究計画を立てる	研究計画の立て方について講義する。
第11回	基礎文献講読と報告(3)	関連する文献を読み、報告にもとづき議論する。
第12回	研究講座：調査のポイントメントをとる・調査に出かける	調査の方法について講義する。
第13回	研究計画報告(1)	研究計画を報告し、議論する。
第14回	研究計画報告(2)	研究計画を報告し、議論する。
第15回	調査中間報告(1)	夏休みの調査報告をもとに、議論する。

第16回	研究講座：調査結果のまとめかた	調査結果のまとめかたについて講義する。
第17回	調査中間報告(2)	夏休みの調査報告をもとに、議論する。
第18回	調査中間報告(3)	夏休みの調査報告をもとに、議論する。
第19回	研究講座：論文構成の作り方	論文構成の作り方について講義する。
第20回	論文構成報告(1)	論文構成を報告し、議論する。
第21回	論文構成報告(2)	論文構成を報告し、議論する。
第22回	研究講座：文章を書くコツと論文のまとめ方	リサーチペーパーのまとめ方について講義する。
第23回	論文構成報告(3)	論文構成を報告し、議論する。
第24回	論文構成報告(4)	論文構成を報告し、議論する。
第25回	研究報告とディスカッション(1)	研究成果を報告し、議論する。
第26回	研究報告とディスカッション(2)	研究成果を報告し、議論する。
第27回	報告報告とディスカッション(3)	研究成果を報告し、議論する。
第28回	年間のふりかえりとまとめ	共通テーマについて得られた知見と課題について議論する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の5感で可能な範囲でフィールドワークを体感してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会への主体的と最終レポート(合計で100%)を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

オプションのワークショップなどについては、参加者と相談の上実施するか否かを決め、テーマと日程を設定します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆Course outline

Students will research, think about, and discuss topics of interest from the perspectives of regional economics, human geography, history, folklore, and cultural anthropology. The "research theme" will be set according to the students' specific interests.

◆Learning Objectives

Students decide on a theme and consider it as a keyword. Students are expected to (1) carefully read relevant literature and books, (2) formulate their own "questions," (3) conduct independent research (fieldwork and material analysis), and (4) write a research paper.

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students are expected to actively access papers, documents, and materials related to their own problem consciousness, voluntarily collect and organize them, read them carefully, and become aware of their own originality. Also, please try to experience fieldwork to the extent possible using your own five senses as well as literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

Students will be evaluated on the basis of their participation in the workshop and the final report.

PHL400HA (哲学 / Philosophy 400)

研究会 A

吉永 明弘

配当年次 / 単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 / Yearly | 曜日・時限：木3 / Thu.3

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

応用倫理学 (特に環境倫理学) のテキストを読む

【到達目標】

応用倫理学の概要を理解するとともに、倫理的な考え方を身につける。特に環境倫理学について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

応用倫理学、特に環境倫理学に関する文献をたくさん読んで議論する。どのジャンルの本の重点的に読むかは参加学生と相談して決める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面 / face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (1)	応用倫理学とその一部である環境倫理学の概要を説明し、講読するテキストを決める。
2	イントロダクション (2)	応用倫理学とその一部である環境倫理学の概要を説明し、講読するテキストを決める。
3	文献講読 (1)	テキストの講読を行う。
4	文献講読 (2)	テキストの講読を行う。
5	文献講読 (3)	テキストの講読を行う。
6	文献講読 (4)	テキストの講読を行う。
7	文献講読 (5)	テキストの講読を行う。
8	文献講読 (6)	テキストの講読を行う。
9	文献講読 (7)	テキストの講読を行う。
10	文献講読 (8)	テキストの講読を行う。
11	文献講読 (9)	テキストの講読を行う。
12	文献講読 (10)	テキストの講読を行う。
13	文献講読 (11)	テキストの講読を行う。
14	文献講読 (12)	テキストの講読を行う。
15	中間考察	テキストから得られた知見について話し合う。
16	文献講読 (13)	テキストの講読を行う。
17	文献講読 (14)	テキストの講読を行う。
18	文献講読 (15)	テキストの講読を行う。
19	文献講読 (16)	テキストの講読を行う。
20	文献講読 (17)	テキストの講読を行う。
21	文献講読 (18)	テキストの講読を行う。
22	書評の発表 (1)	各自が執筆した書評を発表する。
23	書評の発表 (2)	各自が執筆した書評を発表する。
24	書評の発表 (3)	各自が執筆した書評を発表する。
25	書評の発表 (4)	各自が執筆した書評を発表する。
26	書評の発表 (5)	各自が執筆した書評を発表する。
27	書評の発表 (6)	各自が執筆した書評を発表する。
28	書評の発表 (7)	各自が執筆した書評を発表する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

担当者はテキストを読んでレジュメをつくってこること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

参加者と相談のうえ決定します。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【成績評価の方法と基準】

担当分のレジュメ (30%)、書評の作成 (70%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course deals with the applied ethics, especially environmental ethics. At the end of the course, students are expected to

write a book review on applied ethics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following resume:30%, book review:70%

CMF400HA (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 400)

研究会B

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：定員制社会人クラス

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGsの視点から、持続可能な地域社会について考える。具体的には、SDGsの動向、新しい社会のイメージ、変革への課題について、ソーシャル・イノベーションやソーシャル・デザインといわれる新たな地域実践をみながら検討する。この授業の目的は、学生が現代文明の転換期において地域の持続可能性について理解し、さらに社会実践のデザインについて学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な地域社会に関する知識を習得する。
- ・SDGsの現状と課題について理解する。
- ・地域課題の発見、課題解決のための思考力を身につける。
- ・調査研究に関する学問的な技法を身につける
- ・ソーシャルデザインを企画する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、文献購読、現地調査も含むケーススタディ、ソーシャルデザインに関するワークショップなどを組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の方向性と具体的なプログラムについて確認する。
第2回	現代社会と地域の持続可能性に関する問題群	地域の持続可能性に関する様々な問題群をワークショップ形式で確認し、参加者の認識を共有する。
第3回	SDGsの現在	SDGsに関する基礎知識と動向について共有する。
第4回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第5回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第6回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第7回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第8回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第9回	地域の持続可能性に関する映像の視聴	地域の持続可能性に関するドキュメンタリー番組の視聴と討論を行う。
第10回	ゲストスピーカー	ゲストスピーカーの講義と討論を行う。

第11回	ローカルSDGsのケーススタディ	ローカルSDGsの実践ケースについて参加者が報告し討論を行う。
第12回	ローカルSDGsのケーススタディ	ローカルSDGsの実践ケースについて参加者が報告し討論を行う。
第13回	ローカルSDGsのケーススタディ	ローカルSDGsの実践ケースについて参加者が報告し討論を行う。
第14回	夏期フィールドスタディの検討	夏期休暇中に実施する研究会としてのフィールドスタディについて検討する。
第15回	夏期フィールドスタディの結果の検討	夏期休暇中に実施した研究会としてのフィールドスタディの結果について検討する。
第16回	ソーシャルデザインとソーシャルイノベーション	ソーシャルデザインやソーシャルイノベーションに関する基礎知識を共有する。
第17回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第18回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第19回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第20回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第21回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第22回	地域の持続可能性に関する映像の視聴	地域の持続可能性に関するドキュメンタリー番組の視聴と討論を行う。
第23回	ゲストスピーカー	ゲストスピーカーによる講義と討論を行う。
第24回	ソーシャルデザインのプレゼンテーション	参加者が考えたローカルSDGsに関するソーシャルデザインのプレゼンテーションに基づき討論を行う。
第25回	ソーシャルデザインのプレゼンテーション	参加者が考えたローカルSDGsに関するソーシャルデザインのプレゼンテーションに基づき討論を行う。
第26回	ソーシャルデザインのプレゼンテーション	参加者が考えたローカルSDGsに関するソーシャルデザインのプレゼンテーションに基づき討論を行う。
第27回	ソーシャルデザインのプレゼンテーション	参加者が考えたローカルSDGsに関するソーシャルデザインのプレゼンテーションに基づき討論を行う。
第28回	総括と展望	研究会の取り組みを振り返りつつ、ローカルSDGsの視点から、新しい社会像について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・文献および関連資料の予習
- ・課題への取り組み

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、課題への取り組み（30%）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

・社会人学生がそれぞれの人生経験や情報・意見を交換しあうことにより、RSPの趣旨が発現する知的空間になったと感じています。
・教員と社会人学生の協働による企画運営という傾向がみられ、その点はさらに前に進めていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

研究会を通して、RSP所属学生を中心として、学生のコミュニティ形成を図っていきます。

【Outline (in English)】

In this seminar, from the viewpoint of “SDGs”, we will think about the “Sustainable community”. If it says concretely, we will focus on the trend of “SDGs”, the image of new society and the agenda to change , while referring to new practices, so-called social innovation and social design. The purpose of this seminar is for students to understand local sustainability at the turning point of modern civilization and to learn about the design of social practice further.

At the end of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (1)Acquire knowledge of sustainable community.
- (2)Understand issues related to SDGs.
- (3)Acquire problem-finding and problem-solving skills.
- (4)Acquire academic skills for research.
- (5)Acquire the ability to plan social design.

Students need to prepare and review each session by using textbooks and related materials, and to work on some assignments. Preparatory and review time for this seminar are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Active class participation:70%, Assignments :30%

ECN400HA (経済学 / Economics 400)

研究会B

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考(履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2022年度のテーマは「気候変動問題」です。気候変動問題は、温暖化だけでなく異常気象や生物多様性・エネルギー問題など幅広く関連する問題です。1つの政策が気候変動問題を解決できるわけではない。そのため、複合的な政策(ポリシーミックス)が求められる。この授業を通じて、持続可能な社会を実現するための方策を議論を深めます。

【到達目標】

本研究会では、以下の到達目標を設定しています。

- 1) 気候変動問題をめぐる議論を広い視野から捉える
- 2) 自分の意見を持ち、それを様々な方法によって人に伝える
- 3) 持続可能な社会に必要な政策の立案・構想できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	登録者間の自己紹介、授業の内容・進め方について概説する
第2回	基礎文献の輪読1	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第3回	基礎文献の輪読2	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第4回	基礎文献の輪読3	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第5回	基礎文献の輪読4	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第6回	基礎文献の輪読5	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第7回	グループディスカッション1-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第8回	グループディスカッション1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第9回	グループディスカッション2-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第10回	グループディスカッション2-2	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第11回	グループディスカッション2-3	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第12回	グループディスカッション2-4	グループ発表および全体ディスカッション

第13回	グループディスカッション3	グループ毎に課題について議論し、結論をだす
第14回	春学期の総まとめ	春学期全体のまとめとこれからの課題について
第15回	秋学期のオリエンテーション	春学期の復習と秋学期の進め方について概説する
第16回	中級文献の輪読1	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第17回	中級文献の輪読2	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第18回	中級文献の輪読3	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第19回	中級文献の輪読4	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第20回	中級文献の輪読5	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第21回	グループディスカッション4-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第22回	グループディスカッション4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第23回	グループディスカッション5-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第24回	グループディスカッション5-2	グループ発表および全体ディスカッション
第25回	グループディスカッション6-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第26回	グループディスカッション6-2	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第27回	グループディスカッション6-3	グループ発表および全体ディスカッション
第28回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。必要に応じて関連する文献を読むこと。また、与えられた課題を期限内に実施すること。

【テキスト(教科書)】

特定の教科書を用いない。

【参考書】

有村・杉野・鷺津(2022)『カーボンプライシングのフロンティア』、日本評論社。

T.H. Arimura and S. Matsumoto ed. (2021) Carbon Pricing in Japan, Springer.

有村(2015)『温暖化対策の新しい排出削減メカニズム』、日本評論社。

有村・蓬田・川瀬(2012)『地球温暖化対策と国際貿易: 排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析』、日本評論社。

有村・武田(2012)『排出量取引と省エネルギーの経済分析』、日本評論社。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(40%)、報告・プレゼンテーション(50%)、授業への貢献度(議論への積極的参加や貢献など)(10%)に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生間の交流を深めることができるようにグループワークなどを積極的に増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンやタブレットなどを持参すること

【Outline (in English)】

【Course Outline】 In this course, we will focus on climate change. Climate change is more than just the global warming issue. For example, extreme weather condition, biodiversity and energy issues are also associated with climate change. Since climate change is complex, there is no one policy solution. This course deals with policies and actions needed to achieve a sustainable society. It also enhances the development of students' skill in debating, writing and presentation.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) have a wide view on climate change, 2) understand the economic logic of climate change policies and 3) propose relevant climate change policies needed.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the references. Your required study time is at least three hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, presentation 50%, in class contribution: 10%

SHS400HA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 400)

研究会B

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間と環境の共生、人間と人間の共生という理念を実現するために必要な「科学技術」と「デザイン」をメインテーマとして、社会に貢献する協働のネットワークを形成するために必要な思考力やコミュニケーション能力の涵養を目指します。具体的には、技術論・デザイン論に関する学術的文献を精読するとともに、文献講読で扱ったテーマについて、ディスカッション・対話を実施します。

【到達目標】

現代社会で技術やデザインが果たす役割について①専門的な知識を得ること、さらにその過程で、②学術文献を読むための基本的なスキルを身につけることを目標とします。また、文献講読で扱ったテーマについて、ディスカッション (あるいは対話) を行うなかで、技術やデザインが果たす役割について③批判的に思考できること、さらにその過程で、自分の考えを表現する、他者の考えを傾聴する、他者とともに考えるといった、④ディスカッションや対話のための基本的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

学術的文献の講読を基本とします。参加者は、①発表 (レジュメ作成)、②質問、③司会を担当します。また、文献講読で扱った中からテーマを設定して、ディスカッションや対話を行います (ディスカッションと対話の違いについては授業中に説明します)。ディスカッション・対話の際には、企画と司会を何人かのグループで担当してもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期イントロダクション	本授業の問題意識、テーマの概要、進め方について説明します。
第2回	ディスカッション・対話①	ディスカッション・対話を実施します。
第3回	文献講読①	文献を講読します。
第4回	文献講読②	文献を講読します。
第5回	文献講読③	文献を講読します。
第6回	文献講読④	文献を講読します。
第7回	ディスカッション・対話②	ディスカッション・対話を実施します。
第8回	文献講読⑤	文献を講読します。
第9回	文献講読⑥	文献を講読します。
第10回	文献講読⑦	文献を講読します。
第11回	文献講読⑧	文献を講読します。
第12回	ディスカッション・対話③	ディスカッション・対話を実施します。
第13回	ディスカッション・対話④	ディスカッション・対話を実施します。
第14回	春学期の振り返りとまとめ	春学期の活動を全体的に振り返るとともに、それぞれの経験を共有します。

第15回	秋学期イントロダクション	本授業の問題意識、テーマの概要、進め方について確認します。また、各自が担当する文献を検討します
第16回	ディスカッション・対話⑤	ディスカッション・対話を実施します。
第17回	文献講読⑨	文献を講読します。
第18回	文献講読⑩	文献を講読します。
第19回	文献講読⑪	文献を講読します。
第20回	文献講読⑫	文献を講読します。
第21回	ディスカッション・対話⑥	ディスカッション・対話を実施します。
第22回	文献講読⑬	文献を講読します。
第23回	文献講読⑭	文献を講読します。
第24回	文献講読⑮	文献を講読します。
第25回	文献講読⑯	文献を講読します。
第26回	ディスカッション・対話⑦	ディスカッション・対話を実施します。
第27回	ディスカッション・対話⑧	ディスカッション・対話を実施します。
第28回	1年間の振り返りとまとめ	一年間の活動を全体的に振り返るとともに、それぞれの経験を共有します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自らの興味関心を踏まえて問いを立てられるように、新聞、映画、SF小説などをもとに、世界や自分に関心を払ってください。特に、授業で扱う問いについては、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。また、授業で指定された文献はしっかりと熟読し、それをもとに自分でも文献 (情報) 調査を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しません。

【参考書】

特に指定しませんが、各自のテーマに即して適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加、文献調査・講読、プレゼンテーション、ファシリテーション) を80%、年度末レポートを20%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないため、特にありません。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【Outline (in English)】

Course Outline

The main themes of this course are "technology" and "design," which are necessary to realize the principles of symbiosis between humans and the environment, and between humans and humans. The aim of this course is to cultivate the thinking and communication skills necessary to form a collaborative network that contributes to society. Specifically, the course will include a close reading of academic literature on technology and design theory, as well as discussion and dialogue on the topics covered in the literature review. Each student will be free to set his/her own theme and will have the opportunity to collect and present information as well as to facilitate the dialogue.

Learning Objectives

The goal of this course is to (1) acquire specialized knowledge about the role that technology and design play in modern society and, in the process, (2) acquire basic skills for reading academic literature. In addition, through discussions (or dialogues) on the themes covered in the literature reading, the course aims to (3) enable students to think critically about the roles played by technology and design, and in the process, (4) develop basic skills for discussion and dialogue, such as expressing one's own ideas, listening to others' ideas, and thinking together with others.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class contribution (80%) and final report (20%).

ENV400HA (環境保全学 / Environmental conservation 400)

研究会B

高田 雅之

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考 (履修条件等)：定員制CESゼミ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

千代田区を学びの対象のひとつとしながら、都市全体を視野に入れ、以下のテーマに取り組みます。

- ①緑・水・多様な生物など都市の自然を構成している個々の要素について理解と知識を深めます。
- ②街路樹・公園・都市農業・河川や海岸など都市を構成する自然的空間の果たす役割と機能を考えます。
- ③環境教育・コミュニティ・企業活動・市民活動・景観・維持管理など人間の果たす役割について探求します。
- ④認証制度・都市計画・グリーンインフラなどこれらに関連づける仕組みやシステムから持続的な都市を提案します。

【到達目標】

本ゼミでは「緑・水・生物」の視点から人と自然にとって持続可能な都市を探求します。防災・造園・生物多様性・計画・教育など様々な分野からのアプローチを試み、多面的知識と俯瞰的な視点から都市環境を考え、その実現をイメージできる実践的な思考力 (コンサルtant力・デザイン力) を高めます。

併せて、千代田区が取り組んでいる環境マネジメントシステムであるCES (千代田エコシステム) への貢献も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①グループ研究…半期に2～3テーマ程度を設定し、グループで調査・討論・取りまとめ・プレゼンテーションを行い、「課題設定→情報収集→分析評価→伝達・発信」を通して課題への知識と理解を高めます。
- ②個人研究1…共通テーマを設定し、日替わり交代で短い発表を行い、それらを統合し俯瞰することでテーマの様相や課題を考えます。
- ③個人研究2…個々人の関心に応じた研究テーマを自由に設定して調査と意見交換を行い、到達目標に掲げた能力を高めていきます。
- ④フィールド研究…半期に数回程度、様々な取り組みの実際を学ぶ、グループで観察記録して評価する、環境教育に関わるイベントに参加する等の活動を行います。
- ⑤実践提案まとめ…これらを積み重ね、組み合わせで持続可能な都市に向けた提言を取りまとめることを通じて、俯瞰力・構想力・実践的思考力を高めていきます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	基礎学習1 (テーマ1)	テーマ1に関する基礎知識の習得
第3回	基礎学習2 (テーマ1)	テーマ1に関する基礎知識の習得
第4回	基礎学習3 (テーマ2)	テーマ2に関する基礎知識の習得

第5回	基礎学習4 (テーマ2)	テーマ2に関する基礎知識の習得
第6回	フィールド学習1	現地調査1
第7回	グループ研究1	緑地に関するグループ討議
第8回	グループ研究2	緑地に関するグループ討議・発表
第9回	グループ研究3	水辺に関するグループ討議
第10回	グループ研究4	水辺に関するグループ討議・発表
第11回	フィールド学習2	現地調査2
第12回	グループ研究5	生物に関するグループ討議
第13回	グループ研究6	生物に関するグループ討議・発表
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	グループ研究7	認証と評価に関するグループ討議
第17回	グループ研究8	認証と評価に関するグループ討議・発表
第18回	グループ研究9	計画とデザインに関するグループ討議
第19回	グループ研究10	計画とデザインに関するグループ討議・発表
第20回	フィールド学習3	現地調査3
第21回	個人研究1	テーマ検討と意見交換
第22回	個人研究2	研究構成の検討と意見交換
第23回	個人研究3	研究のブラッシュアップ
第24回	実践提案の検討	持続可能に都市に向けた提案の検討
第25回	実践提案のまとめ	持続可能に都市に向けた提案のまとめ
第26回	個人研究成果の発表1	研究結果の発表と討論1
第27回	個人研究成果の発表2	研究結果の発表と討論2
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をします。各自の研究に係る文献・資料収集、実地調査のほか、共同の活動としてゼミ時間以外に、各種イベントの準備と実施、施設見学や現地調査等を実施します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%)：活動参加、学習意欲、受講態度、グループワークや学内外のイベント活動への貢献、ゼミ運営への率先と貢献、提出物の内容と期日遵守等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ」「サイエンスカフェⅢ」「自然環境論Ⅳ」などの関連する講義科目の履修を推奨します。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員 (国家・地方)、独立行政法人 (研究機関)、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn practically the following themes mainly for Chiyoda Ward as one of the study field with a view to the entire urban area.

- ① The factors that compose urban nature, such as greenery, waterfront, and wildlife.

② The role and function of natural spaces that make up urban areas, such as street trees, parks, urban agriculture, rivers and coasts.

③ The role of human beings to urban nature, such as environmental education, activities at community, corporate activities, citizen activity, landscape creation and maintenance activities.

④ The mechanisms and systems that link urban nature, such as evaluation systems, urban planning and green infrastructure.

The goals of this class are to acquire wide/ deep knowledge and practical thinking ability of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

SHS400HA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 400)

研究会B

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考 (履修条件等)：定員制

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境保全を考えるうえで、高齢化や地域活性化など地域の抱える課題解決といかに両立するかが重要になる。本研究会では、具体的な地域の課題について、関連する研究動向をレビューするとともに、フィールドでの実践のあり方を考察する。それらを通じて、地域の実態に応じた環境保全、課題解決のあり方を提案するための視点を学ぶ。

【到達目標】

高齢化や地域活性化など、地域の抱える課題について説明できるようになる。具体的なフィールドでの課題について、地域の実態に応じた環境保全、課題解決のあり方を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前半では、関連する文献のレビュー、具体的な地域課題に関するケーススタディを行う。後半では、現地でのフィールドワークを行う。なお、本年度の地域課題、フィールドワークに関するテーマは、農業労働力の確保、援農ボランティアを予定している。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の授業の概要、文献レビュー、ケーススタディの進め方を示す。
第2回	プレゼンの方法	プレゼンの方法を学び、実習する。
第3回	文献レビュー①	地域社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第4回	文献レビュー②	地域社会学の文献を読み、ディスカッションする。
第5回	文献レビュー③	農業労働力確保に関する文献を読み、ディスカッションする。
第6回	文献レビュー④	農業労働力確保に関する文献を読み、ディスカッションする。
第7回	文献レビュー⑤	援農ボランティアに関する文献を読み、ディスカッションする。
第8回	文献レビュー⑥	援農ボランティアに関する読み、ディスカッションする。
第9回	ケーススタディ①	テーマにもとづき、事例を選定する。
第10回	ケーススタディ②	選定した事例の概要を報告し、ディスカッションする。
第11回	ケーススタディ③	選定した事例について、新聞記事や広報誌、統計資料などから情報収集をする。
第12回	ケーススタディ④	情報収集した結果をまとめ、プレゼン資料を作成する。

第13回	ケーススタディ⑤	ケーススタディの結果をプレゼンし、ディスカッションする。
第14回	ケーススタディ⑥	ケーススタディの結果をプレゼンし、ディスカッションする。
第15回	オリエンテーション	秋学期の授業の概要、フィールドワークの進め方を示す。
第16回	フィールドワーク①	フィールドワークのテーマを設定し、事前の情報収集をする。
第17回	フィールドワーク②	事前の情報収集をし、報告資料を作成する。
第18回	フィールドワーク③	情報収集の結果を報告し、ディスカッションする。
第19回	フィールドワーク④	情報収集の結果を報告し、ディスカッションする。
第20回	フィールドワーク⑤	関連する先行研究をレビューし、ディスカッションする。
第21回	フィールドワーク⑥	関連する先行研究をレビューし、ディスカッションする。
第22回	フィールドワーク⑦	フィールドワーク、インタビューの方法を学び、質問項目を作成する。
第23回	フィールドワーク⑧	フィールドワークを実施し、活動に参加するとともに、関係者にインタビューを行う。
第24回	フィールドワーク⑨	フィールドワークを実施し、活動に参加するとともに、関係者にインタビューを行う。
第25回	フィールドワーク⑩	フィールドノート、インタビューの結果をまとめ、プレゼン資料を作成する。
第26回	フィールドワーク⑪	フィールドノート、インタビューの結果をまとめ、プレゼン資料を作成する。
第27回	フィールドワーク⑫	フィールドワークの結果をプレゼンし、ディスカッションする。
第28回	フィールドワーク⑬	フィールドワークの結果をプレゼンし、ディスカッションする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された文献を事前に読む。ケーススタディ、フィールドワークでは、各回の課題を行うとともに、プレゼンに向けた準備をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

文献は、受講者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】

地域社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。山本努編、2022、『よくわかる地域社会学』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) + 文献レビュー (20%) + ケーススタディの課題・プレゼン (20%) + フィールドワークの課題・プレゼン (30%)、を想定。

【学生の意見等からの気づき】

提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。授業内容を深めるため、定期的にディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。またPCを使う回があるため、各自用意すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

In environmental conservation, it is important to consider ways to balance solutions to the issues facing local communities, such as the aging of the population and regional revitalization. This class will review research trends on specific issues in local communities and discuss the ways to practice in the field. Students will learn how to propose solutions to environmental conservation and the issues based on the local realities through case studies.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain issues facing local communities, such as the aging of the population and regional revitalization.
- To propose solutions to environmental conservation and the issues based on the local realities through case studies.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Reading literature. Preparing for presentations of fieldwork and case studies. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Literature Review (20%) + Fieldwork (20%) + Case Study (30%).

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

鷹林 貞夫

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

板橋 美也

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

杉戸 信彦

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

岡松 暁子

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文**梶 裕史**

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

北川 徹哉

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

藤田 研二郎

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

小島 聡

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

ESTHER STOCKWELL

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

武貞 稔彦

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

伊東 直美

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

永野 秀雄

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

金光 秀和

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

杉野 誠

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

長谷川 直哉

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

日原 傳

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

平野井 ちえ子

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

藤倉 良

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

松本 倫明

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

宮川 路子

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文**渡邊 誠**

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

高田 雅之

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

金藤 正直

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

竹本 研史

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

高橋 五月

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

佐伯 英子

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

湯澤 規子

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成 ①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成 ②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成 ③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

研究会修了論文

吉永 明弘

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）

③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

コース修了論文**人間環境学部教員**

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：RSP生以外

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、コース修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に依りて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②コース修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、コース修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

③Aタイプ研究会受講者は登録できない。

【Outline (in English)】

This is a course for thesis writing designed for those who do not participate in a Type A seminar.

The goal of this course is that students will be able to plan and write their theses based on their research.

The minimum requirement for the thesis is that it contains the essential components of an academic paper and the writing is well organized.

It will be evaluated based on the originality of the content.

This class is essentially a self-directed course. Students are required to follow the instructions of their seminar advisor and independently work on their research and writing.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

プログラム修了論文

人間環境学部教員

配当年次/単位：4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：RSP生のみ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人リフレッシュ・ステージ・プログラム（RSP）で入学した学生が、人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、プログラム修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラム修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

②プログラム修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、プログラム修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

③RSP以外の学生は登録できない。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for RSP program students). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organized, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR200HA (その他/Others 200)

人間環境セミナー**人間環境学部教員**

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水6/Wed.6

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の構築のためには、多様な人々の人権が尊重され、社会的な公正が守られることが必要です。本セミナーでは、ジェンダーやセクシュアリティ、多文化共生のテーマを中心に、どのような多様性に関する課題が現代日本社会に存在するのかを紹介し、実際にさまざまな立場から取り組みを行なっている方々からお話を伺います。

【到達目標】

本セミナーの目標は、学生ひとりひとりが持続可能な社会の構築における社会的公正の位置付けや、社会的多様性に関する理解を深めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは学外から講師を招いて、多様性に関する講義を実施します。受講者は質疑応答の時間に積極的に参加し、コメントシートで感想や質問を提出します。学部教員や講師からのフィードバックは翌週の授業の冒頭や学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本セミナーのねらいと概要の紹介
2	セミナー	外部講師による講義
3	セミナー	外部講師による講義
4	セミナー	外部講師による講義
5	セミナー	外部講師による講義
6	セミナー	外部講師による講義
7	セミナー	外部講師による講義
8	前半の振り返りと小テスト	学部担当教員による講義と前半の内容の理解度を測る小テストを実施します
9	セミナー	外部講師による講義
10	セミナー	外部講師による講義
11	セミナー	外部講師による講義
12	セミナー	外部講師による講義
13	セミナー	外部講師による講義
14	まとめと授業内試験	セミナーの内容の理解度を測る試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義資料などを使用して予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。学習支援システムを使って資料を配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回のコメントシート、授業態度）40%、授業内試験：60%原則として、4回以上の無断欠席があった者はD評価となります。

講義開始から10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本セミナーの詳しい内容や外部講師は、第1回の授業で説明します。各回で質問時間を設ける予定です。積極的に質問してください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

We will learn about issues surrounding social diversity lectures by guest speakers. The topics includes gender and sexuality, inequality, and identity.

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain deeper understanding of diversity and inclusive society through lectures by guest speakers.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Participation: 40%; Exams 60%

OTR200HA (その他/Others 200)

人間環境セミナー

人間環境学部教員

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土3/Sat.3

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、さまざまな健康関連の問題が山積している現代社会を健康に生きていくために必要な健康関連の情報について、各領域の専門家による講義を行う。

学生は、社会に出る前に習得しておくべき知識を身につけ、今後の自分の人生について、いかに生きていくかということを考え、問題解決法などを身につけることを目的としている。

【到達目標】

現代社会において、健康関連の情報は氾濫しているといっても過言ではない。それら膨大な情報の中から自分にとってプラスとなるものを選び出し、さらには健康行動を実行に移すことは非常に難しいと考えられる。本講義では健康関連諸問題に着目し、各分野における重要な知識、さらには必要に応じて最先端の知識を身につけ、健康に生きていくための術を学ぶ。最終的には自分や家族の健康について振り返り、考え、行動していくことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、学外から各種専門分野の講師をお招きしてさまざまなテーマについての講演を聴講します。各講師の豊かな経験、知見に触れることで、受講者の視野が広まり、行動変容を起こすことを期待しています。講義中、あるいは学習支援システムにおいて提示されるテーマについて、毎回小レポートを提出してもらいます。講義は基本的にオンデマンド形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方について。 各回の講師と講演タイトルについては4月以降、決定次第掲示します。
第2回	外部講師による講義(1)	外部講師による専門的な講義
第3回	外部講師による講義(2)	外部講師による専門的な講義
第4回	外部講師による講義(3)	外部講師による専門的な講義
第5回	外部講師による講義(4)	外部講師による専門的な講義
第6回	外部講師による講義(5)	外部講師による専門的な講義
第7回	外部講師による講義(6)	外部講師による専門的な講義
第8回	外部講師による講義(7)	外部講師による専門的な講義
第9回	外部講師による講義(8)	外部講師による専門的な講義
第10回	外部講師による講義(9)	外部講師による専門的な講義
第11回	外部講師による講義(10)	外部講師による専門的な講義

第12回 外部講師による講義(11) 外部講師による専門的な講義

第13回 外部講師による講義(12) 外部講師による専門的な講義

第14回 試験またはレポート 授業内試験またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回の資料、講義の内容を予習、復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

参考書は外部講師が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席：50%

期末のテスト・レポート：50%

なお、原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

セミナーの詳しいテーマ及び外部講師については、Hoppiiで発表します。

なお、外部講師の都合でテーマの内容が変更、および順序が変わることがあります。

【Outline (in English)】

Various health-related problems are piling up nowadays in our society.

The purpose of this lecture is to provide students the knowledge about health care in order to live healthily.

Learning Objectives

Students are expected to think about how to live a healthy life in the future and make behavioral changes. By accumulating these lessons, students will be able to prevent future diseases and extend their healthy life expectancy.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to prepare in advance for the instructor's lecture topics and to read and review the handouts after the lecture. Preparation and review should take approximately 2 hours each.

Grading Policy

Grading will be based on the following factors: Attendance 50% Tests or reports 50%

As a general rule, more than four absences will be disqualified from evaluation.

OTR200HA (その他/Others 200)

人間環境セミナー

人間環境学部教員

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水6/Wed.6

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本セミナーは、「芸術と社会」をテーマとする。

音楽、絵画、演劇等の芸術と社会がどのようにかかわってきたのかを世界史、日本史、政治、法律等の観点から概観し、芸術が社会に果たしてきた役割や、社会が芸術に与えた影響を考察する。

【到達目標】

身近にある芸術がいかにして社会に誕生し、広がり、受容され、あるいは迫害されてきたのかを知ることで、社会を形成する要素を広い視野をもって検討することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回のテーマの背景となる事柄についての講義と、そのテーマの専門家を招聘しての講義を行う。講義後には毎回、リアクションペーパーの提出が求められる。

なお、授業のスケジュール、内容、教室については、4月以降にHoppiiで周知するので、履修希望者は仮登録をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論 西洋建築と日本の国家的威信（岡松暁子）	本セミナーの趣旨と目的 治外法権の撤廃、日本の「近代化」と監獄
第2回	芸術と社会（井上登喜子）	神々の世界から市民社会へ、芸術文化から文化資源まで
第3回	ジャズと20世紀アメリカ史（八島敦子）	産業構造の変化とジャズの南北移動、ザ・ジャズ・エイジ 1920年代、大恐慌時代のジャズ、ふたつの大戦・ラジオでひろまったジャズ、ベトナム戦争とフリージャズ
第4回	社会におけるベーターヴェン像（井上登喜子）	近代に登場した「楽聖」、「第九」演奏と社会
第5回	オペラに見る愛憎と法（井上登喜子、三枝恵真）	オペラに描かれる人種・ジェンダー・社会階層を「法」で読み解く
第6回	戦争と外交とワルツ（岡松暁子）	ウィーン会議、外交交渉
第7回	武士と能楽（山中玲子）	式楽、お抱え役者
第8回	社会の中で変化する歌舞伎（向田瑞貴）	観衆の変遷、現代社会における歌舞伎興行
第9回	江戸後期の絵画と領土意識（鶴岡明美）	蝦夷地、小笠原
第10回	肖像画の変遷（金原由紀子）	肖像画の政治的役割、形式と意味
第11回	ルネサンス美術と社会（金原由紀子）	イタリア・ルネサンス、国家、パトロン
第12回	フランス近代社会と芸術（松下由里）	ヴィジュアル・メッセージ、版画、印刷物

第13回 イギリス風景画が意味するもの（荒川裕子）

国土の表象、不動産の肖像、余暇としての旅行、ターナーとコンスタブル

第14回 試験、まとめと解説

試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に示された文献や資料をきちんと読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

適宜紹介または配布される文献や資料を使用して予習・復習を行うこと。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（40%）

期末レポート（60%）

出席は期末レポートの提出のための要件であり、成績に加点はされない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業のスケジュール、内容の詳細は4月に別途周知する。

授業の内容によって教室が変わるため、事前の連絡に十分に注意すること。

講演者の日程調整が夏以降になるため、講義の演題、順番は変更になることがある。

10月23日および30日は休講とし、別途補講を行う。

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is Arts and Societies.

This course introduces interaction between Arts and Societies from the perspective of world history, Japanese history, politics and , law and so on.

Before and after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on reaction paper(40%), term-end examination(60%).

OTR200HA (その他/Others 200)

フィールドスタディ

人間環境学部教員

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムであり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～第4回	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第5回～第10回	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日後に及ぶこともある。
第11回～第13回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
第14回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。

参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。

【Outline (in English)】

This is a combination of lectures and off-campus visit for deepening knowledge and experiences related to sustainability issues in reality. Students are expected to learn sustainability issue deeply, to interrelate class-room knowledge with reality in the ground, and to strengthen their motivations to study further.

Explanations for preparatory study and evaluation criteria will be provided for each course at orientation and advance lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR200HA (その他/Others 200)

フィールドスタディ**人間環境学部教員**

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体现する教育プログラムであり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～第4回	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第5回～第10回	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日後に及ぶこともある。
第11回～第13回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
第14回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。

参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。

【Outline (in English)】

This is a combination of lectures and off-campus visit for deepening knowledge and experiences related to sustainability issues in reality. Students are expected to learn sustainability issue deeply, to interrelate class-room knowledge with reality in the ground, and to strengthen their motivations to study further.

Explanations for preparatory study and evaluation criteria will be provided for each course at orientation and advance lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA (その他/Others 400)

SCOPE Seminar

伊藤 弘太郎

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Seminar (Academic)

This seminar offers students opportunities to discuss contemporary issues and prospects associated with international relations in the Indo-Pacific region. Although it is said that information technology (IT) has made a massive amount of knowledge accessible to us, it is entirely unclear how we can effectively use it to make the world more sustainable. On the contrary, we tend to be drawn in a sea of information. This seminar encourage students to gain skills to critically analyze knowledge in the age of globalization.

【到達目標】

Upon successful completion of this course, students will be able to:

- (1) Learn critical reading skills.
- (2) Learn critical thinking skills.
- (3) Understand how ‘concepts’ are used analytically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. While we are reading the same textbook together, each student is encouraged to find news to share and discuss in class. In addition to a midterm report on what is learned from the textbook, each student is required to complete his/her final project.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Introduction to the course
Week 2	Reading academic literature (1)	Short lecture and discussion
Week 3	Reading academic literature (2)	Short lectures and discussion
Week 4	Reading academic literature (3)	Short lecture and discussion
Week 5	Reading academic literature (4)	Short lecture and discussion
Week 6	Reading academic literature (5)	Short lecture and discussion
Week 7	Reading academic literature (6)	Short lecture and discussion
Week 8	Reading academic literature (7)	Short lecture and discussion
Week 9	Reading academic literature (8)	Short lectures and discussion
Week 10	Reading academic literature (9)	Short lectures and discussion

Week 11	Reading academic literature (10)	Short lectures and discussions
Week 12	Reading academic literature (11)	Short lecture and discussion
Week 13	Reading academic literature (12)	Short lecture and discussion
Week 14	Conclusion	Reflections and final remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Textbook will be introduced in the first class.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 50%

Presentations: 20%

Final assignment: 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

No specified equipment is needed.

【その他の重要事項】

I have working experiences in the Executive and the Legislative bodies of Japan to deal with international relations, especially national security affairs. I will introduce actual examples from a practical point of view.

You can use Generation AI services but sentences produced by the generation AI cannot be copied verbatim. You can just utilize the idea.

OTR400HA (その他/Others 400)

SCOPE Seminar

竹原 正篤

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to deepen their knowledge and skills to analyze the role of business to contribute to solving various sustainability challenges, especially global issues described in the U.N. Sustainable Development Goals (SDGs). As governments alone cannot solve problems such as climate change, poverty, and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses to play more important roles. Businesses are expected to reduce negative impact across their value chains and solve various environmental and social problems with innovative management, products, and services. Through this course, students learn various efforts of global and local companies to solve challenges in the world and how they are realizing sustainable growth.

【到達目標】

Students should aim at achieving the following goals:

- (1) Learn global and local sustainability challenges and how companies are realizing their sustainable growth.
- (2) Develop logical thinking skills to set hypotheses, collect necessary information, and test the hypotheses through systematic analysis on themes which students choose.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will mainly consist of discussions and presentations by students with instructor's facilitation.

To acquire basic knowledge on global sustainability and roles of companies, students will review and present selected academic literature and various companies' sustainability/integrated reports. If students have a specific research topic, they can present their research findings in class and further discuss with seminar members.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
Week 2	Reading academic literatures 1	Review and discuss "Creating Shared Value"(1)
Week 3	Reading academic literatures 2	Review and discuss "Creating Shared Value"(2)
Week 4	Reading academic literatures 3	Review and discuss "The Wise Company" (1) Chapter 4
Week 5	Reading academic literatures 4	Review and discuss "The Wise Company" (2) Chapter 4

Week 6	Reading academic literatures 5	Review and discuss Making Sustainability Work Chapter 1
Week 7	Reading academic literatures 6	Review and discuss Making Sustainability Work Chapter 2
Week 8	Presentation on students' own research topic 1	Student presentation and discussions(1)
Week 9	Presentation on students' own research topic 2	Student presentation and discussions(2)
Week 10	Presentation on students' own research topic 3	Student presentation and discussions(3)
Week 11	Presentation on students' own research topic 4	Student presentation and discussions(4)
Week 12	Presentation on students' own research topic 5	Student presentation and discussions(5)
Week 13	Presentation on students' own research topic 6	Student presentation and discussions(6)
Week 14	Presentation on students' own research topic 7	Student presentation and discussions(7)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to attend each class fully prepared. For students' own research topics, they are required to read materials and summarize key points on a regular basis. Instructor will provide students with support regarding what literature they should read and how they effectively conduct research.

If students want to maximize their learning effectiveness, approximately 4 hours for preparation for each class is required.

【テキスト（教科書）】

The textbooks to be reviewed will be determined based on the composition of the SCOPE Seminar participants (ratio of repeated participants to first-time participants).

In the fall semester of 2024, reviewing and discussing several chapters of the following literature is planned (literature is subject to change).

*Michael E. Porter, Mark R. Kramer (2011) "Creating Shared Value" Harvard Business Review January- February 2011.

*Ikujiro Nonaka, Hirotaka Takeuchi (2019), "The Wise Company: How Companies Create Continuous Innovation" Oxford University Press

*Marc J. Epstein, Adriana Rejc Buhovac(2014) "Making Sustainability Work: Best Practices in Managing and Measuring Corporate Social, Environmental, and Economic Impacts (Second edition)"Routledge

We will also review some latest literatures, as new papers on business and sustainability are constantly published.

【参考書】

Reference will be introduced in class as appropriate.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Active participation in class discussion: 50%
- (2) Students' presentations: 30%
- (3) Student's overall progress: 20%

Details will be explained in class.

Please note if students miss four or more classes, they cannot receive credit unless they have a justifiable reason.

【学生の意見等からの気づき】

The instructor will provide students with detailed feedback on presentations for their future improvement.

【学生が準備すべき機器他】

PC or other devices are required for student presentations.

OTR400HA (その他/Others 400)

SCOPE Seminar

伊藤 弘太郎

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Seminar (Academic)

This seminar offers students opportunities to discuss contemporary issues and prospects associated with international relations in the Indo-Pacific region. Although it is said that information technology (IT) has made a massive amount of knowledge accessible to us, it is entirely unclear how we can effectively use it to make the world more sustainable. On the contrary, we tend to be drawn in a sea of information. This seminar encourage students to gain skills to critically analyze knowledge in the age of globalization.

【到達目標】

The goal of this seminar is as follows.

- (1) Learn critical reading skills.
- (2) Learn critical thinking skills.
- (3) Understand how 'concepts' are used analytically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. While we are reading the same textbook together, each student is encouraged to find news to share and discuss in class. In addition to a midterm report on what is learned from the textbook, each student is required to complete his/her final project.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Introduction to the course
Week 2	Reading academic literature (1)	Short lecture and discussion
Week 3	Reading academic literature (2)	Short lectures and discussion
Week 4	Reading academic literature (3)	Short lecture and discussion
Week 5	Reading academic literature (4)	Short lecture and discussion
Week 6	Reading academic literature (5)	Short lecture and discussion
Week 7	Reading academic literature (6)	Short lecture and discussion
Week 8	Reading academic literature (7)	Short lecture and discussion
Week 9	Reading academic literature (8)	Short lectures and discussion
Week 10	Reading academic literature (9)	Short lectures and discussion
Week 11	Reading academic literature (10)	Short lectures and discussions
Week 12	Reading academic literature (11)	Short lecture and discussion

Week 13 Reading academic literature (12) Short lecture and discussion

Week 14 Conclusion Reflections and final remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Textbook will be introduced in the first class.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 50%

Presentations: 20%

Final assignment: 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

No specified equipment is needed.

【その他の重要事項】

I can leverage my working experiences as a secretary for Member of House of the Representative and an administrative officer in the Japanese government.

OTR400HA (その他/Others 400)

SCOPE Seminar

竹原 正篤

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to acquire knowledge and skills to analyze the role of business to contribute to solving global issues described in the SDGs, U.N. Sustainable Development Goals. As governments alone cannot solve problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses to play more proactive roles. Businesses are uniquely positioned to collaborate with their stakeholders to reduce negative impact across their value chains and provide innovative solutions to challenging sustainability issues. In this seminar, participants will gain an understanding of the latest efforts that businesses are making for global sustainability, as well as deepen their understanding of the current status and challenges of corporate sustainability management.

【到達目標】

Students aim at achieving the following goals:

- (1) Learn global sustainability challenges and how companies are tackling these challenges through their businesses.
- (2) Acquire logical thinking and analytical skills to correctly analyze a company's efforts on sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, presentations by students and discussions. To acquire basic knowledge on global sustainability and roles of companies, students will review selected academic literatures and sustainability/Integrated reports issued by major global companies. The summary of those materials will be reported on by students and followed by class discussion. If students are interested in a specific industry or company, they can conduct research and share their findings with classmates.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
Week 2	Reading academic literatures 1	Review and discuss "Creating Shared Value" (1)
Week 3	Reading academic literatures 2	Review and discuss "Creating Shared Value" (2)
Week 4	Reading academic literatures 3	Review and discuss "The Wise Company"(1) Chapter 4

Week 5	Reading academic literatures 4	Review and discuss "The Wise Company"(2) Chapter 4
Week 6	Reading academic literatures 5	Review and discuss Sustainability Work (1) Chapter 1
Week 7	Reading academic literatures 6	Review and discuss Making Sustainability Work (2) Chapter 2
Week 8	Presentation on students' own research topic 1	Student presentation and discussions
Week 9	Presentation on students' own research topic 2	Student presentation and discussions
Week 10	Presentation on students' own research topic 3	Student presentation and discussions
Week 11	Presentation on students' own research topic 4	Student presentation and discussions
Week 12	Presentation on students' own research topic 5	Student presentation and discussions
Week 13	Presentation on students' own research topic 6	Student presentation and discussions
Week 14	Presentation on students' own research topic 7	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to attend each class fully prepared by reading textbooks and references. Also, students are required to complete all assignments on time. If students want to maximize learning effectiveness, approximately 2 hours each for preparation and review for each class is required.

【テキスト（教科書）】

In the 2024 Spring Semester, we will read and discuss several chapters from the books below.

Books may be changed based on students' interests.

*Michael E. Porter, Mark R. Kramer (2011) "Creating Shared Value" Harvard Business Review January-February 2011.

*Ikujiro Nonaka, Hirotaka Takeuchi (2019), "The Wise Company: How Companies Create Continuous Innovation" Oxford University Press

*Marc J. Epstein, Adriana Rejc Buhovac(2014) "Making Sustainability Work: Best Practices in Managing and Measuring Corporate Social, Environmental, and Economic Impacts (Second edition)" Routledge

The books above were used in Takehara's courses such as Business and Sustainability I&II and Business and Society.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Active participation in the class discussion: 40%
- (2) Students' in-class presentations: 40%
- (3) Final report:20%

NOTE: If students miss four or more classes, they cannot receive credit unless they have a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

Instructor will provide individual feedback on student presentations for future improvement.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

This course aims to deepen students' understanding of various business and sustainability topics through student presentations and class discussions. The language used in the class will be English. Therefore, students taking this course should understand that active class participation and sufficient English communication skills are essential.

OTR400HA (その他/Others 400)

SCOPE Seminar

王 川 菲

配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course offers an interdisciplinary examination of the global culinary system, exploring the processes and consequences of globalization through the lens of culinary cultures. It focuses on cross-border influences on foodways and transnational culinary cultures. As we are situated in Tokyo, this course pays particular attention to culinary influences entering into and from Tokyo. It is designed for students to develop an understanding of Japanese culinary culture and its associated critical issues in the context of globalization.

【到達目標】

1. Critically consider global and social issues occurring in the field of food in daily life.
2. Analyze and report the culinary issues in both oral and written forms.
3. Conduct academic discussions on the food-related topics and exchange opinions with peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course orientation	Review syllabus and ice-breaking activities
Week 2	The globalization of Japanese restaurants	Lecture on theoretical framework and concepts to understand of the globalization of Japanese restaurants
Week 3	Culinary fashions in global Japanese restaurants 1	Discuss chapter 4
Week 4	Culinary fashions in global Japanese restaurants 2	Discuss Chapter 4
Week 5	Fastfoodization of Japanese restaurants 1	Discuss Chapter 6
Week 6	Fastfoodization of Japanese restaurants 2	Discuss Chapter 6
Week 7	Global Izakaya 1	Discuss Chapter 7
Week 8	Global Izakaya 2	Discuss Chapter 7
Week 9	Global Japanese fine dining 1	Discuss Chapter 8
Week 10	Global Japanese fine dining 2	Discuss Chapter 8

Week 11	Storyboard 1	Design case research
Week 12	Storyboard 2	Carry out case research
Week 13	Storyboard 3	Analyze case research
Week 14	Final presentation	Report case research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

THE GLOBAL JAPANESE RESTAURANT: MOBILITIES, IMAGINARIES, AND POLITICS

Edited by James Farrer and David L. Wank

University of Hawaii Press

2023

【参考書】

Visual references will be provided during class sessions.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussion (20%)

Reading notes (chapters 4,6,7,8) (10 x 4 pieces) (40%)

Storyboard research and presentation (40%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

OTR400HA (その他/Others 400)

SCOPE Seminar

王 川菲

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar aims to help students complete research project on their own. Following the understanding of scientific research, research process, basic theoretical paradigms in the social sciences and research design, it introduces students to major research methodologies in social sciences, including surveys, interviews, case study, interpretive research, quantitative and qualitative analysis. Students will practice full process of doing research on the topic of their interest with step-by-step advice from the instructor.

【到達目標】

1. Know major research methodologies in social sciences
2. Use at least one research methodology to conduct a project on a specific topic
3. Practice a full process of doing a scientific research
4. Comprehensive understanding of scientific research

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will need to read assigned readings before each class. Instructor will give a lecture in the first half of the class to highlight the key points from the reading. If any, students should raise their questions after the lecture. In the second half of each class, instructor will provide advice to each student on their research project.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Orientation Lecture: Science and scientific research	Review syllabus and rules What is science? What is research?
Week 2	Think like a researcher	Mental abstractions Students start to think about research topic.
Week 3	The research process	System of social research Students collect literature.
Week 4	Theories in scientific research	What is a theory? The attributes of good theory. Students make a literature list.
Week 5	Research design	Learn key attributes of a research design Students design research.
Week 6	Sampling	The sampling process Students collect data.
Week 7	Survey Research	Forms of survey research Students collect data.
Week 8	Case research	What is case research? Students collect data.

Week 9	Interpretive research	What is interpretive research? Students collect data.
Week 10	Qualitative Analysis	What is qualitative research? Students collect data.
Week 11	Quantitative research	What is quantitative analysis? Students collect data.
Week 12	A complete research	What is a complete scientific research? Students complete project.
Week 13	Course conclusion: research presentation and peer-review	Students present and peer-review research.
Week 14	Course conclusion: research presentation and peer-review	Students present and peer-review research.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

To prepare each class, students will spend at least 4 hours in reading and collecting data.

【テキスト（教科書）】

Selected reading materials will be provided in class.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

1. Groupwork contribution (based on peer-review) 25%
2. Final research 50%
3. Presentation of final research 10 %
4. Peer-review final research 15%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

OTR400HA (その他/Others 400)

SCOPE Seminar

合原 織部

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a seminar to explore important topics about human and environmental relationships mainly through anthropological perspectives. We will examine various issues related to environmental problems and sustainability. It aims to develop a project that students are required to bring their own research questions while employing a suitable methods(e.g., literature review, interview, data analysis). At the end of the course, students are required to write a report, summing up their investigations.

【到達目標】

The course aims to provide opportunities for students to develop their research interests about environmental and sustainable issues. By completing this seminar, students will gain a critical understanding of the various challenges of sustainable resource use mainly through critical thinking, and discussions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lectures and personal guidance will be carried out regarding each student's project. There will be opportunities for discussion and feedback on the individual project. The class will be conducted on a face-to-face basis.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Guidance for the seminar course. What are socioecological landscapes? How socioecological landscapes can inform sustainability studies.
Week 2	Brainstorming on students research interests	Discussions on students research interests. Relating these interests with various dimensions of sustainability issues.
Week 3	Research methods: A brief introduction	Guidance and discussion on research methods and topics.
Week 4	Understanding change, degradation of landscape	Understanding change, degradation of landscapes through students' research projects.
Week 5	Examining environmental issues within social and cultural contexts.	Developing understanding of the relations between environmental issues and socio-cultural issues.
Week 6	Critical thinking and discussion	Discussion based on lecture of week 4 and week 5

Week 7	Individual guidance 1	Guidance on students' class projects
Week 8	Individual guidance 2	Guidance on students' class projects
Week 9	Individual guidance 3	Guidance on students' class projects
Week 10	Individual guidance 4	Guidance on students' class projects
Week 11	Presentations 1	Students class presentations on research projects
Week 12	Presentations 2	Students class presentations on research projects
Week 13	Presentations 3	Students class presentations on research projects
Week 14	Summary	Summary and course wrap-up. What we have learnt from the course and looking forward.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

There is no specific textbook; all materials will be distributed in the class.

【参考書】

References will be provided in the class

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 20%

Class presentation: 30%

Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

No significant changes were made based on students' comments

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

OTR400HA (その他/Others 400)

SCOPE Seminar

合原 織部

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Seminar (Advanced)

The seminar aims to develop students' abilities of academic readings in the areas of environmental anthropology. Each student chooses an article or a chapter of books, and critically analyzes it, and finally has a presentation. This course will focus on the topics about human-environmental relationships, and contemporary environmental issues around the world through anthropological perspectives. A supervisor will guide students appropriate journals or books to choose.

【到達目標】

The course is designed as an advanced seminar course for those who are interested in learning about environmental and sustainability issues around the world today. Students will brush up skills of reading academic papers, comprehend it, and critically analyze it. Students are also expected to have a presentation about their outcomes of literature review.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Social anthropological approaches to human and environmental relationships.
Week 2	Session	Brain storming. Each student chooses a topic and an article/a chapter to read.
Week 3	Presentation 1	A student's presentation. Guidance and discussion and deepen the understanding about the topic.
Week 4	Presentation 2	A student's presentation. Guidance and discussion and deepen the understanding about the topic.
Week 5	Presentation 3	A student's presentation. Guidance and discussion and deepen the understanding about the topic.
Week 6	Presentation 4	A student's presentation. Guidance and discussion and deepen the understanding about the topic.

Week 7	Presentation 5	A student's presentation. Guidance and discussion and deepen the understanding about the topic.
Week 8	Presentation 6	A student's presentation. Guidance and discussion and deepen the understanding about the topic.
Week 9	Presentation 7	A student's presentation. Guidance and discussion and deepen the understanding about the topic.
Week 10	Presentation 8	A student's presentation. Guidance and discussion and deepen the understanding about the topic.
Week 11	Presentation 9	A student's presentation. Guidance and discussion and deepen the understanding about the topic.
Week 12	Individual guidance 3	Guidance on individual projects
Week 13	Presentation 10	A student's presentation. Guidance and discussion and deepen the understanding about the topic.
Week 14	Over all discussion	Q and A and critical comments on students' practices of literature reviews.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Each student chooses a reading material with guidance from a supervisor.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 20%

Class presentation: 30%

Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

No significant changes were required based on students' comments

【学生が準備すべき機器他】

N/A

【その他の重要事項】

N/A

OTR200HA (その他/Others 200)

Field Workshop

人間環境学部教員

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：定員制 In case of oversubscription: priority given to students of the Faculty of Sustainability Studies 主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Field Workshop is designed to provide hands-on experiences outside the classroom to further learn about sustainability. Students will visit locations and facilities within or outside of Japan and learn from experts who are devoted to unique issues relating to sustainability.

【到達目標】

Through this course, students will be able to (1) better understand issues of sustainability, especially by connecting knowledges that they learned in classrooms and through field visits and (2) to actively engage in discussions on how to apply theories to actual problems in order to improve future sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Each Field Workshop consists of both a field trip itself and on-campus classes before and after the field trips for preparations and reflections. Class schedule below is a sample of a course. Since Field Workshops differ from one another in their contents, students are advised to find detailed information about each Field Workshop when announced.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Outlines of a Field Workshop
2-4	Classes for preparation of the field trips	Knowledge required to understand the sites and preparation of the Field Workshop
5-11	Fieldwork	Four days of field trips (four day trips or a four-day trip)
12-13	Classes for reflections of the field trips	Reviews and discussions
14	Report writing	Writing and submitting an assigned report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Detailed instructions are provided in the orientation and other sessions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in orientation and preparatory classes.

【参考書】

Texts will be introduced in orientation and preparatory classes.

【成績評価の方法と基準】

Participation and contribution: 50%; the final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

We received highly positive feedback from students who participated in the previous Field Workshops. We will continue to provide engaging learning opportunities.

【その他の重要事項】

Participants have to bear the costs of transportation, insurance, as well as program fees.

Cancellation of the participation is, in principle, not allowed after the enrollment is finalized. Furthermore, there is no refund made for the paid expenses if the cancellation is due to personal reasons.

If more than 15 students apply for this Field Workshop, instructors will select participants based on the essay submitted with the application. Priority goes to SCOPE students and students in the Faculty of Sustainability Studies. This course may be canceled if there is no participant from SCOPE.

OTR200HA (その他 / Others 200)

Field Workshop

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：定員制 In case of oversubscription: priority given to students of the Faculty of Sustainability Studies 主催：SCOPE

その他属性：

【成績評価の方法と基準】

Participation and contribution: 50%; the final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Based on feedback from students, we will provide even more opportunities to engage with leading figures in sustainability issues.

【その他の重要事項】

Participants have to bear the costs of transportation, insurance, etc.

Cancellation of the participation is, in principle, not allowed after the enrollment is finalized. Furthermore, there is no refund made for the paid expenses if the cancellation is due to personal reasons.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Field Workshop is designed to provide hands-on experiences outside the classroom to further learn about sustainability. Students will visit several locations and facilities and learn from experts who are devoted to various issues relating to sustainability.

【到達目標】

Through this course, students will be able to (1) better understand issues of sustainability, especially by connecting knowledges that they learned in classrooms and through field visits and (2) to actively engage in discussions on how to apply theories to actual problems in order to improve future sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Each Field Workshop consists of both a field trip itself and on-campus classes before and after the field trips for preparations and reflections. Class schedule below is a sample of a course. Since Field Workshops differ from one another in their contents, students are advised to find detailed information about each Field Workshop when announced.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Outlines of a Field Workshop
2-4	Classes for preparation of the field trips	Knowledge required to understand the sites and preparation of the Field Workshop
5-11	Fieldwork	Four day trips
12-14	Classes for reflections of the field trips	Reviews and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Detailed instructions are provided in the orientation and other sessions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in orientation and preparatory classes.

【参考書】

Texts will be introduced in orientation and preparatory classes.

OTR200HA (その他/Others 200)

Cocreative Workshop A I

竹原 正篤

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides students with multidisciplinary learning opportunities to discuss various challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects together. Participants will discuss various sustainability issues and try to come up with solutions through group work. Examples of cases previous participants tackled include: (1) Activities to encourage Hosei students to recognize sustainability issues in the global apparel industry and consider solutions, (2) Analysis of Hosei University's food waste reduction efforts through interviews with stakeholders and (3) Local revitalization in Japanese rural areas with a social business approach.

【到達目標】

Students should aim at being able to:

- (1) identify and analyze sustainability problems
- (2) interact proactively and collaborate with diverse participants to design solutions and present them in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group work with other students from diverse backgrounds and study experience. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to come up with solutions for various sustainability problems.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants
Week 2	Practice of group work	Each group discusses selected sustainability topics and presents them in class
Week 3	Case No.1 (1)	Introduction to case No.1. Defining and analyzing the issue
Week 4	Case No.1 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 5	Case No.1 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution

Week 6	Case No.1 (4)	Group presentation and discussion
Week 7	Case No.1 (5)	Feedback from facilitator/participants
Week 8	Case No.1 (6)	Reflection and follow up work Each group reviews their group work and revise the deliverables as necessary
Week 9	Case No.2 (1)	Introduction to case No.2. Defining and analyzing the issue
Week 10	Case No.2 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 11	Case No.2 (3)	Continue to analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week 12	Case No.2 (4)	Group presentation and discussion
Week 13	Case No.2 (5)	Feedback from facilitator/participants
Week 14	Case No.2 (6)	Reflection and follow up work Each group reviews their group work and revise the deliverables as necessary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials, do necessary research and contribute to group work. If students want to maximize learning effectiveness, approximately 2 hours for preparatory study for each class is required.

【テキスト（教科書）】

This course is a workshop-style class, so a textbook is not used. Materials will be distributed in class according to the topic and discussions.

【参考書】

Reference will be introduced as appropriate during class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Active class participation (20%)
- (2) Contribution to the group work (40%)
- (3) Student's own progress (40%)

Details will be explained in the first class.

Please note if students miss four or more classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

Following student comments, the instructor's explanation will be minimized and students will lead the discussions.

【学生が準備すべき機器他】

When students do their group work and make presentations, using their own PCs or other devices may help students work productively.

【その他の重要事項】

- (1) Note that selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.
- (2) As all the class and group work will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties keeping up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.
- (3) Students can take Co-creative workshops A-I and A-II in random order.

OTR200HA (その他/Others 200)

Cocreative Workshop A II

竹原 正篤

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides students with multi-disciplinary learning opportunities to deal with various challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects. In this Co-creative Workshop, participants will discuss varied sustainability issues and try to come up with solutions through group work. Examples of cases previous participants tackled include: (1) achieving local revitalization in rural areas with a social business approach, (2) ensuring environmental and social sustainability in the global supply chain of an apparel company, and (3) comparative study of environmental policies in Japan, Europe and China.

【到達目標】

By the end of the semester, students should be able to:

- (1) Identify and analyze sustainability problems and come up with solutions
- (2) Interact proactively and collaborate with diverse participants
- (3) Deepen understanding of sustainability from multiple dimensions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group work with other students who have diverse backgrounds and study experience. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to come up with solutions for various sustainability challenges.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants
Week 2	Basics of sustainability	Understand key concepts of sustainability
Week 3	Case No.1 (1)	Introduction to case/topic No.1. Defining the issue and analyzing stakeholders
Week 4	Case No.1 (2)	Analyze the issue focusing on a causal relationship, generate ideas and reach a collaborative solution

Week 5	Case No.1 (3)	Analyze the issue focusing on a causal relationship, generate ideas and reach a collaborative solution
Week 6	Case No.1 (4)	Group presentation and feedback from facilitator/participants
Week 7	Case No.2 (1)	Introduction to case/topic No.2. Defining the issue and analyzing stakeholders
Week 8	Case No.2 (2)	Analyze the issue focusing on a causal relationship, generate ideas and reach a collaborative solution
Week 9	Case No.2 (3)	Analyze the issue focusing on a causal relationship, generate ideas and reach a collaborative solution
Week 10	Case No.3 (4)	Group presentation and feedback from facilitator/participants
Week 11	Case No.3 (1)	Introduction to case/topic No.3. Defining the issue and analyzing stakeholders
Week 12	Case No.3 (2)	Analyze the issue focusing on a causal relationship, generate ideas and reach a collaborative solution
Week 13	Case No.3 (3)	Analyze the issue focusing on a causal relationship, generate ideas and reach a collaborative solution
Week 14	Case No.3 (4)	Group presentation and feedback from facilitator/participants

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials, do necessary research and contribute to group work. If students want to maximize learning effectiveness, approximately 2 hours each for preparatory study and review for each class is required.

【テキスト（教科書）】

Textbooks are not used in the Co-creative workshop.

【参考書】

References will be introduced in the class as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Contribution to the group work (30%)
- (2) Active class participation in the class discussion (30%)
- (3) Student's own progress (40%)

Details of grading will be explained in the first class.

NOTE: If students miss four or more classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

Checking students' progress and feedback, class contents might change.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

(1) Note that a selection may be conducted in the first class if the number of participants is too many. Students interested in participating in this course should attend the first class.

(2) As all the class discussion and group work will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties in keeping up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

(3) Methods and schedule will be subject to change based on feedback from participants.

(4) Students can take Co-creative Workshops A I and A II in random order.

OTR200HA (その他/Others 200)

Cocreative Workshop B I

合原 織部

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop aims to provide students with multidisciplinary learning opportunities to deal with various challenges of sustainability. It brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project. We will discuss various sustainability issues and try to come up with possible solutions through group work. Examples of topics include environmental degradation, local revitalization business in rural Japan, and waste management policies in Japan, China and the EU.

【到達目標】

By the end of the course, students will be able to:

- (1) identify and analyze sustainability problems in given cases
- (2) critically analyze the issues within the wider contexts of social, economic, political, and religious aspects of societies
- (3) interact proactively and collaborate with diverse participants
- (4) design collaborative solutions and present them in class

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This course is highly student-oriented. Students are given opportunity to work on the topic according to your interests as a group. Instructor will play a role of facilitating and supporting students during the entire processes of completing their research. Lecture on methodology and advice on the specific steps of doing project will be given by the instructor in each class session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	Course orientation
Week2	Group work	Each group discusses sustainability topics and presents them in the class.
Week3	Case study 1 ①	Introduction to case/topic No.1. Defining and analyzing the issue.
Week4	Case study 1 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
week5	Case study 1 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week6	Case study 2 ①	Introduction to case/topic No.2. Defining and analyzing the issue.

Week7	Case study 2 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week8	Case study 2 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week9	Case study 3 ①	Introduction to case/topic No.3. Defining and analyzing the issue.
Week10	Case study 3 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week11	Case study 3 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants.
Week12	Case study 4 ①	Introduction to case/topic No.4. Defining the issue and analyzing stakeholders.
Week13	Case study 4 ②	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution.
Week14	Case study 4 ③	Group presentation and feedback from facilitator/participants. Overall discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

There are no particular textbooks required for this class. Relevant materials will be introduced in class according to the topics and discussions.

【参考書】

References are introduced in each class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussion 30%
Individual work and contribution to group work 30%
Group presentation 40%

【学生の意見等からの気づき】

Feedback is not available due to the change in instructor.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring in PC for the class sessions when conducting team project.

【その他の重要事項】

None.

OTR200HA (その他/Others 200)

Cocreative Workshop B II

王 川 菲

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning experiences of dealing with significant challenges of sustainability. It brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project. In this Co-creative Workshop, participants will learn about sustainability as both a concept and an action through the processes of locating issues in actual society, critically analyzing current solutions, and proposing innovative approaches. Student's projects will be presented through an online digital platform (e.g. webpage), which will be selected and determined by students with academic aids from the instructor.

【到達目標】

By the end of the semester, students are expected to:

- 1) be aware of actual challenges in culture and nature;
- 2) practice skills of critical and logical thinking from multidisciplinary perspectives;
- 3) experience full processes of discovering and addressing actual social challenges;
- 4) cultivate the ability of thinking through data.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This course is highly student-oriented. Students are given opportunity to work on the topic they are highly interested in. Instructor will play a role of facilitating and supporting students during the entire processes of completing their research. Lecture on methodology and advice on the specific step of doing project will be given by the instructor in each class session. Students will conduct project in the form of teamwork.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Orientation	Review syllabus and rules; Ice-break activities
Week 2	Global society	Global challenges in sustainability
Week 3	Japanese society	Japan challenges in sustainability
Week 4	The issue	Students discuss and propose the issue that they will work on.
Week 5	About the issue	Students explore the issue in both the global and Japanese contexts.
Week 6	Current solutions to the issue I The global perspective	Students conduct online research and collecting data.

Week 7	Current solutions to the issue II The Japanese perspective	Students conduct online research and collecting data.
Week 8	Critical analysis of current solutions	Student discuss and produce brief an assessment report of current solutions
Week 9	Proposing innovative solutions I The global perspective	Students consider innovative solutions in the global context
Week 10	Proposing innovative solutions II The Japanese perspective	Students consider innovative solutions in the Japanese context
Week 11	Making a project webpage	Students start to drafting webpage.
Week 12	Making a project webpage	Students work to complete webpage.
Week 13	Making a project webpage	Students finalize and submit webpage by the end of this class.
Week 14	Course conclusion	Students conduct peer-review of webpage and vote for the best project award

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will spend 1.5-2 hours on collecting data and reading related books.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials are provided by the instructor in class.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

1. Project participation (including weeks 2-13) 1 x 12 times 12%
2. Project contribution (including weeks 2-13) 4 x 12 times 48%
2. Project results presented in an online digital platform 40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

This class requires student's active participation in ideation, research execution, creation and solution.

